

IBM Unica Marketing Operations

バージョン 8 リリース 6

2012 年 5 月 25 日

管理者ガイド

IBM

お願い

本書および本書で紹介する製品をご使用になる前に、205 ページの『特記事項』に記載されている情報をお読みください。

本書は、IBM Unica Marketing Operations バージョン 8、リリース 6、モディフィケーション 0 および新しい版で明記されていない限り、以降のすべてのリリースおよびモディフィケーションに適用されます。

お客様の環境によっては、資料中の円記号がバックスラッシュと表示されたり、バックスラッシュが円記号と表示されたりする場合があります。

原典： IBM Unica Marketing Operations
Version 8 Release 6
May 25, 2012
Administrator's Guide

発行： 日本アイ・ビー・エム株式会社

担当： トランスレーション・サービス・センター

第1刷 2012.6

© Copyright IBM Corporation 2002, 2012.

目次

第 1 章 IBM Unica 技術サポートへの連絡 1

第 2 章 IBM Unica Marketing

Operations の管理 3

ユーザーの管理について 3

IBM Unica Marketing Operations 管理プロセスの概要 4

管理設定 4

ユーザーの同期について 7

ユーザーを手動で同期させるには 7

システム全体の休業日について 7

休業日を追加するには 7

休業日を削除するには 8

非営業の営業日のリストを変更する方法 8

「非営業の営業日 (Non-working Business Dates)」

サマリー・ページ 9

トリガー 9

トリガーを追加する方法 10

トリガー・バインドを追加または編集する方法 . 10

トリガー・バインドの詳細 11

「予算」タブのカスタマイズについて 12

テキスト列の無効化と削除について 12

「明細項目の詳細 (Line Item Details)」テーブル

でテキスト列を追加または編集する方法 12

予算のベンダー列の有効化 13

公開された検索の管理について 13

公開された検索を非公開にするには 13

複数ロケールのサポート 13

ローカライズされた形式と記号の設定 14

クラスター環境での IBM Unica Marketing Operations

の管理 14

システム・ロックの表示 14

Marketing Operations のパフォーマンスの向上 . . . 14

IBM Unica Marketing Operations インターフェースの

カスタマイズ 15

sysmodules.xml ファイルについて 15

sysmenu.xml ファイルについて 16

オブジェクト・タイプの名前変更 17

「拒否済み」の承認レスポンスの名前変更 . . . 18

メニューのカスタマイズ 19

メニューの同期 21

マークアップ機能の構成 21

マークアップ・ツールの可用性の変更について . 22

Adobe Acrobat マークアップを有効にする方法 . 22

固有の IBM Unica Marketing Operations マークア

ップを有効にする方法 23

マークアップを無効にする方法 23

システム・ログの構成 24

第 3 章 マーケティング・オブジェクトの管理 25

マーケティング・オブジェクトのプロセス概要 . . . 26

マーケティング・オブジェクトの状態について . . . 26

グローバル状態ファイル 26

マーケティング・オブジェクト・タイプの追加 . . . 27

状態遷移について 27

マーケティング・オブジェクト・タイプを追加す

る方法 28

「マーケティング・オブジェクト・タイプの追加

(Add Marketing Object Type)」画面 28

マーケティング・オブジェクト定義ファイル . . . 29

マーケティング・オブジェクト・タイプの編集 . . . 30

マーケティング・オブジェクト・テンプレートの作

成 30

マーケティング・オブジェクト・テンプレートを

作成する方法 30

マーケティング・オブジェクトとプロジェクトまた

は他のマーケティング・オブジェクトとの関連付け

について 30

第 4 章 レポートの使用 33

Cognos における IBM Unica Marketing Operations

のレポートおよびフォルダー名 33

Cognos での IBM Unica Marketing Operations レポ

ートの作成およびカスタマイズについて 34

Cognos での IBM Unica Marketing Operations デー

タ・モデルの更新 34

IBM Unica Marketing Operations データ・モデル

を更新する方法 34

カスタム・メトリックの照会対象の例 35

Cognos でのレポート・フィルターの作成 35

Cognos レポートでのハイパーリンクの作成 37

カスタム・レポートの例: プロジェクト・パフォーマ

ンス・サマリー (カスタム) 37

第 5 章 テンプレートの概要 43

テンプレートの概念 43

一連のテンプレートに関する決定 45

別のテンプレートを作成する場合 46

カスタマイズ可能な項目 46

サンプルのサマリー・ページ 47

カスタム・タブの例 48

テンプレートのコンポーネント 48

複数ロケールのサポート 50

テンプレートの作成方法 51

カスタム・テンプレートの計画 52

サンプル・テンプレート 53

サンプル・テンプレートのリスト 53

サンプル・テンプレートの構造 53

キャンペーン・プロジェクト・テンプレート 54

「キャンペーン・サマリー」セクション 54

キャンペーン・プロジェクト・テンプレートの設計	55
オファー・テンプレート	56
第 6 章 テンプレートの作成および管理	57
テンプレートを作成または編集するには	60
テンプレートへの変更の影響	62
テンプレートの「プロパティ」タブ	62
単一のテンプレートをエクスポートするには	64
「予算の承認ルール」タブ	65
ルール・ビルダー	66
予算の承認ルールを作成するには	67
予算の承認ルールを編集するには	68
予算の承認ルールを削除するには	68
テンプレートの「タブ」タブ	68
タブをテンプレートに追加するには	69
テンプレートでタブまたはフォームを移動するには	70
フォームまたはカスタム・タブをテンプレートから削除するには	70
フォームの表示と非表示を切り替えるルールの作成	71
テンプレートの「添付ファイル」タブ	71
テンプレートの「カスタム・リンク」タブ	72
プロジェクト・テンプレートの「プロジェクト役割」タブ	73
プロジェクト・テンプレートの「要求」タブ	74
「要求」タブ・フィールド	74
例: テンプレート要求ルールの作成	77
プロジェクト・テンプレートの「キャンペーン」タブ	78
「テンプレート・ワークフロー」タブ	79
プロジェクト・テンプレートの「ワークフロー」タブのリンク	80
プロジェクト・テンプレートの「ワークフロー」ツールバー	80
「ワークフロー」タブ・フィールド	82
ワークフロー・プロセス・フローチャート・ビューについて	83
テンプレートのワークフローを構成するには	83
ワークフロー・テンプレートを作成するには	83
ワークフロー・テンプレートを使用するには	84
マイルストーン・タイプのカスタマイズ	84
ワークフロー・テンプレートのページ	85
ワークフロー・テンプレートをエクスポートするには	86
「データ・マッピングの定義」ページ	86
IBM Unica Campaign のコンタクト数およびレスポンス数を Marketing Operations メトリックにマップする	87
IBM Unica Campaign のコンタクト数およびレスポンス数を Marketing Operations メトリックにマップするには	87
メトリック・データ・マッピング・ファイルについて	88
データ・マッピングを追加するには	88

データ・マッピングを編集するには	89
データ・マッピングを削除するには	89
「アイコン」ページ	89
アイコンを追加または編集するには	90
テンプレート検証について	91
データベース検証について	91
属性検証について	91
データ検証ルール	92
TCS の承認について	92

第 7 章 フォームの作成および管理 . . . 95

ターゲット・セル・スプレッドシートについて	95
デフォルト・セル属性	96
「フォーム定義」リスト・ページ	97
フォームの作成	97
フォームを作成する方法	98
TCS を作成するには	98
共有属性をインポートする方法	99
フォーム・エディター・インターフェース	99
属性グループ	101
グリッドの作成	101
編集可能グリッドを作成する方法	102
「グリッドの作成 (Create a Grid)」ウィンドウ	103
既存の編集可能グリッドを読み取り専用グリッドとして表示	104
グリッドをリストとして表示	105
マーケティング・オブジェクトのリストの作成	107
フォームのエクスポート	110
フォームをエクスポートする方法	110
フォームのインポート	110
フォームをインポートする方法	111
フォームのインポートにおけるトラブルシューティング	111
フォームの公開	112
フォームを公開する方法	112
コンピューター間でのフォームの移動	112
フォームのロックアップ値の管理	112
データベース・テーブルを変更せずにロックアップ値を無効にするには	113
フォームのコピー	113
フォームのローカライズ	114
フォームをローカライズする方法	115
リスト選択項目のデータ投稿の有効化	116
既存のオブジェクトへのフォームの追加	117

第 8 章 フォームでの属性の使用 . . . 119

標準属性	120
Marketing Operations と Campaign の統合の属性について	121
キャンペーン属性	121
セル属性	121
オファー属性	122
属性の作成、有効化、編集および削除について	122
共有属性を作成するには	123
共有属性を編集する方法	123
共有属性を削除する方法	123

「共有属性」リスト・ページ	123
ローカル属性を作成する方法	124
ローカル属性を編集するには	125
ローカル属性を削除する方法	125
属性参照	125
標準の属性フィールド	125
属性データベース列についてのデータベースの考慮事項	127
属性タイプ	127
キャンペーン属性、セル属性、およびオファー属性の属性タイプ	129
テキストの属性	130
「単一選択」属性	130
「単一選択 - データベース」属性	131
「複数選択 - データベース」属性	132
「「はい」または「いいえ」」属性	133
10 進数属性	134
金額属性	134
計算属性	135
「URL フィールド」属性	136
「オブジェクト参照」属性	137
イメージ属性	138
「オブジェクト属性フィールド参照」属性	139
「単一リスト・オブジェクト参照」属性	139
依存フィールド	140
第 9 章 メトリックの操作	143
メトリックのタイプ	143
メトリック作成の概要	145
メトリック、メトリック・ディメンション、およびメトリック・テンプレートの操作	145
メトリック・プロパティ	146
メトリック・ディメンションのプロパティ	147
メトリック・テンプレートおよびメトリック・テンプレート・グループの作成	147
メトリック・テンプレートを作成または編集する方法	148
メトリック・グループ	149
メトリックのローカライズ	149
メトリック・プロパティ・ファイルのインポート	150
メトリック・テンプレートのエクスポートおよびインポート	150
第 10 章 セキュリティーのセットアップ	151
アクセス役割について	151
デフォルトのセキュリティー役割について	151
オブジェクト・アクセス役割について	152
セキュリティー・ポリシー役割について	153
プロジェクト役割	153
セキュリティー・ポリシーおよび権限	154
セキュリティー・ポリシー	154
セキュリティー・ポリシーの権限	155
グローバル・セキュリティー・ポリシー	155
セキュリティー・ポリシーのプランニング	156

セキュリティー・ポリシーの構成について	157
グローバル・セキュリティー・ポリシーの編集	157
新規セキュリティー・ポリシーの作成	158
セキュリティー役割に対するユーザー可視性オプションの構成	159
セキュリティー役割を割り当てるには	160
テンプレートのアクセス権限の制御について	161
プロジェクトと要求に関する追加のアクセス制御	161
プロジェクト要求のセキュリティー構成例	162

第 11 章 アラートのセットアップ . . . 165

イベントでトリガーされるアラートについて	165
アラームについて	166
アラートと日付のタイプ	166
IBM Unica Marketing Operations によるアラート送信元の決定方法	167
デフォルトのアラート・サブスクリプションの設定について	167
デフォルトのアラート・サブスクリプションを設定するには	168
「デフォルトのアラート・サブスクリプション」ページ	168
アラートの更新間隔の変更	169
アラートの属性とタブのカスタマイズ	169
アラートをカスタマイズする方法	169
「アラートのカスタマイズ」ページ	170
カスタム・アラートの例	172

第 12 章 資産のセットアップ . . . 175

ライブラリーの作成方法	175
ライブラリーの無効化および有効化	176

第 13 章 アカウントのセットアップ 177

アカウント管理者について	177
アカウント所有者について	177
有効化されたアカウントと無効化されたアカウントについて	178
アカウントを作成する方法	178
アカウント所有者を追加または削除する方法	179
アカウントを有効または無効にする方法	179
アカウントの解説	180

第 14 章 リストの定義 . . . 181

リスト・タイプ	181
「リスト・プロパティ」画面	182
オプションをリストに追加するには	183
リスト定義を有効化、無効化、または削除するには	183
リストのローカライズについて	184

第 15 章 メタデータのエクスポートおよびインポート . . . 185

メタデータのエクスポートについて	185
メタデータを一括してエクスポートする方法	186
メタデータのインポートについて	188
テンプレート・メタデータをインポートする方法	188
メタデータをインポートする方法	190

第 16 章 詳細トピック	193
フィールドにプログラマチックに値を入力.	193
フィールドにプログラマチックに値を入力する例	194
サーバー・サイドの ID 生成およびプロジェク	
ト属性の検証	194
グリッドの検証.	196

バリデーター・インターフェース.	196
検証ルール	197
サンプル Java インターフェース.	200
特記事項.	205
商標	207

第 1 章 IBM Unica 技術サポートへの連絡

ドキュメンテーションを参照しても解決できない問題があるなら、指定されているサポート窓口を通じて IBM® Unica 技術サポートに電話することができます。このセクションの情報を使用するなら、首尾よく効率的に問題を解決することができます。

サポート窓口が指定されていない場合は、IBM Unica 管理者にお問い合わせください。

収集する情報

IBM Unica 技術サポートに連絡する前に、以下の情報を収集しておいてください。

- 問題の性質の要旨。
- 問題発生時に表示されるエラー・メッセージの詳細な記録。
- 問題を再現するための詳しい手順。
- 関連するログ・ファイル、セッション・ファイル、構成ファイル、およびデータ・ファイル。
- 「システム情報」の説明に従って入手した製品およびシステム環境に関する情報。

システム情報

IBM Unica 技術サポートに電話すると、実際の環境に関する情報について尋ねられることがあります。

問題が発生してもログインは可能である場合、情報の大部分は「バージョン情報」ページで入手できます。そのページには、インストールされている IBM Unica のアプリケーションに関する情報が表示されます。

「バージョン情報」ページは、「ヘルプ」>「バージョン情報」を選択することにより表示できます。「バージョン情報」ページを表示できない場合、どの IBM Unica アプリケーションについても、そのインストール・ディレクトリの下にある `version.txt` ファイルを表示することにより、各アプリケーションのバージョン番号を入手できます。

IBM Unica 技術サポートの連絡先情報

IBM Unica 技術サポートとの連絡を取る方法については、IBM Unica 製品技術サポートの Web サイト (<http://www.unica.com/about/product-technical-support.htm>) を参照してください。

第 2 章 IBM Unica Marketing Operations の管理

IBM Unica Marketing Operations を使用すると、コストを削減し、市場に出すまでの時間を短縮しながら、組織内のマーケティング・プログラムに関連付けられたスタッフ、タスク、および予算を編成することができます。

Marketing Operations は Web ベース・アプリケーションです。

システム要件

ハードウェア、オペレーティング・システム、Web サーバー、およびデータベースの要件については、「*IBM Unica Marketing Operations Recommended Software Environments and Minimum System Requirements*」という資料で説明されています。

クライアント・マシン

クライアント・マシンは、以下の構成要件を満たしている必要があります。

- Internet Explorer の「ツール」>「インターネット オプション」>「設定」ダイアログ・ボックスの「保存しているページの新しいバージョンの確認」セクションで、「ページを表示するごとに確認する」が選択されている必要があります。
- クライアント・マシンにポップアップ・ブロッカー (ad ブロッカー) ソフトウェアがインストールされている場合、Marketing Operations が正しく機能しない場合があります。Marketing Operations の URL (例えば、http://myMachine:7001/plan) のポップアップを許可することをお勧めします。

ユーザーの管理について

管理者は、IBM Unica Marketing Platform のユーザーおよびユーザー・グループを作成および管理します。ベスト・プラクティスとして、Marketing Operations 管理者が IBM Unica Marketing Operations インストールのデフォルト・ロケールと一致させることができるように、ロケール設定を指定してください。インストールのデフォルト・ロケールは、defaultlocale パラメーター (「設定」>「構成」>「Marketing Operations」) で定義されます。ユーザーの作成、ログインの作成、グループの作成、ユーザーのロケールの設定、およびアプリケーション・アクセスの割り当てについて詳しくは、「*IBM Unica Marketing Platform 管理者ガイド*」を参照してください。

Marketing Platform でユーザーを作成したら、Marketing Operations のユーザー・テーブルを Marketing Platform のユーザー・テーブルと同期させる必要があります。

次に、Marketing Operations でセキュリティー・ポリシーを割り当てることにより、許可されたユーザーのアクセス権限を割り当てます。

予期したとおりにユーザーが Marketing Operations に表示されない場合には、該当のグループが Marketing Operations に対するアプリケーション・アクセス権限を持っていること、およびユーザー・テーブルが同期されていることを確認してください。

IBM Unica Marketing Operations 管理プロセスの概要

IBM Unica Marketing Operations をインストールし、セットアップしたら、ユーザーは「*IBM Unica Marketing Operations ユーザー・ガイド*」の手順に従ってこの製品にサインインし、使用することができます。最良の結果を得るために、すべての管理者は「*IBM Unica Marketing Operations ユーザー・ガイド*」を読んでこの製品を理解してから、そのセットアップを行うようにしてください。Marketing Operations のインストールおよびセットアップを行うには、以下の手順に従います。

1. Marketing Operations をインストールします。
2. Marketing Operations を構成します。

Marketing Operations のインストールおよび構成について詳しくは、「*IBM Unica Marketing Operations インストール・ガイド*」を参照してください。

3. テンプレートを作成します。43 ページの『第 5 章 テンプレートの概要』を参照してください。
4. セキュリティー・ポリシーをセットアップし、アラートを構成します。151 ページの『第 10 章 セキュリティーのセットアップ』および 165 ページの『第 11 章 アラートのセットアップ』を参照してください。
5. 資産をセットアップします。175 ページの『第 12 章 資産のセットアップ』を参照してください。
6. リスト定義をセットアップします。181 ページの『第 14 章 リストの定義』を参照してください。

管理設定

「設定」>「Marketing Operations 設定」を選択すると、「管理設定」ページが表示されます。このページには、以下のセクションおよびリンクが表示されます。

表 1. 管理設定: 「ユーザーのカスタマイズ」セクション

セクション	説明
ユーザーのカスタマイズ	このセクションには、ユーザーが自身にとって重要な情報を表示および受信できるように、Marketing Operations をカスタマイズするためのリンクが表示されます。詳しくは、「 <i>IBM Unica Marketing Operations ユーザーズ・ガイド</i> 」を参照してください。

「システム管理設定」セクション

表 2. 管理設定: 「制限オプション」セクション

リンク	説明
セキュリティー・ポリシー設定	システムで定義されているすべてのセキュリティー・ポリシーへのリンクが表示されます。詳しくは、158 ページの『新規セキュリティー・ポリシーの作成』を参照してください。

表 2. 管理設定: 「制限オプション」セクション (続き)

リンク	説明
ユーザー権限	Marketing Operations を使用することが許可されているすべてのユーザーが、割り当てられているグループ別にリストに表示されます。詳しくは、160 ページの『セキュリティー役割を割り当てるには』を参照してください。
ユーザーの同期	Marketing Operations のユーザーを IBM Unica Marketing Platform のユーザーと同期させます。詳しくは、7 ページの『ユーザーの同期について』を参照してください。 クラスター環境でユーザーを同期させる場合には、次回、Marketing Platform と同期するときに変更が他のサーバーに伝搬されます。
メニューの同期	Marketing Platform のメニューと Marketing Operations で定義されているメニューを同期させます。

表 3. 管理設定: 「アクセス可能なオプション」セクション

リンク	説明
デフォルトのアラート・サブスクリプション	Marketing Operations オブジェクトのデフォルトのアラート・サブスクリプションを設定および編集するためのページが表示されます。詳しくは、167 ページの『デフォルトのアラート・サブスクリプションの設定について』を参照してください。

表 4. 管理設定: 「ルート・レベルのオブジェクト定義」セクション

リンク	説明
アカウント定義 (Account Definitions)	注: このリンクは、Marketing Operations の財務管理モジュールを使用するシステムでのみ使用可能です。 Marketing Operations アカウントを管理するためのリンクが表示されます。
予算の明細項目列	「予算」タブの「明細項目の詳細」テーブルにテキスト列を追加するためのページが表示されます。
資産ライブラリー定義	資産ライブラリーを管理するためのリンクが表示されます。詳しくは、175 ページの『第 12 章 資産のセットアップ』を参照してください。

表 5. 管理設定: 「その他のオプション」セクション

リンク	説明
リストの定義	管理者がリスト値を設定または定義できる使用可能なリストへのリンクが表示されます。詳しくは、181 ページの『リスト・タイプ』を参照してください。
テンプレート構成	テンプレート・コンポーネントを操作する機能へのリンクを含みます。詳しくは、57 ページの『第 6 章 テンプレートの作成および管理』を参照してください。 注: クラスター環境では、何らかのテンプレート構成作業を行う前には、サーバーを 1 つだけ残してシャットダウンする必要があります。
休業日	システム全体の休業日の設定を更新するためのページが表示されます。詳しくは、7 ページの『システム全体の休業日について』を参照してください。

表 5. 管理設定: 「その他のオプション」セクション (続き)

リンク	説明
公開された検索の管理	Marketing Operations ユーザーによって保存された検索を公開するためのページが表示されます。詳しくは、13 ページの『公開された検索の管理について』を参照してください。
マーケティング・オブジェクト・タイプ設定 (Marketing Object Type Settings)	<p>システムのマーケティング・オブジェクト・タイプを表示および管理できるページが表示されます。詳しくは、27 ページの『マーケティング・オブジェクト・タイプの追加』を参照してください。</p> <p>注: クラスター環境では、何らかのマーケティング・オブジェクト構成作業を行う前には、サーバーを 1 つだけ残してシャットダウンする必要があります。</p>
トリガー・バインド	システムで定義されているトリガー、およびそれらがどのようにプロシージャーにバインドされているかに関する詳細をリストするページが表示されます。詳しくは、9 ページの『トリガー』を参照してください。
アラートのカスタマイズ	指定したイベントのアラートのテキストを変更できるページが表示されます。詳しくは、165 ページの『第 11 章 アラートのセットアップ』を参照してください。
Marketing Operations のアップグレード	アップグレードする Marketing Operations コンポーネントを選択できるページが表示されます。詳しくは、「 <i>IBM Unica Marketing Operations インストール・ガイド</i> 」を参照してください。
データの移行	メタデータをエクスポートおよびインポートするためのオプションが表示されます。185 ページの『第 15 章 メタデータのエクスポートおよびインポート』を参照してください。
外出中設定 - 代行者の自動追加 (Out of Office - Delegate Auto Add Settings)	<p>外出中機能に関するシステム全体の設定にアクセスすることができます。</p> <p>ユーザーの外出時にタスク、承認、および要求をカバーする代行者を指定することができます。この設定では、ユーザーが別のチーム・メンバーのみを代行者として選択できるのか、任意の Marketing Operations ユーザーを選択できるのかを定義します。</p> <ul style="list-style-type: none"> • 「代行ユーザーの自動追加を有効にする (Enable Auto Addition of Delegate User)」を「はい」に設定すると、タスク、承認、または要求が割り当てられたときに、必要に応じて代行者がプロジェクトのチーム・メンバーとして追加されます。 • 「代行ユーザーの自動追加を有効にする (Enable Auto Addition of Delegate User)」を「いいえ」に設定した場合、ユーザーは、すべての同じプロジェクトで既にチーム・メンバーになっているユーザーのみを代行者として選択する必要があります。 <p>この設定は、プロジェクト・テンプレートごとにオーバーライドすることができます。</p> <p>外出中機能について詳しくは、「<i>IBM Unica Marketing Operations ユーザーズ・ガイド</i>」を参照してください。</p>

表 5. 管理設定: 「その他のオプション」セクション (続き)

リンク	説明
キャンペーン・オファターのインポート	<p>IBM Unica Marketing Operations が Campaign と統合されているシステムでのみ使用することができ、オプションのオファター統合を有効にします。</p> <p>現在 IBM Unica Campaign で使用可能なオファター、オファター・テンプレート、フォルダー、およびリストが列挙されます。オファターの有効化について詳しくは、「<i>IBM Unica Marketing Operations and Campaign 統合ガイド</i>」を参照してください。</p>

ユーザーの同期について

手動で IBM Unica Marketing Operations ユーザー・テーブルを IBM Unica Marketing Platform ユーザー・テーブルと同期させることができます。この手順を行うことにより、新規ユーザーが Marketing Operations にログインできるようになり、「設定」>「構成」>「Marketing Operations」>「umoConfiguration」で **userManagerSyncTime** パラメーターによってスケジュール設定された次の同期の前に変更が有効になります。同期化により、すべてのユーザー情報が Marketing Platform から Marketing Operations に取り出されます。

ユーザーを手動で同期させるには

1. Marketing Operations にログインします。
2. 「設定」>「Marketing Operations 設定」をクリックします。
3. 「ユーザーの同期」をクリックします。

システム全体の休業日について

IBM Unica Marketing Operations では、デフォルトでタスクに関する作業が一切実行されない時間をユーザーが指定することができます。Marketing Operations は、非営業日をタスクの所要時間の計算から除外します。

非営業日は、日付範囲で、または 1 日ずつ指定することができます。

休業日を追加するには

1. 「設定」>「Marketing Operations 設定」を選択します。
2. 「その他のオプション」セクションで、「休業日」をクリックします。

「休業日」ページが表示されます。

3. 新規の非営業日の開始日と終了日を入力します。1 日で終わるイベントを簡単に入力できるようにするため、デフォルトで、終了日は開始日と同じ日に設定されます。
4. 非営業日の名前を「名前」フィールドに入力します。
5. イベントのタイプを「タイプ」ドロップダウン・リストから選択します。

注: 「管理」セクションの「リストの定義」ページを使用して、非営業日のタイプを追加します。

6. 「承認」をクリックします。

変更を有効にするために「変更の保存」をクリックするように促すメッセージが表示されます。

注: 過去の日付 (過ぎてしまった日付) を追加することはできません。

7. 以下のいずれかをクリックします。
 - 「変更の保存」をクリックして、変更を保存します。
 - 「保存した内容に戻す」をクリックして、変更を取り消し、編集を続行します。
 - 「キャンセル」をクリックして、変更を取り消し、「管理」ページに戻ります。
8. 変更がいずれかのプロジェクトに影響する場合、影響を受けるプロジェクトの情報およびプロジェクト所有者の名前と電子メール・アドレスを示すサマリー画面がシステムによって表示されます。

休業日を削除するには

1. 「設定」 > 「Marketing Operations 設定」を選択します。
2. 「その他のオプション」セクションで、「休業日」をクリックします。

「休業日」ページが表示されます。

3. リストから日付を 1 つまたは複数選択します。
4. 「削除」をクリックします。

変更を有効にするために「変更の保存」をクリックするように促すメッセージが表示されます。

注: 過去の日付 (過ぎてしまった日付) を削除することはできません。

5. 以下のいずれかをクリックします。
 - 「変更の保存」をクリックして、変更を保存します。
 - 「保存した内容に戻す」をクリックして、変更を取り消し、編集を続行します。または、
 - 「キャンセル」をクリックして、変更を取り消し、「管理」ページに戻ります。
6. 変更がいずれかのプロジェクトに影響する場合、影響を受けるプロジェクトの情報およびプロジェクト所有者の名前と電子メール・アドレスを示すサマリー画面がシステムによって表示されます。

非営業の営業日のリストを変更する方法

一般に、休日やその他の非営業日のリストは、暦年の最初の、マーケティング・カレンダーの詳細の設定前に定義します。ただし、タスク、プロジェクト、およびプログラムの日付を既に設定してしまった後に、それらの非営業日を変更する必要がある場合があります。この場合、非営業の営業日のリストを変更するプロセスは以下ようになります。

1. 非営業の営業日のリストに対する変更を行います。

2. 変更が何らかのプロジェクトまたはタスクに影響する場合、「非営業の営業日 (Non-working Business Dates)」サマリー・ページを使用して、影響を受けるプロジェクトの所有者に通知する必要があります。

「非営業の営業日 (Non-working Business Dates)」サマリー・ページ

「非営業の営業日 (Non-working Business Dates)」サマリー・ページには以下のフィールドが含まれます。

フィールド	説明
名前	影響を受けるプロジェクト (複数の場合もあり) のプロジェクト所有者の名前。
電子メール・アドレス	影響を受けるプロジェクト (複数の場合もあり) のプロジェクト所有者の電子メール・アドレス。
プロジェクト・リスト	影響を受けるプロジェクトと、そのプロジェクトの期間中に該当し、追加または削除された実際の非営業日のリスト。

このページは、変更による影響を受けるプロジェクトを所有するプロジェクト所有者に電子メール通知を送信する場合に使用します。「プロジェクト・リスト」フィールド内のテキストを電子メールにカット・アンド・ペーストすることで、プロジェクト所有者は変更の影響を迅速に評価できます。

トリガー

特定のオブジェクトに関連するイベントによってプロシーチャーが実行されるよう、トリガーをセットアップすることができます。

特定のプロジェクトの状態が「ドラフト」から「アクティブ」に変更されたときに、常にデータをデータベースに挿入するとします。トリガーを使用してこれを行うには、以下を定義します。

- レコードを外部データベース・テーブルに挿入するためのプロシーチャー
- DirectMail というプロジェクト・テンプレート
- プロジェクトの状態が変更された (例えば、「ドラフト」から「アクティブ」) にときに起動するように設定された、DirectMail テンプレートのトリガー・バインド。

DirectMail テンプレートに基づいてプロジェクトを作成した場合、指定された状態変更が発生するとシステムはプロシーチャーを呼び出します。

以下のトリガー・ルールが適用されます。

- トリガーは、イベントの直前または直後に実行されます。
- トリガーは、システム・イベントのサブセット (プロジェクト、要求、マーケティング・オブジェクト、承認、タスク、ワークフロー・スプレッドシート、グリッド行、ユーザー、請求書、予算、アカウント、およびリソースが関与するイベントを含む) の発生時に実行されます。

一般に、トリガーは可能な限りの最も詳細なレベルで定義します。例えば、任意のオブジェクトに対してトリガー・バインドを設定するのではなく、特定のプロジェクト・テンプレートの特定のイベントに対してトリガー・バインドを構成します。

そのインストール済み環境のトリガー・バインドのリストを表示するには、「設定」>「Marketing Operations 設定」を選択し、「トリガー・バインド」をクリックします。

トリガーを追加する方法

オブジェクトに関する特定の条件が満たされた場合にトリガーが自動的に起動されるようにするには、事前にいくつかの作業を実行する必要があります。以下の手順では、トリガーを追加するプロセスを示します。一部の手順は IBM Unica Marketing Operations の外部で行う必要があるので注意してください。

1. Java でプロシージャーを作成し、IProcedure インターフェースを実装します。
2. そのプロシージャーをプロシージャー・フォルダーに入れます。このフォルダーは、「設定」>「構成」>「Marketing Operations」>「umoConfiguration」>「integrationServices」の下にある integrationProcedureDefintionPath パラメーターで指定します。
3. プロシージャーをビルドします。
4. このプロシージャーを定義ファイル procedure-plugins.xml (上記フォルダー内にあります) に追加します。
5. Web サーバーを再起動します。
6. Marketing Operations にログインし、「トリガー・バインド」画面（「設定」>「Marketing Operations 設定」>「トリガー・バインド」）に移動します。
7. 「新規トリガー・バインドの追加 (Add New Trigger Binding)」をクリックします。
8. 「新規トリガーの追加 (Add New Trigger)」画面のフィールドに記入し、「保存」をクリックします。

これで、この特定のオブジェクトに関する条件が満たされると、このトリガー条件にバインドされているプロシージャーが実行されます。

トリガー・バインドを追加または編集する方法

1. 「設定」>「Marketing Operations 設定」を選択し、「トリガー・バインド」をクリックしてシステム内の現在のトリガー・バインドを表示します。
2. 「新規トリガー・バインドの追加 (Add New Trigger Binding)」をクリックするか、既存のバインドで「編集」をクリックします。
3. トリガー・バインドの詳細を記入します。

「検証」または「遅延」を選択する必要があるので注意してください (一方にチェック・マークを付けると他方はチェック・マークなしになります)。デフォルトは「遅延」です。

4. 「保存」をクリックしてバインドを保存し、「トリガー・バインド」リスト画面に戻ります。

トリガー・バインドの詳細

トリガー・バインドを作成する場合、以下の情報を指定します。ここに指定した情報は「トリガー」テーブルに表示されます。

列	説明
名前	バインドのテキスト名。名前は固有でなければなりません。
Marketing Operations オブジェクト	トリガーが定義されているオブジェクト。デフォルトは「 任意の Marketing Operations オブジェクト (Any Marketing Operations Object) 」です。
テンプレート	フィルターとして使用するテンプレート。指定されたテンプレートは、そのテンプレートに対応するオブジェクトのすべてのインスタンスに適用されるフィルターになります。プロジェクトは、テンプレートを持つオブジェクトです。そのため、検索を特定のテンプレートに制限するフィルター基準を指定します。この基準のデフォルトは「 任意のテンプレート (Any Template) 」です。これは、オブジェクトのすべてのテンプレートがフィルターに含まれること、あるいは指定されたオブジェクトに検討対象のテンプレートがないことを意味します。
コンテキスト	トリガーのコンテキスト。例えば、コンテキストはタスクやワークフローの場合があります。デフォルトである「 任意の 」とは、どのコンテキストもフィルター基準の検討対象になることを意味します。
イベント	フィルター操作のイベント。オブジェクトに対して「 任意のイベント (Any Event) 」が選択されていない限り、選択されたオブジェクト、テンプレート、およびコンテキストに対応するイベントのみが表示されます。「 任意のイベント (Any Event) 」が選択されている場合、すべてのイベントが表示されます。
遅延	トランザクションのコミット後、一定時間の経過後にプロシージャが実行されます。トリガーを含んでいたトランザクションは、そのプロシージャ・コンテキストには表示されません。そのプロシージャには、別個のトランザクション・コンテキストが提供されます。
検証	検証トリガーは、現在のトランザクションがコミットされる前に、データを検証するプロシージャを呼び出します。このトリガーは、それを含むコンテキストによってプロシージャ呼び出しをセットアップします。このコンテキストにはデータベース・トランザクションが含まれています。

列	説明
排他	<p>排他バインドは、複数のバインドが一致した場合でも、他のプロシージャーと一緒に実行できないプロシージャーを示します。(複数の排他バインドが一致した場合、すべての排他バインドが実行されます。)</p> <p>このボックスにチェック・マークを付けない場合、バインドは包括バインドになります。包括バインドは、複数のトリガーの選択基準が一致した場合に、他のプロシージャーと一緒に実行されるプロシージャーを示します。一致したプロシージャーのいずれかが排他の場合、一致した排他プロシージャーのみが実行されます。</p> <p>最も具体性の高い排他バインドのみが一致となります。したがって、例えば、3つの排他トリガー (グローバルなものが1つ、すべてのプロジェクトに対するものが1つ、特定のプロジェクト・テンプレートに対するものが1つ) がある場合、起動されたイベントが3つすべてと一致すると、特定のプロジェクト・テンプレートに対する排他トリガーのみが実行されます。</p>
プロシージャー (Procedure)	トリガーにバインドされているプロシージャー。つまり、トリガーの起動時に実行されるプロシージャー。

「予算」タブのカスタマイズについて

プログラムとプロジェクトの「予算」タブに表示される「明細項目の詳細 (Line Item Details)」テーブルには、テキスト列を3つまで追加できます。これは一括変更です。指定するテキスト列は、Marketing Operations インストール済み環境のプログラムとプロジェクト内のすべての「明細項目の詳細 (Line Item Details)」テーブルに表示されます。「予算」タブへの変更は、新規と既存の両方のプログラムとプロジェクトに適用されます。

注: 「予算」タブには、財務管理モジュールが必要です。このモジュールがない場合、「予算の明細項目列」オプションは表示されません。

テキスト列の無効化と削除について

テキスト列は、「無効にする」をクリックすることにより、管理設定からラベルを削除せずに「明細項目の詳細 (Line Item Details)」テーブルから削除できます。テキスト列を無効化すると、「無効化」オプションが「有効化」に置き換わります。

テキスト列は、「削除」をクリックすることにより、「明細項目の詳細 (Line Item Details)」テーブルと管理設定から削除できます。「変更の保存」をクリックすると、テキスト列フィールドが必要に応じて再番号付けされ、新しいフィールドが画面下部に追加されます。管理設定内のテキスト列フィールドの総数は3つのままです。

「明細項目の詳細 (Line Item Details)」テーブルでテキスト列を追加または編集する方法

1. 「設定」 > 「Marketing Operations 設定」を選択し、「予算の明細項目列」をクリックします。

2. 各列に必要な列ラベルを入力します。

ラベルのテキストを入力すると、自動的にその列が有効になります。

3. 「変更の保存」をクリックします。

予算のベンダー列の有効化

ユーザーが予算の明細項目を編集するときに「ベンダー」列を表示するには、「設定」>「Marketing Operations」>「umoConfiguration」で構成パラメーター FMPrgmVendorEnabled と FMProjVendorEnabled を true に設定する必要があります。

公開された検索の管理について

すべての IBM Unica Marketing Operations ユーザーは、実行する検索を保存することができます。ユーザーは、検索条件を指定した後、その条件を後で使用するために保存することができます。管理者は、保存されたそれらの検索を公開することができます。検索を公開すると、すべての Marketing Operations ユーザーがそれを使用できるようになります。

公開された検索を非公開にするには

誰かが以前に検索を公開し、それが不要になった場合には、それを非公開検索に変更することができます。

1. 「設定」>「Marketing Operations 設定」を選択します。

「管理設定」ページが開きます。

2. 「公開された検索の管理」をクリックします。

「公開された検索」ページが開きます。

3. 「<<」ボタンを使用して、検索を「保存された検索を公開」リスト・ボックスから削除します。
4. 「変更の保存」をクリックします。

これで、「保存された検索を公開」リスト・ボックスから削除したすべての検索が非公開になり、必要に応じて削除できるようになります。

複数ロケールのサポート

IBM Unica Marketing Operations ユーザーが複数のロケールで作業する場合、複数の言語をサポートするようにアプリケーションのさまざまな領域を構成することができます。

- 「設定」>「構成」>「Marketing Operations」の下にあるパラメーター supportedLocales および defaultLocale が、インストール時に正しく設定されたことを確認します。
- テンプレート・プロパティをローカライズします。
- フォーム属性およびメトリックをローカライズします。

- リスト (プロジェクト・テンプレートのユーザーの役割を含む) をローカライズします。

ローカライズされた形式と記号の設定

ローカライズされた形式と記号の設定は、サポートされる各ロケールの `format_symbols.xml` ファイルに保管されています。ロケールの `format_symbols.xml` ファイルは、Marketing Operations インストール・ディレクトリーの `¥conf¥<locale>` フォルダに保管されています。

注: IBM では、`format_symbols.xml` ファイルの編集はお勧めしません。

`format_symbols.xml` ファイルを編集する必要がある場合は、以下のガイドラインに従ってください。

- Windows では、このファイルを、Windows のデフォルトの ANSI ではなく、UTF-8 形式で保存する必要があります。
- 日付/時刻設定を編集する場合は、`<date-format>` と `<date-time-format>` の両方に同じ形式を使用する必要があります。そうしないと、Marketing Operations での作業中にエラーを受け取ります。

クラスター環境での IBM Unica Marketing Operations の管理

IBM Unica Marketing Operations をクラスター環境で実行する場合、システム管理作業の実行時には、1 つを除きすべての Marketing Operations インスタンスをシャットダウンすることをお勧めします。

システム・ロックの表示

IBM Unica Marketing Operations には、アプリケーション内で現在ロックされているアイテムを表示するためのツールが含まれています。このツールを使用するには、ブラウザー・ウィンドウに以下の URL (ご使用の Marketing Operations サーバーのホスト名とポートを使用) を入力してください。

```
http://<hostname>:<port>/MktOps/affiniumplan.jsp ?cat=adminobjectlocklist
```

ログイン画面で、管理レベルのアカウントの資格情報を入力します。そのオブジェクトのロック・ブラウザー画面が表示されます。このロック・ブラウザーには、現在のロックに関する情報が、オブジェクト、グリッド、およびグリッド行別にグループ化されて表示されます。この画面には、各ロックに関する情報 (ロックを保持するユーザー、ロックされたオブジェクトのオブジェクト ID など) が表示されます。

Marketing Operations のパフォーマンスの向上

このセクションでは、パフォーマンス向上のために設定または変更することができる構成パラメーターについて説明します。IBM Unica Marketing Operations の構成プロパティは、「設定」>「構成」>「Marketing Operations」の IBM Unica Marketing Platform にあります。

最大結果サイズ

「**umoConfiguration**」 > 「データベース」で **commonDataAccessLayerMaxResultSetSize** パラメーターを使用して、すべてのリスト・ページの結果セットを指定値にトリミングすることができます。この設定を使用すると、データベース照会の制限の回避に役立ちます。

照会バッチ・サイズ

「**umoConfiguration**」 > 「データベース」で **commonDataAccessLayerFetchSize** パラメーターを使用して、パフォーマンスに依存する一部の照会のバッチ・サイズを設定できます。バッチ・サイズにより、アプリケーションに一度に返される結果セット内のレコードの数が決まります。データベースのデフォルトの設定値は、通常 10 です。Marketing Operations の推奨される設定値は 500 です。

maximumItemsToBeDisplayedInCalendar

多数のオブジェクト (計画、プログラム、プロジェクトおよびタスク) がある場合、カレンダーを表示したりエクスポートしたりするときに、パフォーマンスに問題が生じることがあります。速度を上げるには、「**umoConfiguration**」 > 「**listingPages**」の **maximumItemsToBeDisplayedInCalendar** パラメーターの値を増やします。最大値は 500 です。

表示またはエクスポートされるカレンダー・エンティティは、指定の数に制限されます。カスタム検索を使用して、必要な項目がすべて表示されるようにすることが必要な場合があります。

IBM Unica Marketing Operations インターフェースのカスタマイズ

Marketing Operations では、いくつかの方法でインターフェースをカスタマイズできます。以下のいずれかを実行することも、あるいはそのすべてを実行することも可能です。

- オブジェクト・タイプの名前変更
- 承認レスポンスの文面の変更
- メニューのカスタマイズ

sysmodules.xml ファイルについて

sysmodules.xml ファイルには、項目とモジュールが定義されます。項目により画面の文面が、モジュールによりメニューの文面が、それぞれ決まります。Marketing Operations の各オブジェクト・タイプでは、2 つの項目と 1 つのモジュールが sysmodules.xml ファイルに定義されています。

例えば、プロジェクトには、以下の 2 つの項目と 1 つのモジュールがあります。

```
<item id="project">Project</item>
<item id="projects">Projects</item>
<module id="projects">
  <display>Projects</display>
  <description>Projects Module</description>
```

```
<helptip>Projects</helptip>
<link>uaprojectervlet?cat=projectlist</link>
<helpfile>plan.htm</helpfile>
</module>
```

sysmodules.xml ファイルは、Marketing Operations インストール・ディレクトリーの /conf/<locale> フォルダにあります。ここで、<locale> は、ご使用のインストール済み環境のデフォルト・ロケールです。

オブジェクトを名前変更したり、URL にリンクするメニュー項目を追加したりする場合は、sysmodules.xml ファイルを編集する必要があります。

マーケティング・オブジェクト・タイプを作成する場合、Marketing Operations は、新しいタイプのモジュールを sysmodules.xml ファイルに自動的に追加します。

sysmodules.xml ファイルの要素

以下の要素を使用して、sysmodules.xml ファイルにモジュールと項目を定義します。

module

モジュール要素は、モジュールを定義する要素のコンテナ要素です。この要素には、以下の属性があります。

属性	説明
id	モジュールの固有の名前

<module> 要素には値がありません。この中には、子要素 <display>、<description>、および <link> を入れることができます。

display

<display> 要素は、Marketing Operations がインターフェースのこのモジュールに使用する名前を定義します。この要素には属性がなく、子要素もありません。要素値は、使用する名前です。

description

<description> 要素は、このモジュールの説明を定義します。この要素には属性がなく、子要素もありません。この要素値は、使用する説明です。

link

<link> 要素は、ユーザーがこのモジュールのメニュー項目をクリックすると表示されるページを定義します。この要素には属性がなく、子要素もありません。要素値は、リンクです。

systemenu.xml ファイルについて

systemenu.xml ファイルには、メニューの名前と内容が定義されます。

デフォルトでは、メニュー項目の名前は `sysmodules.xml` ファイル内の対応するモジュールの定義から取得されますが、表示名は `<display>` 要素を使用してオーバーライドすることができます。

`sysmenu.xml` ファイルの各項目には、それに対応するモジュールが `sysmodules.xml` ファイルになければなりません。

メニューのメニュー項目の再編成、作成したメニューの名前変更、またはメニュー項目の追加が必要な場合は、`sysmenu.xml` ファイルを編集する必要があります。

sysmenu.xml の要素

以下の要素を使用して、`sysmenu.xml` ファイルにメニューとメニュー項目を定義します。

menugroup

`<menugroup>` 要素はメニュー名を定義し、その中にはメニュー項目を定義する要素が含まれます。この要素には、次の属性があります。

属性	説明
id	モジュールの固有の名前

`<menugroup>` 要素には値がありません。この中には、子要素 `<display>` と `<menuitem>` を入れることができます。

display

`<display>` 要素は、Marketing Operations がインターフェースのこのメニューに使用する名前を定義します。この要素には属性がなく、子要素もありません。属性値は、使用する名前です。

menuitem

`<menuitem>` 要素は、メニューの項目を定義します。この要素には、以下の属性があります。

属性	説明
id	このメニュー項目に対応するモジュールの固有の名前
タイプ	このメニュー項目に対応するモジュールのタイプ。(オプション)

`<menuitem>` 要素には、値も子要素もありません。

オブジェクト・タイプの名前変更

オブジェクト・タイプの名前は変更可能です。例えば、インターフェース全体にわたって「projects」を「promotions」に変更できます。

オブジェクトを名前変更するためには、以下のファイルを編集する必要があります。

- `sysmodules.xml`

- <object>sui.xml
- <object>list.xml
- sysmenu.xml (場合により)
- loaddefinitions.sql

その後、メニューを同期して、変更を有効にする必要があります。

オブジェクトを名前変更する方法

1. sysmodules.xml ファイルを開きます。

このファイルの <syscatalogitems> セクション (オブジェクト名が定義されています) を見つけます。

2. オブジェクト・テキストを組織で優先される用語に変更します。

オブジェクトには、項目セクションに 2 つのエントリー (1 つは単数で、もう 1 つは複数) があります。

3. 名前変更するオブジェクトの <module> セクションを見つけて、そのセクションの要素の値を組織で優先される用語に変更します。
4. sysmodules.xml ファイルを保存して閉じます。
5. <object>sui.xml を開き、オブジェクト名のすべてのインスタンスを変更します。ファイルを保存して閉じます。
6. <object>list.xml ファイルを開き、オブジェクト名へのすべての参照を変更します。ファイルを保存して閉じます。
7. sysmenu.xml ファイルを開き、sysmodule.xml ファイル内の表示名がオブジェクトのメニュー項目定義でオーバーライドされているか確認します。オーバーライドされている場合は、名前を変更します。
8. loaddefinitions.sql ファイル (Marketing Operations インストール・ディレクトリーの /install/<db> フォルダにあります) を開き、変更するオブジェクトへの参照をすべて置き換えます。ファイルを保存して閉じます。
9. データベース・マネージャーを開始し、データベース・マネージャー内から loaddefinitions.sql ファイルを実行します。
10. 「設定」>「Marketing Operations 設定」>「メニューの同期」をクリックします。

注: この手順を実行した後でメニューが予期したとおりに表示されない場合は、configTool ユーティリティを使用して、メニュー項目を手動でインポートしてください。このツールの使用については、「IBM Unica Marketing Operations インストール・ガイド」でデプロイメント前の Marketing Operations の構成に関するセクションと、手動による Marketing Operations の登録のステップを参照してください。

「拒否済み」の承認レスポンスの名前変更

ユーザーは、以下のいずれかのレスポンスを選択することにより、承認に回答します。

- 承認済み
- 変更して承認しました

- 拒否済み

一部の組織では、「拒否済み」を否定的な意味と捉え、より柔らかいフレーズを承認のレスポンス・フォームに使用しています。「拒否済み」の承認レスポンスは、「変更が必要 (Changes Required)」というレスポンスに置き換えることができます。

「拒否済み」の承認レスポンスを名前変更する方法

1. `approvalsui.xml` を開きます。

このファイルは、Marketing Operations インストール・ディレクトリーの `conf/<locale>` フォルダにあります。この場合、`<locale>` は、ご使用のインストール済み環境のデフォルト・ロケールです。

2. ファイル下部にナビゲートし、次のコード・ブロックを見つけます。

```
<!-- Configuring the word 'Deny' to 'Changes Required [begin] -->
<!-- REMOVE THIS LINE TO CONFIGURE --><!--
<column id="DENY"><display>Changes Required</display></column>
<column id="DENY_L"><display>changes required</display></column>
<column id="DENIED"><display>Changes Required</display></column>
<column id="DENIED_L"><display>changes required</display></column>
<column id="DENIED_L_NOTIFICATION">
  <display>marked 'changes required'</display>
</column>
--><!-- REMOVE THIS LINE TO CONFIGURE -->
<!-- [end] Configuring the word 'Deny' to 'Changes Required' -->
```

3. `REMOVE THIS LINE TO CONFIGURE` という 2 つのコメント行 (前述のコード・ブロックでは太字で表示されています) を削除します。
4. ファイルを保存します。
5. Marketing Operations インストール・ディレクトリーの `/install/your_db/loaddefinitions.sql` を開きます。この場合、`your_db` は使用しているデータベースに対応します。
6. 「An approval is denied」というテキスト・ストリングを見つけ、これを「An approval requires changes」に変更します。
7. `loaddefinitions.sql` スクリプト・ファイルを実行します。

メニューのカスタマイズ

Marketing Operations のメニューとメニュー・オプションは、所属する組織のニーズに基づいて構成できます。Marketing Operations では、以下のいずれのカスタマイズも実行できます。

- メニューの作成
- メニューの項目の再編成
- メニューの項目の名前変更
- 以前に作成したメニューの名前変更
- URL にリンクするメニュー項目の追加

デフォルトのメニュー（「操作」、「分析」など）を名前変更することはできません。ただし、これらのメニュー内の項目を名前変更することは可能です。

メニューの項目の再編成

メニューの項目は再編成できます。項目をあるメニューから別のメニューへ移動したり、メニューの項目の順序を変更したりすることができます。

メニューの項目の再編成は、`sysmenu.xml` ファイル内の `<menuitem>` 要素の場所を変更することにより行います。完了したら、「設定」>「Marketing Operations 設定」>「メニューの同期」をクリックします。

メニューの作成方法

メニューを作成する前に、メニューのモジュールと、メニューに必要な各項目のモジュールが `sysmodules.xml` ファイルに含まれている必要があります。

1. `sysmodules.xml` ファイルを開きます。
2. メニューのモジュールを作成します。
3. メニューに追加する各項目のモジュールが存在していることを確認してください。
4. メニュー・モジュールとメニュー項目モジュールの ID 属性とタイプ属性の値をメモします。

後のステップでこれらを `sysmodules.xml` ファイルに入力する必要があります。

5. `sysmodules.xml` ファイルを保存して閉じます。
6. `sysmenu.xml` ファイルを開きます。
7. `<menugroup>` 要素を使用して、メニューを作成します。
8. メニューに必要な項目ごとに `<menuitem>` 要素を 1 つ追加します。
9. `sysmenu.xml` ファイルを保存して閉じます。
10. 「設定」>「Marketing Operations 設定」>「メニューの同期」をクリックします。

URL にリンクするメニュー項目を追加する方法

1. `sysmodules.xml` ファイルを開きます。
2. モジュールを作成します。

`<link>` 要素の値は、リンク先の URL でなければなりません。

3. ID 属性とタイプ属性の値をメモします。

後のステップでこれらを `sysmodules.xml` ファイルに入力する必要があります。

4. `sysmodules.xml` ファイルを保存して閉じます。
5. `sysmenu.xml` ファイルを開きます。
6. リンクを追加するメニューの `<menugroup>` を見つけます。
7. 以前に作成したモジュールを参照する `<menuitem>` 要素を追加します。
8. `sysmenu.xml` ファイルを保存して閉じます。
9. 「設定」>「Marketing Operations 設定」>「メニューの同期」をクリックします。

メニューまたはメニューの項目を名前変更する方法

1. `sysmenu.xml` ファイルを開きます。
2. 名前変更するメニューの `<menugroup>` 要素、または名前変更する項目の `<menuitem>` 要素を見つけます。
3. 以下のいずれかを実行します。
 - a. 要素に子要素 `<display>` がある場合は、`<display>` 要素の値を表示するテキストに変更します。
 - b. 要素に子要素 `<display>` がない場合は、表示するテキストが値になる子要素 `<display>` を作成します。
4. `sysmenu.xml` ファイルを保存して閉じます。
5. 「設定」 > 「Marketing Operations 設定」 > 「メニューの同期」をクリックします。

メニューの同期

Marketing Operations でメニューに変更を加えた場合は必ず、メニューを同期して変更内容が表示されるようにしてください。

注: マーケティング・オブジェクト・タイプを作成した場合は、メニューに変更を加えたものとみなされます。Marketing Operations では、`sysmodules.xml` ファイルと `sysmenu.xml` ファイルは自動的に変更されますが、メニューの同期は手動で行う必要があります。

メニューを同期するには、「設定」 > 「Marketing Operations 設定」 > 「メニューの同期」をクリックします。

マークアップ機能の構成

Marketing Operations には、添付ファイルに関するコメントを作成するためのマークアップ・ツールが用意されています。Marketing Operations ユーザーが承認依頼を送信してレビューを求めると、承認者はコメントを直接電子ファイルに入れることができ、他のユーザーはそこでコメントを表示することができます。

Marketing Operations には、2 つのタイプのマークアップ・ツールが用意されています。

- 固有の Marketing Operations マークアップ: 固有のマークアップ・オプションには、PDF、HTML、JPG、PNG、GIF および BMP の各形式のファイルに適用できる、さまざまなマークアップ機能が提供されています。ユーザーは、URL が提供されれば、Web サイト全体をマークアップすることができます。その後、コメントを Marketing Operations に保存できます。固有のマークアップは、デフォルト・オプションです。この場合、クライアント・マシンに Acrobat がインストールされている必要はありません。
- Adobe Acrobat マークアップ: このマークアップ・ツールでは、各クライアント・マシンに Adobe Acrobat がインストールされていることが必要です。ユーザーは、すべての Acrobat のコメント機能を適用し、その後で、編集した PDF を Marketing Operations に保存することができます。

マークアップ・オプションはグローバル設定です。(異なるユーザーのグループに対して異なるマークアップ・オプションを有効にすることはできません。)

マークアップ・ツールの可用性の変更について

デフォルトでは、固有の Marketing Operations マークアップ・ツールが有効化されています。ユーザーが使用できるマークアップ・ツールのタイプは、「設定」>「構成」>「Marketing Operations」>「umoConfiguration」>「マークアップ」でマークアップ構成パラメーターを変更することにより、変更できます。ただし、ユーザーがマークアップの表示と編集を開始した後でマークアップ・ツールを変更すると、深刻な結果になります。

- Acrobat マークアップから固有のマークアップに切り替えると、ユーザーは、Acrobat で作成されたマークアップの表示や編集ができなくなります。
- 固有のマークアップから Acrobat マークアップに切り替えると、ユーザーは、固有のマークアップ・ツールで作成されたマークアップの表示や編集ができなくなります。

注: 最良の結果を得るために、ユーザーがマークアップ・ツールの使用を開始した後は、マークアップ構成を変更しないようにしてください。マークアップ・ツールの可用性を変更する前に、ユーザーへの影響を慎重に考慮してください。

Adobe Acrobat マークアップを有効にする方法

Adobe Acrobat マークアップを有効にすると、すべてのユーザーに対して固有の Marketing Operations マークアップが無効になります。

1. 「設定」>「構成」>「Marketing Operations」>「umoConfiguration」>「マークアップ」をクリックします。
2. 「設定の編集」をクリックします。
3. 「markupServerType」パラメーターを SOAP に設定します。
4. 「markupServerURL」パラメーターを Marketing Operations ホスト・サーバーの URL (完全修飾ホスト名と Web アプリケーション・サーバーが listen するポートを含めます) に設定します。

以下に示すパス形式を使用し、<server> と <port> を自分の値に置き換えます。

```
http://<server>:<port>/plan/services/collabService?wsdl
```

5. 「useCustomMarkup」を True に設定します。

Windows ユーザーが、Acrobat の「注釈を送受信 (Send Receive Comments)」ボタンではなく、Marketing Operations のカスタムの「コメントを送信 (Send Comments)」ボタンを使用するようにする場合は、「useCustomMarkup」パラメーターを False に設定します。その後で、ユーザーは、Marketing Operations の「注釈」ツールバーを有効にするように、Acrobat を構成する必要があります。PDF のレビューについて詳しくは、「Marketing Operations ユーザー・ガイド」を参照してください。

6. 「保存」をクリックします。
7. Marketing Operations を再始動して、変更を有効にします。

クライアント・マシンでの Adobe のインストールおよび構成

ユーザーが Adobe マークアップを効果的に使用できるようにするために、管理者は、IBM Unica Marketing Operations へのアクセスに使用する Adobe Acrobat を各クライアント・マシンにインストールします。

Microsoft Windows プラットフォームにそれぞれインストールした後で、カスタマイズした UMO_Markup_Collaboration.js ファイルをコピーする必要があります。このファイルは、Marketing Operations インストール・ディレクトリーの UMO_HOME¥tools からクライアント・マシンにコピーします。このファイルは、Adobe Acrobat がインストールされているディレクトリーの JavaScripts サブディレクトリーにコピーします。以下に例を示します。

```
C:¥Program files¥Adobe¥Acrobat
6.0¥Acrobat¥Javascripts¥UMO_Markup_Collaboration.js
```

このディレクトリーに sdkSOAPCollabSample.js ファイルが存在する場合は、削除してください。

次のことに注意してください。

- ユーザーが他の承認者のコメントを表示できない場合は、UMO_Markup_Collaboration.js ファイルが欠落しているか、正しくない可能性があります。
- このファイルをコピーする前に Acrobat を実行する場合は、マークアップ機能を使用するためにコンピューターをリブートする必要があります。

さらに、Internet Explorer ブラウザーを使用して IBM Unica Marketing Operations にアクセスするユーザーは、ブラウザーで PDF が表示されるように Internet Explorer の設定を行う必要があります。

固有の IBM Unica Marketing Operations マークアップを有効にする方法

固有の Marketing Operations マークアップを有効にすると、Adobe Acrobat マークアップが無効になります。

1. 「設定」 > 「構成」 > 「Marketing Operations」 > 「umoConfiguration」 > 「マークアップ」をクリックします。
2. 「設定の編集」をクリックします。
3. markupServerType パラメーターを MCM に設定します。
4. 「保存」をクリックします。
5. Marketing Operations を再始動して、変更を有効にします。

マークアップを無効にする方法

管理者がマークアップを無効にすると、ユーザーは PDF にコメントを追加できません。

1. 「設定」 > 「構成」 > 「Marketing Operations」 > 「umoConfiguration」 > 「マークアップ」をクリックします。

2. 「設定の編集」をクリックします。
3. markupServerType パラメーター値を消去します。
4. 「保存」をクリックします。
5. Marketing Operations を再始動して、変更を有効にします。

システム・ログの構成

Marketing Operations は、ロギング構成、デバッグ、およびエラー情報のために Apache log4j ユーティリティを使用します。

log4j でロギングを構成するには、Marketing Operations のインストール・ディレクトリーの conf フォルダにある plan_log4j.xml ファイルにプロパティ値を設定します。例えば、ログ・ファイルの名前と場所を変更するには、該当するプロパティの値を変更します。

システム・ログ設定の変更については、以下を参照してください。

- plan_log4j.xml ファイル内のコメント
- Apache Web サイト (<http://logging.apache.org/log4j/1.2/manual.html>) にある log4j 資料

注: plan_log4j.xml ファイルは、更新されてから 60 秒後に再ロードされるので、このファイルの値を変更した後でサーバーを再始動する必要はありません。

第 3 章 マーケティング・オブジェクトの管理

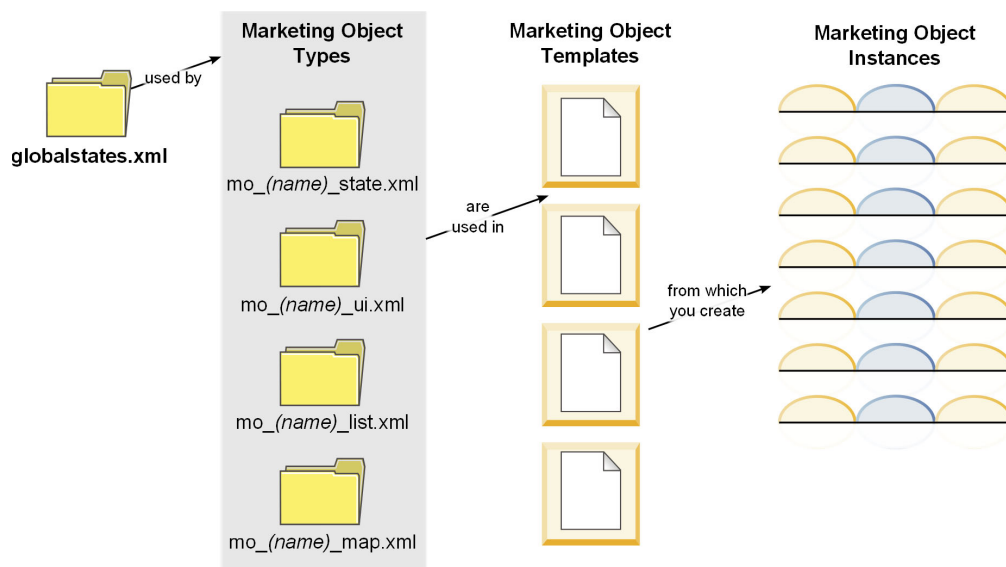
マーケティング・オブジェクトは、チームが開発し、マーケティング・アクティビティーの過程で再使用する作業成果物です。マーケティング・オブジェクトは、レター、クレジット・カード、バナー広告などの物理アイテムを表す場合も、クレジット・カード・オファー、ターゲット・セグメント定義、特典プログラム定義などのビジネス・コンポーネントを表す場合もあります。

IBM Unica Marketing Operations では、マーケティング・オブジェクトがタイプ別に編成されます。使用するそれぞれの種類の物理アイテムまたはビジネス・コンポーネントごとに、マーケティング・オブジェクト・タイプを定義する必要があります。上記にリストしたマーケティング・オブジェクトの例の場合、以下のマーケティング・オブジェクト・タイプを作成できます。

- レター
- クレジット・カード
- バナー広告
- クレジット・カード・オファー
- ターゲット・セグメント定義
- 特典プログラム定義

各マーケティング・オブジェクト・タイプごとに 1 つ以上のテンプレートを作成します。例えば、種類の異なるレターに対して別個のレター・テンプレートを作成することができます。各テンプレートは、その種類のレターの異なるインスタンスを作成するために複数回使用できます。

次の図は、IBM Unica Marketing Operations 内のマーケティング・オブジェクトを表現したもので、コンポーネントの相互関係を示しています。



マーケティング・オブジェクトのプロセス概要

1. 新しいマーケティング・オブジェクト・タイプに新しい状態が必要な場合は、グローバル状態ファイルで新しい状態を定義します。詳しくは、『グローバル状態ファイル』を参照してください。
2. 新しい状態を定義したら、Web サーバーを再始動してその新しい状態を使用できるようにします。
3. IBM Unica Marketing Operations の「管理」セクションでマーケティング・オブジェクト・タイプを追加します。詳しくは、27 ページの『マーケティング・オブジェクト・タイプの追加』を参照してください。
4. Web アプリケーション・サーバーを再始動して、新しいマーケティング・オブジェクト・タイプを使用できるようにします。
5. そのマーケティング・オブジェクト・タイプ用のマーケティング・オブジェクト・テンプレートを作成します。詳しくは、30 ページの『マーケティング・オブジェクト・テンプレートの作成』を参照してください。
6. マーケティング・オブジェクト・テンプレートに基づいてマーケティング・オブジェクトを作成します。詳しくは、「*IBM Unica Marketing Operations* ユーザー・ガイド」を参照してください。

マーケティング・オブジェクトの状態について

すべてのマーケティング・オブジェクトには、そのステータスを示す状態があります。マーケティング・オブジェクトがそのライフサイクル内を移動していく間に、状態が変化します。

デフォルトでは以下の状態が有効です。

- 開始前
- 進行中
- 保留中
- キャンセル済み
- 完了

グローバル状態ファイルを編集することにより、追加の状態を作成できます。

マーケティング・オブジェクト・タイプを作成するときに、そのタイプで可能な状態を状態のグローバル・リストから指定します。

グローバル状態ファイル

グローバル状態ファイルには、そのインストール済み環境のマーケティング・オブジェクトで可能なすべての状態がリストされます。globalstates.xml ファイルは <Plan_Home>%conf%\<locale> フォルダの中にあります。

状態は、以下の XML タグを使用して定義します。

表 6. グローバル状態の XML タグ

タグ	説明
id	状態の固有の識別子。スペースを含めることはできません。
displayName	オブジェクトがある状態のときに、その状態を表示する名前。例えば、「In progress」など。
icon	オブジェクトのリスト・ページでこの状態を表すアイコン。
frozen	この状態でオブジェクトを編集できるかどうかを示すフラグ。 <ul style="list-style-type: none"> • false: オブジェクトがこの状態にあるときに、ユーザーはオブジェクトを編集できます。 • true: オブジェクトがこの状態にあるときに、ユーザーはオブジェクトを編集できません。

以下に、IN_PROGRESS 状態のコード例を示します。

```
<state id="IN_PROGRESS">
  <displayName>In Progress</displayName>
  <icon>status_onschedule.gif</icon>
  <frozen>false</frozen>
</state>
```

重要: Marketing Operations で使用可能なグローバル状態ファイルを変更するには、Web サーバーを再起動する必要があります。

マーケティング・オブジェクト・タイプの追加

マーケティング・オブジェクトを作成するには、事前にマーケティング・オブジェクト・タイプを IBM Unica Marketing Operations に追加しておく必要があります。

状態遷移について

ユーザーは、マーケティング・オブジェクトで作業しているときに、オブジェクトの「サマリー」タブにあるステータスのドロップダウン・リストから値を選択してオブジェクトのステータスを変更することができます。選択可能なステータスは、そのオブジェクト・タイプに定義されている遷移によって異なります。デフォルトでは、以下の遷移が定義されています。

遷移名	From	To
開始	開始前	進行中
キャンセル	開始前	キャンセル済み
続行	保留中	進行中
キャンセル	進行中	キャンセル済み
一時停止	進行中	保留中
完了	進行中	完了

デフォルトの遷移の場合、オブジェクトが「進行中」のときは、「ステータス」メニューに「キャンセル済み」、「保留中」、「完了」の 3 つのオプションが含まれます。

マーケティング・オブジェクト・タイプを作成するときに、遷移を追加または削除することができます。

マーケティング・オブジェクト・タイプを追加する方法

1. 「設定」 > 「Marketing Operations 設定」を選択します。
2. 「その他のオプション」セクションで、「マーケティング・オブジェクト・タイプ設定 (Marketing Object Type Settings)」をクリックします。

「マーケティング・オブジェクト・タイプ設定 (Marketing Objects Type Settings)」画面が表示されます。

3. 「マーケティング・オブジェクト・タイプの追加 (Add Marketing Object Type)」をクリックします。
4. オブジェクト・タイプの詳細を指定します。
5. 「変更の保存」をクリックして新しいマーケティング・オブジェクト・タイプを追加するか、「キャンセル」をクリックして新しいタイプを追加せずに画面を終了します。

「マーケティング・オブジェクト・タイプの追加 (Add Marketing Object Type)」画面

「マーケティング・オブジェクト・タイプの追加 (Add Marketing Object Type)」画面を使用して、マーケティング・オブジェクト・タイプの名前、メニュー設定、および状態を定義します。

フィールド	説明
マーケティング・オブジェクト・タイプ・モジュール名	このマーケティング・オブジェクト・タイプの内部名。この名前の小文字のみのバージョンは、このマーケティング・オブジェクト・タイプの定義ファイルのファイル名で使用されます。この名前には、英語の英数字と下線のみを含めることができます。
マーケティング・オブジェクト・タイプ表示名	メニューおよびリストでマーケティング・オブジェクト・タイプに使用される名前。
マーケティング・オブジェクト・タイプ・モジュールの説明	このマーケティング・オブジェクト・タイプの要旨。
マーケティング・オブジェクト・タイプ・モジュールのヘルプ・ヒント	将来の使用に備えて予約されています。
マーケティング・オブジェクト名 (単数)	単数形の名前が必要な場合に Marketing Operations インターフェースのリンクおよびタイトルで使用される名前 (例えば、「Add Creative」)。
マーケティング・オブジェクト名 (複数)	複数形の名前が必要な場合に Marketing Operations インターフェースのリンクおよびタイトルで使用される名前 (例えば、「All Creatives」)。

フィールド	説明
表示名を指定して新しいメニュー・グループを作成	指定された名前で作成されたメニュー項目を、このタイプのインスタンスをそのメニュー項目のリスト・ページに追加します。
既存のメニュー・グループに追加	このタイプのインスタンスを、選択されたメニュー項目のリスト・ページに追加します。
初期状態	選択された状態を、新たに作成されたこのタイプのインスタンスに割り当てます。
遷移名	1 つのマーケティング・オブジェクト状態から別の状態への遷移を示す名前。この名前はこの画面にしか表示されず、このタイプのマーケティング・オブジェクトのユーザーには表示されません。
From	この遷移の最初の状態。マーケティング・オブジェクトの遷移前の状態。グローバル状態ファイルで定義されている状態のドロップダウン・リストから状態を選択します。
終了	この遷移の 2 番目の状態。マーケティング・オブジェクトの遷移後の状態。グローバル状態ファイルで定義されている状態のドロップダウン・リストから状態を選択します。

マーケティング・オブジェクト定義ファイル

マーケティング・オブジェクト・タイプを作成すると、IBM Unica Marketing Operations はそのマーケティング・オブジェクト・タイプの定義を保管するために以下の XML ファイルを作成します。

- `mo_<name>_map.xml`。これは、マーケティング・オブジェクトの「サマリー」タブに表示する標準属性を定義します。これらの属性のラベルを変更することもできます。
- `mo_<name>_state.xml`。これは、オブジェクトの状態間に定義されている遷移のメタデータを含みます。システムで定義されているすべてのマーケティング・オブジェクト状態のメタデータは `globalstates.xml` ファイルで定義されます。新しい状態を追加する場合は、その状態をこのファイルで定義する必要があります。

ここで、`<name>` は、マーケティング・オブジェクト・タイプの作成時に「マーケティング・オブジェクト・タイプ・モジュール名」フィールドに指定した名前の小文字のみのバージョンです。

マーケティング・オブジェクト定義ファイルは `<Plan_Home>%conf%<locale>` ディレクトリーに保管されます。

注: 8.6.0 より前のバージョンでは、システムはマーケティング・オブジェクト・タイプに対して 2 つの追加ファイル、`mo_<name>_list.xml` および `mo_<name>_ui.xml` を作成していました。これらのファイルは作成されなくなりましたが、`<Plan_Home>%conf%backupUiListConfig` ディレクトリーに、バージョン 8.6 へのアップグレード前に作成されたファイルが参照用に保存されています。

重要: マーケティング・オブジェクト定義ファイルは削除しないでください。削除すると、Web サーバーを始動することも、IBM Unica Marketing Operations を使用することもできません。

マーケティング・オブジェクト・タイプの編集

マーケティング・オブジェクト・タイプを作成した後にそれを変更する場合は、マーケティング・オブジェクト・タイプの定義ファイルを変更する必要があります。マーケティング・オブジェクト・タイプのメニューでの表示方法を変更する場合、IBM Unica Marketing Operations の下にある `¥conf¥<locale>¥systemenu.xml` ファイル内の対応するエントリーを変更する必要があります。

マーケティング・オブジェクト・テンプレートの作成

マーケティング・オブジェクト・タイプを定義し、構成したら、そのタイプのマーケティング・オブジェクト・テンプレートを作成する必要があります。テンプレートを作成するまで、ユーザーはそのタイプのオブジェクトを作成できません。

マーケティング・オブジェクト・テンプレートを作成する方法

1. 「設定」 > 「Marketing Operations 設定」を選択します。
2. 「その他のオプション」セクションで、「テンプレート構成」をクリックします。
3. 「テンプレート」をクリックします。

システム内の各マーケティング・オブジェクト・タイプごとにセクションが 1 つずつ表示されます。例えば、サンプルのマーケティング・オプション・タイプ **creatives** を構成した場合、「Creatives テンプレート」というセクションが表示されるはずです。

4. テンプレートを作成するマーケティング・オブジェクト・タイプのセクションで、「テンプレートの追加 (Add Template)」をクリックします。
5. 「テンプレートの追加 (Add Template)」画面で、新しいテンプレートのプロパティを記入します。
6. 「変更の保存」をクリックして新しいテンプレートを追加します。

マーケティング・オブジェクトとプロジェクトまたは他のマーケティング・オブジェクトとの関連付けについて

マーケティング・オブジェクトを、プロジェクトまたは別のマーケティング・オブジェクトと関連付けることができます。例えば、特定のプロジェクト・タイプで使用する特定のパンフレット・タイプがあるとしたら、そのプロジェクト用に 1 つ以上のパンフレットを選択することをユーザーに要求するフィールドを、プロジェクト・テンプレートに追加することができます。

ユーザーが「選択」をクリックすると、パンフレットのリストが表示されます。このリストにシステム内のすべてのパンフレットを含めることも、特定のマーケティング・オブジェクト・テンプレートを使用して作成されたパンフレットのみにリストを制限することもできます。

以下を行うこともできます。

- プロジェクトの作成にプロジェクト・テンプレートが使用された場合に、常に指定されたマーケティング・オブジェクトのインスタンスが作成されるように、

IBM Unica Marketing Operations を構成する。この機能は、マーケティング・オブジェクトを別のマーケティング・オブジェクトに関連付ける場合は使用できません。

- プロジェクトまたはマーケティング・オブジェクトに表示する、マーケティング・オブジェクトの標準属性またはカスタム属性を指定する。

マーケティング・オブジェクトをプロジェクトに関連付けるには、「単一オブジェクト参照 (Single Object Reference)」属性または「複数オブジェクト参照 (Multiple Object Reference)」属性をフォームに追加してから、そのフォームをプロジェクト・テンプレートに追加します。マーケティング・オブジェクトを別のマーケティング・オブジェクトに関連付けるには、そのフォームをマーケティング・オブジェクト・テンプレートに追加します。

マーケティング・オブジェクトの属性を表示するには、「オブジェクト属性フィールド参照」属性をフォームに追加します。マーケティング・オブジェクトの属性を指定できるのは、「単一オブジェクト参照 (Single Object Reference)」属性を使用してマーケティング・オブジェクトを参照している場合のみです。

第 4 章 レポートの使用

IBM Unica Marketing Operations には、デフォルトで 1 組のレポートおよびダッシュボード・レポート・コンポーネントが用意されています。Marketing Operations レポート・パッケージには、別のビジネス・インテリジェンス・アプリケーションである IBM Cognos® で作成された追加のレポートおよびダッシュボード・レポート・コンポーネントがあります。

ユーザーは以下の方法で Marketing Operations からレポートにアクセスします。

- プロジェクトやマーケティング・オブジェクトなどの個々のアイテムの「分析」タブをクリックして、現在のアイテムに適用されるレポートを表示します。
- 「分析 (Analytics)」>「操作の分析」を選択して、複数のオブジェクトからのデータを表示する Cognos レポートを表示します。

レポート管理者は、レポートの変更、レポートの新規作成、カスタム属性の追加、フィルターのセットアップなどを行うことができます。

Marketing Operations レポート・パッケージのインストールについては、「IBM Unica Marketing Operations インストール・ガイド」を参照してください。

Cognos における IBM Unica Marketing Operations のレポートおよびフォルダー名

Cognos Connection では、レポートをディレクトリー構造で表示します。最上位にあるフォルダーは「パブリック・フォルダー (Public Folders)」という名前です。IBM Unica Marketing Operations レポート・パッケージが Cognos にインストールされると、「パブリック・フォルダー (Public Folders)」には Marketing Operations 用の以下のサブフォルダーが含まれるようになります。

- **Unica 計画 (Affinium Plan)**。ここでは、IBM Unica Marketing Operations の「分析」ページに表示される複数オブジェクト・レポートが含まれます。Report Studio で新しい複数オブジェクト・レポートを作成する場合は、そのレポートをこのフォルダーに保存します。必要に応じて、このフォルダー内にサブフォルダーを作成して、レポートを階層構造に編成することができます。
- **Unica 計画 - オブジェクト固有レポート (Affinium Plan - Object Specific Reports)**。ここでは、個々の IBM Unica Marketing Operations オブジェクトの「分析」タブに表示される単一オブジェクト・レポートが含まれます。このフォルダーには、計画、プログラム、プロジェクト、およびチーム用のサブフォルダーが含まれます。新しい単一オブジェクト・レポートを作成する場合は、そのレポートを該当するサブフォルダーに保存します。

ベスト・プラクティスとして、フォルダーの名前は変更しないでください。これを行う場合、以下のことに注意してください。

- 「設定」>「構成」>「Marketing Operations」>「umoConfiguration」>「reports」の下にある

reportsAnalysisSectionHome および reportsAnalysisTabHome という名前のプロパティを編集して、フォルダーの名前と一致するようにしてください。

- フォルダー名に特殊文字 (引用符や「<」など) は使用しないでください。デフォルトのレポート・フォルダー名を変更する場合は、英数字とスペース文字およびダッシュ文字 (「-」) のみを使用してください。
- 「Unica 計画 - オブジェクト固有レポート (Affinium Plan - Object Specific Reports)」フォルダーの名前を変更する場合、Report Studio で「四半期ごとのプロジェクト予算サマリー (Project Budget Summary by Quarter)」レポートを編集する必要があります。このレポートには「費用内訳の詳細 (Detailed Expense Breakout)」レポートにリンクする URL が含まれており、この URL はそのレポート・フォルダー名にハードコーディングされます。フォルダー名を変更した場合、新しいフォルダー名を参照するようにリンクを編集する必要があります。
- 「Unica 計画 - オブジェクト固有レポート (Affinium Plan - Object Specific Reports)」フォルダー内のサブフォルダーの名前は変更しないでください。

Cognos での IBM Unica Marketing Operations レポートの作成およびカスタマイズについて

Cognos では、IBM Unica Marketing Operations データ・モデルに基づいてレポートを作成することができ、Marketing Operations レポート・パックでそれらのレポートを編集できます。

一般的なカスタマイズ作業には以下が含まれます。

- レポートへのカスタム属性およびカスタム・メトリックの追加
- レポート用のフィルターの作成
- レポート列から関連する IBM Unica Marketing Operations オブジェクトへのハイパーリンクの追加

レポートを作成またはカスタマイズする前に、Cognos で IBM Unica Marketing Operations データ・モデルを更新して、レポートで使用する新しい属性やメトリックを含めます。

新しいレポートを Cognos 内の適切なフォルダーに保存します。

Cognos での IBM Unica Marketing Operations データ・モデルの更新

IBM Unica Marketing Operations システムまたはカスタム・テーブルに変更が生じた場合 (例えば、カスタム属性やカスタム・メトリックを追加した場合など)、それらの変更を反映するように、必ず Cognos 内の Marketing Operations データ・モデルを更新してください。そうでないと、その新しい属性やメトリックを Cognos レポートで使用できません。

IBM Unica Marketing Operations データ・モデルを更新する方法

1. レポートに含めるカスタム属性を識別し、それらの属性に必要なテーブル (ルックアップ・テーブルを含む) を識別します。

2. Cognos Framework Manager のインポート・ビューを使用して、属性のメタデータをインポートします。
3. Cognos Framework Manager のモデル・ビューを使用して、カスタム属性とそれらが属するオブジェクトとの間の適切な関係を定義します。(例えば、プロジェクトのカスタム属性をプロジェクトに関連付けます。) ルックアップ・テーブルとの適切な関係を定義します。
4. Cognos Framework Manager のビジネス・ビューを使用して、照会項目を定義し、それらを照会対象内に集約します。
5. データ・モデルを再公開します。

カスタム属性およびカスタム・メトリックの照会対象が、報告書作成プログラムで使用できるようになります。

カスタム・メトリックの照会対象の例

オブジェクト・タイプに関連付けられているすべてのメトリックに対して、単一の照会対象を定義することができます。プロジェクトに関連付けられているメトリックの照会対象の例を以下に示します。

```
Select
    UAP_PROJECTS.PROJECT_ID,
    a.METRIC_VALUE1 as TotalRevenue,
    b.METRIC_VALUE1 as ResponseRateActual,
    b.METRIC_VALUE2 as ResponseRateTarget,
    c.METRIC_VALUE1 as TotalLeadsGeneratedActual,
    c.METRIC_VALUE2 as TotalLeadsGeneratedTarget,
    d.METRIC_VALUE1 as TotalCostPassed
From
    UAP_PROJECTS
LEFT JOIN
(select PROJECT_ID, METRIC_VALUE1 from UAP_PROJ_METRICS
 where UAP_PROJ_METRICS.METRIC_ID = 'TotalRevenue') as a
ON a.PROJECT_ID = UAP_PROJECTS.PROJECT_ID
LEFT JOIN
(select PROJECT_ID, METRIC_VALUE1, METRIC_VALUE2 from UAP_PROJ_METRICS
 where UAP_PROJ_METRICS.METRIC_ID = 'ProjectResponseRate') as b
ON b.PROJECT_ID = UAP_PROJECTS.PROJECT_ID
LEFT JOIN
(select PROJECT_ID, METRIC_VALUE1, METRIC_VALUE2 from UAP_PROJ_METRICS
 where UAP_PROJ_METRICS.METRIC_ID = 'NumberOfLeadsGeneratedPassed') as c
ON c.PROJECT_ID = UAP_PROJECTS.PROJECT_ID
LEFT JOIN
(select PROJECT_ID, METRIC_VALUE1 from UAP_PROJ_METRICS
 where UAP_PROJ_METRICS.METRIC_ID = 'TotalCostPassed') as d
ON d.PROJECT_ID = UAP_PROJECTS.PROJECT_ID
```

Cognos でのレポート・フィルターの作成

Cognos レポートを作成する場合、レポートを実行する担当者が、アプリケーションですべてのデータを選択するのではなく、結果をフィルタリングできるように図る必要が生じることがあります。Cognos Report Studio を使用すると、さまざまなフィルターを作成できます。IBM Unica Marketing Operations ユーザーは、多くの場合、以下を行うフィルターを必要とします。

- オブジェクトの名前またはコードによるフィルタリング
- オブジェクトがアクティブな時点によるフィルタリング
- オブジェクトのステータス、タイプ、またはこの両方によるフィルタリング

ベスト・プラクティスとして、フィルター・プロンプトは必須ではなくオプションにしてください。レポートを実行するユーザーにとって、オプション・フィルターの方が簡単です。

名前およびコードの検索でのベスト・プラクティス

ベスト・プラクティスとして、選択と検索のプロンプトを使用して、ユーザーがオブジェクト名またはオブジェクト・コードに基づいてレポートをフィルタリングできるようにしてください。IBM Unica Marketing Operations データ項目では、`<Object>.[<item>]` という命名方式が使用されます。(例えば、プロジェクト ID のデータ項目は `[PlanBV].[Project].[ProjectID]` です。)

選択と検索のプロンプトを作成する場合、1 つのタイプの値をユーザーに表示するために指定し、別のタイプの値をデータベースの検索に使用するために指定できます。例えば、以下のプロンプト・コントロール構成は、ユーザーにプロジェクト名またはプロジェクト・コードを要求しますが、検索はプロジェクト ID を使用して行います (通常は、プロジェクト ID を使用する検索の方が高速です)。

- 使用する値: `[PlanBV].[Project].[Project ID]`
- 表示する値: `[PlanBV].[Project].[Project Name (Code)]`

日付の検索でのベスト・プラクティス

Cognos で、特定の日付範囲の間にアクティブなオブジェクトを返す (IBM Unica Marketing Operations の詳細検索とまったく同じ) 日付フィルターを作成するには、範囲オプションを有効にした日付プロンプトを使用し、開始日と終了日の両方を含むフィルターを作成します。これにより、以下のいずれかの基準を満たすオブジェクトが返されます。

- アクティブな日付範囲内に開始する
- アクティブな日付範囲内に終了する
- アクティブな日付範囲より前に開始し、なおかつ、アクティブな日付範囲より後に終了する

次のフィルターは、`Target_Date_Prompt` という日付プロンプトに入力された日付範囲の間にアクティブなプロジェクトを検索します。

```
[PlanBV].[Project].[Project Start Date] in_range ?Target_Date_Prompt? OR  
[PlanBV].[Project].[Project End Date] in_range ?Target_Date_Prompt? OR  
([PlanBV].[Project].[Project Start Date] <= ?Target_Date_Prompt? AND  
[PlanBV].[Project].[Project End Date] >= ?Target_Date_Prompt?)
```

オブジェクトのステータスおよびタイプのフィルターにおけるベスト・プラクティス

ステータスおよびタイプは決まったものが少数あるだけなので、ステータスまたはタイプのフィルタリングには単純な複数選択コントロールを使用します。

ユーザーにオブジェクトのステータスまたはタイプ (あるいはこの両方) を要求するには、以下を行います。

- ステータスを要求するには、`<OBJECT>` ステータス照会対象を使用する複数選択コントロールを使用します。

- タイプを要求するには、<OBJECT> テンプレート照会対象を使用する複数選択コントロールを使用します。

Cognos レポートでのハイパーリンクの作成

Cognos レポート内に、ユーザーをそのレポートから IBM Unica Marketing Operations 内の対応するオブジェクトに誘導するハイパーリンクを作成することができます。例えば、レポートにプロジェクトのリストが表示されていて、ハイパーリンクを作成した場合、ユーザーはプロジェクト名をクリックして、そのプロジェクトの「サマリー」タブに移動することができます。ハイパーリンクは、ユーザーに電子メールで送信されるレポートでも機能します。リンクをクリックしたユーザーは、Marketing Operations にログインすることを求められる場合があります。

ハイパーリンクは以下のオブジェクトに作成できます。

- 計画
- プログラム
- プロジェクト
- プロジェクト要求
- 独立型承認
- 作業および承認タスク
- 請求書

IBM Unica Marketing Operations レポート・パッケージには、ハイパーリンクを作成できる各オブジェクトの URL 照会項目が含まれます。例えば、計画の URL 照会項目が「Plan URL」という名前場合があります。オブジェクトの URL 照会項目は、そのオブジェクトの照会対象内にリストされます。

Cognos Report Studio で、該当する URL 照会項目を使用してハイパーリンクの URL ソースを定義します。

カスタム・レポートの例: プロジェクト・パフォーマンス・サマリー (カスタム)

IBM Unica Marketing Operations レポート・パッケージには、2 つのバージョンのプロジェクト・パフォーマンス・サマリーがあります。プロジェクト・パフォーマンス・サマリーでは、デフォルトの属性のみが使用されます。プロジェクト・パフォーマンス・サマリー (カスタム) には、カスタム属性とカスタム・メトリックが含まれます。このセクションでは、プロジェクト・パフォーマンス・サマリー (カスタム) を生成するために、Cognos で Marketing Operations データ・モデルおよびレポートに行われた変更について説明します。

識別されているカスタム属性とカスタム・メトリック

プロジェクト・パフォーマンス・サマリー (カスタム) を生成するために、以下のカスタム属性とカスタム・メトリックが必要でした。

属性	列	ルックアップ・テーブル
イニシアチブ	dyn_projectatts.init_type_id	lkup_initiative
事業部門	dyn_projectatts.business_unit_id	lkup_business_unit
製品ファミリー	dyn_projectatts.prod_family_id	lkup_prod_family
セグメント	dyn_projectatts.segment_id	lkup_segments

以下は、レポートに必要なカスタム・メトリックです。

- 合計収益: metricid = 'TotalRevenue' (actual)
- 応答率: metricid = 'ResponseRate' (actual)
- 合計生成リード数: metricid = 'NumberOfLeadsGeneratedPassed' (actual, target)
- ROI: metricid = 'ROI' (actual)

カスタム属性に関連付けられたメタデータ

カスタム属性をサポートするために、dyn_projectatts テーブルの以下の列がインポートされました。

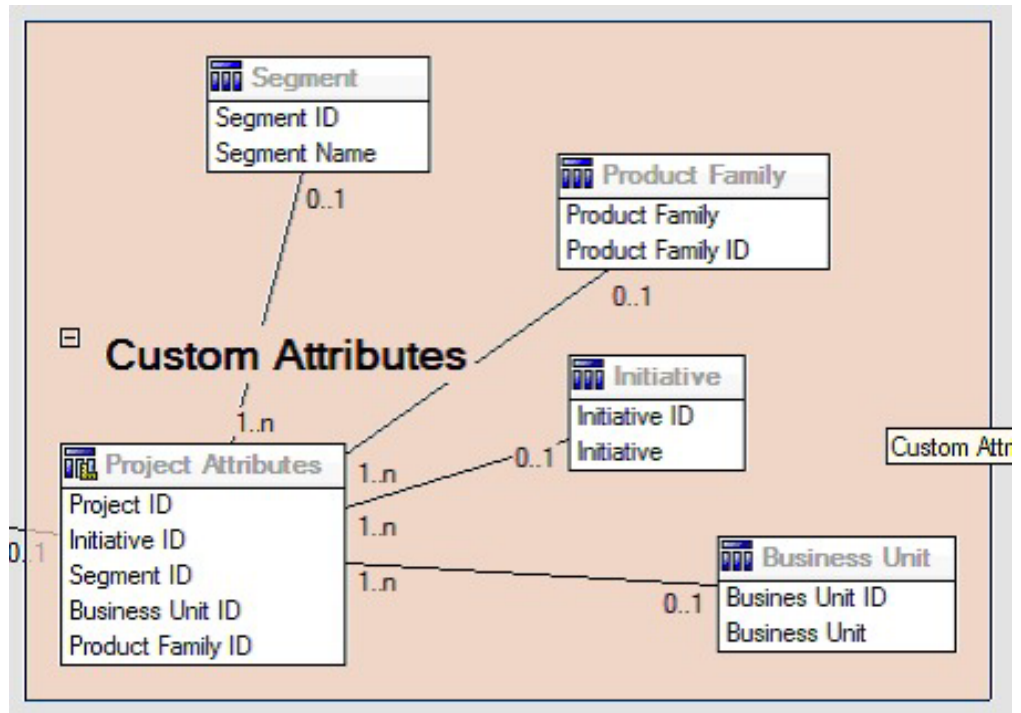
- init_type_id
- segment_id
- business_unit_id
- prod_family_id

カスタム属性をサポートするために、以下のルックアップ・テーブルがインポートされました。

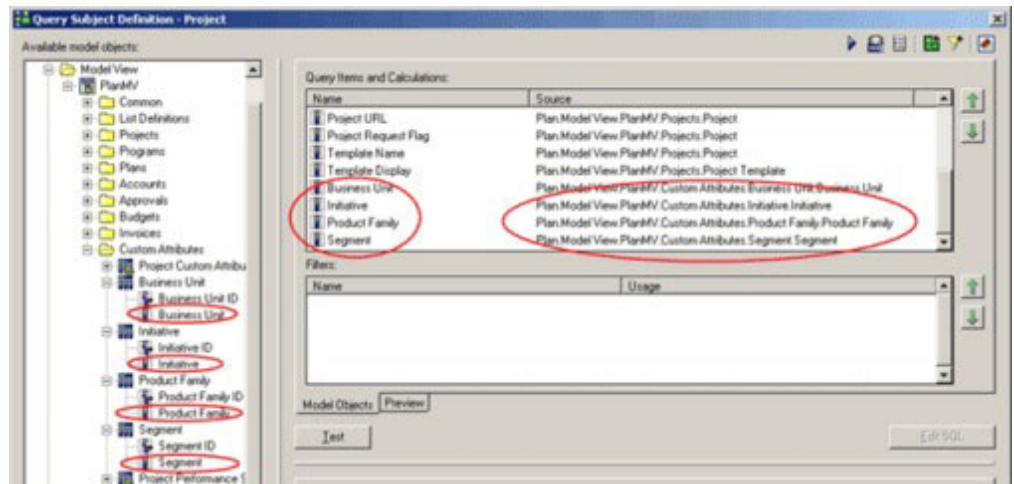
- lkp_initiative
- lkup_segments
- lkup_business_unit
- lkup_prod_family

モデル・ビューで定義された関係および照会

Cognos Framework Managerのモデル・ビューでは、以下に示す関係が定義されました。



ここに示すように、プロジェクトの照会対象定義が、カスタム属性の照会項目によって更新されました。



ビジネス・ビューに追加された照会項目

Cognos Framework Manager のビジネス・ビューに、以下の照会項目が追加されました。

列	タイプ/追加情報	照会項目
イニシアチブ	ストリング。グループ別の列	プロジェクト・カスタム属性.イニシアチブ

列	タイプ/追加情報	照会項目
事業部門	ストリング	プロジェクト・カスタム属性.事業部門
セグメント	ストリング	プロジェクト・カスタム属性.セグメント
製品ファミリー	ストリング	プロジェクト・カスタム属性.製品ファミリー
合計収益	通貨	プロジェクト・パフォーマンス・サマリー・メトリック.合計収益
応答率 (Actual)	パーセント	プロジェクト・パフォーマンス・サマリー・メトリック.応答率 (Actual)
応答率 (Target)	パーセント	プロジェクト・パフォーマンス・サマリー・メトリック.応答率 (Target)
応答率差異 (Response Rate Variance)	パーセント、計算	応答率 (Actual) – 応答率 (Target)
合計生成リード数 (Actual)	数値	プロジェクト・パフォーマンス・サマリー・メトリック.合計生成リード数 (Actual)
合計生成リード数 (Target)	数値	プロジェクト・パフォーマンス・サマリー・メトリック.合計生成リード数 (Target)
合計生成リード数差異 (Total Leads Generated Variance)	数値、計算	合計生成リード数 (Actual) – 合計生成リード数 (Target)
ROI	パーセント、ソート列、計算	プロジェクト・パフォーマンス・サマリー・カスタム・メトリック].[合計収益]-[プロジェクト予算].[実際の合計]/[プロジェクト予算].[実際の合計]

レポートで追加および削除された列

Cognos Report Studio では、「プロジェクト名 (コード)」、「プロジェクト開始日 (Project Start Date)」、および「プロジェクト終了日 (Project End Date)」を除くすべての列がレポートから削除されました。

レポートに追加された列は以下のとおりです。

- イニシアチブ
- 事業部門
- セグメント
- 製品ファミリー
- 合計収益
- 応答率 (Actual)

- 応答率 (Target)
- 応答率差異 (Response Rate Variance)
- 合計生成リード数 (Actual)
- 合計生成リード数 (Target)
- 合計生成リード数差異 (Total Leads Generated Variance)
- ROI

作成されたプロンプト

以下の 2 つのプロンプトが作成されました。

プロンプト	プロンプト・タイプ	照会対象
イニシアチブ	検索と選択	プロジェクト・カスタム属性.イニシアチブ
事業部門	検索と選択	プロジェクト・カスタム属性.事業部門

第 5 章 テンプレートの概要

オブジェクト (計画、プログラム、プロジェクト、またはマーケティング・オブジェクト) テンプレートは、組織がオブジェクトについて取得できる情報を定義します。請求書テンプレートは、組織が請求書に取り込む必要がある情報を定義します。

IBM Unica Marketing Operations をインストールしたら、IBM が提供するサンプルのオブジェクト・テンプレートや請求書テンプレートを使用して、実行することができます。これらのサンプルのテンプレートを使用することにより、テンプレートとは何かということを理解し、テンプレートがどのように Marketing Operations で使用されるのかを確認することができます。テンプレートを理解したら、サンプルのテンプレートをカスタマイズするか、独自のカスタム・テンプレートを作成する必要があります。

テンプレートの概念

テンプレートはさまざまなコンポーネントから構成されていますが、その一部について、ここで詳しく説明します。

オブジェクト・テンプレート

計画、プログラム、およびプロジェクト用のテンプレートは、計画オブジェクト・テンプレートと呼ばれます。オブジェクト・タイプ間で動作が異なる場合には、異なるオブジェクト・タイプごとに特定の動作が記述されます。

標準タブ: 計画テンプレート、プログラム・テンプレート、プロジェクト・テンプレート

IBM Unica Marketing Operations の計画テンプレート、プログラム・テンプレート、プロジェクト・テンプレートには、以下の標準タブがあります。

- 「プロパティ」タブ。このタブは、テンプレートからオブジェクトを作成すると「サマリー」タブになります。62 ページの『テンプレートの「プロパティ」タブ』を参照してください。
- 「タブ」タブ。68 ページの『テンプレートの「タブ」タブ』を参照してください。
- 「添付ファイル」タブ。71 ページの『テンプレートの「添付ファイル」タブ』を参照してください。
- 「カスタム・リンク」タブ。72 ページの『テンプレートの「カスタム・リンク」タブ』を参照してください。
- 「アラートのカスタマイズ」タブ。

プログラム・テンプレートとプロジェクト・テンプレートには「予算の承認ルール」タブがあります。65 ページの『「予算の承認ルール」タブ』を参照してください。

プロジェクト・テンプレートにも以下の追加のタブがあります。

- 「プロジェクト役割」タブ。73 ページの『プロジェクト・テンプレートの「プロジェクト役割」タブ』を参照してください。
- 「要求」タブ。74 ページの『プロジェクト・テンプレートの「要求」タブ』を参照してください。
- 「キャンペーン」タブ。78 ページの『プロジェクト・テンプレートの「キャンペーン」タブ』を参照してください。

注: このタブは、IBM Unica Marketing Operations と Campaign が統合されている場合のみ、使用可能になります。

- 「ワークフロー」タブ。79 ページの『「テンプレート・ワークフロー」タブ』を参照してください。

計画、プログラム、またはプロジェクトをテンプレートから作成する場合、ここに示すタブのほかに、「予算」タブと「分析」タブもオブジェクト内に含まれます。メトリックを指定した場合は、オブジェクトに「追跡」タブが含まれます。

標準タブ: 請求書テンプレート、資産テンプレート、オファー・テンプレート

請求書テンプレート、資産テンプレート、オファー・テンプレートには、以下の標準タブがあります。

- 「プロパティ」タブ。このタブは「サマリー」タブになります。62 ページの『テンプレートの「プロパティ」タブ』を参照してください。
- 「タブ」タブ。68 ページの『テンプレートの「タブ」タブ』を参照してください。
- 「アラートのカスタマイズ」タブ。

請求書テンプレートには「予算の承認ルール」タブもあります。65 ページの『「予算の承認ルール」タブ』を参照してください。

オファー・テンプレートにも以下の追加のタブがあります。

- 「添付ファイル」タブ。71 ページの『テンプレートの「添付ファイル」タブ』を参照してください。
- 「カスタム・リンク」タブ。72 ページの『テンプレートの「カスタム・リンク」タブ』を参照してください。

注: 標準タブの名前は変更できません。

カスタム・タブ

テンプレートの「タブ」タブで、テンプレートにフォームとタブをさらに追加することができます。カスタムのフォームとタブの追加については、69 ページの『タブをテンプレートに追加するには』を参照してください。

フィールド

フィールドとは、マーケティング・マネージャーの電話番号や添付ファイルのデータ・タイプなど、1つのデータのことです。フィールドは属性と呼ばれることもあります。

フィールドには、標準フィールドとカスタム・フィールドがあります。

メトリック

メトリック・フィールドは、オブジェクトのパフォーマンスを測定するフィールドです。メトリックは「追跡」タブに表示されます。代表的なメトリックには、コストや収入などの財務メトリック、特定のマーケティング・キャンペーンでの連絡回数や応答回数などのパフォーマンス・メトリックがあります。

以下の作業を実行できます。

- 他のメトリック値に基づいて計算を行うメトリックを設定する。例えば、キャンペーンの利益は、収入からコストを減じた値として計算することができます。
- メトリックをグループ化する。
- メトリックとそのグループの両方を定義する。
- プロジェクトからプログラムへ、およびプログラムから計画へメトリックをロールアップする。

添付ファイルのカテゴリ

カテゴリを使用すると、添付ファイルを意味のあるグループに編成することができます。添付ファイルを追加する場合は、その添付ファイルが表示されるカテゴリを選択します。例えば、パンフレットを添付ファイルとして追加し、それを「クリエイティブなアイデア」というカテゴリに入れるような場合です。

一連のテンプレートに関する決定

このセクションでは、一連のテンプレートを組織でどのように使用するかについて、いくつかの例を示します。

例えば、マーケティング販促用品一式を組織内で作成または変更することを中心とするプロジェクトに関して必要な情報がすべて含まれている「マーケティング販促用品」と呼ばれるプロジェクト・テンプレートを使用する場合を考えてみます。この場合、マーケティング販促用品が必要となる新しいプロジェクトを組織内のメンバーが作成するときは、常に「マーケティング販促用品」テンプレートを選択して、このテンプレートからプロジェクトを作成します。プロジェクトの作成について詳しくは、「*IBM Unica Marketing Operations ユーザーズ・ガイド*」を参照してください。

「マーケティング販促用品」プロジェクト・テンプレートのほかに、新しいダイレクト・マーケティング・キャンペーンを策定して実行するために必要なすべての情報が含まれている「データベース・マーケティング・キャンペーン」という別のテンプレートを使用する場合を考えてみます。この場合、特定のデータベース・マーケティング・キャンペーンの新しいプロジェクトを組織内のメンバーが作成するときは、常に「データベース・マーケティング・キャンペーン」テンプレートを選択

して、このテンプレートからプロジェクトを作成します。所有しているマーケティング・プロジェクトの種類またはマーケティング・プログラムの種類と同じ数のテンプレートを所有することができます。

別のテンプレートを作成する場合

特定の計画、プログラム、プロジェクト、または請求書について取得する必要がある情報（フィールド、ワークフロー、メトリックなど）が、既存の計画、プログラム、プロジェクト、または請求書に含まれる他の一連の情報と比較して大きく異なっているような場合は、新しいテンプレートを作成する必要があります。

説明的な観点から見た場合、取得する情報の分野は異なる場合があります。あるいは、追跡を目的としてさまざまな分野の情報を収集する場合があります。あるプロジェクト・タイプでは、プロジェクトに付加する特定のメトリック、特定の「ベスト・プラクティス・ワークフロー」、または特定の種類の参照資料と成果物を収集します。別の種類のプロジェクトでは、これらのうちの 1 つまたは多くが異なる場合があります。

別の種類のマーケティング・プログラムに対して、異なるプロジェクト・テンプレートを使用することもできます。例えば、以下のようなプロジェクトが考えられます。

- 定常化した毎月のダイレクト・メール処理プロジェクト
- 特定のターゲットに的を絞った、新製品立ち上げ前後のダイレクト・マーケティング・プログラムのプロジェクト

これらのプロジェクトでは、それぞれ独自のプロジェクト・テンプレートを使用することができます。

カスタマイズ可能な項目

カスタマイズできる項目は、以下に示すように、オブジェクトによって異なります。

- 請求書の場合は、「サマリー」タブにカスタム属性を追加することができます。
- 計画、プログラム、プロジェクトの場合は、「分析」タブと「予算」タブを除くすべてのタブの内容または外観をカスタマイズすることができます。

「サマリー」タブと「追跡」タブにはカスタム・フィールドを追加できますが、「ワークフロー」タブと「添付ファイル」タブには追加できません。

- ワークフローの場合、ステージ、ステップ、従属関係、期間など、ほとんどすべての特性をカスタマイズすることができます。
- メトリックの場合、メトリックを定義して編集すると、「追跡」タブに表示されます。
- 添付ファイルの場合、表示されるカテゴリーを変更できるだけでなく、テンプレートに基づいて作成されたすべてのオブジェクトに表示されるデフォルトの添付ファイルを追加することもできます。
- プロジェクト、要求、マーケティング・オブジェクトの場合、テンプレートに組み込まれているタブ（カスタム・タブとデフォルト・タブ）ごとに、セキュリティ一権限をカスタマイズすることができます。

サンプルのサマリー・ページ

次の画像は、「データベース・マーケティング・キャンペーン」というサンプル・テンプレートに基づくプロジェクトのサマリー・ページです。

The screenshot shows a project summary page for 'Database Marketing Campaign'. The page has a navigation bar with tabs: Summary, People, Creative Development, Campaign Development, and Workflow. Below the navigation bar is a toolbar with icons for editing, deleting, commenting, saving, folder, printing, and deleting. The main content area is titled 'Database Marketing Campaign' and includes a 'Not Started' status indicator. The page is divided into several sections:

- Description:** A text input field.
- Team Members:** A list showing 'asm admin (Owner)'.
- Project Code:** 'CMP1000'.
- Use Security Policy:** 'Global'.
- Parent Items and Code:** 'Database Marketing Campaign 1 (CMP1000)'.
- Target Start:** An empty text input field.
- Target End:** An empty text input field.
- Campaign Info:** A section with several fields:
 - Business Unit:** 'Credit Card'.
 - Initiative Type:** 'Product Launch'.
 - Target Audience:** 'Platinum'.
 - Channel(s):** 'Direct Mail'.
 - Product Family:** 'Credit Card'.
 - Product(s):** An empty text input field.

以下の点に注意してください。

- 画面の上部（「データベース・マーケティング・キャンペーン」セクション）のフィールドは、標準フィールドです。標準フィールドは変更できません。
- 画面の下部（「キャンペーン情報」セクション）のフィールドは、カスタム・フィールドです。

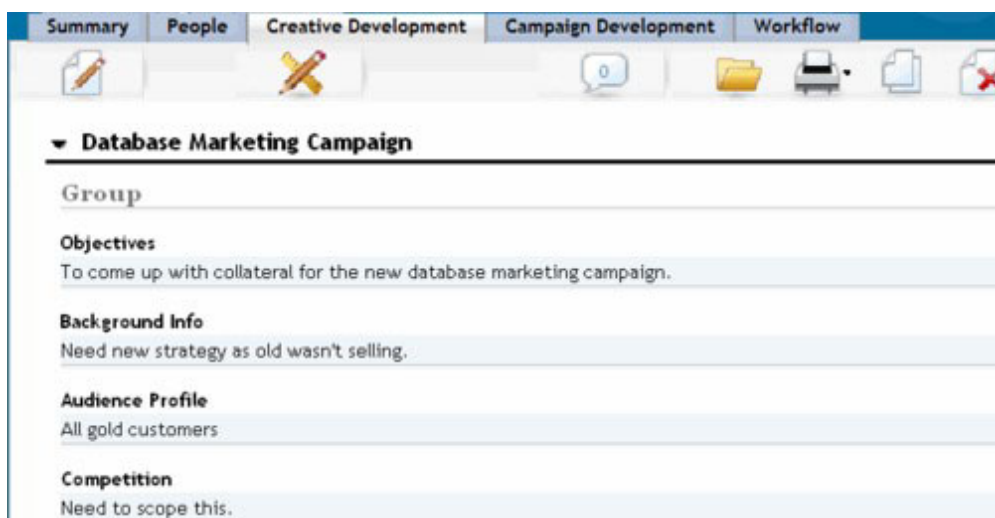
カスタム・フィールドでは、プロジェクトに必要な情報を取り込むことができます。これらのカスタム・フィールドは、レポート作成や分析の目的で後で使用することができます。上で説明したように、互いに関連するカスタム・フィールドをグループ化することもできます。

以下に、カスタム・フィールドの例をいくつか示します。

- テキスト・ボックス。任意のテキストを入力します。
- ドロップダウン・リストまたは複数選択リスト。このリストから 1 つ以上の値を選択します。管理者は、ユーザーの選択元となる静的リストを指定するか、リストの値の取得元となるデータベース・テーブルを指定することができます。
- ラジオ・ボタン。複数のオプションからオプションを 1 つだけ選択します。

カスタム・タブの例

次の画像は、「データベース・マーケティング・キャンペーン」販促プロジェクトの「クリエイティブ展開」タブを示しています。このタブはカスタム・タブです。



この例におけるこのタブの目的は、プロジェクトの作成と実動の手順を示すことです。「クリエイティブ展開」タブには、マーケティング・キャンペーンの目的、背景、およびオーディエンスのプロファイルに関する情報を取得するフィールドがあります。

現在は紙のフォームに記入して他の部署や取引先に渡す方法で情報を収集しているプロジェクトについて、カスタム・タブを追加することにより、こうした情報を取得することができます。この情報をプロジェクトに取り込むことにより、ユーザーが情報を入力し、すべてのチーム・メンバーがその情報を確認できるようになるため、情報が不足している場合に発生する遅延を最小限に抑えることができます。

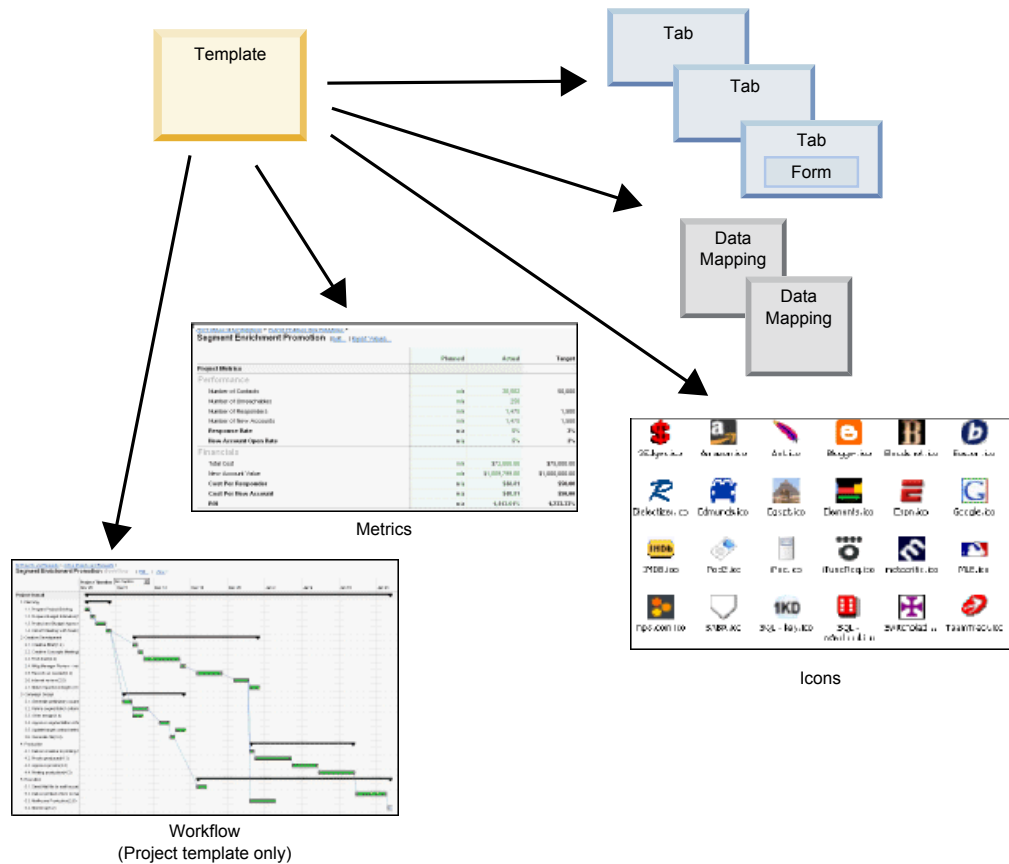
テンプレートのコンポーネント

テンプレートは、以下のコンポーネントによって構成されています。IBM Unica Marketing Operations 管理者は、コンポーネントの作成、追加、変更、削除を行って、テンプレートをカスタマイズすることができます。これらのコンポーネントにアクセスするには、「設定」>「Marketing Operations 設定」>「テンプレート構成」（「その他のオプション」の下）に移動します。

コンポーネント	説明
タブ	オブジェクト（プロジェクトや計画など）の個別の画面。タブには 1 つ以上のフォームが含まれています。タブを作成して編集し、タブ上のフォームを編成するには、テンプレートの「新規タブ」タブを使用します。

コンポーネント	説明
フォーム	<p>タブのサブセクションです。属性を持っています。</p> <p>フォームは、データの集合を編成したものです。カスタム・フォームは、複数のオブジェクト・テンプレート (例えば、プロジェクト・テンプレートとプログラム・テンプレートの両方) にわたって使用できます。テンプレートを組み立てる場合は、フォームの表示と非表示を切り替えるための規則を作成してデータを簡素化し、テンプレートを使いやすいものにすることができます。</p>
属性	<p>フォーム内に含まれるデータ要素。各属性には特定のフォーマットがあります。詳しくは、127 ページの『属性タイプ』を参照してください。属性をグループ化して、1 列または 2 列のレイアウトでフォーム上に表示することができます。</p>
データ・マッピング	<p>統合が有効になっている場合に、追跡とロールアップの目的で IBM Unica Marketing Operations のメトリックにマップされた IBM Unica Campaign のメトリック。データ・マッピングを作成するには、XML エディターを使用します。</p>
アイコン	<p>IBM Unica Marketing Operations の GUI 内でオブジェクトを表す小さな画像。アイコンを作成して編集するには、画像編集ソフトウェアを使用します。</p>
メトリック	<p>オブジェクトの追跡タブに表示される一連の測定基準 (追跡やパフォーマンスの測定値など)。メトリックを作成して編集するには、「テンプレート構成」ページで「メトリック」をクリックします。</p>
添付ファイル	<p>オブジェクトの「添付ファイル」タブに表示されるファイルまたはフォルダー。テンプレートから作成されたすべてのオブジェクトで表示されるデフォルトの添付ファイルを指定できます。</p>
カスタム・リンク	<p>選択されているタブに表示されるハイパーテキスト・リンク。外部のページとプログラムにカスタム・リンクを追加することができます。</p>
ワークフロー (プロジェクト・テンプレートのみ)	<p>プロジェクトのワークフロー・タブに表示される一連のステージとタスク。</p> <p>ワークフローを変更するには、「編集」をクリックします。ワークフロー・テンプレートを作成するには、「管理設定」の「テンプレート構成」セクションを使用します。</p>

テンプレートのコンポーネントのグラフィカル表現を以下に示します。



これらのコンポーネントを定義して使用可能に設定したら、テンプレートとして組み立てることができます。

複数ロケールのサポート

IBM Unica Marketing Operations のテンプレートには、複数のロケールを使用する組織をサポートする機能が組み込まれています。プロジェクト・テンプレートを Marketing Operations に追加すると、そのテンプレートのプロパティ・ファイルが保存されます。このファイルは、以下のように、Marketing Operations のホーム・フォルダーの配下に保存されます。

```
¥templates¥db¥properties¥<template_id>_<user_locale>.properties
```

<template_id> は、テンプレートのテンプレート ID で、<user_locale> は、テンプレートを作成したユーザーのロケールです。組織がサポートしている他のロケールと同じ数だけ、このファイルのローカライズ版を作成してください。

デフォルト・ロケールのプロパティ・ファイルは、以下の場合に使用されます。

- ロケールはサポートされているが、対応するプロパティ・ファイルがない場合。
- ロケールがサポートされていない場合。

注: サポートされているロケールとデフォルトのロケールは、「設定」>「構成」>「Marketing Operations」で指定します。

以下の属性は、プロパティ・ファイル内でローカライズしてください。

- テンプレートのプロパティ画面: 「名前」、「説明」、および「デフォルト名」。
- テンプレートのタブ画面: 「名前」。
- テンプレートの添付ファイル画面: 「名前」。
- テンプレートのカスタム・リンク画面: 「名前」 および 「説明」。

テンプレートのプロパティ・ファイルのサンプルを以下に示します。

```
template.description.tradeshow=Use this template for requests/projects
to prepare for tradeshow attendance.
template.default_name.tradeshow=Tradeshow
template.display_name.tradeshow=Tradeshow Template
tab.display_name.contact=Contact Info
tab.display_name.tradeshowsummary=Tradeshow Attributes
attachment_folder.display_name.folder2=Project Deliverable(s)
attachment_folder.display_name.folder1=Reference Attachments
custom_link.display_name.new=New Custom Link
```

テンプレートをローカライズしても、テンプレート内で使用されるフォームはローカライズされません。フォームは、別途ローカライズする必要があります。

テンプレートの作成方法

カスタム・テンプレートの作成は、ボトムアップのプロセスです。このプロセスでは、必要な各コンポーネントを作成してから、完全なテンプレートに組み立てていきます。オブジェクトのインスタンスを作成する場合は、完全なテンプレートを使用します。例えば、プログラムを作成する場合はプログラム・テンプレートを使用し、プロジェクトを作成する場合はプロジェクト・テンプレートを使用します。

作業 1: 計画

Marketing Operations でテンプレートの作成を開始する前に、組織のニーズを分析し、必要なテンプレートの種類を計画します。詳しくは、52 ページの『カスタム・テンプレートの計画』を参照してください。

作業 2: 属性とフォームの定義

必要なフィールドの種類と、フィールドの編成方法を分析したら、属性とフォームを作成します。詳しくは、122 ページの『属性の作成、有効化、編集および削除について』と 97 ページの『フォームの作成』を参照してください。

作業 3: メトリックの定義

必要なメトリックの種類を分析したら、該当するメトリックを作成して編集します。詳しくは、145 ページの『メトリック作成の概要』を参照してください。

作業 4: その他のテンプレート・コンポーネントの定義

適切なソフトウェアを使用して、テンプレートに必要なアイコンとデータ・マッピング・ファイルを作成します。

作業 5: テンプレートの定義

各コンポーネントをテンプレートに組み立てます。カスタム・タブを作成し、テンプレートで使用するアイコン、フォーム、メトリックなどを指定することができます。詳しくは、60 ページの『テンプレートを作成または編集するには』を参照してください。

作業 6: テンプレートのテスト

作成した新しいテンプレートを使用してオブジェクトを作成します。テンプレートの作成は反復プロセスであるため、個々のコンポーネントに戻って微調整を行う必要が生じる可能性があります。さらに、コンポーネントを交換し、新しいオブジェクトを作成して再テストを行う場合もあります。テンプレートからオブジェクトを作成する方法については、「*IBM Unica Marketing Operations ユーザー・ガイド*」を参照してください。

カスタム・テンプレートの計画

カスタム・テンプレートの作成に伴う作業では、ほとんどの場合、テンプレートに必要なフィールドを判断し、それらのフィールドの編成方法を決定する必要があります。属性とフォームの作成を開始する前に、この情報を紙に書き出してください。この計画ステップにより、作成処理が簡素化されます。

カスタム・テンプレートの作成を開始する前に、組織で必要となるテンプレートの種類を決定し、オブジェクトに追加するタブと、各タブに表示する各フィールドを示すストーリーボードまたはスプレッドシートを作成します。

例えば、プロジェクトを要求した事業部門をそのプロジェクトでリストしたい場合は、事業部門フィールドについて以下の情報を記録します。

表 7. フィールドに関する情報の追加前の記録例

属性情報	値
共有またはローカル	共有
属性カテゴリー	フォーム
属性タイプ	単一選択
内部名	BusinessUnit
表示名	事業部門
タブ/グループ化	「販促用品要求情報」セクションの下にある「サマリー」タブ内。
フィールド・タイプ	ドロップダウン・リスト
値の取得元として考えられる値またはデータベース・テーブル	リテール・バンキング、投資サービス、保険、クレジット・カードのパンフレット、ポストカード、データ・シート、折り込み広告、ホワイト・ペーパー、印刷広告、または Marketing Operations がこれらの値を検索するテーブルや列の名前。
必須か	はい
ヘルプ・ヒント	この販促用品を要求している事業部門を入力します。

フォーム内のすべてのフィールドについてこの計画ステップを実行したら、属性とフォームを作成できます。

サンプル・テンプレート

IBM Unica Marketing Operations には、サンプルのプログラム・テンプレートとプロジェクト・テンプレートがいくつか用意されています。これらのテンプレートを変更して、新しいテンプレートを作成できます。Marketing Operations には、計画、請求書、資産用に、デフォルト・テンプレートが 1 つずつ用意されています。これらのテンプレートは必要に応じて編集できますが、これらのオブジェクト・タイプ用に新しいテンプレートを作成することはできません。これらのサンプルは、IBM Unica Marketing Operations のインストール済み環境の配下に存在する以下のファイル内に格納されています。

```
¥tools¥admin¥sample_templates¥sampleTemplates<database>.zip
```

<database> は、使用しているデータベースです。例えば、Oracle データベースを使用している場合は、sampleTemplatesOracle.zip. をインポートする必要があります。

サンプル・テンプレートのリスト

プログラムのサンプル・テンプレートを以下に示します。

- **データベース・マーケティング・プログラム。**このテンプレートには、ダイレクト・マーケティング・キャンペーンを策定して実行するプログラムに関する基本的な情報が含まれています。
- **生産立ち上げプログラム。**このテンプレートには、新しい生産立ち上げキャンペーンを策定して実行するプログラムに関する基本的な情報が含まれています。

プロジェクトのサンプル・テンプレートを以下に示します。

- **マーケティング販促用品。**このテンプレートには、マーケティング販促用品を開発するプロジェクトに関する基本的な情報が含まれています。
- **データベース・マーケティング・キャンペーン。**このテンプレートには、ダイレクト・マーケティング・キャンペーンを策定して実行するプロジェクトに関する基本的な情報が含まれています。
- **展示会。**このテンプレートには、展示会を計画するプロジェクトに関する基本的な情報が含まれています。
- **キャンペーン・プロジェクト。**IBM Unica Marketing Operations と Campaign の統合が有効になっている場合、このテンプレートには、IBM Unica Campaign のキャンペーンとリンクされているプロジェクトに関する情報が含まれています。

サンプル・テンプレートのインポートについて詳しくは、188 ページの『テンプレート・メタデータをインポートする方法』を参照してください。

サンプル・テンプレートの構造

サンプルのプロジェクト・テンプレートには、プロジェクト情報を構成するタブが少なくとも 6 つあります。

- 「サマリー」タブ。このタブには、プロジェクト名、説明、プロジェクトの開始日と終了日、オプションのカスタム・フィールドなど、いくつかの標準フィールド (属性) が含まれています。

注: すべてのオブジェクト (プロジェクトやプログラムなど) の標準属性は、「サマリー」タブにのみ表示されます。オプションでカスタム属性を「サマリー」タブに追加するか、カスタム属性を含むカスタム・タブを作成できます。

- 「ワークフロー」タブ。このタブには、スプレッドシートまたはカレンダー・ビューで表示できるプロジェクトのタスク・リストが含まれています。このタブを使用すると、プロジェクトを管理して、承認とタスクを追跡することができます。
- 「予算」タブ。このタブには、プロジェクトを適切に実行するために必要な経費の計画を作成する場合に役立つ予算情報が含まれています。
- 「追跡」タブ。このタブには、プロジェクトのパフォーマンスを測定するためのユーザー定義メトリックが含まれています。
- 「添付ファイル」タブ。このタブには、プロジェクトに関するすべての文書が含まれています。
- 「分析」タブ。このタブには、プロジェクトのレポートと改訂履歴が含まれています。

その他のオブジェクトには、これらのタブのサブセットが含まれています。

- サンプルの計画テンプレートまたはプログラム・テンプレートには、「ワークフロー」タブを除き、プロジェクトと同じタブがあります。
- サンプルの請求書テンプレートには、「サマリー」タブ、「添付ファイル」タブ、「分析」タブだけが含まれています。請求書テンプレートの場合、カスタム属性のみ「サマリー」タブに追加できます。

キャンペーン・プロジェクト・テンプレート

IBM Unica Marketing Operations が IBM Unica Campaign と統合されると、キャンペーン・プロジェクト・テンプレートによって、キャンペーン・プロジェクトの作成がガイドされます。

テンプレートの「キャンペーン」タブでオプションに入力することにより、そのテンプレートがキャンペーン・プロジェクト・テンプレートであることを指定します。特に、「ターゲット・セル・スプレッドシート」の指定は必須です。Campaign のコンタクトおよびレスポンスのメトリックをインポートする場合は、メトリックのマップ・ファイルを指定する必要があります。

「キャンペーン・サマリー」セクション

プロジェクトの「サマリー」タブの「キャンペーン・サマリー」セクションでは、このプロジェクトのキャンペーンに関する基本情報を定義します。

フィールド	説明
キャンペーンの説明	キャンペーンの説明を入力します。

フィールド	説明
キャンペーン開始日	<p>キャンペーンが開始される日付。</p> <p>手動で日付を入力することも、ドロップダウン矢印をクリックしてカレンダーを表示し、そこから日付を選択することもできます。項目に日付が指定されている場合、前方矢印または後方矢印をクリックして、日付を変更できます。</p> <p>この項目が空の場合は、リンクされたキャンペーンを作成できません。</p>
キャンペーン終了日	<p>キャンペーンが終了する日付。</p> <p>手動で日付を入力することも、ドロップダウン矢印をクリックしてカレンダーを表示し、そこから日付を選択することもできます。項目に日付が指定されている場合、前方矢印または後方矢印をクリックして、日付を変更できます。</p> <p>この項目が空の場合は、リンクされたキャンペーンを作成できません。</p>
キャンペーン目標	<p>キャンペーンの目標を入力します。</p>
キャンペーン・イニシアチブ	<p>キャンペーンが該当するイニシアチブを入力します。</p>
キャンペーンのセキュリティ・ポリシー	<p>Campaign に定義されたすべてのセキュリティ・ポリシーのドロップダウン・リストから、セキュリティ・ポリシーを選択します。</p> <p>いずれのポリシーも選択できます (自分の役割がないポリシーも選択可能)。キャンペーンを間違ったポリシーに配置した場合、そのキャンペーンが意図したエンド・ユーザーに対して表示されなくなる可能性があります。</p> <p>セキュリティ・ポリシーが指定されていない場合は、リンクされたキャンペーンを作成できません。</p>

キャンペーン・プロジェクト・テンプレートの設計

作成できるキャンペーン・プロジェクト・テンプレートの数に制限はありません。例えば、実行するキャンペーンのタイプごとに別個のキャンペーン・プロジェクト・テンプレートを作成できます。

一般に、必要なフォームの固有の組み合わせごとに、別個のテンプレートを作成する必要があります。例えば、キャンペーンのターゲット・セルを定義するためにさまざまな情報を収集する必要がある場合、バージョンの異なるターゲット・セル・スプレッドシートを作成して、それらを別個のテンプレートに関連付ける必要があります。同様に、一部のカスタム・キャンペーン属性が特定のタイプのキャンペーンにのみ関連している場合、異なるキャンペーン・プロジェクト・テンプレートを作成してさまざまなカスタム・キャンペーン属性を使用できるようにし、それらのタブ上での表示順序や編成を制御できます。

オファー・テンプレート

IBM Unica Marketing Operations が Campaign と統合されていて、オプションのオファー統合も有効になっている場合は、Marketing Operations にオファー・テンプレートを作成して、ユーザーがオファーを作成する際の手引きをします。オファー・テンプレート进行处理するには、「設定」>「Marketing Operations 設定」>「テンプレート構成」>「テンプレート」を選択し、「オファー・テンプレート」セクションのオプションを使用します。

オファーの管理と使用について詳しくは、管理者およびユーザー向けの Campaign のガイドを参照してください。

オファー統合を有効にすると、Campaign から、既存の任意のオファー・テンプレートとそれらのカスタム・オファー属性を、オファー、オファー・リスト、およびオファー・フォルダーとともにインポートできます。オファー統合の有効化について詳しくは、「*IBM Unica Marketing Operations and Campaign 統合ガイド*」を参照してください。

第 6 章 テンプレートの作成および管理

テンプレートやテンプレート・コンポーネントを作成および管理するには、「テンプレート構成」ページを使用します。ページを表示するには、「設定」>「Marketing Operations 設定」を選択します。それから、「テンプレート構成」をクリックします。

使用可能な項目および機能が、「テンプレート構成」と「テンプレート・コンポーネント」という 2 つのセクションにまとめられています。また、すべてのテンプレートを検証するためのオプションもあります。

「テンプレート構成」セクション

ページの「テンプレート構成」セクションには、既存のすべてのテンプレートおよびテンプレート・フォルダーのリストを表示するページの「テンプレート」リンクが含まれます。このページのリンクを使用して、テンプレートを作成、削除、および整理したり、個々のテンプレートを編集またはエクスポートしたりすることができます。

テンプレートの検証

テンプレートおよびフォームを検証して検証エラーを表示するユーティリティを実行するには、「テンプレート構成」セクションの「テンプレートの検証」をクリックします。

「テンプレート・コンポーネント」セクション

このページの「テンプレート・コンポーネント」セクションには、以下のリンクが含まれます。

表 8. 「テンプレート・コンポーネント」セクションのリンク

リンク	説明
フォーム	<p>フォームのリストが表示され、以下の情報が表示されます。</p> <ul style="list-style-type: none">• フォームの名前• ユーザーが「フォーム」フィールドに入力した回答の保存先のデータベース・テーブルの名前• フォームを使用するテンプレートのリスト <p>このページのリンクおよびアイコンを使用して、フォームを作成、インポート、有効化、無効化、削除、エクスポート、コピー、公開、および管理します。</p>

表 8. 「テンプレート・コンポーネント」セクションのリンク (続き)

リンク	説明
メトリック	<p>「メトリック・テンプレート」、「メトリック」、および「メトリック・ディメンション」の各セクションを含むページが開きます。リストされているそれぞれの項目の名前と簡単な説明が表示されます。</p> <p>メトリック・テンプレートについては、以下の追加情報とオプションが表示されます。</p> <ul style="list-style-type: none"> • ID。メトリック・テンプレートをオブジェクト・テンプレートに追加する場合に使用します。 • メトリック・テンプレートを使用するテンプレートのリスト。 • 個々のメトリック・テンプレートを編集または削除するためのリンク。 • メトリックのプロパティ・ファイルをエクスポートするための「プロパティ・ファイルのエクスポート」リンク。 • メトリック・テンプレート用の XML ファイル、またはプロパティ・ファイルをインポートするための「メトリック・テンプレートのインポート (Import Metrics Template)」リンク。 • メトリック・テンプレートを追加するための「メトリック・テンプレートの追加 (Add Metrics Template)」リンク。 <p>メトリックについては、以下の追加情報とオプションが表示されます。</p> <ul style="list-style-type: none"> • ID。メトリックをメトリック・テンプレートに追加する場合に使用します。 • メトリックを使用するプロジェクトのリスト。 • 個々のメトリックを編集または削除するためのリンク。 • メトリックを追加するための「メトリックの追加 (Add Metrics)」リンク。 <p>メトリック・ディメンションについては、以下の追加情報とオプションが表示されます。</p> <ul style="list-style-type: none"> • それぞれのメトリック・ディメンションのタイプ (「実際」、「ターゲット」、「その他」)。 • 個々のメトリック・ディメンションを編集または削除するためのリンク。 • メトリック・ディメンションを追加するための「メトリック・ディメンションの追加 (Add Metrics Dimension)」リンク。 <p>レガシー・メトリック仕様ファイルが IBM Unica Marketing Operations バージョン 8.5.0 へのアップグレード前にアップロードされている場合には、「レガシー・メトリック仕様ファイル (Legacy Metrics Specification Files)」リンクを使用してそれらを取得します。Marketing Operations 8.5.0 以降では、ユーザーがファイルをさらに追加することはできません。</p>

表 8. 「テンプレート・コンポーネント」セクションのリンク (続き)

リンク	説明
ワークフロー	<p>ワークフロー・テンプレートのリストが表示され、以下の情報が表示されます。</p> <ul style="list-style-type: none"> • 名前 • ワークフロー・テンプレート内のステージおよびタスクの数 • 初回作成日と最終更新日 • 有効状態か無効状態か <p>ワークフロー・テンプレートは、プロジェクト・テンプレートまたはインスタンスの「ワークフロー」タブから作成します。このリスト・ページのリンクを使用して、ワークフロー・テンプレートを削除、有効化または無効化、インポート、あるいはエクスポートすることができます。</p>
データ・マッピング	<p>データ・マップのリストが表示され、以下の情報が表示されます。</p> <ul style="list-style-type: none"> • データ・マッピング・ファイル名 • タイプ: 「キャンペーンのメトリックは、インポート」(以前のバージョンからのデータ・マップがある場合、他の値が表示されることがあります)。 • マッピングを使用するテンプレートのリスト。 • このページのリンクを使用して、データ・マッピング・ファイルを追加および削除することができます。
アイコン	<p>アイコンのリストが表示され、以下の情報が表示されます。</p> <ul style="list-style-type: none"> • アイコン画像 (大きい画像と小さい画像) • アイコン名 • アイコンを使用するテンプレートのリスト • アイコンを削除するための「削除」リンク (ファイルは、ディスク上の保存場所からは削除されません) <p>「アイコンの追加」リンクをクリックして、アイコンを追加します。</p>
ルール	<p>「ルール定義」画面が開きます。「ルール定義の追加 (Add Rules Definition)」リンクを使用して、ルールを追加することができます。</p>
共有属性	<p>システムの共有属性のリストが属性カテゴリー別に表示され、以下の情報が表示されます。</p> <ul style="list-style-type: none"> • 表示名 • 属性のタイプ • 属性を使用するテンプレートのリスト

また、エクスポート機能とインポート機能を使用して、テンプレートのあるコンピューター・システムから他のコンピューター・システムに移動することもできます。詳しくは、185 ページの『第 15 章 メタデータのエクスポートおよびインポート』を参照してください。

テンプレートを作成または編集するには

IBM Unica Marketing Operations オブジェクトのテンプレートを作成する前に、カスタム・フォームまたはメトリック・サブテンプレートを作成する必要があるかどうかを判断します。作成する必要がある場合は、フォーム・エディターに関する章に記載されている手順に従います。

必要なテンプレート・コンポーネントが使用可能な場合は、テンプレートを作成していくつかの部分を組み立てます。テンプレートの作成手順は、通常はオブジェクト・タイプごとに同じですが、以下の例外があります。

- IBM Unica Marketing Operations には、計画テンプレート、請求書テンプレート、資産テンプレートがそれぞれ 1 つだけあります。これらのテンプレートを編集することはできますが、追加の計画テンプレート、請求書テンプレート、資産テンプレートを作成することはできません。
 - プロジェクト・テンプレートに対して、ワークフロー・サブテンプレートを指定することができます。また、プロジェクト・テンプレートからワークフロー・サブテンプレートを作成することができます。
 - プロジェクト、プログラム、および計画の「プロパティ」タブには、メトリック・サブテンプレートを選択するための「メトリック」ドロップダウン・リストもあります。
 - プロジェクト・テンプレートには、「キャンペーン」タブ (IBM Unica Marketing Operations と Campaign の統合が有効になっている場合)、「プロジェクト役割」タブ、「要求」タブ、および「ワークフロー」タブもあります。
1. 「設定」メニューで、「Marketing Operations 設定」>「テンプレート構成」(「システム管理」>「その他のオプション」の下)>「テンプレート」を選択します。
 2. 作成するテンプレートのタイプに応じて、プログラム、プロジェクト、オファーのいずれかのセクションで「テンプレートの追加」をクリックします。計画テンプレート、請求書テンプレート、または資産テンプレートを編集するには、「テンプレート構成」画面でそのテンプレートの名前をクリックします。
 3. 「プロパティ」タブで値を入力します。このタブは、完成したテンプレートの「サマリー」タブに対応します。テンプレートの表示名と、英数字の内部テンプレート ID を指定する必要があります。メトリック・テンプレートを選択して、このタブでセキュリティー・ポリシーを設定することもできます。詳しくは、62 ページの『テンプレートの「プロパティ」タブ』を参照してください。

注: 追加タブの入力を進める際に、「プロパティ」タブの「変更の保存」をクリックしなければならない場合があります。

4. 以下のタブで値を入力して、テンプレートを完成させます。使用可能なタブは、作成するテンプレートのタイプによって異なります。

重要: 各タブの編集を終了する場合は、テンプレート内の別のタブにナビゲートする前に、「変更の保存」をクリックします。これをクリックしないと、変更内容は保存されません。

- 「役割」タブ。(請求書テンプレート、資産テンプレート、オファー・テンプレートにはありません)

このタブは「スタッフ」タブに対応しています。デフォルトの要求の受信者、メンバー、レビューアーをテンプレートに追加するには、これらのユーザーをドロップダウン・リストから選択します。役割は一度に 1 つずつ選択する必要がありますが、各カテゴリーでは複数の役割を選択することができます。詳しくは、147 ページの『メトリック・テンプレートおよびメトリック・テンプレート・グループの作成』を参照してください。

- 「要求」タブ。(プロジェクト・テンプレートのみ)

要求のデフォルトのルールは、このタブで設定します。このタブの入力に関する固有の情報については、74 ページの『プロジェクト・テンプレートの「要求」タブ』を参照してください。

- 「キャンペーン」タブ。(プロジェクト・テンプレートのみ。ただし、IBM Unica Marketing Operationsと Campaign の統合が有効な場合)

78 ページの『プロジェクト・テンプレートの「キャンペーン」タブ』を参照してください。

- 「ワークフロー」タブ。(プロジェクト・テンプレートのみ)

テンプレートのデフォルトのワークフローを作成するか、ワークフローのサブテンプレートをインポートします。このタブの入力に関する固有の情報については、79 ページの『「テンプレート・ワークフロー」タブ』を参照してください。

- 「予算の承認ルール」タブ。(プログラム・テンプレート、プロジェクト・テンプレート、請求書テンプレートのみ)

ルール・ビルダーを使用して、予算の承認に関するルールを定義します。

- 「タブ」タブ。

カスタム・タブを追加するか、追加のフォームを「サマリー」タブに追加するには、「新規タブ」をクリックします。68 ページの『テンプレートの「タブ」タブ』を参照してください。

- 「添付ファイル」タブ。(請求書テンプレートと資産テンプレートにはありません)

デフォルトの添付ファイルをオブジェクトに追加するには、このタブを使用します。71 ページの『テンプレートの「添付ファイル」タブ』を参照してください。

- 「カスタム・リンク」タブ。(請求書テンプレートと資産テンプレートにはありません)

デフォルトのカスタム・リンクをオブジェクトに追加するには、このタブを使用します。72 ページの『テンプレートの「カスタム・リンク」タブ』を参照してください。

- 「アラートのカスタマイズ」タブ。

オブジェクト・アラートのデフォルトのテキストをカスタマイズするには、このタブを使用します。

重要: 各タブの編集を終了する場合は、テンプレート内の別のタブにナビゲートする前に、「変更の保存」をクリックする必要があります。これをクリックしないと、変更内容は保存されません。

テンプレートへの変更の影響

テンプレートを編集するときには、それまでそのテンプレートから作成されたオブジェクトのすべてのインスタンスが変更されるということに注意してください。

ただし、ワークフロー、メトリック、および添付ファイルの各フォルダーは、これには該当しません。オブジェクト・テンプレートのワークフロー・テンプレートまたはメトリック・テンプレートを変更する場合や、添付ファイル・フォルダーを追加または削除する場合、変更が加えられた後に作成されるオブジェクトにのみ、変更が適用されます。既存のワークフローは変更されません。また、既存のプロジェクト、プログラム、または計画の添付ファイル・フォルダーもメトリックも変更されません。

テンプレートの「プロパティ」タブ

すべてのオブジェクトについて、テンプレートの「プロパティ」タブでは、以下のプロパティが含まれ、設定することができます。

表9. すべてのテンプレートのプロパティ

プロパティ	説明
名前	「テンプレート」リスト・ページで使用される、テンプレートの表示名。
説明	プロセスまたはマーケティング・オブジェクトを追加するときにテンプレート・セクター・ページに表示されるテンプレートの簡略説明。
アイコン	テンプレートの大きいアイコンと小さいアイコンの画像。大きいアイコンは、このテンプレートに基づいてオブジェクトを作成するときに表示されます。小さいアイコンは、リスト・ページでアイコン名の横に表示されます。
セキュリティ・ポリシー	テンプレートにアクセスできるユーザーを決めるセキュリティ・ポリシーのリスト。

表9. すべてのテンプレートのプロパティ (続き)

プロパティ	説明
テンプレート ID	<p>テンプレートの内部名。スペースや特殊文字は使用しないでください。</p> <p>注:</p> <ul style="list-style-type: none"> 計画テンプレートおよび請求書テンプレートの場合、このフィールドは表示専用です。計画と請求書のテンプレートはそれぞれ 1 つだけであり、それらの ID は変更できません。 テンプレート ID は、オブジェクト・タイプ全体で固有になっている必要があります。例えば、<i>tradeshow</i> という同じ ID を 2 つのプロジェクト・テンプレートで使用することはできません。2 つの「tradeshow」プロジェクト・テンプレートを使用する場合、<i>tradeshow01</i> や <i>tradeshow02</i> など、それぞれのテンプレートで異なる ID を使用する必要があります。 <p>さらに、一度、テンプレート ID を使用したら、それを削除しても、再び使用することはできません。</p> <ul style="list-style-type: none"> フィールドを作成すると、このテンプレートに基づいてオブジェクトが作成されていない場合にのみ、そのフィールドを編集することができます。
デフォルト名	<p>このテンプレートを使用して作成されるオブジェクト (プロジェクトやマーケティング・オブジェクトなど) に付けられるデフォルト名。自動作成されるマーケティング・オブジェクトの場合、この名前は、システムによってマーケティング・オブジェクトが自動作成されるときに生成される固有名の一部です。</p> <p>このフィールドは、ブランクのままでもかまいません。</p>
ID プレフィックス	<p>オブジェクトの外部 ID のプレフィックス。Marketing Operations のそれぞれの計画、プログラム、プロジェクト、またはマーケティング・オブジェクトには、割り当てられている外部 ID があります。例えば、最初のプロジェクトの ID は 1001 というようになります。</p> <p>ID プレフィックスはテンプレートごとに設定できるので、オブジェクトの基になっているテンプレートを簡単に見分けられます。例えば、「Tradeshow」プロジェクト・テンプレートの ID プレフィックスに TRS を選択することができます。すると、初めて作成した「Tradeshow」プロジェクトには TRS1001 という ID が付けられます。</p>
ID 生成クラス	<p>オブジェクトの番号付けアルゴリズムを指定する Java クラス。デフォルトで、Marketing Operations では、それぞれのオブジェクト (計画、プログラム、またはプロジェクト) に連続番号が割り当てられます。</p> <p>ただし、外部 ID を設定するように定義したアルゴリズムを使用するように Marketing Operations を構成することもできます。そのようにすると、コード生成に使用される Java クラスが ID 生成クラスによって指定されます。この属性は、デフォルト以外のアルゴリズムに従って ID が生成させるようにする場合にのみ、編集する必要があります。</p>
メトリック	<p>プロセス (プロジェクト、プログラム、および計画) の場合に、オブジェクトに使用されるメトリック・テンプレートです。プルダウン・リストで使用可能な任意のメトリック・テンプレートを選択することができます。</p>

個々のテンプレートのデータの移行をサポートするため、「**テンプレートのエクスポート**」リンクがこのタブの上部に表示されます。『単一のテンプレートをエクスポートするには』を参照してください。

すべてのテンプレートに適用されるプロパティのほかに、プロジェクト・テンプレートには以下に示すプロパティが含まれています。

表 10. プロジェクト・テンプレートのプロパティ

プロパティ	説明
セキュリティ・ポリシー使用モデル	プロジェクト要求がプロジェクトになった場合に「使用」セキュリティ・ポリシーを決定する方法を指定します。このフィールドの値が「 ユーザー・セキュリティ・ポリシー 」の場合、このタブの「 セキュリティ・ポリシーの使用 」フィールドは使用不可になります。このテンプレートからプロジェクトまたは要求を作成するユーザーが、アイテムを作成するときに「使用」セキュリティ・ポリシーを指定します。このフィールドの値が「 テンプレート・セキュリティ・ポリシー 」の場合、このタブの「 セキュリティ・ポリシーの使用 」フィールドは使用可能になり、テンプレート開発者が「使用」ポリシーを選択します。
セキュリティ・ポリシーの表示	プロジェクトまたは要求を作成するときにこのテンプレートを選択できるユーザーを決めるセキュリティ・ポリシーを指定します。
セキュリティ・ポリシーの使用	プロジェクトまたは要求が作成された後にそれらにアクセスできるユーザーを決めるセキュリティ・ポリシーを指定します。
「エクスポート」タブ	<p>カレンダーをエクスポートするときにエクスポートするプロジェクト・タブを選択します。「サマリー」タブと任意のカスタム・タブのいずれかを選択することができます。</p> <p>カレンダーをエクスポートすると、エクスポートされるカレンダー・データと一緒にタブへのリンクおよびタブのデータが含まれます。そのようにすることで、エクスポートされた各プロジェクトに移動して、そのデータの一部を表示できるようにしています。</p>
代行ユーザーの自動追加を有効にする (Enable Auto Addition of Delegate User)	<p>ユーザーの外出時にタスク、承認、および要求をカバーする代行者を指定することができます。プロジェクト・テンプレート・レベルでシステム全体の設定をオーバーライドするときに使用します。</p> <ul style="list-style-type: none"> これを「はい」に設定すると、タスク、承認、または要求が代行者に割り当てられた場合に、必要に応じて、その代行者がプロジェクトのチーム・メンバーとして自動的に追加されます。 これを「いいえ」に設定すると、すべての同じプロジェクトについて現在チーム・メンバーになっている代行者を選択できるだけです。 <p>システム全体の設定については、4 ページの『管理設定』を参照してください。外出中機能については、「<i>IBM Unica Marketing Operations ユーザーズ・ガイド</i>」を参照してください。</p>

単一のテンプレートをエクスポートするには

1. 「設定」メニューで、「**Marketing Operations 設定**」を選択します。
2. 「**テンプレート構成**」をクリックします。
3. 「**テンプレート**」をクリックします。
4. エクスポートするテンプレートの名前をクリックします。

「プロパティ」タブが表示されます。

5. 「**テンプレートのエクスポート**」をクリックします。
6. インポート操作を通じてテンプレートのメタデータを受け取るシステムの**データベース・タイプ**を指定します。選択されたデータベース・タイプによって、エクスポート・プロセスで生成される SQL スクリプト・ファイルの形式が決まります。
7. 「**エクスポート**」をクリックしてテンプレートをエクスポートします。または、「**閉じる**」をクリックしてエクスポートをキャンセルし、説明の残りの部分をスキップします。
8. 表示される「**ファイルのダウンロード (File Download)**」ダイアログで「**開く**」または「**保存**」をクリックします。

選択されたテンプレートの XML ファイルと SQL スクリプト・ファイルを含む圧縮アーカイブが作成されます。アーカイブ・ファイルを開くか、または解凍すると、それらのファイルが表示されます。

「予算の承認ルール」タブ

プログラム・テンプレート、プロジェクト・テンプレート、および請求書テンプレートの「予算の承認ルール」タブで承認ルールを作成して、承認処理を簡素化することができます。ルール・ビルダーを使用して、予算と請求書の明細項目を自動的に承認するルールを定義します。IBM Unica Marketing Operations は、明細項目が追加されるか編集されるたびに、プログラム・テンプレート、プロジェクト・テンプレート、または請求書テンプレートに設定されている承認条件と照合します。明細項目が条件を満たしている場合、承認処理が開始されます。明細項目が条件を満たしていない場合は、自動的に承認されます。

各明細項目には、個別の承認が必要です。設定されている条件によっては、1 つの明細項目で、複数の承認者から複数の並行した承認が発生する場合があります。

プロジェクトとプログラムの場合は、オブジェクトのテンプレートの任意のフォームでの任意の属性に基づいて条件を作成できます。また、以下の予算属性に基づいて条件を作成することもできます。

- 支払日付
- ソース・アカウント
- コスト・カテゴリー
- コミット金額
- 予測金額
- ベンダー名

請求書の場合は、請求書テンプレートの任意のフォームでの任意の属性に基づいて条件を作成できます。また、以下の明細項目属性に基づいて条件を作成することもできます。

- ソース・アカウント
- コスト・カテゴリー
- 単位あたりのコスト

- 数量
- 合計コスト

承認処理について詳しくは、「*IBM Unica Marketing Operations ユーザーズ・ガイド*」を参照してください。

注: ルールを何も作成しない場合、8.5.0 より前のバージョンでは必要だった承認と機能が IBM Unica Marketing Operations では不要になります。

一部のテンプレートでは、Marketing Operations のダミー・ユーザーを使用してルールを作成することができます。ルールを作成したら、このダミー・ユーザーを、組織内の実際のユーザーにマップすることができます。

- プログラム・テンプレート: プログラムの所有者およびアカウントの所有者
- プロジェクト・テンプレート: プロジェクトの所有者およびアカウントの所有者
- 請求書テンプレート: 請求書の所有者およびアカウントの所有者

ルール・ビルダー

以下の表で、「ルール・ビルダー」ウィンドウのフィールドについて説明します。

表 II. ルールを作成するためのコントロール

フィールド	説明
条件	ルール・ビルダーの IF セクションに既に組み込まれた条件ステートメントをリストします。
割り当てリソース	ルール・ビルダーの THEN セクション内の対応する条件ステートメントに割り当てられたリソースをリストします。
更新	既存のルールを編集するには、これをクリックします。
次の複合条件が TRUE の場合	複合条件ステートメントを構成する 1 つ以上の条件のリスト。
属性の選択	ルールの作成を開始するには、プロジェクト・テンプレート内のカスタム属性とデフォルト属性が列挙されたこのリストから値を選択します。このリストには、マーケティング・オブジェクト属性や TVC 属性 (グリッドまたはリスト上に配置される属性) は含まれません。 属性を選択すると、追加のフィールドが有効になり、条件の指定を完了できるようになります。例えば、「説明」属性を選択すると、「終了して」、「以下が含まれる」、「=」、または「次から開始」 オプションを含むリストが表示され、テキスト・フィールドに文字列を入力できるようになります。
AND/OR	複数の条件を含むルールで、現在の条件と次の条件を接続するための演算子を選択します。
追加	これをクリックすると、現在の条件が IF リストに追加されます。複合条件の構成と組み立ては、一度に 1 条件ずつ行います。
THEN 承認者の割り当て	条件が満たされた場合に割り当てるユーザーまたはチームを選択するために使用するドロップダウン・リスト。

表 11. ルールを作成するためのコントロール (続き)

フィールド	説明
複合条件の保存	条件を作成して承認者を選択した後で、これをクリックすると、完成したルールが保存され、ルール・ビルダーの「複合条件」セクションにそれが表示されます。
デフォルト・アクション	どの条件も満たされない場合に割り当てるチームまたはユーザーを選択するために使用するドロップダウン・リスト。 注: 予算ルールと請求書のルールの場合は、ルール・ビルダーで「デフォルト・アクション」フィールドを使用できません。承認なしで処理するのがデフォルトのアクションです。条件を満たしていない場合、予算と請求書の明細項目は自動的に承認されます。
上へ	選択された条件をリスト内で上に移動します。
下	選択された条件をリスト内で下に移動します。
削除	選択された条件を削除します。
新規	別の条件を追加する前に、選択したオプションをクリアします。
プレビュー	ルールの印刷レイアウトを表示するタブ。

予算の承認ルールを作成するには

プログラム・テンプレート、プロジェクト・テンプレート、および請求書テンプレートの「予算の承認ルール」タブの明細項目の変更を自動的に承認するルールを作成して、承認処理を簡素化することができます。

注: ルールを何も作成しない場合、IBM Unica Marketing Operations はどのような承認も必要としません。

1. 予算の承認ルールを追加したいプログラム・テンプレート、プロジェクト・テンプレート、または請求書テンプレートの「予算の承認ルール」タブにナビゲートします。
2. 「承認ルールの追加」をクリックします。ルール・ビルダーが開きます。
3. 属性、演算子、およびリソースを選択して、フォームをいつ表示するかを指定する条件を作成します。詳しくは、66 ページの『ルール・ビルダー』を参照してください。


AND 演算子と OR 演算子を使用して、複合条件を作成します。各条件を接続するには、「追加」ボタンを使用します。

4. 「THEN 承認者の割り当て」セクションで、条件が満たされた場合に要求を受け取る承認者を選択します。
5. 条件が完成したら、「複合条件の保存」をクリックして条件を「複合条件」ボックスに移動します。このボックスに移動することにより、条件が使用可能になります。
6. 複合条件の作成が終了したら、「保存して終了」をクリックします。ルール・ビルダーが閉じます。
7. ルールの作成が終了したら、「予算の承認ルール」タブの「保存して終了」をクリックします。

複数のルールを作成できるため、複数の並行した承認が発生する可能性があります。

条件を満たしている場合、各ルールごとに、割り当てられた承認者に明細項目の承認要求が送信されます。明細項目がどのルールの条件も満たしていない場合は、自動的に承認されます。

予算の承認ルールを編集するには

1. 予算の承認ルールを編集するプログラム・テンプレート、プロジェクト・テンプレート、または請求書テンプレートの「予算の承認ルール」タブにナビゲートします。
2. 変更したいルールの「**ルールの編集**」列で、「ルール・ビルダー」アイコン () をクリックします。ルール・ビルダーが開きます。
3. 条件を変更または追加します。
 - 既存の条件を更新するには、「複合条件」ボックスの「更新」をクリックし、条件をルール・ビルダーの作業域に移動します。変更が完了したら、「複合条件の保存」をクリックします。
 - 新しい条件を追加するには、67 ページの『予算の承認ルールを作成するには』のステップ 3 から 5 までを実行します。
4. ルール・ビルダーの「保存して終了」をクリックします。
5. 「予算の承認ルール」タブで「変更の保存」をクリックします。

予算の承認ルールを削除するには

1. 予算の承認ルールを削除するプログラム・テンプレート、プロジェクト・テンプレート、または請求書テンプレートの「予算の承認ルール」タブにナビゲートします。
2. 削除したい 1 つ以上のルールの横にあるチェック・ボックスを選択します。
3. 「選択したルールの削除」をクリックします。
4. 「OK」をクリックして、ルールの削除を確定します。
5. 「予算の承認ルール」タブで「変更の保存」をクリックします。

テンプレートの「タブ」タブ

このタブを使用して、フォームを「サマリー」タブに追加し、カスタム・タブを作成します。例えば、「**Printing**」という名前のカスタム・タブを作成し、ユーザーが販促用品を印刷してもらうために利用しようとしている外部のベンダーに関する情報を指定できるようにすることができます。このタブでは、ドロップダウン・リストを追加して、ユーザーが複数のベンダーのリストから印刷会社を選択できるようにすることができます。また、テキスト・ボックスを追加して、ユーザーが販促用品の各ページの見積価格を入力できるようにすることもできます。

組織のセキュリティ・ポリシーを構成する場合は、それらのタブのカスタム・セキュリティ権限を構成することができます。

内部名

それぞれのタブには内部名が表示されます。IBM Unica Marketing Operations と Campaign の統合機能が有効な場合、属性を IBM Unica Campaign にマップするときに、このストリングによってフォームが識別されます。

タブ・ページ・スタイル

「サマリー」を選択して、追加のフォームを「サマリー」タブの最後に追加します。通常、このオプションは、ユーザーが初めてオブジェクトを開くときに「サマリー」タブに表示される比較的ボリュームの少ないデータを含むフォーム用に選択します。

「タブ」をクリックして、タブの内容が別のタブに表示されるように指定します。このオプションは、「Printing」タブの例のような、独自のページを必要とするフォームまたはフォームのグループに使用します。

タブの可視性

「ウィザードで表示」をクリックすると、IBM Unica Marketing Operations で新規オブジェクト・ウィザードにタブが表示されるようになります。これをチェック・マークを外した状態のままにすると、ウィザードを使用してオブジェクトを作成するときにはタブが表示されませんが、オブジェクトを保存するとタブが表示されるようになります。このオプションは、プロジェクトまたは要求およびプログラムの各テンプレートで使用可能です。

「要求で表示」をクリックすると、プロジェクト要求でタブが表示されるようになります。これをチェック・マークを外した状態のままにすると、ウィザードを使用して新規要求を作成するときにはタブが表示されず、要求を保存してもタブは表示されません。プロジェクトでは引き続き表示されます。このオプションは、プロジェクト・テンプレートでのみ使用可能です。

ルール・ベースの表示と非表示 (Rule-based showing and hiding)

フォームまたはカスタム・タブを追加する場合には、それらをデフォルトで展開表示と省略表示のどちらにするか選択することができます。フォームがテンプレートに省略表示されるようにすると、ユーザーが情報を確認または入力する必要がない場合に時間を節約することができます。ユーザーは、使用する必要がある場合は常に、フォームを展開することができます。

デフォルトでは、すべてのフォームが表示されます。必要な場合は、どのような場合にフォームを表示するか指定するルールを作成することができます。ルールが指定されているフォームの場合、そのフォームはルールが満たされたときにのみ展開表示され、ルールが満たされなければ省略表示されます。

詳しくは、71 ページの『フォームの表示と非表示を切り替えるルールの作成』を参照してください。

タブをテンプレートに追加するには

1. テンプレートの「タブ」ページに移動します。
2. 「タブの追加」をクリックします。

3. 「表示名」テキスト・ボックスに、タブの記述名を入力します。

選択した名前は、このテンプレートから作成されるオブジェクトでタブの名前になります。

4. フォームを「サマリー」タブに表示するか独自のカスタム・タブに表示するかを選択します。
5. オプションで、フォームを表示および非表示にするルールを作成します。71 ページの『フォームの表示と非表示を切り替えるルールの作成』を参照してください。
6. フォームを「フォーム」プルダウン・リストから選択します。

このリストには、IBM Unica Marketing Operationsで使用可能なすべてのフォームが含まれます (キャンペーン・プロジェクトで使用される TCS (ターゲット・セル・スプレッドシート) フォームは除きます)。

7. グリッドを追加する場合は、データ検証ルールを「データ検証ルール」プルダウン・リストから選択することができます。
8. タブの可視性オプションを選択します。
9. 「変更の保存」をクリックしてタブを保存するか、または「タブの追加」をクリックしてさらにタブを追加します。

テンプレートでタブまたはフォームを移動するには

1. テンプレートの「タブ」タブに移動します。
2. 「移動」をクリックしてから、以下のいずれかのボタンをクリックします。
 - 「下へ」をクリックしてタブまたはフォームを下に移動します。「サマリー」タブでフォームを下の方に移動すると、それがオブジェクトの「サマリー」タブで下の方に配置されます。カスタム・タブを下の方に移動すると、タブ・リストのさらに右側に配置されます。例えば、タブがリストの 4 番目である場合、1 つ下に移動すると 5 番目になります。
 - 「上へ」をクリックしてタブを上を移動します。上に移動または 1 つ前の位置に移動します。

注: 「サマリー」タブのフォームは、カスタム・タブよりも前に表示されるようにしてください。

フォームまたはカスタム・タブをテンプレートから削除するには

重要: フォームまたはカスタム・タブをテンプレートから削除すると、そのテンプレートから作成されたすべての既存のオブジェクトからそれらが削除されます。既にアイテムを作成するために使用されたテンプレートからフォームまたはカスタム・タブを削除しないでください。そのようにすると、データが失われます。


1. テンプレートの「タブ」ページに移動します。
2. 削除するフォームまたはカスタム・タブを定義するセクションまでスクロールし、(ページの右側にある)「削除」をクリックします。

フォームまたはカスタム・タブがオブジェクト・テンプレートから削除されません。

3. 「変更の保存」をクリックします。

フォームの表示と非表示を切り替えるルールの作成

追加のフォームまたはカスタム・タブを追加する際に、フォームをデフォルトで表示するか非表示にするかを選択できます。フォームを非表示にすると、必要に応じて常にフォームを拡張できるようになるため、ユーザーによるテンプレートの入力処理を簡素化するのに役立ちます。

1. 「新規タブ」タブでフォームを選択したら、ルールの作成アイコン () をクリックします。ルール・ビルダーが開きます。
2. 属性、演算子、およびリソースを選択して、フォームをいつ表示するかを指定する条件を作成します。詳しくは、66 ページの『ルール・ビルダー』を参照してください。

AND 演算子と OR 演算子を使用して、複合条件を作成します。各条件を接続するには、「追加」ボタンを使用します。

3. 条件が完成したら、「複合条件の保存」をクリックして条件を「複合条件」ボックスに移動します。このボックスに移動することにより、条件が使用可能になります。
4. ルールで使用したい各条件の横にあるチェック・ボックスを選択します。
5. 「保存して終了」をクリックして、ルールを適用します。

条件を満たしている場合、フォームが表示されます。条件を満たしていない場合、フォームは非表示になります。

ルールを作成しなかった場合、デフォルトですべてのフォームが表示されます。

テンプレートの「添付ファイル」タブ

添付ファイルをテンプレートと一緒に保存することができます。そのようにすることで、そのテンプレートからオブジェクトが作成されるときには常に、デフォルトで、特定の画像またはドキュメントがオブジェクトに添付されるようになります。

このタブを使用して、以下の操作を実行します。

- 添付ファイルを整理するために 1 つ以上の添付ファイル・フォルダーを追加します。「フォルダーの追加」リンクを使用してください。
 - 1 つ以上のファイルをテンプレートに添付します。
 - リスト内のフォルダーを上または下に移動します。「上へ」リンクと「下へ」リンクを使用して添付ファイル・フォルダーを並べ替えてください。
 - デフォルトの添付ファイルを削除します。削除するファイルの横の「削除」リンクをクリックしてください。
 - フォルダーを削除します。削除するフォルダーの横の「削除」リンクをクリックしてください。フォルダー内のすべての添付ファイルも削除されます。
1. テンプレートの「添付ファイル」ページに移動します。
 2. 資産を含めるフォルダーの横の「添付ファイルの追加」リンクをクリックします。

「添付ファイルのアップロード」ダイアログが表示されます。

3. ファイル名とパスを入力するか、または「参照」ボタンを使用して添付ファイルの場所を指定します。
4. 「変更の保存」をクリックして、ファイルを添付します。

添付ファイルがフォルダーの下のリストに表示されます。

5. 「添付ファイル」タブで、「変更の保存」をクリックして新規のデフォルトの添付ファイルを保存します。

以上の手順を繰り返して、必要な数だけ添付ファイルを追加します。

テンプレートの「カスタム・リンク」タブ

このタブを使用して、このテンプレートから作成されるオブジェクトの 1 つ以上のタブに表示されるカスタム・リンクを作成します。例えば、組織で販促用品や直接販売のオファーのための ID コードを生成するときに使用しているアプリケーションにリンクするようにすることができます。

パラメーターを追加すると、一連のプルダウン・メニューが画面に表示されます。リストで選択することにより、以降のリストで選択可能な項目が決まります。この画面には、以下のプロパティーが含まれます。

プロパティー	説明
名前	リンクの名前を入力します。この値がリンクの名前になります。
ID	カスタム・リンクの固有の内部 ID を入力します。
説明	リンクの説明文を入力します。このテキストは、リンクの上にマウスを移動させると表示されます。
URL	ユーザーがリンクをクリックしたときに開かれる URL を入力します。
タブの可視性	リンクが表示されるタブを確認します。リンクはタブの一番下に表示されます。
オプション	プロジェクト・テンプレートの場合、「要求で表示」にチェック・マークを付けると、テンプレートから作成される要求（およびプロジェクト）からリンクを使用できるようになります。
カスタム・リンクの追加	クリックして新規リンクを追加します。新規フィールド・グループが表示されます。リンクを追加するには、フィールドに入力して「変更を保存」をクリックします。
パラメーターの追加	クリックしてパラメーターをカスタム・リンクに追加します。「名前」フィールドと「値」フィールドが表示されます。選択内容に応じて、新規名と値のフィールドが対になって表示されます。 IBM Unica Marketing Operations が URL の最後の疑問符 (?) を検出し、その疑問符の後にパラメーターを入れます。疑問符が検出されなかった場合は、疑問符を URL の最後に付加してからパラメーターを追加します。
削除 (リンク)	クリックしてカスタム・リンクを削除します。このリンクは、削除しようとしているリンクの「パラメーターの追加」リンクの横に表示されず。

プロパティ	説明
削除 (パラメータ)	クリックしてカスタム・リンクのパラメータを削除します。このリンクは、削除しようとしているパラメータの横に表示されます。
上へ/下へ	複数のカスタム・リンクがある場合は、「上へ」リンクと「下へ」リンクを使用して、カスタム・リンクを並べ替えます。

プロジェクト・テンプレートの「プロジェクト役割」タブ

このテンプレートから作成されたプロジェクトとプロジェクト要求に参加するユーザーのプロジェクト役割を指定する場合に、このタブを使用します。組織のセキュリティ・ポリシーを構成する際に、このテンプレートから作成されたプロジェクトの各タブへのアクセス権限を、ここにリストされたプロジェクト役割ごとにカスタマイズすることができます。

「プロジェクト役割」タブでプロジェクト役割を追加するには、そのプロジェクト役割が既に存在している必要があります。プロジェクト役割を作成するには、「管理」>「リスト定義」>「役割」を選択します。

このタブには、以下の設定値があります。

名前	説明
プロジェクト要求の受信者	このテンプレートから作成された要求を受け取るチーム・メンバーのプロジェクト役割。要求の処理方法を構成する場合は、「要求」タブを使用することに注意してください。「プロジェクト役割」タブのこのフィールドで指定する値は、「要求」タブの「受信者役割」フィールドに表示されます。
チーム・メンバー	このテンプレートから作成されたプロジェクトに参加するユーザーのプロジェクト役割。これは、「ワークフロー」タブでタスクに割り当てることができるプロジェクト役割です。
レビューアー	レビューアーとして参加するユーザーのプロジェクト役割。これは、このテンプレートから作成されたプロジェクトでレビューアーとして割り当てることができる役割です。

役割を追加するには、「プロジェクト要求の受信者」、「チーム・メンバー」、または「レビューアー」の「役割の追加」リスト・ボックスをクリックし、ドロップダウン・リストから役割を選択します。リスト定義から有効な値が取り込まれます。また、「ワークフロー」タブでワークフローをインポートすると、ワークフロー内の役割が、使用可能な役割のリストに追加されます (その役割がリスト定義に存在しない場合)。

役割を削除するには、削除したい役割の横にある「削除」リンクをクリックします。「ワークフロー」タブでタスク内に指定されている役割と、「要求」タブで受信者として指定されている役割は削除できません。

プロジェクト・テンプレートの「要求」タブ

「要求」タブは、「プロジェクト」テンプレート内でのみ使用することができます。このタブは、このテンプレートから作成されたすべての要求に対して以下の項目を設定する場合に使用します。

- 要求の受信者、または要求の受信者の指定方法。
- 受信者が要求の通知を受け取る順序と、受信者が要求に応答する順序。
- 受信者が応答する必要がある時間の長さ。
- 再承認の処理方法。

プロジェクト・テンプレートのルール・ビルダーまたはプロジェクト・テンプレートの「要求」タブを使用すると、プロジェクト要求を受け取る受信者を決定する条件（または一連の条件）を設定することができます。次のことに注意してください。

- 受信者ルールを持つテンプレートに基づいたプロジェクト要求は、ルール・ビルダーを使用して設定されたすべてのルールを使用します。
- テンプレートの受信者ルールを変更すると、テンプレートに基づいた既存のすべての要求の動作に影響します。プロジェクト要求テンプレートに対するその他の変更は、テンプレートから作成された新しい要求でのみ反映され、そのテンプレートに基づいた既存の要求には反映されません。

「要求」タブ・フィールド

このセクションでは、テンプレートの「要求」タブのフィールドについて説明します。

プロジェクト要求の設定

次の表で、「プロジェクト要求の設定」セクションのフィールドについて説明します。

表 12. 「プロジェクト要求の設定」セクションのフィールド

フィールド	説明
要求の説明	ユーザーがプロジェクト要求を追加するときに表示される説明。テンプレートの用途を簡潔に記述します。最大長は 300 文字です。
要求の再承認ルール	返されたプロジェクト要求を再送信する場合、ラジオ・ボタンには、このプロジェクト要求を処理する方法について以下の 3 つのオプションが提供されます。 <ul style="list-style-type: none">• 返されたプロジェクト要求を再送信する場合、すべての受信者がその要求を再度処理する（デフォルト）。• 返されたプロジェクト要求を再送信する場合、その要求を拒否したユーザーが処理を開始する。• 返されたプロジェクト要求を再送信する場合、その要求の所有者が、その要求の受信者を選択する。 この場合、要求を再送信するときに、要求の所有者は、その要求を受け入れた必須の受信者のみを選択できます。

受信者の設定

次の表で、「受信者の設定」セクションのフィールドについて説明します。

表 13. 「受信者の設定」セクションのフィールド

フィールド	説明
要求所有者は、受信者を追加または削除、あるいはその両方を実行できます	受信者を追加しない場合は、このチェック・ボックスにチェック・マークを付けたままにしておく必要があります。チェック・マークを外すと、テンプレートを保存したときにエラー・メッセージが表示されます。このチェック・ボックスにチェック・マークを付けると、このテンプレートを使用するプロジェクト要求で、要求者が新しい受信者を割り当てて、事前に構成された必須ではない受信者割り当てを変更することができます。
受信者ステップの追加	構成する一連のフィールドで要求の受信者を追加できるようにするリンク。
選択した受信者ステップの削除	行の先頭にあるボックスにチェック・マークを付けることによって、選択した受信者を削除するためのリンク。
受信者役割	「プロジェクト役割」タブで構成した受信者役割が含まれているドロップダウン・リスト。
受信者の割り当て	以下のオプションを有効にするドロップダウン・リスト。 <ul style="list-style-type: none"> • ユーザー/チーム: このオプションを選択すると、ユーザーのドロップダウン・リストが使用可能になります。このリストから、「受信者役割」フィールドで選択した役割にユーザーやチームを割り当てます。チームを選択した場合、受信者はチーム・メンバーまたは (要求をチーム・メンバーに割り当てる) チーム・マネージャーになります。どちらになるかは、チームの「サマリー」タブの「要求順序付けモデル」セクションで選択したオプションによって異なります。 • 割り当てられている要求元: このオプションを選択すると、要求者は、「受信者役割」フィールドで選択した役割にユーザーを割り当てることができるようになります。また、他のフィールド (「デフォルト期間」、「シーケンス」、「プロジェクトの所有者」など) を設定すると、これらの値がこの要求の受信者のデフォルト値になりますが、要求者はこれらの値を変更することができます。 • 適用ルール: このオプションを選択すると、「ルール・ビルダー」ウィンドウを開くときにクリックするアイコンが使用可能になります。このウィンドウでは、「受信者役割」フィールドで選択した役割にユーザーを割り当てるためのルールを定義します。ルール・ビルダーの説明については、66 ページの『ルール・ビルダー』を参照してください。

表 13. 「受信者の設定」セクションのフィールド (続き)

フィールド	説明
デフォルト期間	<p>各レビュー・ステップで許可される時間。</p> <p>日数のカウント方法は、IBM Unica Marketing Operations をインストールして構成したときに numberOfHoursPerDay パラメーターで設定されます。この設定のオプションの説明については、「Marketing Operations インストール・ガイド」を参照してください。</p> <p>デフォルト期間として設定されている期間内に受信者が応答しない場合、受信者にはアラートが通知されます。受信者がチームの場合、アラートはそのチームに対して構成されている「要求順序付けモデル」に従って送信されます。</p>
シーケンス	<p>シーケンス番号を入力するテキスト・フィールド。受信者ごとにシーケンス番号を指定し、受信者が要求の通知を受け取って要求を承認する順序を指定することができます。受信者が他の受信者と並行して処理を行うか、他の受信者の前または後に処理を行うかを制御することができます。複数の受信者に同じ番号を割り当てた場合、これらの受信者が応答する順番になると、受信者全員が通知を受け取るようになります。</p> <p>このフィールドには数値を指定する必要があります。最大値は 99 です。デフォルトでは、受信者を追加するたびに、このフィールドの値が増加します。</p>
プロジェクトの所有者	<p>プロジェクトの所有者として指定された受信者は、要求が必須のレビューアー全員によって受け入れられた場合に、プロジェクトの所有者になります。プロジェクトの所有者は、常に必須の受信者になります。</p>
必須	<p>必須の受信者かどうかを指定するチェック・ボックス。承認を行う必要がある各受信者の横にあるボックスにチェック・マークを付けます。このボックスをチェックしない場合、その受信者は必須の受信者にはなりません。必須の受信者の場合、以下の動作に注意してください。</p> <ul style="list-style-type: none"> • 必須の受信者の場合、次の順番の受信者は、現在の受信者が応答するまで通知されません (応答もできません)。 • 必須の受信者が要求を拒否した場合、次の順番の受信者には通知されず、要求が保留状態となり、その要求の所有者に通知されます。 • 複数の受信者のシーケンス番号が同じで (つまり、複数の受信者が同時に操作できる状態で)、必須の受信者の誰かが要求を拒否した場合、その要求処理は、同時に処理している必須受信者の全員が応答するまで続行されます。そのステップからのすべての応答が完了すると、システムは要求の所有者と、以前にその要求の通知を受け取った受信者に通知を送信します。 • 1 人以上の受信者を「必須」に設定する必要があります。必須の受信者が存在しない要求を開始しようとすると、警告メッセージが表示されます。

表 13. 「受信者の設定」セクションのフィールド (続き)

フィールド	説明
指示	ウィンドウを開きます。このウィンドウで、この受信者がプロジェクト要求の「サマリー」ページで確認する指示を追加することができます。最大長は 1024 文字です。

例: テンプレート要求ルールの作成

この例では、プロジェクト要求にレビューアーを割り当てるルールの作成方法について説明します。以下のシナリオを想定します。

- あなたは、印刷物によるキャンペーン広告を組織で作成する際に使用するプロジェクトのテンプレートを設定しています。
- あなたは、プロジェクトに対して地域を指定できる「地域」というカスタム属性を定義しました。各地域には、NA (北アメリカ)、APAC (アジア太平洋)、EURO (ヨーロッパ) という名前が付いています。
- プロジェクトの地域に基づいてプロジェクト要求を検討するために、いくつかの製作チームが必要です。
- このプロジェクトに対して、「プロジェクト・マネージャー」という名前の「プロジェクト要求の受信者」役割が 1 つ定義されています。

1. プロジェクト・テンプレートの「要求」タブの「受信者の設定」領域で、「要求所有者は、受信者を追加または削除、あるいはその両方を実行できます」ボックスをクリアします。これは、プロジェクト要求を (地域に基づいて) レビューする担当者をルールによって制御し、プロジェクトの要求者が他のレビューアーを追加できないようにするためです。
2. プロジェクト・テンプレートの「要求」タブで、「受信者ステップの追加」をクリックします。

「受信者の設定」領域に新しい行が追加されます。

3. 「プロジェクト役割」ドロップダウン・リストで、「プロジェクト・マネージャー」を選択します。
4. 「受信者の割り当て」ドロップダウン・リストで「適用ルール」を選択し、表示される「ルールの作成」アイコンをクリックします。

「ルール・ビルダー」ウィンドウが開きます。

5. 「ルール・ビルダー」ウィンドウで、3 つの地域についてそれぞれ以下の手順を実行します。
 - a. 「属性の選択」ドロップダウン・リストで、「地域」を選択します。
 - b. 比較のドロップダウン・リストで「=」を選択します。
 - c. テキスト・フィールドに地域名 (NA、APAC、または EURO) を入力します。
 - d. 「AND/OR」ドロップダウン・リストは空白のままにしておきます。
 - e. 「次のリソースを割り当てます」フィールドで、その地域に該当するチームを選択します。
 - f. 「追加」をクリックします。

g. 「複合条件の保存」をクリックします。

複合条件が「複合条件」領域に移動されます。

6. 3つの地域のそれぞれに対して条件を作成したら、どの条件も満たされなかった場合に要求を受け取るためのデフォルトのリソースを選択します。「追加」、
「複合条件の保存」の順にクリックします。
7. 「プレビュー」をクリックしてルール全体を表示し、ロジックが正しいことを確認します。必要な場合は、ルールを印刷します。
8. 「保存して終了」をクリックします。

「ルール・ビルダー」ウィンドウが終了して「要求」タブに戻ります。

9. 必要に応じて、「受信者」行の他のフィールドを入力します。

プロジェクト・テンプレートの「キャンペーン」タブ

統合が有効になっている場合に、このタブを使用して Marketing Operations から IBM Unica Campaign への通信を構成します。このタブには、以下の設定があります。

表 14. キャンペーン・プロジェクト・テンプレートの項目

フィールド	説明
キャンペーン・プロジェクト・テンプレート	このテンプレートをキャンペーン・プロジェクト・テンプレートとし、その他の「キャンペーンの統合」項目を表示する場合に、このチェック・ボックスを選択します。
TCS フォーム	このテンプレートから作成されたプロジェクトに使用するターゲット・セル・スプレッドシートが含まれるフォームを選択します。ドロップダウン・リストには、TCS が含まれるすべての公開済みフォームが含まれています。
メトリック・データ・マッピング	IBM Unica Campaign キャンペーンから IBM Unica Marketing Operations プロジェクトにレポート作成の目的でメトリックを送信するためのデータ・マップを含んだ XML ファイル。
TCS フォームの表示名	「TCS」タブ上の選択したフォームの表示名。
パーティション ID	<p>このテンプレートを使用して作成されるキャンペーン・プロジェクトに対応するキャンペーンを、IBM Unica Campaign インスタンスのどのパーティションで作成するかを識別します。</p> <p>デフォルト値は partition1 です。Campaign が単一のパーティションにインストールされている場合は、この値を使用します。Campaign が複数のパーティションにインストールされている場合、キャンペーンの作成に使用するパーティションを指定することができます。</p> <p>IBM Unica Marketing Operations を使用して、パーティションを指定できます。指定するパーティションに対してアクセス権限があることと、統合が有効になっていることを確認してください。</p> <p>Campaign パーティションのセットアップについては、「<i>IBM Unica Campaign</i> インストール・ガイド」を参照してください。</p>

表 14. キャンペーン・プロジェクト・テンプレートの項目 (続き)

フィールド	説明
要求に TCS タブを表示 (Show TCS tab in request)	プロジェクトを要求するためにテンプレートが使用された場合に TCS を表示するには、このチェック・ボックスを選択します。このチェック・ボックスがクリアされている場合、TCS はキャンペーン・プロジェクトにのみ表示され、要求には表示されません。
承認が必要	<p>テンプレートで作成されたすべてのターゲット・セルに承認が必要な場合、このチェック・ボックスを選択します。選択されていない場合、TCS グリッドには「承認」列も「すべて承認」や「すべて拒否」も表示されません。</p> <p>注: バージョン 8.2 へのアップグレードの一環として、すべてのアップグレード済みキャンペーン・テンプレートで「承認が必要」がクリアされます。</p> <p>詳しくは、92 ページの『TCS の承認について』を参照してください。</p>

注: 一度このテンプレートを使用してプロジェクトを作成すると、非キャンペーン・テンプレートをキャンペーン・テンプレートに変更することも、キャンペーン・テンプレートを非キャンペーン・テンプレートに変更することもできなくなります。「キャンペーン・プロジェクト・テンプレート」オプションは使用不可になります。

また、一度このテンプレートを使用してプロジェクトを作成すると、以下のオプションも使用不可になります。

- TCS フォーム
- TCS フォームの表示名
- パーティション ID
- 要求に TCS タブを表示 (Show TCS tab in Request)
- 承認が必要

これらのオプションの値は、このテンプレートを使用して作成されたすべてのプロジェクトを削除した後でのみ変更することができます。

「テンプレート・ワークフロー」タブ

プロジェクト・テンプレートの「ワークフロー」タブは、個々のプロジェクトで表示されるワークフロー・スプレッドシートのようなものです。「ワークフロー」タブを使用して、テンプレートから作成されるすべてのものに共通のステージ、タスク、およびメンバー割り当てをセットアップします。次に、所有者が、ワークフロー・スプレッドシートを使用して、自身のプロジェクトに応じてワークフローに変更を加えます。




ワークフロー・スプレッドシートと同様、テンプレートの「ワークフロー」タブには表示と編集という 2 つのモードがあります。タブに表示されるワークフローを編集するには、「編集」リンクをクリックします。

ワークフローは、テンプレートとして、プロジェクトのテンプレートの「ワークフロー」タブから、または、個々のプロジェクトのワークフロー・スプレッドシートから保存することができます。

プロジェクト・テンプレートの「ワークフロー」タブのリンク











プロジェクトの「ワークフロー」タブが表示モードになっている場合は、以下のものを含むリンク、アイコン、およびボタンが表示されます。

表 15. プロジェクトの「ワークフロー」タブに表示されるコントロール

リンク	説明
パンくずリスト	パンくずリストは、現行ページに到達するためにクリックしたリンクのリストです。これはプロジェクト名の上に配置されます。パンくずリストのトレールのアクティブ・リンクをクリックすると、そのページに移動します。
編集	このアイコン  をクリックすると、編集モードに変更してワークフローを構成できます。
スプレッドシートとして表示	 アイコンをクリックすると、ワークフローがスプレッドシートとして表示されます。 このビューでは、テーブル形式で表示される、タスクに関する詳細情報にアクセスできます。スプレッドシート・ビューは、デフォルトのビューです。
プロセス・フローチャートとして表示	 アイコンをクリックすると、ワークフローがプロセス・フローチャートとして表示されます。 このビューでは、ワークフロー・タスクがネットワーク図として表示されます。
テンプレートとして保存	ワークフローをテンプレートとして保存する場合にクリックします。
テンプレートのインポート	プロジェクトの既存のワークフロー・テンプレートを選択する場合にクリックします。
タスク名	スプレッドシート・ビューでは、各タスク名がリンクになっています。 <ul style="list-style-type: none"> 承認タスクをクリックすると、「承認の開始」ダイアログが開きます。 ワークフロー・タスクをクリックすると、「タスク更新の投稿」ダイアログが開きます。

プロジェクト・テンプレートの「ワークフロー」ツールバー

「ワークフロー」タブ・ツールバーが表示されるのは、編集ビューにタブが表示される場合だけです。ツールバーのボタンを使用して、ステージやタスクなどの追加と削除を行います。以下の表で、ツールバーを説明します。

アイコン	説明
	<p>タスク行の追加。タスク行を追加するときにクリックします。ワークフローのスプレッドシートに新しいタスクを挿入します。</p>
	<p>承認行の追加。承認行を追加するときにクリックします。スプレッドシートに新しい承認タスクを挿入します。このタスクに関連する承認を構成するには、表示モードに戻ってタスクの名前をクリックする必要があります。ことに注意してください。</p>
	<p>リストに追加された新しいタスクに対して依存関係がどのように定義されるかを示します。</p> <ul style="list-style-type: none"> • 依存なし • 連続 • 並行
	<p>ステージ行の挿入。スプレッドシートに新しいステージを挿入するときにクリックします。タスクは複数のステージにグループ化されます。</p>
	<p>「ツール」メニューには、以下の選択項目があります。</p> <ul style="list-style-type: none"> • コピー: 選択されたセルの内容をクリップボードにコピーします。 • 貼り付け: 選択されたセルから開始して、クリップボードの内容を貼り付けます。 • 後に行を貼り付け: 選択されたセルの後ろに、クリップボードの内容を貼り付けます。 • 下方向へコピー/上方向へコピー: セルの値を、特定の範囲内のセルへコピーします。 • 消去: 選択されたセルまたはセル・グループ内のすべての項目を消去します。 • 列の消去: 選択された列内のすべての項目を消去します。 • すべて消去: ワークフロー内のすべての項目を消去します。
	<p>直前の変更内容を元に戻すときにクリックします。</p>
	<p>「元に戻す」操作で元に戻した変更内容を再適用するときにクリックします。</p>
	<p>選択した行を上へ移動。選択したタスクまたはステージを上へ移動するときにクリックします。ステージを移動すると、関連するタスクも一緒に移動します。</p>
	<p>選択した行を下へ移動。選択したタスクまたはステージを下へ移動するときにクリックします。ステージを移動すると、関連するタスクも一緒に移動します。</p>
	<p>選択した行を削除。選択したタスクまたはステージを削除するときにクリックします。以下の点に注意してください。</p> <ul style="list-style-type: none"> • ステージを削除すると、そのステージに関連するすべてのタスクが、1 ステージ上に移動します。 • 最初のステージを削除することはできません。

「ワークフロー」タブ・フィールド

以下の表で、プロジェクト・テンプレートの「ワークフロー」タブに表示される各フィールドについて説明します。

表 16. 「ワークフロー」タブのフィールド

フィールド	説明
タスク・コード・プレフィックス	このテンプレートから作成されるプロジェクトのタスクのタスク ID にシステムがプレフィックスとして追加する短い ID。
タスク名	<p>タスク・ステージの名前と、プロジェクトのタスク。このタスクが前のタスクに依存していることを示すには、依存先のタスクの番号を括弧で囲んで追加します。例えば、「コストの見積もり (2.3)」というタスクは、タスク番号 2.3 に依存しています。</p> <p>編集モードでタブが表示された場合は、ステージまたはタスクをクリックして、タブを改訂するか変更します。</p> <p>表示モードでタブが表示された場合は、以下の操作を行います。</p> <ul style="list-style-type: none"> 承認タスクをクリックして、承認を構成するための「承認の設定」フォームを表示します。 スタッフ・タスクをクリックして、添付ファイルをタスクに追加できるかどうかを指定するための「タスクの設定」フォームを表示します。
必須	必須タスクを示します。このテンプレートを使用してプロジェクトを作成した場合、必須タスクはスキップすることも削除することもできず、タスク名を変更することもできません。
依存関係の適用	このタスクが他のタスクに依存している場合に、その依存関係をシステムがどの程度まで厳格に解釈するかを指定します。このオプションが選択されている場合、このタスクが依存しているタスクが終了するまで、プロジェクト・メンバーはこのタスクを更新することはできません。
メンバー役割	タスクに関連付けられているプロジェクト役割。この列のオプションのリストには、このテンプレートの「プロジェクト役割」タブに表示されているプロジェクト役割だけが含まれます。
マイルストーン・タイプ	<p>オプションのマイルストーン・タイプ。ドロップダウン・リストに表示されるオプションは、システム管理者によって構成されます。例えば、「会議」、「イベント」、「ジョブの開始」などのオプションです。</p> <p>マイルストーンの設定については、「Marketing Operations インストール・ガイド」を参照してください。</p>
固定日	タスクが自動日付再計算の影響を受けるかどうかを示します。他のタスクで行われた日付変更の影響を受けない、固定日付のタスクに対して、このオプションを選択します。
デフォルト期間	このテンプレートからプロジェクトを作成するときに、このタスクに対してデフォルトで指定されるカレンダーの期間。クロック・アイコンをクリックし、日、時間、分の単位で期間を入力します。
目標の取り組み	このテンプレートからプロジェクトを作成するときに、このタスクに対してデフォルトで指定される目標となる取り組み。クロック・アイコンをクリックし、日、時間、分の単位で取り組みを入力します。

ワークフロー・プロセス・フローチャート・ビューについて

プロセス・フローチャート・ビューは、タスクを次のようなネットワーク図のスタイルで表示します。

- 各タスクは、タスク番号と ID を持つボックスとして表示されます。
- 依存関係を持つタスクは、依存するタスクに接続します。
- 順次タスクは、同じ線上に表示されます。
- 並行タスクは、別の線上に表示されます。
- 独立/孤立したタスクは、接続がない独自の線上に表示されます。

テンプレートのワークフローを構成するには

プロジェクト・テンプレートのワークフローを構成するには、テンプレートを作成し、役割を指定してから、ワークフローを作成します。

1. 「設定」 > 「**Marketing Operations** 設定」を選択します。
2. 「テンプレート構成」をクリックします。
3. 「プロジェクト・テンプレート」で、「テンプレートの追加」をクリックします。
4. 「テンプレート・プロパティ」フォームのフィールドに情報を入力して「変更の保存」をクリックします。
5. 「プロジェクト役割」タブを使用して、参加者の役割を指定し、「変更の保存」をクリックします。
6. 「ワークフロー」タブを選択し、「編集」をクリックします。
7. 該当のユーザー・タスク、承認タスク、およびステージを追加します。

このステップに関するヘルプが必要な場合は、「*IBM Unica Marketing Operations ユーザーズ・ガイド*」でワークフローに関する章を参照してください。

保存を頻繁に行ってください。

8. ワークフローが完成したら、「保存して終了」をクリックします。タブが表示モードに戻ります。
9. 承認タスクを追加した場合は、その承認の行をクリックし、「承認のセットアップ (Setup Approval)」フォームを使用して承認を構成します (承認を構成できるのは、「ワークフロー」タブが表示モードのときのみです)。
10. オプションで、フローチャート・ボタンをクリックして、ワークフローをプロセス・フローチャートとして表示します。

ワークフロー・テンプレートを作成するには

ワークフロー・テンプレートを作成するには、始めに、プロジェクト・テンプレートを作成します。テンプレートのワークフローの構成が完了したら、そのワークフローをテンプレートとして保存します。

ワークフロー・テンプレートには、ステージおよびタスクの定義が保持されます。また、役割設定が保持されます。ただし、承認タスクは保持されますが、設定され

た承認者は保持されません。承認者はワークフロー・テンプレートを使用するそれぞれのプロジェクト・テンプレートで設定する必要があります。

1. 該当のプロジェクト・テンプレートの「ワークフロー」タブを選択します。
2. タブを表示モードにしたまま、「テンプレートとして保存」をクリックします。
3. テンプレートの記述名を入力し、「続行」をクリックします。
4. 「変更の保存」をクリックします。

ワークフローがテンプレートとしてテンプレート・ライブラリーに保存されます。

ワークフロー・テンプレートを使用するには

1. プロジェクト・テンプレートを通常どおり作成します。ただし、役割はワークフロー・テンプレートと一緒にインポートされるので、役割のセットアップは省略してください。
2. 「ワークフロー」タブを選択します。
3. タブを表示モードにしたまま、「テンプレートのインポート」をクリックします。

インポートによって既存のワークフローが上書きされることを伝える警告が表示されます。

4. 「OK」をクリックします。

テンプレートのリストが開きます。

5. リストからテンプレートを選択し、「インポート」をクリックします。

タブでワークフローが開き、タスクおよびステージ行で参照される役割が「プロジェクト役割」タブにリストされるようになります。

6. 「ワークフロー」タブを表示モードにしたまま、いずれかの承認タスクをクリックし、承認を構成します。
7. ステージやタスクを変更または追加する必要がある場合は、「編集」をクリックします。

それから、プロジェクト・テンプレートに必要なカスタマイズをワークフローに加えます。変更を保存するのを忘れないようにしてください。

8. ワークフローが完成したら、「保存して終了」をクリックして表示モードに戻ります。

マイルストーン・タイプのカスタマイズ

IBM Unica Marketing Operations のインストール済み環境に合わせて、マイルストーン・タイプのリストをカスタマイズすることができます。マイルストーン・タイプ・リストは、ワークフロー上に表示されます。マイルストーン・タイプのリストを変更すると、システム上のすべてのワークフローに影響します。

デフォルトでは、以下のマイルストーン・タイプを使用できます。

- チェックポイント
- 削除日

- イベント
- ジョブの完了
- ジョブの開始
- 会議

新しいマイルストーン・タイプを追加することも、既存のマイルストーン・タイプを削除することもできます。

マイルストーン・タイプをカスタマイズするには、uap_wf_milestone システム・テーブルをデータベース構成ツールで編集します。


ワークフロー・テンプレートのページ


ワークフロー・テンプレートのインポート、エクスポート、削除、有効化、無効化を行うには、「ワークフロー・テンプレート」ページを使用します。

ワークフロー・テンプレートを編集するには、プロジェクト・テンプレートの「ワークフロー」タブを使用します。つまり、ワークフロー・テンプレートをプロジェクト・テンプレートにインポートし、ワークフローを編集して、ワークフロー・テンプレートを再保存します。

ワークフロー・テンプレートのフィールドと機能

「ワークフロー・テンプレート」ページには、すべてのワークフロー・テンプレートが表示され、以下の情報と機能が表示されます。

アイコン	項目	説明
	名前	ワークフロー・テンプレートの名前。
	ステージタスク	「/」文字で区切られた、ワークフロー内のステージとタスクの数。例えば、5 つのステージと 30 のタスクがあるワークフローの場合、この列の値は 5 / 30 になります。
	作成日	テンプレートが作成された日付。
	最終更新日	テンプレートが最後に変更された日付。
	ステータス	テンプレートが有効か無効かを示します。ワークフロー・テンプレートを作成すると、そのステータスはデフォルトで「有効」に設定されます。
	エクスポート	個別のワークフロー XML ファイルをエクスポートするためのリンク。エクスポートしたファイルは、別の IBM Unica Marketing Operations システムにインポートすることができます。
	ワークフロー・テンプレートのインポート	個別のワークフロー XML ファイル (通常は、別の IBM Unica Marketing Operations システムからエクスポートされたファイル) をインポートするためのリンク。

アイコン	項目	説明
削除アイコン ()	選択したワークフロー・テンプレートの削除	選択されているワークフロー・テンプレートを削除するためのリンク。
有効化/無効化ボタン	ワークフロー・テンプレートの有効化/無効化	選択されているテンプレートに有効または無効のマークを付けます。無効なワークフロー・テンプレートをプロジェクト・テンプレートから選択することはできません。

ワークフロー・テンプレートをエクスポートするには

個々のワークフロー・テンプレートをエクスポートすることができます。エクスポートされた XML ファイルを編集してから、ワークフロー・テンプレートを IBM Unica Marketing Operations に再インポートして戻すこともできます。

1. 「設定」 > 「Marketing Operations 設定」を選択します。
2. 「テンプレート構成」をクリックします。
3. 「ワークフロー」をクリックします。
4. エクスポートするワークフローの「エクスポート」リンクをクリックします。
5. XML ファイルの保存場所を選択し、保存します。
6. ファイルをテキスト・エディターまたは XML エディターで開き、変更を加えてから保存します。
7. テンプレート・ライブラリーに戻ります (「設定」 > 「Marketing Operations 設定」)。
8. 「ワークフロー・テンプレートのインポート」をクリックし、編集した XML ファイルの場所を指定します。
9. 前のバージョンと区別できるようにファイルに名前を付けます。

例えば、Marketing Collateral をエクスポートした場合、編集したファイルに Marketing Collateral 2 というように名前を付けます (ファイルの名前は後で変更できます)。

10. テンプレートを作成し、新しいワークフローを使用します。または、既存のテンプレートを開き、古いワークフロー・テンプレートを新しいものに置き換えます。

「データ・マッピングの定義」ページ

「データ・マッピングの定義」ページを使用すると、Marketing Operations プロジェクトと Campaign 内のキャンペーンとの間でデータをマップすることができます。

「テンプレート構成」ページから「データ・マッピング」リンクを使用して、データ・マッピングを構成します。

「データ・マッピングの定義」ページには、以下の列があります。

列	説明
名前	データ・マッピング・ファイルの名前

列	説明
タイプ	<p>「キャンペーン・メトリックのインポート (Campaign Metrics Import)」: Marketing Operations のプロジェクト・メトリックを Campaign のコンタクト数およびレスポンス数にマップします。</p> <p>前のバージョンのマップ・ファイルがある場合は、「タイプ」列にこれら以外の値が表示されることがあります。</p>
使用者	このデータ・マップを使用するテンプレートのリスト。

注: Marketing Operations 内でマップ・ファイルを作成することはできません。テキスト・エディターまたは XML エディターを使用して、必要なマップ・ファイルを作成し、編集します。

IBM Unica Campaign のコンタクト数およびレスポンス数を Marketing Operations メトリックにマップする

ユーザーがコンタクト数およびレスポンス数を Marketing Operations にインポートできるようにするには、コンタクト数とレスポンス・タイプを Marketing Operations メトリックにマップする必要があります。

注: Campaign は、1 つのオーディエンス・レベル (UA_ContactHistory、UA_ResponseHistory、および UA_DtlContactHist システム・テーブルにマップされるオーディエンス・レベル) についてののみ、データを Marketing Operations に渡します。このオーディエンス・レベルは、任意のデータ・タイプまたは名前の、任意のオーディエンス・キー項目を持つ、任意のオーディエンス・レベルにすることができます。オーディエンス・レベルについて詳しくは、Campaign の資料を参照してください。

レスポンス・タイプは、Campaign データベース内の UA_UsrResponseType システム・テーブルに保管されます。メトリックをレスポンス・タイプにマップするには、レスポンス・タイプの名前を知っておかなければなりません。

マッピングは、XML ファイルに保管されます。

IBM Unica Campaign のコンタクト数およびレスポンス数を Marketing Operations メトリックにマップするには

1. Campaign で、トラッキングするレスポンス・タイプを含めるように、UA_UsrResponseType テーブルのレスポンス・タイプのリストを必要に応じて変更します。
2. コンタクト数およびレスポンス・タイプに対応するメトリックを含めるように、システムで使用する Marketing Operations メトリック・ファイルを編集します。
3. Marketing Operations メトリックをコンタクト数およびレスポンス・タイプと関連付けるマップ・ファイルを作成します。
4. 作成したマップ・ファイルを Marketing Operations に追加します。
5. キャンペーン・テンプレートを作成し、「メトリック・データ・マッピング」ドロップダウン・リストからマップ・ファイルを選択します。

コンタクトおよびレスポンスのデータが、そのテンプレートを使用して作成されたすべてのプロジェクトのメトリックにマップされます。

メトリック・データ・マッピング・ファイルについて

メトリック・データ・マッピング・ファイルは、コンテナ要素 `<metric-data-mapping>` および `</metric-data-mapping>` を使用する必要があります。

マッピング・ファイル内の次の行は、以下のようになります。

```
<datasource type="webservice">
  <service-url>CampaignServices</service-url>
</datasource>
```

実際のマッピングは、要素 `<metric-data-map>` および `</metric-data-map>` に含まれる必要があります。

メトリック

`<metric>` 要素を使用して、マッピング内のメトリックを定義します。 `<metric>` 要素に値はありませんが、子要素である `<data-map-column>` を含める必要があります。 `<metric>` 要素には、以下の属性があります。

属性	説明
id	メトリックの内部名
dimension-id	Campaign からの値を配置する列の番号。列には、左から右に向かって番号が付けられます。最初の列は、列 0 になります。

data-map-column

`<data-map-column>` 要素は、マッピングにおけるデータ・ソース (コンタクト数またはレスポンス・タイプのいずれか) を定義するために使用します。

`<data-map-column>` 要素は、コンタクト数またはこのレスポンス・タイプがマップされるメトリックを定義する、`<metric>` 要素内に存在する必要があります。

`<data-map-column>` 要素に値はありませんが、以下の属性があります。

属性	説明
id	メトリックにマップされるデータ・ソース。コンタクト数の場合は、 <code>contactcount</code> を使用します。レスポンス・タイプの場合は、 <code>responsecount_<ResponseTypeName></code> を使用します。
type	この値は、常に <code>number</code> でなければなりません。

データ・マッピングを追加するには

テキスト・エディターまたは XML エディターを使用して、データ・マッピング・ファイルの作成または編集を行います。データ・マッピング・ファイルを保持したら、以下の手順を使用してそのファイルを Marketing Operations に追加します。

1. 「設定」 > 「Marketing Operations設定」を選択します。
2. 「テンプレート構成」 > 「データ・マッピング」をクリックします。
3. 「データ・マッピングの追加」をクリックします。

- 「データ・マッピングのアップロード」ダイアログ・ボックスが表示されます。
- 名前を入力します。

この名前が、データ・マッピング・ファイルの表示名になります。

- データ・マッピングを定義する XML ファイルを表示します。
- 「続行」をクリックします。

データ・マッピングを編集するには

データ・マッピング・ファイルを更新するには、最初に XML ファイルを編集し、次にそのファイルを Marketing Operations に再ロードして戻します。

- データ・マッピング XML ファイルをテキスト・エディターで開き、変更を加えます。
- 「設定」>「Marketing Operations 設定」を選択します。
- 「テンプレート構成」>「データ・マッピング」をクリックします。
- 更新しているファイルの名前をクリックします。

「データ・マッピングの更新」ダイアログ・ボックスが表示されます。

- 「ファイル」を選択して、XML ファイルを参照します。
- 「続行」をクリックします。

既存のファイルの上書きを求めるプロンプトが出されます。

- 次のようにクリックします。
 - 既存のファイルを新しいバージョンのファイルで上書きする場合は、「保存」をクリックします。
 - 前のバージョンのファイルを残す場合は、「キャンセル」をクリックします。

データ・マッピングを削除するには

テンプレートでマッピング・ファイルを使用している場合、そのマッピング・ファイルを削除することはできません。

- 「設定」>「Marketing Operations 設定」を選択します。
- 「テンプレート構成」>「データ・マッピング」をクリックします。
- 削除したいデータ・マッピング・ファイルの「削除」リンクをクリックします。

「アイコン」ページ

「アイコン」ページでは、アイコン・ファイルを表示および追加することができます。それらのアイコンは、Marketing Operations のさまざまなセクションに、また、選択したオブジェクト・テンプレートについて表示されます。

「テンプレート構成」ページから「アイコン」リンクを使用して、オブジェクト・テンプレートで使用されるアイコンを管理します。

「アイコン」ページには次の列があります。

列	説明
画像ファイル	それぞれのアイコン用の大きい画像と小さい画像。画像をクリックしてアイコンの名前や画像ファイルを変更します。
名前	アイコンの名前。
使用者	このアイコンを使用するオブジェクト・テンプレートのリスト。
削除	フォームを削除するためのリンク。このリンクは、どのテンプレートでも使用されていないアイコンについてのみ使用可能です。

アイコンを指定する場合は、それぞれのアイコンについて以下の 2 つの画像ファイルを指定してください。

- **メイン・アイコン:** このタイプのファイルがシステム上に存在する場合には表示される大きい画像です。例えば、メイン・アイコンは、プロジェクトのセクターに表示されます (セクターは、プロジェクトを作成するときに表示されるダイアログ・ボックスであり、テンプレートのリストから選択します)。
- **リスト・アイコン:** オブジェクト・リスト・ページに表示される小さい画像。例えば、プロジェクトのリスト・ページには、ページのすべてのプロジェクトのリスト・アイコンが含まれます。

アイコンを追加または編集するには

1. 「設定」メニューで、「**Marketing Operations 設定**」を選択します。
2. 「**テンプレート構成**」をクリックします。
3. 「**アイコン**」をクリックします。
「**アイコン**」リスト・ページが表示されます。
4. 以下のいずれかをクリックします。
 - ページの右上セクションにある「**アイコンの追加**」をクリックしてアイコンを追加します。
 - アイコン画像 (大きい画像または小さい画像) をクリックしてアイコンを編集します。

「**アイコンの更新**」ダイアログが表示されます。

5. アイコンの名前を入力または編集します。

注: 既存のアイコンの名前のみを更新する場合は、「**ファイル**」ラベルまたは「**リスト・アイコン画像ファイル (List Icon Image File)**」ラベルの横のボックスにチェック・マークを付けずに、ステップ 6 をスキップしてください。いずれかの画像を更新する場合は、該当のボックスにチェック・マークを付けてステップ 6 に進んでください。

6. 以下のようにして、アイコン画像のファイル名を入力します。
 - 「**ファイル**」フィールドの「**参照**」ボタンを使用してメイン画像ファイルに移動し、メイン画像を追加または変更します。
 - 「**リスト・アイコン画像ファイル (List Icon Image File)**」フィールドの「**参照**」ボタンを使用してリスト画像ファイルに移動し、リスト画像を追加または変更します。

注: デフォルトのアイコン・セットが Marketing Operations と一緒にインストールされます。それらのアイコンから選択するか、または自身の組織用にカスタマイズされたアイコンを追加することができます。ファイル画像の最大サイズは 46 x 54 ピクセルです。リスト・アイコン画像の最大サイズは 20 x 24 ピクセルです。

7. 「続行」をクリックしてファイルを Marketing Operations に読み込むか、または「キャンセル」をクリックしてアップロードを停止します。
8. 「変更の保存」をクリックしてアップロードを確定するか、または「キャンセル」をクリックしてアップロードを停止します。

新規アイコンまたは編集されたアイコンがリストに表示されます。

テンプレート検証について

以下の 2 つのタイプのテンプレート検証を実行することができます。

- データベース検証
- 属性検証

検証は、随時、「テンプレート構成」ページで「**テンプレートの検証**」リンクをクリックして実行することができます。さらに、以降のセクションで説明するように、特定の検証が自動的にシステムによって実行されます。

データベース検証について

データベース検証では、以下のことがチェックされます。

- データベース・スキーマの妥当性
- フォーム属性がデータベース内のデータの型と対応するかどうか。

データベース検証に関しては、以下のことに注意してください。

- このタイプの検証は、テンプレートのインポート、アップグレード、およびエクスポート時にシステムによって実行されます。エクスポートでは、いずれのテンプレートにもリンクしていないフォームのみが確認されます。
- インポートおよびアップグレードでは、テンプレートが無効でも保存することができます。警告が発行されますが、保存することができます。
- フォームを追加する場合、検証でエラーが検出されると、そのフォームを保存することはできません。

属性検証について

属性は、以下の方法で検証されます。

- テンプレート属性検証では、2 つ以上のフォーム列が、「サマリー」タブとその他の非「サマリー」タブの両方で同じテーブル列をポイントしているかどうかをチェックされます。

このタイプの検証は、テンプレートの保存時にシステムによって実行されます。

2 つ以上のフォーム列が同じテーブル列をポイントしている場合は、参照が重複していることを示すエラー・メッセージが生成されます。

- テンプレート属性タイプ検証では、2 つのテンプレートの 2 つのフォーム列が同じテーブル列をポイントしていても、それらのタイプが異なるかどうかをチェックされます (例えば、1 つが選択のタイプで、もう 1 つが複数選択である場合など)。

異なるタイプの 2 つ以上のフォーム属性が同じテーブル列をポイントしている場合は、不整合が発生していることを示すエラーが生成されます。

データ検証ルール

「ルール定義」画面には、データ検証ルールと、それを使用するグリッドが表示されます。

この画面では、以下の操作を実行できます。

- ルール定義ファイルを読み込むには、「**ルール定義の追加**」をクリックします。これにより、ファイル内のすべてのルールが画面に表示されます。
- ルールがどのテンプレートにも関連付けられていない場合、「**削除**」をクリックしてそのルールを削除します。
- 既存のルールを更新するか、ルールの名前を変更するには、そのルールをクリックします。

注: 既存のルール・ファイルを上書きしようとする時、警告が表示されます。

ルールを読み込んだら、「テンプレート構成」画面の「タブ」画面で、そのルールをグリッド・テンプレート・タブにリンクすることができます。詳しくは、68 ページの『テンプレートの「タブ」タブ』を参照してください。

データ検証について詳しくは、196 ページの『グリッドの検証』を参照してください。

「ルール定義」画面にナビゲートするには

1. 「設定」 > 「Marketing Operations 設定」を選択します。
2. 「その他のオプション」セクションで、「テンプレート構成」をクリックします。
3. 「テンプレート・コンポーネント」セクションで、「ルール」をクリックします。

TCS の承認について

「承認が必要」チェック・ボックスがオンになっているテンプレートを使用してプロジェクトが作成されている場合、TCS 内の行からリンクされているフローチャートを Campaign で運用モードで実行するためには、その前に、フローチャートにリンクしているそれらのすべての行を承認しておく必要があります。フローチャートを運用モードで実行する場合、このフローチャートに関連付けられている TCS の 1 つ以上の行が承認されていないと、Campaign はエラーを生成します。

必要に応じて、TCS 上の各行を個別に承認することができます。行は、入力済みで内容が正しければ、TCS の他の行がまだ承認する準備が整っていない場合であってもすぐに承認できます。

「承認が必要」チェック・ボックスがオフになっているテンプレートを使用してプロジェクトが作成されている場合、TCS のトップダウン・セルについては、承認は必要ありません。この場合、TCS グリッドには、「承認」列も、「すべて承認」および「すべて拒否」も表示されません。「承認が必要」チェック・ボックスをクリアすると、キャンペーンに TCS 承認が必要ない場合に時間を節約できます。

注: デフォルトでは、「承認が必要」はクリアされています。ただし、Marketing Operations 8.5 にアップグレードすると、すべてのアップグレードされたキャンペーンのテンプレートでは「承認が必要」がオンになります。

インポートおよびエクスポート

「承認が必要」がオンである場合は、「承認済みかどうか」列がエクスポートされます。

「承認が必要」がクリアされている場合は、「承認済みかどうか」列はエクスポートされず、一致する CSV ファイルだけがインポートされます。

第 7 章 フォームの作成および管理

フォームとは、オブジェクトに関する情報を収集する属性フィールドの集合です。テンプレートを作成するときに、その中に入れるフォームを選択します。追加される各フォームは、ユーザーがそのテンプレートを使用して作成するオブジェクト・インスタンスの「サマリー」タブの別個のタブまたはセクションになります。

フォームは、「管理設定」の「フォーム定義」リスト・ページで作成および管理します。

ターゲット・セル・スプレッドシートについて

ターゲット・セル・スプレッドシート (TCS) は、キャンペーンのターゲット・セルおよびコントロール・セルを定義するためにユーザーが入力する必要がある情報のタイプを指定する、編集可能なグリッドです。ターゲット・セル・スプレッドシートは、IBM Unica Marketing Operations-Campaign 統合が有効になっているときに使用します。TCS の列は、それぞれ情報の特定のアイテムを定義します。各列は属性に対応しています。

TCS には、Campaign に自動的に渡されるデフォルト属性が入っています。これらのデフォルト属性に加えて、カスタム属性をいくつでも作成し、追加することができます。

セル属性とグリッド属性

TCS には、IBM Unica Campaign に渡される属性 (セル属性) と、IBM Unica Marketing Operations だけに表示される属性 (グリッド属性) を含めることができます。

セル属性は、Campaign に渡す必要がある情報に使用します。例えば、出力リスト、コンタクト履歴、またはレポートに含める属性の値は、セル属性として作成しなければなりません。

グリッド属性は、Campaign では必要のない、説明、計算、およびデータに使用します。

ターゲット・セル・スプレッドシートとフォーム

TCS をフォームで作成します。(フォームには、TCS に加えて、他の属性を含めることができます。) TCS グリッド・コンポーネントをフォームに配置すると、そのフォームにはデフォルト・セル属性が入ります。デフォルト属性は削除できません。

セル属性データの転送

デフォルト属性の情報は、ユーザーがフローチャートのセルを TCS の行にリンクしたときに、自動的に Campaign に渡されます。カスタム・セル属性は、Campaign で、コンタクト・プロセスの IBM Unica Campaign 定義項目として自動的に使用可

能になります。定義項目について詳しくは、「IBM Unica Campaignユーザー・ガイド」を参照してください。

ターゲット・セル・スプレッドシートとテンプレート

キャンペーン・プロジェクト・テンプレートには、TCS を 1 つだけ含めることができます。

デフォルト・セル属性

デフォルト・セル属性は、すべてのターゲット・セル・スプレッドシートに表示されます。これらの属性は、「管理設定」の「共有属性」ページ上のセル属性のリストには表示されません。

表 17. デフォルト・セル属性

名前	TCS の公開に必要な値	説明
セル名	はい	テキスト項目
セル・コード	いいえ	テキスト項目
説明	いいえ	テキスト項目
制御セルかどうか	はい	「はい」と「いいえ」のドロップダウン・リスト
制御セル	いいえ	制御セルのドロップダウン・リスト
指定済みオファー	いいえ	1 つ以上のオファーまたはオファー・リストを選択するために使用できる選択コントロール
承認済みかどうか	いいえ	「はい」と「いいえ」のドロップダウン・リスト。この列は、対応するキャンペーン・プロジェクト・テンプレートで「承認が必要」がチェックされている場合のみ表示されます。
フローチャート	いいえ	セルが使用されるフローチャートの名前を表示する、読み取り専用項目
前回実行日	いいえ	このセルを含むフローチャートが前回実行された日時を表示する、読み取り専用項目
実数	いいえ	このセルの前回の実行カウント (セル内の一意のオーディエンス ID のカウント) を表示する、読み取り専用項目
実行タイプ	いいえ	このセルを含むフローチャートの前回の実行の実行タイプ (本番またはテストのフローチャート、ブランチ、またはプロセス・ボックス) を示す、読み取り専用項目

デフォルト・セル属性では、以下のプロパティのみ編集できます。

- 表示名
- 説明
- ヘルプ・テキスト
- ソート可能
- ソート・タイプ
- 調整

「フォーム定義」リスト・ページ

「フォーム定義」リスト・ページには、システムに定義されているすべてのフォームが表示されます。各フォームについて、以下の列が表示されます。

表 18. 「フォーム定義」リスト・ページの列

列	説明
名前	IBM Unica Marketing Operations で使用するためのフォームの表示名と説明。
テーブル	ユーザーがフォーム属性に対して入力した値を格納するデータベース・テーブルの名前。
使用者	このフォームを使用するテンプレートのリスト。
アクション	この列には、以下に示すフォーム用のアクションのいずれかを表すアイコンが表示されます。 <ul style="list-style-type: none">「公開」アクションは、オブジェクト・テンプレート内でフォームを使用できるようにします。フォームが公開されると、変更されるまで「無効化」が表示されます。「無効化」アクションは、テンプレートの作成時にこのフォームが「タブの追加」リストに表示されないようにします。フォームを無効にしても、既存のテンプレートは変更されません。フォームが無効になると、「有効化」が表示されます。「有効化」アクションは、テンプレートの作成時にこのフォームを「タブの追加」リストで選択可能にします。
削除/元に戻す	フォームが最後に公開されてから行われた変更を元に戻すには、「元に戻す」をクリックします。非公開の変更が存在しない場合、このリンクは「削除」に変わります。 フォームを削除するには、「削除」をクリックします。このリンクは、どのテンプレートでも使用されていないフォームの場合のみ有効です。
エクスポート	フォームの最新の公開バージョンをエクスポートする場合にクリックします。
コピー	フォームのコピーを作成する場合にクリックします。
管理	フォームのロックアップ値を管理する場合にクリックします。

このリスト・ページには、以下のリンクが表示されます。

表 19. 「フォーム定義」リスト・ページのリンク

リンク	説明
新規フォーム作成	フォーム・エディターを開いてフォームを作成する場合にクリックします。
フォームのインポート	システムにインポートするフォームを選択する場合にクリックします。

フォームの作成

IBM Unica Marketing Operations でフォームを作成する前に、それを紙面上またはスプレッドシートで設計する必要があります。

各ページに表示するフィールド、それらをグループ化する方法、それらに付ける名前、およびそれらの保管場所を検討するようにしてください。拡張する対象には、Marketing Operations ユーザー・インターフェース (つまり、表示するフィールド) だけでなく、すぐに使用可能なシステム・テーブルも含まれます。

IBM Unica Marketing Operations により、ユーザーがフォームに入力するデータを保管するデータベース・テーブルと列が作成されますが、テーブルと列の名前を指定する必要があります。テーブルは、フォームの公開時に作成されます。ユーザーがフォームに情報を入力するときにルックアップ・テーブルから値を選択するようにする場合は、管理者がルックアップ・テーブルを手動で作成する必要があります。

複数のフォームで使用する属性についても検討してください。これらは、フォームを作成する前に、共有属性として作成する必要があります。

フォームを作成する方法

1. 「設定」 > 「Marketing Operations 設定」をクリックします。
2. 「その他のオプション」の下で、「**テンプレート構成**」をクリックします。
3. 「テンプレート・コンポーネント (Template Components)」で、「**フォーム**」をクリックします。
4. 「フォーム定義」画面で、「**新規フォーム作成**」をクリックします。フォーム・エディター・インターフェースが表示されます。このインターフェースの操作について詳しくは、99 ページの『フォーム・エディター・インターフェース』を参照してください。
5. 「フォーム・プロパティ」タブに入力して、「**変更の保存**」をクリックします。

「要素の追加 (Add an Element)」タブが表示されます。

6. 前に定義された共有属性をこのフォームで使用するには、「**共有属性のインポート**」をクリックしてから、「**カスタム属性**」リストでその属性を選択します。
7. このフォームのみにローカル属性を追加するには、「**新規カスタム属性の作成**」をクリックします。
8. フォームに追加する要素と属性を「要素の追加 (Add an Element)」タブからフォーム設計領域にドラッグします。
9. 「**保存して終了**」をクリックしてフォームを保存し、「**フォーム定義**」ページに戻ります。

TCS を作成するには

TCS を作成する前に、そこに含めるすべてのカスタム・セル属性を作成する必要があります。セル属性は IBM Unica Campaign にマップされ、共有属性としてのみ作成できます。

1. 「設定」 > 「Marketing Operations 設定」を選択します。
2. 「その他のオプション」の下で、「**テンプレート構成**」をクリックします。
3. 「テンプレート・コンポーネント (Template Components)」で、「**フォーム**」をクリックします。

4. 「フォーム定義」画面で、「新規フォーム作成」をクリックします。
5. 「フォーム・プロパティ」タブに入力して、「変更の保存」をクリックします。「要素の追加 (Add an Element)」タブが表示されます。
6. 「新しいグリッドの作成」をクリックします。
7. 「属性タイプ」項目で、ドロップダウン・リストから「編集可能なグリッド」を選択します。
8. 「TCS」チェック・ボックスを選択します。
9. 残りのオプションを入力して、「保存して終了」をクリックします。

TCS のグリッド・コンポーネントが、「カスタム属性」リスト・ボックスの「フォーム属性」リストに表示されます。

10. TCS のグリッド・コンポーネントを選択し、それをフォーム上のグループ・ヘッダーにドラッグします。

デフォルト・セル属性がグリッドに表示されます。

11. 必要な属性を TCS に追加します。次のいずれかを行うことができます。
 - カスタム・セル属性をインポートして、それを TCS に追加し、IBM Unica Campaign に渡される追加の列を作成します。
 - グリッド属性を作成またはインポートして、それを TCS に追加し、IBM Unica Marketing Operations でのみ表示される追加の列を作成します。
12. 「保存して終了」をクリックして TCS を保存し、「フォーム定義」リスト・ページに戻ります。

共有属性をインポートする方法

使用可能になっている属性のみがインポート可能です。

1. 共有属性を使用するフォームを開きます。
2. 「要素の追加 (Add an Element)」タブで、「共有属性のインポート」をクリックします。

「共有属性」ダイアログ・ボックスが表示されます。

3. 左側のリストで、インポートする属性を選択し、右向きの矢印をクリックして「選択した属性」リストに移動します。
4. 「インポートして閉じる」をクリックします。

フォーム・エディター・インターフェース

フォーム・エディターは、フォームの作成または編集時に表示されます。詳しくは、98 ページの『フォームを作成する方法』を参照してください。

フォーム・エディターは、フォーム設計領域 (左側) と一連のタブ (右側) で構成されています。フォーム設計領域には、フォームの現在の内容が表示されます。右側のタブを使用して、フォームとその属性の情報を入力します。要素をクリックしてドラッグすることで、フォームに追加することができます。

右側には 2 つのタブがあります。「フォーム・プロパティ」タブには、以下のフィールドが含まれます。

表 20. フォーム・エディター・インターフェース:「フォーム・プロパティ」タブ

フィールド	説明
フォーム名	IBM Unica Marketing Operations で使用するフォームの名前。
データベース・テーブル	ユーザーがフォームのフィールドに入力する回答が保管されるデータベース・テーブルの名前。 注: フォームとそのフォーム内のグリッドの両方に、同じデータベース・テーブルを使用することはできません。
フォームの説明	フォームについての説明。このテキストは、「フォームの説明」ページのフォーム名の下に表示されます。

「要素の追加 (Add an Element)」タブには、以下の 2 つのリスト・ボックスが含まれます。

- 「一般要素」リスト・ボックスには、フォーム要素 (関連した属性のセットを識別するグループ・ヘッダーなど) が含まれます。
- 「カスタム属性」リスト・ボックスには、フォームに使用できるさまざまな属性のリストが含まれます。

このタブには、以下のリンクも含まれます。

表 21. フォーム・エディター・インターフェース:「要素の追加 (Add an Element)」タブ上のリンク

リンク	説明
新規カスタム属性の作成	クリックすると「新規カスタム属性の作成」ダイアログ・ボックスが表示され、ここでローカル属性を作成できます。
新しいグリッドの作成	クリックすると「グリッドの作成 (Create a Grid)」ダイアログ・ボックスが表示され、編集可能グリッドまたは読み取り専用グリッドを作成できます。
選択した属性の削除	クリックすると、「カスタム属性」リスト・ボックスで選択した属性が削除されます。
共有属性のインポート	クリックするとダイアログ・ボックスが表示され、以前に定義して有効にした共有属性を選択してインポートし、このフォームで使用することができます。

ローカル属性の作成または共有属性のインポートの後で、それらをフォームに追加することができます。要素または属性をフォームに追加するには、それをクリックしてフォーム設計領域内のグループのヘッダーの直下にドラッグします。

要素または属性をフォームに追加したら、それをクリックして、その設定値を表示または編集します。フォームの要素または属性をクリックすると、現行値を含むポップアップが表示され、右側のタブが覆われます。このポップアップには、選択したグループのヘッダーや属性をこのフォームに実装する方法を指定できる「編集」リンクが含まれます。詳しくは、101 ページの『「属性グループの編集」画面』または 125 ページの『属性参照』を参照してください。

属性グループ

フォームの各属性またはテーブルは、グループ内になければなりません。グループを使用することにより、フィールドをエンド・ユーザー向けに論理的に編成できます。グループを使用して、1 列の領域と 2 列の領域の両方を持つフォームを作成することもできます。

グループのヘッダーを表示できますが、ヘッダーは必須ではありません。

属性グループを作成する方法

フォームまたはフォーム上のグリッド・コンポーネントにグループ要素を直接配置して、関連する属性セットを識別することができます。

1. 属性グループを作成するフォームを開きます。
2. 「要素の追加 (Add an Element)」タブをクリックします。
3. 「一般要素」リストの「属性グループのヘッダー」をクリックし、それをフォーム設計領域にドラッグします。

赤いカーソルは、フォーム上でのグループのヘッダーの配置を示します。

4. グループのヘッダーをクリックして、グループ名の現在の設定を示すポップアップを表示します。
5. 「属性グループの編集」をクリックしてダイアログを開きます。このダイアログで、表示名を変更し、他のオプションを指定できます。
6. グループの編集を完了したら、「保存して終了」をクリックしてウィンドウを閉じ、フォームに戻ります。

「属性グループの編集」画面

フィールド	説明
グループの内部名	内部で使用されるグループの一意の名前。スペースや特殊文字を使用しないでください。
グループの表示名	フォームで使用されるグループのヘッダー。スペースも UTF-8 文字も使用できます。
説明	グループの説明。
グループ見出しを表示	グループの表示名をフォームに表示する場合に選択します。グループの表示名をフォームに表示しない場合は、クリアしてください。
グループ・レイアウト	属性をグループに表示する方法。「1 列」または「2 列」を選択してください。

グリッドの作成

グリッドとは、データをスプレッドシートのように表示したものです。グリッドは、編集可能または読み取り専用のいずれかです。編集可能なグリッドは情報を入力するユーザー向けですが、読み取り専用グリッドにはこれまでに入力された情報が表示されます。

グリッドには、以下の 2 つの部分があります。

- 回答の保存先やデータの読み取り元となるデータベース・テーブルを定義するグリッドのコンポーネント
- テーブルの各列を定義する複数のグリッド属性

グリッド・コンポーネントを作成するときに、グリッドを編集可能または読み取り専用のいずれにするかを決定します。ある形式ではグリッドを編集可能に、別の形式では読み取り専用にする場合は、同じ属性を含むグリッド・コンポーネントを2つ作成する必要があります。

グリッドに「属性グループのヘッダー」を使用して、属性をグリッド内でグループ化することができます。グリッドには、グループ化された属性とグループ化されていない属性を混在させることができます。

編集可能グリッドを作成する方法

1. グリッドを作成するフォームを開きます。
2. 「要素の追加 (Add an Element)」タブをクリックし、「グリッドの作成 (Create Grid)」をクリックします。
3. 「属性タイプ」ドロップダウン・リストから、「編集可能グリッド表示」を選択します。
4. テーブルに関する情報を入力し、「保存して終了」をクリックします。

「要素の追加 (Add an Element)」タブの「カスタム属性」リスト・ボックス内の「フォーム属性」リストに、そのグリッド・コンポーネントが表示されます。

5. テーブルを含めるグループがそのフォームにまだ含まれていない場合は、**属性グループのヘッダー**を「一般要素」リスト・ボックスからフォーム設計領域にドラッグします。
6. グリッドのグリッド・コンポーネントを「一般要素」リスト・ボックスからそのグループにドラッグします。
7. グリッドに含めるグリッド属性を「カスタム属性」リスト・ボックスからそのグリッド・コンポーネントの名前にドラッグします。

属性の順序を変更するには、属性をクリックして移動アイコンを表示し、移動アイコンを目的の場所にドラッグします。

グリッド属性の一部をグループ化する場合は、**属性グループのヘッダー**をグリッドにドラッグしてから、グリッド属性をグループのヘッダーにドラッグします。

8. 「保存して終了」をクリックしてフォームを保存し、「フォームの説明」リスト・ページに戻ります。

「グリッドの作成 (Create a Grid)」ウィンドウ

表 22. 「グリッドの作成 (Create a Grid)」ウィンドウのフィールド

フィールド	説明
属性タイプ	作成するグリッドのタイプ。 <ul style="list-style-type: none"> 「編集可能グリッド表示」を選択して、編集可能グリッドを作成します。 「行の切り捨て表示」を選択して、読み取り専用グリッドを作成します。このグリッドでは、長すぎてセルに収まらないテキストが切り捨てられます。 「行の折り返し表示」を選択して、読み取り専用グリッドを作成します。このグリッドでは、長すぎてセルに収まらないテキストが、そのセル内で続けて 2 行目に表示されます。 「2 行シフト表示」を選択して、読み取り専用グリッドを作成します。このグリッドでは、長すぎてセルに収まらないテキストが、そのセル内で続けて 2 行目にインデントされて表示されます。
TCS	キャンペーン・プロジェクトに使用するターゲット・セル・スプレッドシートを作成している場合を除き、チェック・ボックスのチェックは外したままにします。(このオプションは、編集可能グリッドにのみ使用できます。)
属性内部名	グリッド用のファイルを作成するとき使用する名前。
属性表示名	フォームに表示されるこのグリッドの名前。
データベース・テーブル	ユーザーがグリッドに入力するデータが含まれているデータベース・テーブル (編集可能グリッドの場合)、またはグリッドに表示されるデータが含まれているデータベース・テーブル (読み取り専用グリッドの場合)。 注: グリッドのデータベース・テーブルは、フォームのデータベース・テーブルと同じではありません。
テーブル・キー列	編集可能グリッドの場合は、親 ID (グリッドを保持するプロジェクトまたはマーケティング・オブジェクトの ID) が含まれる列の名前。複数の編集可能グリッド (ターゲット・セル・スプレッドシートを含む) で同じデータベース・テーブルが使用される場合、これらのグリッドでは同じテーブル・キー列を使用する必要があります。 <ul style="list-style-type: none"> 既存の編集可能グリッドの読み取り専用バージョンの場合は、<code>uap_grid_row_id</code> を使用します。 既存の編集可能グリッドに関連していない読み取り専用グリッドの場合は、表示するデータが含まれているテーブルの行を一意に識別する列の名前。 注: グリッドを作成した後は、テーブル・キー列を変更しないでください。
キー列タイプ	テーブル・キー列のデータ型。
1 ページの行数	フォームの 1 ページに表示される行数。この値は、100 より大きくすることはできません。
データ投稿 URL	ユーザーが選択したデータの送信先サーバーの URL。(このオプションは、編集可能グリッドには使用できません。)

表 22. 「グリッドの作成 (Create a Grid)」ウィンドウのフィールド (続き)

フィールド	説明
親 ID でフィルター	このチェック・ボックスを選択して、読み取り専用グリッドをフィルターし、現在のプロジェクトまたはマーケティング・オブジェクトからのエントリーのみを表示します。(このオプションは、編集可能グリッドには使用できません。)
親 ID 列	データを読み取り専用グリッドとして表示する編集可能グリッドのグリッド・コンポーネントの「テーブル・キー列」の値。(このオプションは、「親 ID でフィルター」チェック・ボックスが選択されている場合にのみ表示されます。)
エクスポート・リンクを表示	このボックスを選択して、ユーザーがグリッド・データまたはデータ選択項目をエクスポートできるようにします。
表示リンクを表示	このチェック・ボックスを選択して、ユーザーがグリッドの表示オプションを設定できるようにします。(このオプションは、編集可能グリッドには使用できません。)
リンクごとにグループを表示	このチェック・ボックスを選択して、ユーザーがグリッドの行をグループ化する基準となる列を指定できるようにします。(このオプションは、編集可能グリッドには使用できません。)

既存の編集可能グリッドを読み取り専用グリッドとして表示

編集可能グリッドは、読み取り専用グリッドとして表示できます。

読み取り専用グリッドのグリッド・コンポーネントには、以下のプロパティが必要です。

- 属性タイプは、「行の切り捨て表示」、「行の折り返し表示」、または「2 行シフト表示」でなければなりません。
- データベース・テーブルは、編集可能グリッドのグリッド・コンポーネントのデータベース・テーブルと同じでなければなりません。
- テーブル・キー列は `uap_grid_row_id` でなければなりません。

注: IBM Unica Marketing Operations は、すべての編集可能グリッドに対してこの列を自動的に作成します。

- 読み取り専用グリッドに、ユーザーがこのオブジェクト (例えば、このプロジェクト) のグリッドに入力する値だけを表示する必要がある場合は、「親 ID でフィルター」チェック・ボックスを選択し、読み取り専用グリッド・コンポーネントの「親 ID 列」フィールドに、編集可能グリッド・コンポーネントの「テーブル・キー列」の値を入力します。

それ以外の場合、読み取り専用グリッドには、このグリッドを使用して入力されたすべてのオブジェクトのすべての値が表示されます。

注: 編集可能グリッドが含まれているフォームは、読み取り専用グリッドを作成する前に公開する必要があります。それ以外の場合、読み取り専用グリッドが含まれているフォームを保存することはできません。編集可能グリッドと読み取り専用グリッドを同じフォーム上に配置する場合は、編集可能グリッドを作成し、フォームを公開してから、読み取り専用グリッドを作成する必要があります。

読み取り専用グリッドに含まれている属性は、編集可能グリッドに含まれている属性と完全に一致する必要があります。この要件は、以下の 3 つの方法のいずれかで実現することができます。

- 編集可能グリッドが含まれているフォームをコピーします。編集可能グリッドのグリッド・コンポーネントを削除し、読み取り専用グリッドのコンポーネントを作成して、グリッド属性を新規コンポーネント上にドラッグします。グリッド属性を再作成する必要はありません。
- 編集可能グリッドを作成して、読み取り専用グリッドの作成時に属性をフォーム・エディターにインポートできるようにする場合は、共有属性を使用します。
- 読み取り専用グリッドを作成するときに、フォーム・エディターで属性を再作成します。属性プロパティは、元の属性と完全に一致していなければなりません。

注: 1 つ例外があります。それは、読み取り専用グリッドに単一選択や複数選択のオブジェクト参照を含めることはできないということです。編集可能グリッドにこれらのタイプの属性が含まれている場合は、これらを単一リスト・オブジェクト参照属性に置き換える必要があります。

グリッドをリストとして表示

グリッドを参照し、それを別のタブにリストとして表示することができます。ただし、これを正しく行うには、Marketing Operations でグリッドを保管する方法を理解している必要があります。

- リスト・ビューは読み取り専用で、指定したデータベース・テーブルのすべての行が表示されます。
- グリッド・ビューは読み取り/書き込みで、グリッド内の行はグリッドの親 (そのグリッドを保持するプロジェクトまたはマーケティング・オブジェクト) に「属して」います。

したがって、例えば、同じテンプレートから 2 つのプロジェクトを作成した場合、両方のプロジェクト内の対応するグリッドによって追加される行は、同じデータベース・テーブルに追加されますが、各プロジェクトのグリッドからアクセスできるのは、その所有するデータだけです。

これを行うには、グリッド・データを保持するデータベース・テーブルに、2 つの列 (1 つは行を一意に識別するもの、もう 1 つは親 ID (グリッドが含まれているプロジェクトまたはマーケティング・オブジェクトの ID) を識別するもの) がなければなりません。

グリッド・テーブルに設定するキー列 (グリッドのデータを保持する TVC コンポーネントを追加する場合は、行の親 ID が保持されます。単一のグリッドでは、すべての行でこの列の値が同じものになっています。このため、これによりデータの行を一意に識別することはできません。

フォーム・エディターにより、グリッドごとに `uap_grid_row_id` という列が自動生成されます。リスト・ビューで必要になるのは、行を一意に識別する列だけです。したがって、リスト・ビューでグリッドと同じテーブルを使用する場合は、グリッ

ド・データ・テーブルを指定したときに指定したキー列ではなく、uap_grid_row_id をキー列として指定する必要があります。

説明すると、以下の例のようになります。

- 展示会テンプレートに「スタッフ」というタブが含まれているとします。「スタッフ」タブにはグリッドが含まれています。
- 2つの展示会プロジェクト TRS001 と TRS002 が作成されているとします。
- ユーザーが「スタッフ」グリッドに TRS001 と TRS002 の両方のデータを入力したとします。
- TRS001 と TRS002 が、それぞれ 121 と 122 というオブジェクト ID を持っているとします。

これら 2 つのグリッドのデータを保持するデータベース・テーブルは、次のようなものになります。

	object_id	uap_grid_row_id	manager	emp_id	emp_name	salary
▶	121	118	Y	1001	Mary Manager	45000
	121	119	N	1002	Art Artiste	25000
	121	120	N	1003	Larry Lawyer	200000
	121	121	N	1004	Carl Contributor	25000
	121	122	Y	1005	Charlie CEO	1000000
	122	123	N	5000	Huey Lewis	25000
	122	124	Y	5001	Isaac Bashevis Sing	75000
	122	125	N	5002	Carl Sagan	100000
	122	126	Y	5003	Emiliani Torrini	300000
*						

最初の数行は TRS001 のグリッドに属しています。最後の数行は TRS002 のグリッドに属しています。

各プロジェクトでは、その所有する部分のデータのみがこのテーブルに表示されます。ただし、このテーブルを参照に使用するリストがある場合、そのリストには、以下のようにテーブルのすべての行が表示されます。

TVCListStaff:

[View](#) | [Export Data](#)

<input type="checkbox"/>	Employee ID	Name	Base Pay	Manager ?
<input type="checkbox"/>	1001	Mary Manager	\$45,000.00	Yes
<input type="checkbox"/>	1002	Art Artiste	\$25,000.00	No
<input type="checkbox"/>	1003	Larry Lawyer	\$200,000.00	No
<input type="checkbox"/>	1004	Carl Contributor	\$25,000.00	No
<input type="checkbox"/>	1005	Charlie CEO	\$1,000,000.00	Yes
<input type="checkbox"/>	5000	Huey Lewis	\$25,000.00	No
<input type="checkbox"/>	5001	Isaac Bashevis Singer	\$75,000.00	Yes
<input type="checkbox"/>	5002	Carl Sagan	\$100,000.00	No
<input type="checkbox"/>	5003	Emiliani Torrini	\$300,000.00	Yes

列名 `uap_grid_row_id` は予約されているため、グリッドの列を作成するときは、これを列名として使用しないでください。

リストをフィルターして、その所有オブジェクト (プロジェクトまたはマーケティング・オブジェクト) のグリッド・エントリーだけが表示されるようにすることができます。前述の例の続きで、以下の 2 つのタブを持つプロジェクトを作成します。

- **スタッフ・フォーム (Staff Form):** スタッフのメンバーの入力と編集に使用するグリッドが含まれます。
- **スタッフ・リスト (Staff List):** 「スタッフ・フォーム (Staff Form)」グリッドからのエントリーがリストとして表示されます。

現行プロジェクトからのエントリーだけがリストに表示されるようにするには、リストの親 ID にフィルターを適用します。

リストの TVC コンポーネントを作成する場合は、以下の値を設定します。

- **親 ID でフィルター:** 選択されています
- **親 ID 列:** `object_id` (この例で先に示したデータベース・テーブルを参照してください)。この値は、グリッドの TVC コンポーネントの「**テーブル・キー列**」の値に一致していなければなりません。

マーケティング・オブジェクトのリストの作成

以下の例では、マーケティング・オブジェクト参照のリストを表示する方法について説明します。

シナリオ

以下のような、4 つの従属するマーケティング・オブジェクトが関連付けられているプロジェクトがあります。

- 2 つのパンフレット
- 1 つのメーラー
- 1 つのリソース・バンドル

プロジェクトを作成した後、参加しているどのマーケティング・オブジェクトが作成済みであるかを定期的に検査して確認します。

この例では、Plan でこのシナリオを作成するために必要なステップについて説明します。

前提事項

Plan には以下の項目があります。

- 「**イベント計画 (Event planning)**」という名前のプロジェクト・テンプレート。
- パンフレット、メーラー、およびリソース・バンドルのマーケティング・オブジェクト・テンプレート。

タスク

このシナリオを実装するには、以下のタスクを実行します。

1. フォーム・エディターを使用して、以下のフォームを保持する仕様ファイルを作成します。

- カスタム・テキスト属性「**発信プロジェクト (Originating Project)**」を保持するフォームを作成します。

参加するマーケティング・オブジェクトを作成したら、このフィールドに、発信プロジェクトのプロジェクト・コードの値を入力します。

- カスタム・タブ「**参加するマーケティング・オブジェクト (Participating Marketing Objects)**」を作成します。

カスタム・タブの場合は、単一のオブジェクト参照属性をフォームに追加します。この属性を構成するには、まずカスタム・ビューを作成する必要があります。

これらのフォームの作成について詳しくは、『カスタム・タブと属性の作成』を参照してください。

2. 『カスタム・ビューの作成』の説明に従ってカスタム・ビューを作成します。
3. Plan にフォームをロードし、以下の該当するテンプレートにフォームを追加します。
4. 以下のオブジェクトを作成します。
 - イベント計画プロジェクト・テンプレートから作成されるプロジェクト「**EventStuff001**」。
 - パンフレット「**Brochure001**」、およびその発信プロジェクトを「**EventStuff001**」のプロジェクト・コードに設定します。
 - メーラー「**Mailer001**」、およびその発信プロジェクトを「**EventStuff001**」のプロジェクト・コードに設定します。

「**EventStuff001**」の「**参加するマーケティング・オブジェクト (Participating Marketing Objects)**」タブを開くと、以下のような、関連づけられたマーケティング・オブジェクトの詳細が表示されます。

カスタム・タブと属性の作成

このリストを保持できるタブが必要です。このタブを Plan のプロジェクト・テンプレートに追加します。さらに、プロジェクト・コードを保持するカスタム・フォームを定義する必要があります。カスタム・ビューは、同じデータベース・テーブルを使用するこれら 2 つのフォームによって異なるため、このセクションでこれらとともに作成します。

1. フォーム・エディターで、ともに同じデータベース・テーブルを使用する 2 つのフォームを保持する仕様ファイルを作成します。
2. 以下のようにして、仕様のデータベース・テーブルを作成します。
3. 以下のようにして、2 つのフォームを作成します。
4. リストの TVC コンポーネントに対して、以下を指定します。

5. 単一リスト・オブジェクト参照というタイプの TVC 属性を作成します。「オブジェクト参照プロパティ」セクションで、以下を指定します。
6. TVC コンポーネントというタイプのフォーム属性を作成し、TVC コンポーネントをステップ 3 で設定された TVC 属性に設定します。
7. プロジェクト・コードをテキスト属性として保持するフォーム属性を作成します。この属性に対して、以下を指定します。
8. フォームをエクスポートし、仕様ファイルを保存して閉じます。
9. SQL スクリプトを実行して、dyn_mo_table とその列を作成します。

カスタム・ビューの作成

通常、リスト・ビューにオブジェクト参照を追加する前に、カスタム・ビューを作成する必要があります。この例では、プロジェクトのマーケティング・オブジェクトを参照します。この場合、マーケティング・オブジェクトには、プロジェクト・コードを保持するテキスト・フィールドが含まれています。

この例では、3 つのテーブルを使用して、ビュー (uap_projects、uap_mktgobject) とカスタム・テーブル (dyn_mo_table) を作成します。このビューの名前は proj_mos_by_proj_code です。

前提条件となるカスタム・テーブル

ビューを作成する前に、カスタム・テーブル dyn_mo_table が作成されていることと、その中に以下の列が含まれていることを確認してください。

- po_id: キー列 (フォームの「DB テーブル (DB Tables)」タブに指定されます)
- PID: テキスト列 (「フォーム属性 (Forms Attribute)」タブで作成され、プロジェクト・コードがテキストとして保持されます)

カスタム・ビューの詳細

ビューには、以下の列が含まれます。

- uap_projects の proj_code および project_id
- uap_mktgobject の name、comp_type_name、および mktg_object_id

ビューを作成するための実際の SQL コードは、次のようになります。

```
create view proj_mos_by_proj_code (
  asscProj, MOName, ProjID, mo_id, comp_type_name) As
select PROJ.name as asscProj, MO.name as MOName,
PROJ.project_id as ProjID, MO.mktg_object_id as mo_id,
MO.comp_type_name as comp_type_name
from uap_projects PROJ, dyn_mo_table MOT, uap_mktgobject MO
where PROJ.proj_code = MOT.PID and MOT.po_id = MO.mktg_object_id
```

次の表に、このデータベース・ビューの列名といくつかのサンプル行を示します。

asscProj	MOName	ProjID	mo_id	comp_type_name
BRAIN-001	RB-005	101	147	クリエイティブ
BRAIN-001	RB-006	101	148	クリエイティブ
イベント水平線	CampaignMAIL01	149	145	クリエイティブ
イベント水平線	CampaignBRO01	149	142	クリエイティブ

asscProj	MOName	ProjID	mo_id	comp_type_name
イベント水平線	CampaignRB01	149	143	クリエイティブ
イベント水平線	CampaignRB02	149	144	クリエイティブ

フォームのエクスポート

エクスポートできるのは、公開されたフォームだけです。最後に公開されてからフォームに加えられた変更は、いずれもエクスポートされたフォームには含まれません。フォームをエクスポートするには、フォームがインポートされるインストール済み環境で使用されるデータベース・アプリケーションの知識が必要です。フォームをエクスポートするときに、データベース・アプリケーションを指定します。

フォームをエクスポートする際に、IBM Unica Marketing Operations により、フォーム・アーカイブ zip ファイルが作成されます。このファイルには、以下が含まれます。

- フォームのマップ・ファイル (XML 形式)
- 指定のデータベース・アプリケーションの作成スクリプト
- 指定のデータベース・アプリケーションのドロップ・スクリプト
- 翻訳が存在する各ロケールのプロパティ・ファイル
- フォーム上の単一選択データベース属性または複数選択データベース属性によって使用される各ルックアップ・テーブルの作成スクリプト、ドロップ・スクリプト、および挿入スクリプト

フォームをエクスポートする方法

フォームをエクスポートするには、フォームのインポート先システムで使用されているデータベース・アプリケーションを知っておく必要があります。

1. 「設定」 > 「Marketing Operations 設定」をクリックします。
2. 「テンプレート構成」をクリックします。
3. 「フォーム」をクリックします。
4. エクスポートするフォームの「エクスポート」リンクをクリックします。
5. このフォームをインポートする Marketing Operations インストール済み環境で使用されているデータベース・アプリケーションを選択します。
6. 「エクスポート」をクリックします。

フォームのインポート

フォームをインポートできるのは、IBM Unica Marketing Operations 管理者だけです。

フォームは、以下の 2 つの方法のいずれかでインポートできます。

- フォーム・アーカイブ (zip) ファイルをインポートする
- フォーム (xml) ファイルをインポートする

フォーム・アーカイブ (zip) ファイルをインポートすると、フォーム、フォームのあらゆるローカライズされたバージョン、およびフォームの属性が参照するルックアップ・テーブルに必要なデータベース・スクリプトがインポートされます。

フォーム (xml) ファイルをインポートすると、フォームのみがインポートされます。フォームでは、それが作成されたロケールの言語が使用されます。フォーム属性がルックアップ・テーブルを使用する場合は、ルックアップ・テーブルを手動で作成または編集する必要があります。

既にシステムに存在しているフォームの新しいバージョンをインポートできます。既存のフォームが非公開の場合は、古いバージョンが新しいバージョンに置き換えられます。既存のフォームが公開されている場合は、「フォーム定義」リスト・ページで、新しくインポートされたバージョンが古いバージョンの下にリストされ、「公開」アイコンが使用可能になります。フォームを再公開して、公開されたバージョンを新しいバージョンに置き換える必要があります。

フォームをインポートする方法

1. 「設定」 > 「Marketing Operations 設定」をクリックします。
2. 「テンプレート構成」をクリックします。
3. 「フォーム」をクリックします。
4. 「フォームのインポート (Import Form)」をクリックします。

「フォームのアップロード」ダイアログ・ボックスが表示されます。

5. フォーム・ファイルをインポートする場合は、フォームの名前を入力します。

フォーム名には英数字、スペース文字、および下線文字のみを使用してください。

フォーム・アーカイブをインポートする場合、Marketing Operations がアーカイブからフォーム名を取得します。

6. 以下のいずれかを選択します。
 - a. 「フォーム・アーカイブ」を選択して、フォーム・アーカイブの zip ファイルをインポートします。
 - b. 「フォーム・ファイル (Form File)」を選択して、フォームの xml ファイルのみをインポートします。
7. インポートする zip ファイルまたは xml ファイルを参照します。
8. 「続行」をクリックします。

フォーム・アーカイブ・ファイルをインポートしていて、そのフォームにルックアップ・テーブルを参照する属性が含まれている場合、Marketing Operations はルックアップ・テーブルをドロップするか、または作成/更新するかを尋ねます。

9. 希望するオプションを選択し、「続行」をクリックします。

フォームのインポートにおけるトラブルシューティング

このセクションでは、フォームをフォーム・エディターにインポートする際に発生する可能性があるいくつかの一般的なエラーを修正する方法について説明します。

エラー	解決策
フォーム名が重複している	フォーム名が、システム上の既存のフォーム名と同じ重複しています。フォーム・ファイルの名前を変更するか、新しいフォームを開いてフォーム・ファイルを再インポートしてください。
名前を使用できない	複数の <element> タグに同じ名前が付いています。<element> タグ内の重複している名前を変更するか、新しいフォームを開いてフォーム・ファイルを再インポートしてください。

フォームの公開

フォームは、公開されている場合には、テンプレートへの追加用にものみ使用できます。フォームは、編集するたびに再公開する必要があります。

フォームを公開する方法

1. 「設定」 > 「Marketing Operations 設定」をクリックします。
2. 「テンプレート構成」をクリックします。
3. 「フォーム」をクリックします。
4. 公開するフォームの「公開」リンクをクリックします。

「公開」リンクが使用可能でない場合、最後の公開以降、そのフォームは変更されていません。

コンピューター間でのフォームの移動

あるコンピューターからフォームをエクスポートし、別の IBM Unica Marketing Operations インストール済み環境にインポートすることにより、フォームをコンピューター間で移動することができます。例えば、フォームは、開発環境からテスト環境へ、さらにテスト環境から実動環境へと移動できます。

フォームのルックアップ値の管理

単一選択属性と複数選択属性は、値のリストをユーザーに提供し、ユーザーは、リストから 1 つ以上の値を選択します。属性のルックアップ値は以下のように管理します。

- データベース管理者と共に直接作業を行い、属性に関連付けられているルックアップ・テーブルで値の追加または削除を行います。
- 以下の説明に従い、「フォーム定義」画面でルックアップ値を無効にします。「フォーム定義」画面で値を無効にすると、データベースから値を削除せずに、値を無効にすることができます。複数のフォームで同じルックアップ・テーブルが参照される場合、「フォーム定義」画面で値を無効にすると、あるフォームでは値を無効にして、別のフォームでは同じ値を有効にすることもできます。

無効なルックアップ値に関する注意点

無効なルックアップ値については、以下のシステム動作に注意する必要があります。

- ルックアップ値のステータス（「有効」または「無効」）は、uap_lkup_manager システム・テーブルに保存されます。
- 既存のオブジェクトで選択された値を無効にすることができます。このオブジェクトにユーザーが再度アクセスすると、値の横に「無効」と表示されます。
- 検索基準を満たしている場合、無効な値も、拡張検索の結果に含まれます。無効な値には、値の横に「無効」というテキストが表示されます。
- 単一選択属性または複数選択属性を編集すると、その属性のすべての値のステータスがリセットされて「有効」になります。
- 値をフォームのデフォルトとして設定し、その後で無効にした場合、以下のような動作になります。
 - 無効になった値は、既存のオブジェクトで引き続き使用されます。
 - 既存のオブジェクトに再度アクセスし、そのオブジェクトのフォームの回答を変更する場合、無効な値が含まれているフィールドに対して別の値を選択する必要があります。

データベース・テーブルを変更せずにルックアップ値を無効にするには

1. 「設定」 > 「Marketing Operations 設定」をクリックします。
2. 「管理設定」画面で、「その他のオプション」の下にある「テンプレート構成」をクリックします。
3. 「フォーム」をクリックします。

「フォーム定義」リストのページが表示されます。
4. 編集したいルックアップ値が含まれているフォームの「管理」をクリックします。

「ルックアップ値の管理」ダイアログ・ボックスが表示されます。
5. 無効にしたい値の「有効化」チェック・ボックスをクリアします。

このチェック・ボックスをクリックすると、設定が切り替わります。チェック・マークの付いた値は有効になり、チェック・マークの付いていない値は無効になります。
6. 変更が完了したら、「変更の保存」をクリックします。

フォームのコピー

現在有効になっている、公開された任意のフォームをコピーできます。IBM Unica Marketing Operations は、最後に公開されたフォームのバージョンをコピーします。

コピーの名前は、「<form_name> のコピー」です。「<form_name> のコピー」が 50 文字を超えると Marketing Operations によりエラー・メッセージが表示されるので、コピーに新しい名前を指定する必要があります。

コピーのデータベース・テーブル名は、copy_of_<original_table_name> です。このテーブル名が既にデータベース内に存在している場合は、フォームを保存する前にそ

の名前を変更する必要があります。元のフォーム用に存在するローカライズされたプロパティ・ファイルは、いずれも新しいフォーム用にコピーされます。

フォームは、「フォーム定義」画面のフォームの行にある「コピー」アイコンをクリックしてコピーします。

フォームのローカライズ

所属する組織で複数の言語がサポートされている場合は、フォームを複数の言語で使用できるようにして、ユーザーが自分の言語でフォームを処理できるようにすることが可能です。フォームのローカライズは、そのフォームをエクスポートした後、サポートする必要があるロケールごとにプロパティ・ファイルを作成することにより行います。

フォームをエクスポートする際に、IBM Unica Marketing Operations により、フォーム・アーカイブ zip ファイルが作成されます。この中には、使用するロケールのフォームのフォーム・プロパティ・ファイルが含まれます。所属する組織でサポートされるロケールごとにプロパティ・ファイルのコピーを作成し、グループ名、フィールド名、説明、およびヘルプのヒントを各ロケールの該当する言語に翻訳することができます。フォームでルックアップ・テーブルが使用される場合に、データベースにルックアップ・テーブルのローカライズされたバージョンが含まれているときは、そのロケールの正しいルックアップ・テーブルを参照するように、ロケールのプロパティ・ファイルを編集することができます。

プロパティ・ファイル名

プロパティ・ファイル名は、次のような形式にする必要があります。

`<form_name>_<locale>.properties`

ここで、`<form_name>` はフォームの名前、`<locale>` はロケール・コードです。認識されるロケール・コードは、以下のとおりです。

コード	言語
de_DE	ドイツ語
en_GB	英語 (英国)
en_US	英語 (米国)
es_ES	スペイン語
fr_FR	フランス語
it_IT	イタリア語
ja_JP	日本語
ko_KR	韓国語
pt_BR	ポルトガル語
zh_CN	中国語

プロパティ・ファイルの例

```
columngroup.group1.header=group1
columngroup.group1.description=first group
columngroup.offer.header=offer
columngroup.offer.description=second group
columngroup.offer2.header=offer
columngroup.offer2.description=third group
column.business_unit_id.label=Business Unit
column.business_unit_id.message= Business Unit is a mandatory field
column.business_unit_id.helptip= Business Unit is used for
column.init_type_id.label= Initiative Type
column.init_type_id.message= Initiative Type is a mandatory field
column.offer_codes.label=Offer Code(s)
column.effective_date.label=Effective Date
column.drop_date.label=Drop Date
column.business_unit_id.lookuptable=lkup_business_unit
tvccolumngroup.group1.header=group1
tvccolumngroup.group1.description=group1 description
tvccolumngroup.group1.helptip=group1 helptip
tvccolumn.tvc_not_used_ref_1.label=Single Marketing Object
```

編集によるフォームのローカライズ

ロケールのフォームのローカライズは、そのロケールを自分のデフォルト・ロケールとして使用するユーザーがフォームを開き、手動で名前と説明を編集することによっても行うことができます。ユーザーがフォームを保存すると、Marketing Operations により、ユーザーが入力した翻訳が保存され、それらの翻訳がそのデフォルト・ロケールを使用する他のユーザーに対して表示されます。しかし、このプロセスには時間がかかるため、これは通常、フォームの数とサポートされるロケールの数が少ない場合にのみ推奨されます。

IBM Unica Marketing Operations による使用するプロパティ・ファイルの決定方法

ユーザーがフォームを表示する場合、Marketing Operations は、プロパティ・ファイルが存在する以下のリスト内で最初のロケールのプロパティ・ファイルを使用します。

1. ユーザーのロケール
2. システムのデフォルト・ロケール
3. フォームが作成されたロケール

フォームをローカライズする方法

フォームでルックアップ・テーブルを使用していて、それらのルックアップ・テーブルのローカライズ済みバージョンを用意する必要がある場合は、フォームをローカライズする前に、ローカライズされたテーブルを作成します。ローカライズされたテーブルの名前が必要です。

エクスポートできるのは、公開されたフォームだけです。

1. フォームをエクスポートします。
2. フォーム・アーカイブの zip ファイルからプロパティ・ファイルを抽出します。

3. 組織がサポートする各ロケールごとに、そのプロパティ・ファイルのコピーを作成します。
4. テキスト・エディターで各プロパティ・ファイルを開き、そのファイルの表示テキストを該当する言語に変換します。フォームでルックアップ・テーブルを使用していて、そのルックアップ・テーブルのローカライズ済みバージョンが存在する場合は、ルックアップ・テーブル名を、そのファイルのロケール用の対応するテーブルの名前に置き換えます。
5. 新規プロパティ・ファイルを、フォーム・アーカイブの zip ファイルに追加します。
6. フォームを Marketing Operations にインポートします。

フォームの新規バージョンが、エクスポートした公開済みバージョンの下に字下げして表示されます。「公開」アイコンが使用可能になります。

7. フォームを公開して、前に公開されていたバージョンをインポートしたバージョンに置き換えます。

プロパティ・ファイルからローカライズされたテキストがデータベースにアップロードされ、すべてのユーザーが使用できるようになります。

リスト選択項目のデータ投稿の有効化

管理者は、読み取り専用リストを作成する場合に、ユーザーがフォーム内のリンクをクリックすることでデータ選択項目を指定のサーバーに送信できるようにすることが可能です。ユーザーが「データの投稿」リンクをクリックすると、選択した行が新しいポップアップ・ウィンドウに表示されます。

データの投稿は、HTML POST メソッドに従い、名前と値のペアを使用して行われます。名前は列名で、値は選択した行の列の値です。ユーザーが複数の行を選択した場合、値のペアはコンマで区切られます。

例えば、あるリストに 2 つの列 (ID と名前) があり、データ投稿 URL が `http://serverRPT/testServlet` に設定されているとします。このリストの値は、以下のとおりであるとします。

表 23. リストの値の例

ID	名前
1	name1
2	name2
3	name3

ユーザーが最初と 3 番目の行を選択し、その後でデータを投稿すると、システムにより、次の HTML フォームが新しいウィンドウ内に生成されます。

```
<form name="lvcPost" method="POST"
  action="http://serverRPT/testServlet">
  <input type="hidden" name="ID" value="1,3">
  <input type="hidden" name="NAME" value="name1,name3">
</form>
```

投稿された列に複数のコンマ区切りの値が含まれている場合、これらの値は、投稿時に二重引用符 (“”) で囲まれます。投稿メソッドでは、通常、各列の値がコンマで区切られるので、引用符により、これらの値は単一の列に属していると識別されません。

既存のオブジェクトへのフォームの追加

既存のオブジェクト・テンプレートに新しいフォームを追加すると、その新しいフォームは、以前にそのテンプレートから作成したオブジェクトには表示されません。フォームのデータベース・テーブルを手動で編集し、新しいフォームが、指定のタイプ (例えば、すべてのプロジェクト) のすべてのオブジェクトに表示されるようにすることができます。

新しいフォームを既存のオブジェクトに表示するには、以下の SQL ステートメントを使用して、そのオブジェクト・タイプのすべてのオブジェクト ID を新しいフォームのデータベース・テーブルに挿入する必要があります。

```
INSERT INTO table_name (object_id) SELECT object_id
FROM object_system_table
```

ここで、

- *table_name* はフォームのテーブルの名前です
- *object_id* はオブジェクト・タイプのオブジェクト ID 列です
- *object_system_table* はオブジェクトのシステム・テーブルの名前です

このテーブルは、以下のような、各オブジェクト・タイプの ID 列とシステム・テーブル名を指定します

オブジェクト	ID 列	システム・テーブル
プロジェクト	project_id	uap_projects
プログラム	program_id	uap_programs
計画	plan_id	uap_plans
請求書	invoice_id	uap_invoices
マーケティング・オブジェクト	mktg_object_id	uap_mktgobject

例えば、「dyn_x」という名前のテーブルを持つフォームをプロジェクト・テンプレートに追加した場合は、次の SQL ステートメントを実行して、すべての既存のプロジェクトにフォームを追加します。

```
INSERT INTO dyn_x (project_id) SELECT project_id FROM uap_projects
```

第 8 章 フォームでの属性の使用

属性は、ユーザーから収集する必要がある情報を定義します。情報には、テキスト、整数、日付、事前定義されたリストからの選択項目などがあります。Marketing Operations で、これらのさまざまなタイプの情報を収集する属性を定義してから、それらをフォーム上に配置します。その後で、1 つ以上のフォームがタブとしてテンプレートに追加されます。ユーザーは、項目を作成するときに、テンプレートを選択します。各属性は、情報を収集するタブ上のフィールドまたはその他のユーザー・インターフェース・コントロールに対応します。

すべての使用可能な属性タイプについては、127 ページの『属性タイプ』を参照してください。

標準属性とカスタム属性

Marketing Operations は、すべてのマーケティング・オブジェクトの情報収集に使用できる標準属性のセットを提供します。標準属性には、名前と説明が含まれています。追加情報を収集するには、カスタム属性を作成し、それらを有効にしてからフォームに追加します。

カスタム属性の作成を開始する前に、Marketing Operations 属性が共有またはローカルになるということと、フォームでの可能な使用方法に基づいてそれらが分類されることに注意してください。

共有属性とローカル属性

カスタム属性は、さまざまなフォームで繰り返し使用されるのか、あるいは単一のフォームでのみ使用されるのかによって、共有またはローカルのいずれかになります。

- 共有属性は、任意のフォームにインポートして使用することができます。共有属性を作成するには、「設定」>「Marketing Operations 設定」>「テンプレート構成」>「共有属性」をクリックします。
- ローカル属性は、単一のフォームにのみ適用されます。ローカル属性は、「新規カスタム属性の作成」をクリックして、直接そのフォーム上で作成します。

属性のカテゴリ

カスタム属性は、情報収集の際に可能な使用方法に基づき、カテゴリにグループ化されます。この属性のカテゴリは以下のとおりです。

- フォーム属性は、任意のフォーム上に配置できます。
- グリッド属性は、グリッド・インターフェースで使用できます。

IBM Unica Marketing Operations と IBM Unica Campaign が統合されている場合は、以下の属性カテゴリを使用できます。これらの属性は、IBM Unica Campaign にマップされている情報を収集します。

- キャンペーン属性は、キャンペーン・プロジェクト・テンプレートで使用できます。

- セル属性は、ターゲット・セル・スプレッドシートで使用できます。
- オファー属性は、オファー・テンプレートで使用できます。オファー属性は、オプションのオファー統合が有効化されている場合に使用できます。

キャンペーン、セル、およびオファーの各属性は、共有属性としてのみ使用できません。

属性への必須のマーク付け

属性を作成するときは、その属性が必須であるかどうかを含め、属性の特別な動作特性を指定できます。属性のこの特別な動作を選択する場合、その属性がユーザー・インターフェース・コントロールとしてフォームに実装されていると、対応するフィールドの隣に赤いダブル・アスタリスク (**) が表示されます。システムにより、値が指定されていることを確認するための編集検査も実施されます。

注: オファー属性に必須のマークを付けることはできません。オファー属性の特別な動作は、フォームごとに定義します。

標準属性

標準属性セットは、すべてのマーケティング・オブジェクトに対して定義されます。標準属性を以下に示します。

表 24. 標準のマーケティング・オブジェクト属性

属性	説明
Name	マーケティング・オブジェクトの表示名。
Description	マーケティング・オブジェクトの作成または編集時に入力されたマーケティング・オブジェクトのテキスト記述。
TemplateName	このマーケティング・オブジェクトを作成する際のベースになったマーケティング・オブジェクト・テンプレートの ID。この ID は、マーケティング・オブジェクト・テンプレートの作成時に設定します。
Code	マーケティング・オブジェクトのオブジェクト・コード。
SecurityPolicy	このマーケティング・オブジェクトに関連付けられているセキュリティ・ポリシーの ID。この ID は、 <code>uap_security_policy</code> テーブルへの外部キーです。このテーブルでは、関連するセキュリティ・ポリシーの名前を見つけることができます。
Status	Active または Deleted です。すべてのマーケティング・オブジェクトは、削除されるまでは「Active」状況になっています。
State	マーケティング・オブジェクトの現在の状態。各マーケティング・オブジェクト・タイプには、それぞれ独自の状態と状態遷移のセットがあります。
CreatedBy	マーケティング・オブジェクトを作成したユーザーのユーザー ID。ユーザー ID は <code>uap_user</code> テーブルにリストされています。
CreatedDate	マーケティング・オブジェクトの作成日。
LastModUser	マーケティング・オブジェクトを最後に変更したユーザーのユーザー ID。
LastModDate	マーケティング・オブジェクトに対して行われた最終変更の日付。

表 24. 標準のマーケティング・オブジェクト属性 (続き)

属性	説明
ComponentID	このマーケティング・オブジェクトのベースとなっているマーケティング・オブジェクト・タイプの内部名。

IBM Unica Marketing Operations と Campaign が統合されたシステムでは、追加の標準オファー属性が使用可能です。「*IBM Unica Marketing Operations and Campaign 統合ガイド*」を参照してください。

Marketing Operations と Campaign の統合の属性について

IBM Unica Marketing Operations と Campaign が統合されているシステムでは、Marketing Operations を使用してキャンペーンとセルの属性を作成して有効にし、それらをフォーム上に配置してから、キャンペーン・プロジェクト・テンプレートに入れます。オファー統合も有効化されているシステムでは、Marketing Operations を使用して、これらのオファー属性のタスクを実行し、オファー・テンプレートを作成します。

管理者のテンプレートが完成すると、ユーザーが Marketing Operations でキャンペーン・プロジェクトとオファーを追加および保守し、結果を Campaign に定期的に公開します。

キャンペーン属性

IBM Unica Marketing Operations と Campaign が統合されたら、Marketing Operations にカスタム・キャンペーン属性を作成します。すべてのキャンペーン属性は共有され、Marketing Operations を使用して、キャンペーン・プロジェクト・テンプレートを構成するフォームにこれらの属性を追加します。

カスタム・キャンペーン属性を含んだテンプレートからキャンペーン・プロジェクト用の連携キャンペーンを作成すると、対応する属性が Campaign に作成されます。連携キャンペーンを作成した後で、キャンペーン属性によって作成された項目に入力したデータを変更した場合、新しい情報を Campaign に送信するために、キャンペーンを更新する必要があります。キャンペーン属性の説明およびフォームの説明を使用して、キャンペーンの更新が必要な項目をユーザーに通知してください。

属性を処理するには、「設定」>「Marketing Operations 設定」>「テンプレート構成」>「共有属性」を選択します。

セル属性

セル属性は、ターゲット・セル・スプレッドシートで使用するために IBM Unica Campaign にマップされる IBM Unica Marketing Operations 属性です。Marketing Operations には、すべての TCS に含まれるデフォルト・セル属性のセットがあります。

Marketing Operations でカスタム・セル属性を作成することもできます。ユーザーが、カスタム・セル属性を含んだテンプレートから、キャンペーン・プロジェクト用のリンクされたキャンペーンを作成すると、対応するセル属性が Campaign に自動的に作成されます。

属性を処理するには、「設定」>「Marketing Operations 設定」>「テンプレート構成」>「共有属性」を選択します。

オファー属性

オファー統合が有効になると、Campaign の標準属性に対応する標準オファー属性のセットが Marketing Operations に提供されます。Marketing Operations でカスタム・オファー属性を作成することもできます。すべてのオファー属性は、共有属性です。

属性を処理するには、「設定」>「Marketing Operations 設定」>「テンプレート構成」>「共有属性」を選択します。

カスタム・オファー属性

デフォルトでは、Marketing Operations で定義したすべてのカスタム・オファー属性がパラメーター化されます。ユーザーはそれらのパラメーター化された属性に値を定義できます。しかし、カスタム・オファー属性を特定のフォームに追加する際に、代替動作を選択することもできます。オファー属性に対する特別な動作の選択項目は、以下のとおりです。

- 静的。これは、ユーザーが表示できるが変更は行えない値が、属性に 1 回設定されることを意味します。
- 表示されていない静的。これは、値が一度設定されるが、項目と値はユーザーに対して非表示になることを意味します。表示されていない静的な値は、レポートに含めることができます。

フォーム内でオファー属性の動作を定義するには、属性をフォームにインポートするときに、その属性を選択してから、「静的」属性、「非表示」属性、または「パラメーター化済み」属性を選択します。

これらの特別な動作の選択項目は、Campaign でどのようにオファーを使用できるかに対応しています。これらの選択項目について詳しくは、「*IBM Unica Campaign 管理者ガイド*」を参照してください。

属性の作成、有効化、編集および削除について

公開されたフォームのローカル属性を作成、編集、および削除します。共有属性は、管理設定の「共有属性」ページから作成、編集、および削除します。

ローカル属性は、作成されると自動的に有効化されます。共有属性は、フォームで使用する前に、手動で有効にする必要があります。共有属性は、有効化された後で、編集したり削除したりすることはできません。

共有属性を作成するには

1. 「設定」>「Marketing Operations 設定」を選択します。
2. 「テンプレート構成」をクリックします。
3. 「共有属性」をクリックします。

画面では、共有属性のカテゴリごとに 1 つのセクションが表示されます。

4. 作成する属性の属性カテゴリの「属性の作成 (Create Attribute)」リンクをクリックします。

「新しい共有属性の作成」ウィンドウが表示されます。

5. 属性を定義します。
6. 「保存して終了」をクリックして、属性を作成して「共有属性」画面に戻るか、「保存して他を作成」をクリックして、属性を作成して新しい属性の属性画面を表示します。

同じカテゴリまたは異なるカテゴリの別の属性を作成できます。

7. 「共有属性」画面で、各新規属性の行で「有効にする」をクリックして、フォームで使用できるようにします。

共有属性を編集する方法

共有属性を編集できるのは、その属性が使用可能になっていない場合のみです。

1. 「設定」>「Marketing Operations 設定」をクリックします。
2. 「テンプレート構成」をクリックします。
3. 「共有属性」をクリックします。
4. 編集する属性の属性名をクリックします。
5. 必要な変更を行い、「保存して終了」をクリックします。

共有属性を削除する方法

共有属性を削除できるのは、その属性が使用可能になっていない場合のみです。使用可能になった属性は削除できません。

1. 「設定」>「Marketing Operations 設定」をクリックします。
2. 「テンプレート構成」をクリックします。
3. 「共有属性」をクリックします。
4. 削除する属性の行で、「削除」をクリックします。

「共有属性」リスト・ページ

「共有属性」リスト・ページには、システムに定義されている各共有属性がリストされます。属性は、属性カテゴリ (フォーム、グリッド、キャンペーン、セル、およびオファー) 別に編成されます。

属性ごとに、以下の列が表示されます。

表 25. 「共有属性」 ページに関する情報

列	説明
表示名	属性の表示名。この名前がフォームに表示されます。
タイプ	属性タイプ。
使用者	この属性を使用するフォームのリスト。
有効化/削除 (Enable/Delete)	<p>「有効化」をクリックして、属性をフォームで使用できるようにします。属性を有効化すると、「有効化/削除 (Enable/Delete)」が「有効化」に置き換えられます。</p> <p>「削除」をクリックして、まだ有効化されていない属性を永久に削除します。</p>

このリスト・ページには、以下のリンクが表示されます。

表 26. 「共有属性」 ページ上のリンク

列	説明
フォーム属性の作成 (Create a Form Attribute)	クリックして、フォームで使用する属性を作成します。
グリッド属性の作成 (Create a Grid Attribute)	クリックして、グリッドで使用する属性を作成します。
キャンペーン属性の作成 (Create a Campaign Attribute)	クリックして、IBM Unica Campaign にマップする属性を作成します。
セル属性の作成 (Create a Cell Attribute)	クリックして、ターゲット・セル・スプレッドシートで使用するための、IBM Unica Campaign にマップする属性を作成します。
オファー属性の作成 (Create a Offer Attribute)	オプションのオファー統合が有効化されている場合に、クリックして、IBM Unica Campaign にマップする属性を作成します。

ローカル属性を作成する方法

1. 属性を作成するフォームを開きます。
2. 「新規カスタム属性の作成」をクリックします。
3. その属性に関する情報を指定します。
4. 「保存して終了」をクリックして、属性を作成してフォームに戻るか、または「保存して他を作成」をクリックして、属性を作成して新規属性を作成する属性画面を表示します。

フォームに戻ると、「カスタム属性」リストに新規属性が表示されているので、それをフォームにドラッグすることができます。

ローカル属性を編集するには

フォームで使用されている属性のみが編集可能です。「要素の追加 (Add an Element)」タブの属性リストにある属性は編集できません。

1. 属性を作成するフォームを開きます。
2. フォーム上で目的の属性をクリックします。

ポップアップ・ダイアログ・ボックスが表示されます。

3. そのポップアップ・ダイアログ・ボックスで「**カスタム属性の編集**」をクリックします。
4. 必要な変更を行い、「**保存して終了**」をクリックします。

ローカル属性を削除する方法

フォーム上にある属性は削除できません。最初にその属性をフォームから削除する必要があります。

1. 削除対象の属性を作成しているフォームを開きます。
2. 「要素の追加 (Add an Element)」タブの「**カスタム属性**」リストで属性を選択します。
3. 「**選択した属性の削除**」をクリックします。確認ウィンドウが表示されます。
4. 「**OK**」をクリックします。

属性参照

属性を作成するときに表示される画面は、作成する属性のタイプとカテゴリによって異なります。しかし、フィールドの多くは、すべての属性タイプとカテゴリにわたって同じです。

標準の属性フィールド

この表には、ほぼすべての属性タイプの場合に入力する標準情報を示します。多くの属性タイプでは、このセクションで説明する情報に追加情報が必要です。属性タイプについて詳しくは、127 ページの『属性タイプ』を参照してください。

表 27. 基本オプション

フィールド	説明
属性カテゴリ	属性のカテゴリ。ローカル属性の場合は、デフォルトの「フォーム属性」が使用されます。共有属性の場合は、「共有属性」ページでクリックしたリンクに基づいて指定されます。
属性タイプ	属性のタイプ。属性タイプは、属性が保持するデータのタイプ、およびそのデータのデータベースへの入力方法を制御します。使用可能なタイプは選択した属性カテゴリによって異なります。127 ページの『属性タイプ』を参照してください。 注: 新規属性を保存した後に属性タイプを変更することはできません。誤ったタイプを選択した場合は、いったん属性を削除してから、新たに属性を作成する必要があります。

表 27. 基本オプション (続き)

フィールド	説明
属性内部名	内部で使用される、属性の固有の名前です。スペースまたは特殊文字を使用しないでください。
属性表示名	フォームで使用される、属性の表示名です。スペースも UTF-8 文字も使用できます。
属性データベース列名	属性の値が保管されるデータベース列の名前。デフォルトでは、これは「属性内部名」と同じです。データベースの文字の長さ制限を超えないでください。また、データベース用に予約されている語の使用は避けてください。
データベース列名の編集	指定されている「属性データベース列名」の値を編集する場合に選択します。
説明	属性の説明。
ヘルプ・テキスト	フィールドの横にヘルプ・ツールチップとして表示される簡略メッセージで、ユーザーが情報を正しく入力するためのガイドを示します。

次の表には、ほとんどのグリッド属性の定義に必要な追加情報を示します。

表 28. グリッド属性オプション

フィールド	説明
ソート可能	ユーザーがテーブルのこの列でソートできるようにするには、このオプションを選択します。
ソート・タイプ	この列の値のソート方向。昇順でソートする場合は「昇順」を選択し、降順でソートする場合は「降順」を選択します。
調整	テーブル内での属性の配置。「左」、「中心」、または「右」から選択できます。デフォルトは「左」です。
サマリー関数	属性タイプが「10 進数」、「整数」、「金額」、または「計算」の場合にのみ使用できます。 その列で単純計算を行い、グリッドの最下部にあるサマリー行に結果を表示します。オプションは「合計」、「平均」、「最小」、または「最大」です。グリッドのどの列にもサマリー関数がない場合、サマリー行は存在しません。

次の表には、すべての属性について入力する標準表示情報を示します。

表 29. 表示オプション

フィールド	説明
フォーム要素タイプ	フォーム上でこの属性に対して表示するフィールドのタイプ。使用可能なタイプは、属性タイプによって異なります。

表 29. 表示オプション (続き)

フィールド	説明
特別な動作	<p>ユーザーがこのフィールドの値を指定せずにフォームを保存することを回避するには、「必須」を選択します。</p> <p>属性を表示しても、ユーザーが値を指定できないようにするには、「読み取り専用」を選択します。</p> <p>デフォルトは「なし」です。</p> <p>このフィールドは、属性タイプが「イメージ」または「計算」の場合には使用できません。</p>

属性データベース列についてのデータベースの考慮事項

属性の「属性データベース列名」の値を設定する際は、注意が必要です。ご使用のデータベースには予約語のセットがあり、これらのいずれかを属性名に使用すると、IBM Unica Marketing Operations がデータベースに書き込みをするときにエラーが発生する可能性があります。

各データベース管理システムには、異なる予約語のセットがあります。これらは変更される可能性があるため、ここですべてをリストすることはできません。以下に、この問題を説明する短いリストを示します。包括的なリストについては、ご使用のデータベースの資料を参照してください。

DBMS	一部の予約語
MS SQL	Boolean, Browse, File, Group, Plan, Primary
Oracle	Cluster, Group, Immediate, Session, User
DB2®	Blob, Column, Group, Rollback, Values

Oracle データベースを使用している場合、「属性データベース列名」の値は、30 文字に制限されています。その他すべてのデータベースの場合、この制限は 32 文字です。

IBM Unica Marketing Operations と IBM Unica Campaign を統合している場合は、CLOB フィールドを避けてください。これは、Campaign がそれらをサポートしていないためです。

Microsoft SQL Server データベースを使用している場合は、主キー・フィールドの「Identity」オプションはサポートされていないことに注意してください。

属性タイプ

以下の属性タイプが使用可能です。各タイプの属性が実装された結果のユーザー対話の説明が、後に続きます。

- **テキスト - 1 行:** ユーザーは、単一行のテキストを入力します。130 ページの『テキストの属性』を参照してください。

- **テキスト - 複数行:** ユーザーは、複数行のテキスト・レスポンスを入力します。130 ページの『テキストの属性』を参照してください。
- **単一選択:** ユーザーは、ハードコーディングされたリストから単一の項目を選択します。(セル属性には使用できません。) 130 ページの『「単一選択」属性』を参照してください。
- **単一選択 - データベース:** ユーザーは、データベース・ルックアップ・テーブルから単一の項目を選択します。(セル属性には使用できません。) 131 ページの『「単一選択 - データベース」属性』を参照してください。
- **複数選択 - データベース:** ユーザーは、データベース・ルックアップ・テーブルから 1 つ以上の項目を選択します。(フォーム属性とグリッド属性にのみ使用できます。) 132 ページの『「複数選択 - データベース」属性』を参照してください。
- **「はい」または「いいえ」:** ユーザーは、2 つのオプション (True/False など) のいずれかを選択します。133 ページの『「「はい」または「いいえ」」属性』を参照してください。
- **日付選択:** ユーザーは、日付を入力するか、カレンダーから日付を選択します。
- **整数:** ユーザーは、整数値 (パーセンタイルや重みなど) を入力します。
- **10 進数:** ユーザーは、小数 (3.45 など) を入力します。134 ページの『10 進数属性』を参照してください。
- **金額:** ユーザーは、通貨の値を入力します。134 ページの『金額属性』を参照してください。
- **ユーザーが選択:** ユーザーは、すべてのシステム・ユーザーのリストからユーザーを選択します。(フォーム属性とグリッド属性にのみ使用できます。)
- **外部データ・ソース:** ユーザーは、LDAP 検索ダイアログ・ボックスを開き、フィールドに Active Directory ユーザーのデータを入力します。(フォーム属性にのみ使用できます。)
- **計算:** 他のフィールドの単純計算の結果が表示され、保管されます。135 ページの『計算属性』を参照してください。
- **URL フィールド:** Web ページへのハイパーリンクが表示されます。(グリッド属性にのみ使用できます。) 136 ページの『「URL フィールド」属性』を参照してください。
- **単一選択オブジェクト参照:** フォームまたはグリッド上のマーケティング・オブジェクトの参照に使用します。(フォーム属性とグリッド属性にのみ使用できます。) 137 ページの『「オブジェクト参照」属性』を参照してください。
- **複数選択オブジェクト参照:** フォームまたは編集可能グリッド上のマーケティング・オブジェクトの参照に使用します。(フォーム属性とグリッド属性にのみ使用できます。) 137 ページの『「オブジェクト参照」属性』を参照してください。
- **イメージ:** ユーザー指定のグラフィックが表示されます。(フォーム属性にのみ使用できます。) 138 ページの『イメージ属性』を参照してください。

以下の属性タイプは、ローカル属性としてのみ使用できます。

- **オブジェクト属性フィールド参照:** ローカル属性としてのみ使用できます。マーケティング・オブジェクトの既存の属性が表示されます。(フォーム属性とグリッド属性にのみ使用できます。) 139 ページの『「オブジェクト属性フィールド参照」属性』を参照してください。

- **単一リスト・オブジェクト参照:** ローカル属性としてのみ使用できます。読み取り専用グリッド上のマーケティング・オブジェクトの参照に使用します。(グリッド属性にのみ使用できます。) 139 ページの『「単一リスト・オブジェクト参照」属性』を参照してください。
- **依存フィールド (Dependent fields):** 値が別のフィールドによって制約されるフィールド。140 ページの『依存フィールド』を参照してください。

キャンペーン属性、セル属性、およびオファー属性の属性タイプ

IBM Unica Marketing Operations と IBM Unica Campaign の両方に存在する属性タイプのみが、キャンペーン属性およびセル属性で使用できます。オファーも統合するシステムの場合、オファー属性にも同じ制約が適用されます。

表 30. Marketing Operations のキャンペーン属性、セル属性、およびオファー属性の属性タイプ

属性タイプ	キャンペーン属性	セル属性	オファー属性
テキスト - 単一行	X	X	X
テキスト - 複数行	X	X	X
単一選択	X		X
単一選択 - データベース	X		X
複数選択 - データベース			
「はい」または「いいえ」	X	X	
日付選択	X	X	X
整数	X	X	
10 進数	X	X	X
金額	X	X	X
ユーザーが選択			
外部データ・ソース			
算出値	X	X	X
URL フィールド			
単一選択オブジェクト参照			
複数選択オブジェクト参照			
イメージ			

注: 「単一選択 - データベース」属性タイプの属性の場合、IBM Unica Marketing Operations は選択の参照値 (表示値ではなく) を IBM Unica Campaign に渡します。参照値および表示値は、参照テーブルを作成する際に決定します。

Marketing Operations には、スタンドアロンの IBM Unica Campaign のカスタム属性で使用可能な「変更可能なドロップダウン・リスト」に対応する属性タイプはありません。

テキストの属性

フォームまたは TVC コンポーネント (つまり、グリッドまたはリスト) にテキストを表示するために、IBM Unica Marketing Operations には以下の 2 つの属性タイプが用意されています。

- テキスト - 1 行: 小さなテキスト・ボックスとして表示され、1 行のテキストのみを入力および表示できます。
- テキスト - 複数行: 大きめの長方形のテキスト・ボックスとして表示され、複数行のテキストを入力および表示できます。

標準の属性フィールドに加え、テキスト属性には、以下のような追加の表示オプションがあります。

表 31. テキスト属性の表示オプション

フィールド	説明
フィールドの最大長	ユーザーがフィールドに入力できる最大文字数です。最大長を入力しない場合は、「Clob の使用」チェック・ボックスを選択します。
フィールドのデフォルト値	ユーザーが値を入力しない場合にフィールドに保管される値。
Clob の使用	CLOB データ型を使用します。このチェック・ボックスを選択すると、最大長のフィールドの値は無視されます。このオプションは、キャンペーン属性には使用できません。

「単一選択」属性

オプションのリストが比較的短く、あまり頻繁に変更されない場合は、「単一選択」属性タイプを使用することができます。この属性タイプは、ドロップダウン・リストまたはラジオ・ボタン・グループとしてフォームに表示できます。

選択項目は、属性の作成時に指定した事前定義オプションのリストから提供されます。ユーザーはそのリストから 1 つの選択項目のみを選択できます。

注: この属性タイプはセル属性には使用できません。

属性を作成するときは、「データ型」フィールドを使用してその外観を指定します。

- ドロップダウン・リスト (デフォルト)
- ラジオ・ボタン・グループ

「単一選択」属性を作成する場合、ユーザーが選択できるアイテムのリストを指定する必要があります。次の表に、使用するフィールドを示します。

表 32. 「単一選択」属性のオプション

フィールド	説明
フィールドで許可する値	新しい値を入力する場合に使用するテキスト・ボックス。値を入力したら、「追加」をクリックして許可する値のリストに追加します。

表 32. 「単一選択」属性のオプション (続き)

フィールド	説明
許可する値のリスト・ボックス (Allowed values list box)	この「単一選択」属性で許可するすべての値を表示するリスト・ボックス。 このリストは、その表示順どおりに、フォームに表示されます。このリスト・ボックスの右側のボタンを使用すると、リストを編成できます。 <ul style="list-style-type: none"> • 削除: 選択した値を削除する場合にクリックします。 • 上へ: リスト内で選択した値を上に移動する場合にクリックします。 • 下へ: リスト内で選択した値を下に移動する場合にクリックします。
既定値	属性のデフォルト値を指定する場合に使用するドロップダウン・リスト。許可する値のうち、任意の値を選択できます。

「単一選択 - データベース」属性

「単一選択 - データベース」属性タイプは「単一選択」属性と同様に機能しますが、選択項目のリストが、有効なアイテムを含むデータベース・テーブルから取得される点が異なります。選択項目のリストが比較的長い場合や変更される可能性がある場合は、「単一選択 - データベース」属性タイプの使用を検討してください。

「単一選択 - データベース」属性を別のフィールドの値に依存させることができます。例えば、市町村のリストの選択項目を、選択されている都道府県に依存させることなどが可能です。

注: この属性タイプはセル属性には使用できません。

「単一選択 - データベース」属性を作成する場合、ルックアップ・テーブルと、以下の表に示されているその他の情報を指定する必要があります。

追加の基本オプション・フィールド

「単一選択 - データベース」属性には、以下のような追加の基本オプションがあります。

表 33. 「単一選択 - データベース」属性のオプション

フィールド	説明
データベース・テーブル名のフィルター	「このデータベース・テーブルの値を使用」フィールドのテーブル名のドロップダウン・リストをフィルタリングする場合に使用する値。指定されたテキストがテーブル名に含まれるルックアップ・テーブルのみがリストに含まれます。このフィールドが空の場合、データベース内のすべてのルックアップ・テーブルがリストに含まれます。
このデータベース・テーブルの値を使用	ユーザーに表示する値を含むテーブルを選択します。
キー列	テーブルのプライマリー・キーを選択します。
表示列	フォームに表示する値を含むデータベース列を選択します。
ソート列	フォームに表示されるときのリストの順序を決定する列を選択します。

表 33. 「単一選択 - データベース」属性のオプション (続き)

フィールド	説明
ソート順	リストをどのように表示するかに応じて、昇順または降順を選択します。
このフィールドは次の列に依存しません	このチェック・ボックスを選択して、ドロップダウン・リストからデータベース列を指定します。(このオプションはグローバル属性には使用できません。)

追加のグリッド・オプション

「単一選択 - データベース」属性には、以下のような追加のグリッド・オプションがあります。

表 34. 「単一選択 - データベース」属性のグリッド・オプション

フィールド	説明
ルックアップ値をキャッシュしない	グリッドが保存または更新されるたびにユーザーが選択できる値を更新する場合に、このチェック・ボックスを選択します。

追加の表示オプション・フィールド

「単一選択 - データベース」属性には、以下のような追加の表示オプションがあります。

表 35. 「単一選択 - データベース」属性の追加の表示オプション

フィールド	説明
既定値	その属性のデフォルト値を選択するか、またはその属性にデフォルト値を指定しない場合は、このフィールドを空白のままにします。(リストには、「表示列」フィールドに指定されたデータベース列のすべての値が含まれます。)

「複数選択 - データベース」属性

ユーザーがオプションの有効なリストから複数の値を選択できるようにする属性を定義できます。例えば、銀行の特定のマーケティング・キャンペーン用の製品を指定する場合に、以下のオプションのうち 1 つ、2 つまたはすべてを選択する必要があります。

- 1 年ものの譲渡性預金
- 5 年ものの譲渡性預金
- 銀行クレジット・カード

フィールドで複数の選択をオファーするには、「複数選択 - データベース」というタイプの属性を使用します。複数選択属性の作成は「単一選択」属性の作成と類似していますが、追加で行うセットアップがいくつかあります。

注: この属性タイプは、キャンペーン、セル、およびオファーの各属性には使用できません。

「複数選択 - データベース」属性を作成する場合は、ルックアップ・テーブル、およびその他の情報を指定する必要があります（131 ページの『「単一選択 - データベース」属性』を参照してください）。

「複数選択 - データベース」属性を作成する場合は、以下の制約事項に留意してください。

- 「属性データベース列名」フィールドの値は、属性カテゴリー全体にわたって一意でなければなりません。（グリッド属性とフォーム属性の両方に、同じデータベース列名を使用することはできません。）
- 属性を作成した後は、キー列のデータ型を変更しないでください。

以下の追加の表示オプションも指定する必要があります。

表 36. 「複数選択 - データベース」属性のオプション

フィールド	説明
複数選択結合テーブル名 (Multi-Select Join Table Name)	この属性に使用する結合テーブルの名前。各「複数選択 - データベース」属性には、一意の結合テーブルがなければなりません。

「「はい」または「いいえ」」属性

2 つの値 (true/false、yes/no など) のうち 1 つしか指定できない属性を作成できます。例えば、ユーザーが質問に対して「はい」または「いいえ」のいずれかを入力するフォームを作成できます。「「はい」または「いいえ」」属性タイプは、このような目的に使用します。

「「はい」または「いいえ」」フィールドはチェック・ボックス、ドロップダウン・リスト、またはラジオ・ボタン・グループとして表示できます。

注: この属性タイプはオファー属性には使用できません。

「「はい」または「いいえ」」属性には、以下のような追加の基本オプションがあります。

表 37. 「「はい」または「いいえ」」属性のオプション

フィールド	説明
既定値	属性のデフォルト値を指定します。「はい」、「いいえ」、または「利用不可」を選択できます。（フォーム要素タイプに「チェック・ボックス」を選択した場合、「利用不可」は「いいえ」と同じです。）
表示名フィールド (Display name fields)	それぞれの有効値の表示名を指定します。デフォルトは「はい」、「いいえ」、および「利用不可」です。 表示オプションでフォーム要素タイプとして「チェック・ボックス」を選択した場合、表示名は使用されません。

表 37. 「「はい」または「いいえ」」属性のオプション (続き)

フィールド	説明
ソート順フィールド (Sort Order fields)	これらのフィールドの値は、有効値をフォームにリストするときの順序を指定します。デフォルトでは、その順序が「はい」、「いいえ」、および「利用不可」になります。 値のソート順フィールドをクリアすると、その値はユーザーに表示されません。 表示オプションでフォーム要素タイプとして「チェック・ボックス」を選択した場合、ソート順は適用されません。

10 進数属性

10 進数属性を使用して、非整数値を表示することができます。例えば、10 進数属性を使用して、パーセンテージを含むフィールドを表します。

10 進数属性には、次のような追加の基本オプションがあります。

表 38. 10 進数属性のオプション

フィールド	説明
フィールドの小数点以下の桁数	ユーザーが小数点以下に入力できる桁数。最大値は 7 です。

10 進数属性には、次のような追加の表示オプションがあります。

表 39. 10 進数属性の表示オプション

フィールド	説明
フィールドのデフォルト値	ユーザーが値を入力しない場合に使用される値。

金額属性

金額属性は、給与やアイテム・コストなどの通貨の値を表します。

通貨記号は、ユーザーのロケール情報から設定されます。

金額属性には、次のような追加の基本オプションがあります。

表 40. 金額属性のオプション

フィールド	説明
フィールドの小数点以下の桁数	ユーザーが小数点以下に入力できる桁数。デフォルト値は 2 です。属性にコンバージョン率 (通常は小数点以下 5 桁) または単位あたりのコスト (マイクロセント) が表示される場合は、さらに小数点以下の桁数を指定できます。最大値は 7 です。

金額属性には、次のような追加の表示オプションがあります。

表 41. 金額属性の表示オプション

フィールド	説明
フィールドのデフォルト値	ユーザーが値を入力しない場合に使用される値。

計算属性

計算属性は、指定の式に基づいて値が計算される読み取り専用フィールドです。

計算属性が含まれているフォームを保存する場合、IBM Unica Marketing Operations により式が検査され、それらが有効であることが確認されます。

計算属性には、以下の追加の基本オプションがあります。

表 42. 計算属性のオプション

フィールド	説明
式	値を計算する式。この式で使用される属性は、いずれも計算属性と同じフォームに含まれていなければなりません。
フィールドの小数点以下の桁数	小数点以下の表示桁数

式の構文

以下の 2 項演算を実行できます。

- 加算 (+)
- 減算 (-)
- 乗算 (*)
- 除算 (/)

任意の数のコンマ区切りオペランドについて、以下の演算を実行できます。

- 合計: 例えば、Sum(Salary, 1000, Bonus)
- 平均: 算術平均 (例えば、Avg(BudgQtr1, BudgQtr2, BudgQtr3))
- 最小: 最小値を選択します (例えば、Min(IQ, 125))
- 最大: 最大値を選択します (例えば、Max(Sale1, Sale2, Sale3, Sale4))

オペランドは、以下のいずれかになります。

- 10 進定数 (例えば、2.5)。
- 以下のようなタイプの現行フォームの属性の属性内部名。金額、整数、10 進数、または計算。式がフォームに含まれていない属性を参照している場合、フォームを保存すると、エラーになります。

計算属性の例

「給与 (Wages)」フォームに以下の通貨フィールドが含まれているとします。「基本給 (BaseSalary)」、「ボーナス」、「保険」、および「連邦税 (FedTax)」。「手取り (Net pay)」という名前の計算フィールドを作成し、そのフィールドに次の式を入力できます。BaseSalary+Bonus-FedTax-Insurance

避けるべき例

ある計算フィールドを別の計算フィールド内で参照することができるので、無限に反復しないよう注意してください。例えば、以下の属性を持つフォームを考えてみてください。

- 給与: 整数または金額の属性
- 歩合 (Commission) = 給与 + (ボーナス * 0.10)
- ボーナス = (歩合 * 0.5) + 1000

「歩合 (Commission)」と「ボーナス」の属性は相互に参照し、システムが値の計算を試みると無限ループになります。

グリッド属性の例

計算フィールドは、フォームだけでなく、グリッドにも使用できます。単純な例として、グリッドに単位と単位あたりのコストの列が含まれている場合は、グリッドの列を作成し、合計コスト $\text{Units} * \text{CostPerUnit}$ を表すことができます。

「URL フィールド」属性

グリッドまたはフォームにハイパーテキスト・リンクを追加するには、「URL フィールド」属性を使用します。グリッドの場合、グリッドに追加された行ごとに、URL へのリンクを指定できます。

「URL フィールド」属性では、実際の URL を保持するデータベース列 (URL のデータベース列) と、最終的なグリッドまたはフォームに表示するリンク・テキスト (データベース列) を指定します。

注: この属性タイプは、キャンペーン、セル、およびオファーの各属性には使用できません。

例えば、ベンダーのデータを含むグリッドがあり、ベンダーごとにそれぞれの Web サイトを指定する必要があるとします。フォーム・エディターで、以下のように「URL フィールド」属性を作成することができます。

表 43. ベンダーの URL フィールドをグリッドに追加する場合の設定例

フィールド	値	説明
属性タイプ	URL フィールド	「URL フィールド」属性タイプを指定します。
属性内部名	vendorURL	属性の固有の識別子。
属性表示名	Vendor URL	ユーザー・インターフェースに表示されるラベル。
属性データベース列名	textURL	リンクの表示テキストを保持するために追加するデータベース列。

表 43. ベンダーの URL フィールドをグリッドに追加する場合の設定例 (続き)

フィールド	値	説明
URL のデータベース列	linkURL	<p>実際の URL を保持するために追加されるデータベース列。</p> <p>http:// を入力する必要はありません。例えば、Google にリンクする場合、 www.google.com と http://www.google.com のどちらを入力してもかまいません。</p>

このフォームを使用する IBM Unica Marketing Operations でオブジェクトをセットアップしたら、グリッド行の追加またはフォームへのデータ追加を行うユーザーが URL を指定します。グリッドでは、ユーザーは各行に URL を指定できます。これ以降にユーザーがリンクをクリックすると、新しいウィンドウにその Web サイトが開きます。

「オブジェクト参照」属性

「オブジェクト参照」属性を使用して、マーケティング・オブジェクトをプロジェクトやその他のマーケティング・オブジェクトに関連付けます。「オブジェクト参照」属性により、セレクターがアタッチされたフィールドが作成されます。ユーザーは、セレクター内で特定のマーケティング・オブジェクトを検索した後、それを作成または編集中のプロジェクトまたはマーケティング・オブジェクトに追加することができます。

「複数選択オブジェクト参照」属性と「単一選択オブジェクト参照」属性は類似していますが、結果のユーザー・インターフェース・フィールドに含むことができるのは、前者は複数エントリーであるのに対して後者は単数エントリーです。

これらの属性は、読み取り専用グリッドに追加することはできません。マーケティング・オブジェクト参照を読み取り専用グリッドに追加するには、「単一リスト・オブジェクト参照」属性を使用します。

注: これらの属性タイプは、キャンペーン、セル、およびオファーの各属性には使用できません。

「オブジェクト参照」属性を指定するには、以下のような、この属性タイプに固有の情報を入力します。

表 44. 「オブジェクト参照」属性のオプション

フィールド	説明
マーケティング・オブジェクト・タイプ	ユーザーに表示されるリストに載せるアイテムのマーケティング・オブジェクト・タイプ。

表 44. 「オブジェクト参照」属性のオプション (続き)

フィールド	説明
テンプレート ID	指定されたマーケティング・オブジェクト・タイプの特定のテンプレートの ID。以下の「自動作成」チェック・ボックスを選択すると、このテンプレートを使用してオブジェクトが作成されます。それ以外の場合、指定のテンプレートを使用して作成されたマーケティング・オブジェクトのみがユーザーに表示されます。
クリックで実行	フォーム上のオブジェクト・リンクをクリックするときに、以下のような宛先画面を選択します。 <ul style="list-style-type: none"> • 「サマリー」タブ: マーケティング・オブジェクトのサマリー・ページが開きます • 「分析」タブ: 分析ページが開きます 注: このフィールドは、グリッドにのみ使用できます。
修正	このフォームが含まれているオブジェクトが、マーケティング・オブジェクトのコンテンツの変更または更新 (例えば、「順序の変更」または「作業要求」プロジェクト) を目的とする場合は、このオプションを使用します。 注: このフィールドは、フォームにのみ使用できます。
参照	このオプションを使用して、マーケティング・オブジェクトを参照するだけで、変更しないことを示します。 注: このフィールドは、フォームにのみ使用できます。
自動作成	このオプションを選択して、ユーザーがオブジェクトを作成するときに、この属性を持つフォームを含むテンプレートを選択した場合に、「空の」マーケティング・オブジェクトを作成します。以下の点に注意してください。 <ul style="list-style-type: none"> • このチェック・ボックスは、「複数選択オブジェクト参照」属性には使用できません。 • このチェック・ボックスは、フォームがマーケティング・オブジェクトに追加される場合は無効です。これは、マーケティング・オブジェクトが他のマーケティング・オブジェクトを自動的に作成できないためです。 このフィールドは、フォーム上の「単一選択オブジェクト参照」属性にのみ使用できます。

イメージ属性

ユーザーがプロジェクトまたはマーケティング・オブジェクトのタブ上にグラフィックを表示できるようにするには、イメージ属性を使用します。この属性により、イメージの表示領域と、「参照」ボタンを備えたフィールドが作成されるので、ユーザーは表示するグラフィックを選択することができます。

注: この属性タイプは、グリッド、キャンペーン、およびセルの各属性には使用できません。

「オブジェクト属性フィールド参照」属性

ローカルの「オブジェクト属性フィールド参照」属性を特定のフォームに追加して、フォームにリンクされたマーケティング・オブジェクトに関する情報を表示します。例えば、フォームに、「**Brochure01**」という名前のマーケティング・オブジェクトの「単一選択オブジェクト参照」属性が含まれている場合は、「オブジェクト属性フィールド参照」属性を追加して、「**Brochure01**」の任意の属性（そのステータスなど）を表示することもできます。

注：「複数選択オブジェクト参照」属性に対応する「オブジェクト属性フィールド参照」属性を作成することはできません。

結果のオブジェクト属性フィールド情報は、表示専用です。ユーザーはこれを編集することはできません。

この属性タイプは、ローカル属性としてのみ使用可能です。

標準マーケティング・オブジェクト属性とカスタム属性の両方を参照できます。カスタム属性の場合は、属性名と、マーケティング・オブジェクト・テンプレート内の属性が含まれているフォームの名前を知っている必要があります。標準マーケティング・オブジェクト属性のリストについては、120ページの『標準属性』を参照してください。

「オブジェクト属性フィールド参照」属性に必要な追加の基本オプションは、以下のとおりです。

表 45. 「オブジェクト属性フィールド参照」属性の追加の基本オプション

フィールド	説明
属性名	参照するマーケティング・オブジェクト属性の名前。 標準属性を参照するには、ドロップダウン・リストからその属性を選択します。 カスタム属性を参照するには、フォーム <code><form_name>.<internal_name></code> に名前を入力します。ここで、 <ul style="list-style-type: none">• <code>form_name</code> は、マーケティング・オブジェクト・テンプレート内のカスタム属性が含まれるフォームの名前です。• <code>internal_name</code> は、カスタム属性の「属性内部名」フィールドの値です。
参照オブジェクト	マーケティング・オブジェクトを参照する現在のフォーム上の属性の内部名。

「単一リスト・オブジェクト参照」属性

ローカルの「単一リスト・オブジェクト参照」属性を特定のフォームに追加して、以下を行います。

- リスト上のマーケティング・オブジェクトを参照します（「単一選択オブジェクト参照」または「複数選択オブジェクト参照」の属性を使用して、グリッド上のマーケティング・オブジェクトを参照する場合と同じ方法で行います）。

- グリッドをオブジェクト（プロジェクトまたはマーケティング・オブジェクト）のリストとして表示します。詳しくは、105 ページの『グリッドをリストとして表示』を参照してください。

この属性タイプは、グリッドのローカル属性としてのみ使用できます。

107 ページの『マーケティング・オブジェクトのリストの作成』には、「単一リスト・オブジェクト参照」属性の使用例が用意されています。

単一リスト・オブジェクト参照属性を指定するには、以下のような、この属性タイプに固有の情報を入力する必要があります。

表 46. 「単一リスト・オブジェクト参照」属性のオプション

フィールド	説明
クリックで実行	オブジェクトのタブ（リスト・ビューからオブジェクト・リンクをクリックすると開きます）を選択する場合に使用します。選択すると、「サマリー」タブまたは「分析」タブのいずれかにナビゲートできます。
オブジェクト参照 ID 列	リスト・ビューでマーケティング・オブジェクトのリストを表示する場合に使用します。このオプションを選択すると、「 オブジェクト参照タイプ列 」フィールドがアクティブになります。 マップしているオブジェクトのオブジェクト・インスタンス ID 列に対応する値を入力します。
オブジェクト参照タイプ列	リスト・ビューでマーケティング・オブジェクト参照を表示する場合に、「 オブジェクト参照 ID 列 」フィールドとともに使用します。 マップしているオブジェクトのオブジェクト・タイプ列に対応する値を入力します。
グリッド・オブジェクト参照列	グリッドをリスト・ビューとして表示する場合に使用します。このオプションを選択する場合は、フィールドに以下の情報を入力する必要があります。 <ul style="list-style-type: none"> • グリッドが含まれているフォームの名前。このフィールドは、フォームが Marketing Operations にアップロードされたときに選択された、Marketing Operations 内のフォームの名前を示します。 • グリッドに定義された、「単一選択オブジェクト参照」属性の内部名。 構文は、<form_name>.<attribute_name> です。 例えば、「 Brochure 」という内部名の「単一選択オブジェクト参照」属性を持つグリッドがあり、グリッドが Marketing Operations の「 EventCollateral 」という名前のフォームに含まれている場合は、このフィールドに「 EventCollateral.Brochure 」と入力します。

依存フィールド

依存フィールドは、値が別のフィールドによって制約される属性です。例えば、選択した都道府県のすべての市区町村を表示するフィールドが必要な場合は、市区町村のフィールドを都道府県のフィールドに依存させることができます。ある属性を別の属性に依存させることができるのは、それを特定のフォームに追加する場合だ

けです。つまり、共有属性を作成する場合、その属性が追加されるフォームの範囲を除き、作成時にその属性を依存フィールドにすることはできません。

このセクションでは、市区町村/都道府県の例を示します。

まず、市区町村と都道府県のルックアップ・テーブルを作成する必要があります。以下に、これら 2 つのテーブルの最初の数行を示します。

lkup_state テーブルは次のようになります。

state_id (主キー)	state_name
1	マサチューセッツ
2	ニューヨーク

lkup_city テーブルは次のようになります。

city_id (主キー)	city_name	state_id (lkup_state の主キーを指す外部キー)
1	ボストン	1
2	ケンブリッジ	1
3	ニューヨーク	2
4	オールバニー	2

これらのテーブルができれば、親 (都道府県) と子 (市区町村) の属性を作成します。

都道府県の属性には、以下の値を使用します。

フィールド	値
データベース列 (Database Column)	state_id
このデータベース・テーブルの値を使用	lkup_state
キー列	state_id
このフィールドは次の列に依存します	このボックスはクリアのままにしておきます。

市区町村の属性には、以下の値を使用します。

フィールド	値
データベース列 (Database Column)	city_id
このデータベース・テーブルの値を使用	lkup_city
キー列	city_id
このフィールドは次の列に依存します	このボックスにチェック・マークを付け、都道府県 (都道府県の属性用に定義した内部名) を選択します。

以下の点に注意してください。

- 「複数選択 - データベース」属性を「単一選択 - データベース」属性に依存させることはできますが、その逆はできません。前述の例では、市区町村フィールドを「複数選択 - データベース」属性にすることはできますが、都道府県フィールドではできません。
- 参照値は、参照値のテキスト記述または ID のいずれかに基づいてソートすることができます。

第 9 章 メトリックの操作

メトリックはオブジェクトのパフォーマンスを測定します。標準的なメトリックには、コストや売上などの財務メトリック、および特定のマーケティング・キャンペーンにおけるコンタクト数やレスポンス数などのパフォーマンス・メトリックがあります。メトリックは常に数値で表されます。

メトリックは、その値を他のメトリックの値に基づいて計算するように定義することができます。例えば、キャンペーンの利益を、売上からコストを引いた金額として定義することができます。また、プロジェクトからプログラムへ、プログラムから計画へとロールアップするメトリックを定義することもできます。

メトリックをメトリック・テンプレートに関連付けると、メトリック・テンプレートが他のオブジェクトのテンプレートに関連付けられます。したがって、オブジェクトを追加すると、両方のテンプレートを通じて識別されるメトリックが「追跡」タブに表示されます。

定義するメトリックを編成するために、メトリック・テンプレート内でグループを作成することができます。作成したグループは、必要に応じて他のメトリック・テンプレートに追加できます。また、メトリック・ディメンションを定義して、各メトリックで複数の種類の値 (例えば、実際の値、ターゲット値、予想値 (楽観的)、および予想値 (悲観的)) を追跡することもできます。メトリック・ディメンションは、すべてのメトリック・テンプレートに適用され、「追跡」タブの入力列としてユーザーに表示されます。

メトリックのタイプ

ユーザー入力メトリックのほかに、計算済みメトリック、ロールアップ・メトリック、および計画メトリックの 3 つのタイプのメトリックがあります。メトリック・タイプの設定は、メトリックを特定のメトリック・テンプレートに追加するときに行います。したがって、同じメトリックが、プロジェクトでは計算済みメトリックであり、プログラムまたは計画ではロールアップ・メトリックであることがあります。

計算済みメトリック

メトリックがユーザー入力メトリックではなく計算済みメトリックであることを指定するには、メトリック・テンプレートにメトリックを追加するときに、「計算済み」ボックスにチェック・マークを付けて、式を入力します。

例えば、ROI (投資収益率) メトリックを作成するとします。このメトリックをメトリック・テンプレートに追加するときに、次の式を使用して、これが計算済みメトリックであることを定義します。

$$((\text{TotalRevenue} - \text{TotalCost})/\text{TotalCost})*100$$

- メトリックの式を定義するときは、各メトリックに対して定義された「内部名」を式の中で使用します。

- 「式」フィールドでは、+、-、*、/、SUM、AVG、MIN、MAX、ROLLUP の各演算子を使用できます。

注: 式に NULL 値を含めた場合、NULL 値の取り扱いは演算子によって異なります。集約関数 (SUM、AVG、MIN、および MAX) では NULL 値が無視されます。算術計算では NULL 値が 0 として処理されます。ただし、#/0 または #/NULL を入力すると、Marketing Operations により #DIV/0! が表示されます。

メトリックのロールアップ

メトリックをメトリック・テンプレートに追加するときに、そのメトリックが子オブジェクトから親オブジェクトに「ロールアップ」するように指定できます。例えば、プロジェクト・メトリックは親プログラム・レベルに、プログラム・メトリックは親計画レベルに、それぞれロールアップできます。

ロールアップするメトリックは、親オブジェクトの「追跡」タブに表示できます。

- ロールアップ用に構成したすべてのプロジェクト・メトリックは、親プログラムの「追跡」タブの「プロジェクト・ロールアップ (Project Rollups)」テーブルに表示されます。
- ロールアップ用に構成したすべてのプログラム・メトリックは、親計画の「追跡」タブの「プログラム・ロールアップ (Program Rollups)」テーブルに表示されます。

例えば、あるプログラムのすべてのプロジェクトに対する応答者の数を追跡するには、以下のメトリックを定義します。

- **NumberOfRespondersPassed:** プロジェクトからの応答者の数を表します。
- **NumberOfProgramResponders:** プログラムにおける応答者の数を表します。

次に、以下のようにして、メトリックをメトリック・テンプレートに追加します。

- プロジェクト・メトリック・テンプレートの場合は、グループ (例えば、「パフォーマンス」) を追加し、「**NumberOfRespondersPassed**」メトリックをそれに追加します。メトリックをグループに追加する場合は、「計算済み」または「ロールアップ」を選択しないでください。
- プログラム・メトリック・テンプレートの場合は、グループ (例えば、「パフォーマンス」) を追加し、「**NumberOfProgramResponders**」メトリックをそれに追加します。メトリックをグループに追加する場合は、「計算済み」または「ロールアップ」を選択しないでください。
- プログラム・メトリック・テンプレートの場合は、**「NumberOfRespondersPassed」**メトリックを以下の 2 つの場所に追加します。
 - グループを使用しないでメトリック・テンプレートに追加します。それには、「**メトリックの管理 (Manage Metrics)**」をクリックし、「**ロールアップ**」ボックスにチェック・マークを付けます。
 - 任意のグループ (通常は、プロジェクト・メトリック・テンプレート内のグループに一致するグループであり、この例では「パフォーマンス」) に追加します。「**ロールアップ**」ボックスをクリアします。「**計算済み**」にチェック・マークを付け、次の式を入力します。NumberOfProgramResponders+ROLLUP (NumberOfRespondersPassed)

計画メトリック

計画およびプログラムの目標およびパフォーマンス予測を組み込むために、計画済みのメトリックとしてメトリックを識別することができます。計画メトリックは、階層内のあるオブジェクトから別のオブジェクトに値が継承される点でロールアップに似ていますが、継承は反対の方向で行われ、子オブジェクトが親オブジェクトから計画メトリックを継承します。

計画メトリックを定義するには、メトリックを計画メトリック・テンプレートまたはプログラム・メトリック・テンプレートに追加するときに、「**ロールアップ**」ボックスと「**計画済み**」ボックスの両方にチェック・マークを付けます。それぞれの子オブジェクトの「追跡」タブにあるメトリック・テーブルの「計画」列に、計画メトリックが表示されます。

メトリック作成の概要

オブジェクトにメトリックを追加するには、メトリック・テンプレートを作成します。

1. IBM Unica Marketing から、「設定」>「**Marketing Operations 設定**」>「**テンプレート構成**」>「**メトリック**」を選択します。
2. メトリック・ディメンションを追加します (オプション)。
3. メトリックを追加します。
4. メトリック・テンプレートを追加します。
5. グループまたはメトリック・テンプレート自体へのメトリックの追加や、メトリックのタイプの定義を行って、メトリック・テンプレートでメトリックを管理します。
6. メトリックをローカライズするために、各ロケールのプロパティ・ファイルをエクスポートし、変換し、インポートします (オプション)。

メトリック、メトリック・ディメンション、およびメトリック・テンプレートの操作

メトリック、メトリック・ディメンション、およびメトリック・テンプレート进行操作するには、「設定」>「**Marketing Operations 設定**」>「**テンプレート構成**」>「**メトリック**」と進みます。

メトリックとメトリック・テンプレートは、「ID」フィールドによって英字順にソートされます。メトリック・ディメンションは、追加されたときの順序でソートされます。

- メトリック、メトリック・ディメンション、またはメトリック・テンプレートを追加するには、「メトリック・テンプレート」ページで、対応する「**追加**」リンクをクリックします。追加できるメトリックおよびメトリック・テンプレートの数には制限がありません。メトリック・ディメンションは最大 5 つまで追加でき、それぞれのメトリック・ディメンションがすべてのメトリック・テンプレートに適用されます。

- メトリック、メトリック・ディメンション、またはメトリック・テンプレートを編集するには、「メトリック・テンプレート」ページで、対応する「編集」リンクをクリックします。
- メトリック、メトリック・ディメンション、またはメトリック・テンプレートを削除するには、「メトリック・テンプレート」ページで、対応する「削除」リンクをクリックします。他のオブジェクトによって使用されているメトリックまたはメトリック・テンプレートを削除することはできません。他のオブジェクトによって該当アイテムが使用されている場合、「削除」リンクは無効になっています。

メトリック・プロパティ

メトリックを追加または編集するときに、以下のフィールドの値を指定します。

表 47. メトリック・プロパティ

プロパティ	説明
内部名	<p>メトリックの ID。スペースと特殊文字は使用しないでください。</p> <p>メトリックは、「メトリック・テンプレート」ページでこの内部名を使用してソートされます。</p> <p>メトリック・テンプレートで計算メトリックとしてメトリックを指定する場合、入力する式の中では、内部名を使用して各メトリックを識別します。</p>
表示名	<p>Marketing Operations で使用されるときメトリックの名前。 注: この名前は、10 文字からなる 3 つの単語か、それ以下の長さにしてください。Marketing Operations におけるメトリック・ロールアップ・テーブルの表示限度は 32 文字です。例えば、「Mailed Client Savings」は完全に表示されますが、「Savings Mailed to Prospective Clients」は完全には表示されません。</p> <p>「表示名」はプロパティ・ファイルを使用して翻訳できます。</p>
説明	メトリックの記述テキスト。このテキストは、メトリックの目的を判別する場合に役立ちます。
単位タイプ	メトリックのタイプ。「数値」、「10 進数」、「パーセント」、または「金額」から選択します。
表示形式	<p>オブジェクトの「追跡」タブでのメトリックの表示方法。一般に、「表示形式」は「単位タイプ」に対応します。以下から選択してください。</p> <ul style="list-style-type: none"> • # - 数値または 10 進数 • #% - パーセント • \$# - 金額 <p>通貨メトリックを定義するときに \$# を選択すると、ユーザーは、そのユーザーの定義済みロケールの通貨でそのメトリックの値を入力できるようになります。</p>

表 47. メトリック・プロパティ (続き)

プロパティ	説明
精度	<p>精度の桁数。最大 9 桁。</p> <p>精度は、メトリック値の小数点以下の桁数を制御します。</p> <p>値は「round half up」規則を使用して丸められます。</p> <p>破棄する桁の左の桁が奇数の場合は、切り上げられます。破棄する桁の左の桁が偶数の場合は、切り捨てられます。以下に例を示します。</p> <ul style="list-style-type: none"> • 9/2=4.5: 5 の前の数字は 4 (偶数) であるため、4 に切り捨てられます。 • 7/2=3.5: 5 の前の数字が 3 (奇数) であるため、4 に切り上げられます。

メトリック・ディメンションのプロパティ

メトリック・ディメンションを追加または編集するときに、以下のフィールドの値を指定します。

表 48. メトリック・ディメンションのプロパティ

プロパティ	説明
表示名	<p>Marketing Operations で使用されるディメンションの名前。ユーザーがオブジェクトのメトリックを入力するときに、「追跡」タブで列見出しとして表示されます。</p> <p>「表示名」はプロパティ・ファイルを使用して翻訳できます。</p>
説明	<p>ディメンションの記述テキスト。このテキストは、ディメンションの目的を判別する場合に役立ちます。</p>
タイプ	<ul style="list-style-type: none"> • Actual: 手動で入力されたメトリック、あるいは Campaign または他の何らかの追跡ソフトウェアから Marketing Operations にロードされたメトリックを取り込むために使用します。 • Target: 計画や目標設定を行うために組織が使用するメトリックの値を取り込むために使用します。「Target」ディメンションのみが、オブジェクトの作成に使用されるウィザードに表示されます。 • その他: オブジェクトの作成に使用されるウィザードに表示しない、「Actual」でないディメンションに使用します。

メトリック・テンプレートおよびメトリック・テンプレート・グループの作成

メトリック・テンプレートはメトリックの集合です。メトリックを Marketing Operations に追加するには、メトリック・テンプレートを追加します。同様に、メトリックをオブジェクト・テンプレートに付加するには、メトリック・テンプレートを選択します。

各メトリック・テンプレートは、1つのオブジェクト・タイプ（「計画」、「プログラム」、または「プロジェクト」）のみを対象とします。各オブジェクト・テンプレートでは1つのメトリック・テンプレートしか使用できず、計画用のテンプレート・ファイルは1つしかないため、「計画」タイプのメトリック・テンプレートは複数定義しないでください。

1つのメトリックが複数のメトリック・テンプレートに属することは可能です。

テンプレート内のメトリックは、(必須ではありませんが)メトリック・グループとして編成することができます。1つのメトリック・テンプレートに、グループ化されたメトリックとグループ化されていないメトリックを混在させることができます。

メトリック・テンプレートを作成または編集する方法

メトリックをオブジェクト・テンプレートに追加するには、その前に、そのメトリックをメトリック・テンプレートに編成する必要があります。

1. 「メトリック・テンプレート」ページで「メトリック・テンプレートの追加 (Add Metrics Template)」または「編集」をクリックします。
2. 「内部名」、「表示名」、および「説明」のフィールドで入力または編集を行います。
3. このメトリック・テンプレートを使用するオブジェクトのタイプ（「計画」、「プログラム」、または「プロジェクト」）を選択します。

注: 計画にはテンプレートが1つしかないため、「計画」タイプでは複数のメトリック・テンプレートを定義しないでください。

4. テンプレートにメトリックを追加します。
 - グループを使用しないでメトリックをテンプレートに追加するには、「メトリックの管理 (Manage Metrics)」をクリックします。
 - メトリックのグループを追加するには、「メトリック・グループの追加」をクリックします。

既存のグループを選択することも、グループを作成することもできます。

5. 個々のメトリックを選択して、このテンプレート内のメトリックのプロパティを定義します。
 - メトリックがオブジェクトでユーザーによって個別に入力される場合は、「式によって計算済み」、「ロールアップ」、および「計画」の各チェック・ボックスをクリアします。
 - メトリックが計算される場合は、「式によって計算済み」チェック・ボックスを選択し、「式」を入力します。
 - メトリックが他のメトリックから収集される場合は、「ロールアップ」チェック・ボックスを選択します。ロールアップ・メトリックは、計画テンプレートおよびプログラム・テンプレートでのみ使用可能です。
 - メトリックが計画される場合は、「ロールアップ」および「計画」のチェック・ボックスを選択します。計画メトリックは、計画テンプレートおよびプログラム・テンプレートでのみ使用可能です。
6. 「変更の保存」をクリックしてメトリック・テンプレートを保存します。

重要: メトリック・テンプレートを編集する場合、変更は新しいオブジェクトのみに影響します。

例えば、「基本キャンペーン」メトリック・テンプレートを使用するプロジェクトがあるとして、このメトリック・テンプレートにメトリックを追加します。既存のプロジェクトはその新しいメトリックを取得しません。しかし、「基本キャンペーン」メトリック・テンプレートを使用するプロジェクトを追加した場合、そのプロジェクトには新規メトリックが含まれます。

メトリック・グループ

メトリック・テンプレートでメトリック・グループを作成して、類似のメトリックを編成したり、共通のメトリック・セットを複数のメトリック・テンプレートで共有したりします。

メトリック・テンプレートの作成後、メトリック・グループを追加することができます。メトリックをグループに追加するには、メトリック・グループの名前の横の「**メトリックの管理 (Manage Metrics)**」をクリックします。「メトリックの管理 (Manage Metrics)」ダイアログでグループ内のメトリックを順序付けすることもできます。メトリックは、この順序でレポートに表示されます。

メトリック・グループを変更した場合、その変更は、そのグループを含んでいるすべてのメトリック・テンプレートに影響を与えます。例えば、「基本キャンペーン」メトリック・テンプレートで「Financials」メトリック・グループを作成したとして、後で、その「Financials」メトリック・グループを「季節キャンペーン」メトリック・テンプレートに追加します。その後、「季節キャンペーン」メトリック・テンプレートを編集し、「Financials」メトリック・グループにメトリックを追加します。これにより、その新しいメトリックは、「基本キャンペーン」メトリック・テンプレートにも含まれるようになります。

メトリック・グループをメトリック・テンプレートから削除することができます。別のメトリック・テンプレートに同じメトリック・グループが含まれている場合、そのメトリック・グループは引き続き存在します。この場合でも、そのメトリック・グループを他のメトリック・テンプレートに追加することができます。メトリック・グループのすべてのインスタンスをすべてのメトリック・テンプレートから削除すると、そのメトリック・グループが Marketing Operations から削除されます。

メトリックのローカライズ

メトリックは、以下の方法のうちの 1 つを使用してローカライズできます。

- さまざまなロケール用に翻訳されたプロパティ・ファイルをアップロードします。
- さまざまなロケールを環境設定として設定しているユーザーと連携します。各ロケールに属するユーザーが、該当するメトリックの「表示名」および「説明」を変更することができます。

翻訳用にプロパティ・ファイルを生成するには、「メトリック・テンプレート」ページの「**プロパティ・ファイルのエクスポート**」をクリックします。ご使用の

ロケールのプロパティ・ファイルが含まれている圧縮ファイルをダウンロードします。ファイル名の形式は、`metric-definition_<locale>.properties` です。

メトリックの表示名キーと説明キーは、計画、プログラム、およびプロジェクトのメトリック関連のテーブルに保存されています。キーと実際の値を区別するために、キーの接頭部 `$_$` を使用します。

Marketing Operations の稼働中に、システムにより、メトリック・キーがメトリック・プロパティ・ファイルからの値に置き換えられます。

プロパティ・ファイルの例は、次のとおりです。

```
$_$.metric.AVFee.display=Audio Visual Fee ($)  
$_$.metric.AVFee.description=Audio Visual Fee  
$_$.metric-group.BoothExpenses.display=Booth Expenses  
$_$.metric-dimension.metricValue0.display=Actual  
$_$.metric-template.CampaignProject.display=Campaign Project  
$_$.metric-template.CampaignProject.description=Metrics for  
Campaign Project Template
```

メトリック・プロパティ・ファイルのインポート

`metric-definition_<locale>.properties` ファイルを翻訳したら、新しいロケール用にそのファイルをアップロードします。

1. 「メトリック・テンプレート」 ページで「メトリック・テンプレートのインポート (Import Metrics Template)」 をクリックします。
2. 「プロパティ・ファイル」 チェック・ボックスを選択します。
3. 「参照」 をクリックしてプロパティ・ファイルを選択します。
4. 「続行」 をクリックします。

メトリック・テンプレートのエクスポートおよびインポート

複数の Marketing Operations システムがある場合、メトリック・テンプレートをエクスポートおよびインポートすることにより、メトリックのメタデータを 1 つのインスタンスから別のインスタンスに転送することができます。

システム間でメトリック・テンプレートを転送するには、「設定」 > 「Marketing Operations 設定」 > 「データの移行」 を選択し、「テンプレート」 の隣にある「エクスポート」 または「インポート」 をクリックします。圧縮アーカイブ・ファイルを作成または受信するために「メトリック」 チェック・ボックスを選択します。

データ・マイグレーションについて詳しくは、185 ページの『第 15 章 メタデータのエクスポートおよびインポート』を参照してください。

注: 8.5 より前のバージョンからエクスポートされたメトリック仕様ファイルをインポートするには、「メトリック・テンプレート」 ページで「メトリック・テンプレートのインポート (Import Metrics Template)」 をクリックし、XML ファイルを選択します。

第 10 章 セキュリティーのセットアップ

管理者は、IBM Unica Marketing Platform のユーザーおよびユーザー・グループを作成および管理します。次に、IBM Unica Marketing Operations で、アクセス役割に基づいて製品の各種のオブジェクトおよびパーツにアクセスするための権限をこれらのユーザーに付与するセキュリティー・ポリシーを構成します。

Marketing Operations では、数種類のアクセス役割を使用してセキュリティーが提供され、さまざまな方法でユーザーにアクセス役割が割り当てられます。例えば、自身または他のシステム管理者が「ユーザー権限」ページからセキュリティー・ポリシー役割をユーザーに割り当て、一方、プロジェクトを作成する担当者がどのユーザーをどの役割に振り分けるかを指定します。しかし、ユーザーがアクセス役割を取得していても、その役割に付与されている権限はセキュリティー・ポリシーによって決まり、いずれの役割も割り当てられていないユーザーはデフォルトのセキュリティー・ポリシー (グローバル・ポリシー) によって統制されます。

アクセス役割について

IBM Unica Marketing Operations でコラボレーション機能をサポートするため、アクセス役割に基づいて、異なるタイプのユーザーにさまざまなレベルのアクセス権限を付与することができます。

Marketing Operations には、オブジェクト、プロジェクト、およびセキュリティー・ポリシーという 3 つのタイプの役割があります。また、グローバル・セキュリティー・ポリシーをサポートする 2 つのデフォルトのセキュリティー役割があります。

デフォルトのセキュリティー役割について

デフォルトのセキュリティー役割である計画管理者および計画ユーザーは、システムのデフォルトのセキュリティー・ポリシー (グローバル・セキュリティー・ポリシー) に含まれています。これらの役割は、Marketing Platform の Marketing Operations のアプリケーション・アクセス・レベルに基づいて割り当てられ、常に有効になります。

- Marketing Platform で「計画管理者」レベルのアクセス権限が付与されているユーザー・グループにユーザーを追加すると、そのユーザーには Marketing Operations で「計画管理者」アクセス役割が割り当てられます。デフォルトでは、計画管理者はすべての管理設定および構成設定に対するアクセス権限を持ちます。
- Marketing Platform で「計画ユーザー」レベルのアクセス権限が付与されているユーザー・グループにユーザーを追加すると、そのユーザーには Marketing Operations で「計画ユーザー」アクセス役割が割り当てられます。デフォルトで、計画ユーザーにはごくわずかな数の権限が付与されます。
- Marketing Platform で corporate レベルのアクセス権限が付与されているユーザー・グループにユーザーを追加すると、そのユーザーには Distributed Marketing で「企業マーケティング担当者」アクセス役割が割り当てられます。デフォルトで、企業マーケティング担当者には管理権限が付与されます。

これらの役割の割り当ては、Marketing Operations の「ユーザー権限」ページでオーバーライドすることも、グローバル・セキュリティ・ポリシーから削除することもできません。ユーザーに割り当てられているシステム役割を変更するには、そのユーザーのユーザー・グループの割り当てを Marketing Platform で変更する必要があります。

ただし、Marketing Platform でユーザーに対して加えられた変更は、ユーザー・テーブルが同期されない限り、Marketing Operations には反映されないということに注意してください。ユーザーの同期はプログラムによって一定の間隔で実行されます。その間隔は、「設定」>「構成」>「Marketing Operations」>「umoConfiguration」で表示される userManagerSyncTime で指定されます。あるいは、自身で、または他のシステム管理者が、Marketing Operations の「管理設定」ページから「ユーザーの同期」機能を起動することができます。

オブジェクト・アクセス役割について

IBM Unica Marketing Operations では、オブジェクト・タイプごとにオブジェクト・アクセス役割のセットがあります。プロジェクトおよび承認については、オブジェクト・アクセス役割は「アクセス・レベル」とも呼ばれます。

ユーザーは、Marketing Operations で作業を行う場合には、該当のオブジェクト・アクセス役割がシステムによって割り当てられます。例えば、プロジェクトを作成するユーザーはプロジェクト所有者であり、プロジェクト役割に割り当てられるユーザーはプロジェクト参加者です。プロジェクトおよび承認のオブジェクト役割は、アクセス・レベルとも呼ばれます。なぜならば、該当の権限を持っているプロジェクト参加者も（プロジェクト役割を割り当てるだけでなく）オブジェクト役割を参加者に割り当てることができるからです。

すべてのオブジェクト・タイプには所有者が存在し、デフォルトでは、作成者が所有者になります。また、多くのオブジェクト・タイプには、次の表に示すように、その他の役割もあります。

表 49. オブジェクト・タイプおよびそれに関連付けられる役割

オブジェクト	役割/アクセス・レベル
計画	計画の所有者、計画の参加者
プログラム	プログラムの所有者、プログラムの参加者
プロジェクト	プロジェクトの所有者、プロジェクトの参加者、プロジェクトの要求者
要求	要求の受信者、要求の所有者
資産	資産の所有者
アカウント	アカウントの所有者
承認	承認の所有者、承認の承認者
請求書	請求書の所有者
チーム	チーム・マネージャー、チーム・メンバー
マーケティング・オブジェクト	マーケティング・オブジェクトの所有者 例えば、「クリエイティブ」という名前のマーケティング・オブジェクトの場合、そのオブジェクト役割名は「クリエイティブの所有者」です。

オブジェクト役割は、全般的なシステム処理をサポートするので、セキュリティー・ポリシーから削除することはできません。

セキュリティー・ポリシー役割について

セキュリティー・ポリシー役割とは、まさに名前のとおり、管理者が個々のセキュリティー・ポリシーに追加する役割です。それらの役割は、役職または職務に基づいて、ユーザーが組織全体のために実行する IBM Unica Marketing Operations の機能に対するアクセス権限を制御することを目的としています。

例えば、マーケティング担当管理職には、すべての計画、プログラム、プロジェクトなどに対するフルアクセス権限が必要であり、一方、個々のマーケティング担当者は、計画やプログラムを表示できる必要がありますが、作成することが許可されるのはプロジェクトのみという場合がありますと思われる。そのような場合には、「マーケティング担当管理職」や「マーケティング担当者」という名前のセキュリティー役割を追加することができます。

管理者は、セキュリティー・ポリシーに追加した役割とデフォルトのシステム役割（計画管理者および計画ユーザー）を合わせたものを、「**ユーザー権限**」ページで個々のユーザーに割り当てます。

プロジェクト役割

プロジェクト役割は、プロジェクトに参加するユーザー、またはプロジェクト要求を作成するユーザーの職務を表します。テンプレート開発者は、各プロジェクト・テンプレートの「**プロジェクト役割**」タブで、適切な役割のリストを作成します。その後、セキュリティー・ポリシーの構成時にテンプレートを選択すると、テンプレートのプロジェクト役割が他のアクセス役割と一緒に表示されます。このようにして、システム役割、オブジェクト役割、セキュリティー役割のほかに、プロジェクト役割に基づいて、異なるテンプレートに異なる権限を構成することができます。

さらに、各テンプレートで、異なるタブ（カスタム・タブとデフォルト・タブの両方）に異なる権限を構成することができます。例えば、あるプロジェクト役割の参加者に対して、ワークフローの表示権限だけを設定し、編集権限は設定しない場合などが考えられます。または、各プロジェクトについて「会計」という名前の付いたプロジェクト役割に参加するユーザーに対してのみ、その他のアクセス役割には関係なく、「**予算**」タブの編集を許可する場合も考えられます。

プロジェクト役割に基づいたテンプレート・タブのカスタム・セキュリティーは、必要に応じて無効にすることができます。その場合、「**設定**」>「**構成**」>「**Marketing Operations**」>「**umoConfiguration**」の下にある `customAccessLevelEnabled` という初期化パラメーターを `false` に設定します。

セキュリティ・ポリシーおよび権限

セキュリティ・ポリシーとは、アクセス役割に基づいて IBM Unica Marketing Operations のオブジェクトまたはパーツに対するユーザー・アクセスを許可または拒否する一連のルールです。例えば、セキュリティ・ポリシーを構成して、以下のことが確実に行われるようにすることができます。

- 管理職は、自身が所属する事業部門のすべてのプロジェクトに対するアクセス権限を有する。
- プロジェクトに対するユーザーのアクセス権限は、そのユーザーの事業部門と職務の両方に基づいて決定される。
- 選択されたユーザーのみが新規のリスト、オンデマンド・キャンペーン、および企業キャンペーンを作成できる。
- あるユーザーについてはプロジェクトを作成できるようにし、それ以外のユーザーについてはプロジェクトを開始するために要求を使用しなければならないようにする。

計画、プログラム、プロジェクト、要求など、Marketing Operations で作成されるあらゆるオブジェクトは、セキュリティ・ポリシーによって統制されます。通常、新規オブジェクトに割り当てられるセキュリティ・ポリシーは、作成時に使用されたテンプレートによって決まります。

セキュリティ・ポリシー

セキュリティ・ポリシーは、オブジェクト・タイプ (計画、プログラムなど) ごとにテーブルが 1 つある一連のテーブルとして表示されます。列はアクセス役割を示し、行は (オブジェクトのタブごとにグループ化されている) 権限を示します。

オブジェクト・アクセス、システム、およびセキュリティの各役割は、常に表示されます。ただし、プロジェクト・テンプレートおよび要求テンプレートのセキュリティを構成する場合には、テンプレートで指定されているプロジェクト役割が表示されるように、役割列が拡大されます。

セキュリティ・ポリシーで構成される権限は、IBM Unica Marketing Operations のすべての機能にわたるアクセスを制限します。

例えば、検索の結果はアクセス権限によって制約されます。ユーザーが特定のプロジェクトの「ワークフロー」タブに対するアクセス権限を持っていない場合、そのプロジェクトのタスクは「すべてのタスク」検索には表示されません。さらに、ユーザーが添付ファイルをプロジェクトに追加できない場合には、そのユーザーは、他の参加者が「添付ファイル」タスクを実行したときに発行されるアラートを受信できません。

所定のオブジェクト (例えば、プロジェクト、計画、プログラムなど) について所定の時点で有効になるセキュリティ・ポリシーは、オブジェクトのテンプレートで指定されているセキュリティ・ポリシーによって異なります。例えば、テンプレート開発者は、プロジェクト・テンプレートを作成する場合には、「テンプレートのプロパティ」タブでセキュリティ・ポリシーを指定します。そうすることに

より、そのテンプレートに基づいてプロジェクトが作成されると、それらのプロジェクトに対するアクセス権限が、テンプレートで指定されているセキュリティー・ポリシーによって決められます。

セキュリティー・ポリシーの権限

セキュリティー・ポリシーでは、オブジェクト・タイプごとに固有のアクセス制御テーブルがあります。それぞれのテーブルには、タブごとにアクセス制御セクションが、追加、編集、削除、表示などの個々のアクションを表す行と一緒に表示されます。権限を構成するには、アクセス役割と権限設定が交差する部分のテーブル・セルをクリックします。セル内をクリックすると以下の設定が切り替わります。

記号	名前	説明
チェック・マーク	付与済み	機能に対するアクセス権限を、役割が割り当てられているユーザーに付与します。
X	ブロック済み	システム役割およびセキュリティー・ポリシー役割の場合のみ、役割が割り当てられているユーザーが機能にアクセスするのを拒否します (プロジェクト役割またはオブジェクト役割を使用して機能をブロックすることはできません)。
空白	継承済み	役割が割り当てられているユーザーは、他のプロジェクト役割とオブジェクト役割から機能に関する権限設定を継承します。あるいは、指定された権限がそれらのどちらの役割にも付与されていない場合には、該当するデフォルトのシステム役割 (計画管理者または計画ユーザー) をグローバル・ポリシーから継承します。割り当てられているいずれの役割によっても権限が付与されない場合、ユーザーは、機能を実行できません。

ユーザーが複数の役割に割り当てられている場合には、アクセス権限は累積されます。例えば、ユーザーのセキュリティー役割で現在のプロジェクト役割とは異なる権限が付与される場合、そのユーザーのアクセス権限には両方の役割のすべての権限が含まれます。

権限のブロックは他のあらゆる設定に優先します。例えば、特定のテンプレートから作成されたプロジェクトの「予算」タブに対するアクセス権限がユーザーのプロジェクト役割によって付与されるが、セキュリティー役割によってそのタブへのアクセスがブロックされている場合、ユーザーは「予算」タブにアクセスできません。

グローバル・セキュリティー・ポリシー

グローバル・セキュリティー・ポリシーは、システムのデフォルトのセキュリティー・ポリシーとしての役割を果たします。「グローバル」と言っても、すべてのユーザーがあらゆるものに対してグローバル・アクセス権限またはフルアクセス権限を持つということではありません。そうではなく、このセキュリティー・ポリシーが、デフォルトで、すべてのユーザーにグローバルに関連付けられることを意味しています。グローバル・ポリシーを拡張する追加セキュリティー・ポリシーを作成

することができますが、グローバル・ポリシーは、作成する他のセキュリティー・ポリシーに関係なく、常に有効になります。

グローバル・ポリシーには、以下のような特性があります。

- Marketing Operations にログインするあらゆるユーザーに適用されます。
- 無効にすることはできません。
- 他のすべてのポリシーに優先します。システムでアクセス権限が判別される場合には、常に、ユーザーが持っているグローバル・セキュリティー・ポリシー役割が考慮に入れます。
- デフォルトのシステム役割である計画管理者および計画ユーザーの権限設定を含んでいます。それらの役割のアクセス設定は、現在プロジェクトに対する権限を持っていないあらゆるユーザーのフォールバックまたはデフォルトとして使用されます。

セキュリティー・ポリシーのプランニング

セキュリティー・ポリシーの構成を開始する前に、セキュリティーに対する組織のニーズを見極めてからセキュリティー戦略を立てる必要があります。

最初に、必要なセキュリティー役割およびプロジェクト役割の数を決定します。次に以下のようにして、ニーズを満たすために複数のセキュリティー・ポリシーを作成する必要があるかどうか、または、グローバル・ポリシーを変更するだけでよいかを見極めます。

- 組織内のすべての事業部門が同じルールに従う場合や、プロジェクト役割とセキュリティー役割を組み合わせることによってアクセス権限の違いを適切に実現できる場合には、1つのセキュリティー・ポリシー（グローバル・ポリシーに変更を加えたもの）を実装することが妥当です。セキュリティー役割は、必要な数だけグローバル・ポリシーに追加することができます。
- まったく異なるタイプのアクセス権限を必要とする職務グループが組織内に多数存在する場合には、グローバル・ポリシーをデフォルト状態のままにして、ユーザーのグループごとに新規のセキュリティー・ポリシーを追加してください。
- ユーザーは、随時、プロジェクト役割、オブジェクト役割およびセキュリティー役割を持つことができます。ベスト・プラクティスは、単一のセキュリティー・ポリシーの1つのセキュリティー役割のみをユーザーに割り当てることです。したがって、自身のプロジェクト役割とオブジェクト役割に加えて複数のセキュリティー役割を必要とするマルチタスク・ユーザーが存在する場合には、追加のセキュリティー・ポリシーを作成し、該当のそれぞれのセキュリティー・ポリシーの1つの役割をユーザーに割り当てることをお勧めします。

ベスト・プラクティスとして、実装するセキュリティー・ポリシーの数は可能な限り少なくしてください。単一のセキュリティー・ポリシーで、オブジェクト・タイプごとに異なる権限を構成することができます。単一のセキュリティー・ポリシーで、セキュリティー役割に基づいて、オブジェクト・タイプごと、およびマーケティング・オブジェクト・テンプレートごとに、異なる権限を構成することができます。それだけでなく、それぞれのプロジェクト・テンプレートに関して、プロジェクトと要求の両方の場合にタブ（カスタム・タブとデフォルト・タブ）ごとに異なるセキュリティー役割権限とプロジェクト役割権限を構成することができます。

役割の権限をセットアップするときには、個々の権限をきめ細かく設定することに留意してください。例えば、特定の役割のユーザーがプロジェクトの「サマリー」タブを編集できるようにする場合には、その役割に「編集」権限と「表示」権限の両方を付与する必要があります。「表示」権限を選択し忘れると、その役割のユーザーに対して「サマリー」タブが表示されなくなり、したがって、編集権限を持っていても役には立ちません。同様に、メッセージを読むための権限を併せて付与せずにメッセージを投稿する権限を付与しても、意味がありません。

セキュリティ・ポリシーの構成について

セキュリティ戦略が決まったら、適切なセキュリティ・ポリシーや役割を構成および作成します。次に、それらの役割を持っている担当者がどのユーザーに対してプロジェクト役割やアクセス・レベルを割り当てられるかを指定します。

グローバル・セキュリティ・ポリシーの編集

組織のセキュリティ戦略を 1 つのセキュリティ・ポリシーで実装できる場合は、グローバル・セキュリティ・ポリシーを単一のポリシーとして使用します。多くの場合、提供されている「計画管理者」システム役割と「計画ユーザー」システム役割のデフォルトの権限は、変更しません。代わりに、新しいセキュリティ役割を追加して、セキュリティの目標を実現します。

1. 「設定」>「Marketing Operations 設定」>「セキュリティ・ポリシー設定」>「グローバル」を選択します。
2. 以下の手順で、新しいセキュリティ役割を追加します。
 - a. 「別の役割を追加」をクリックします。
 - b. 役割の名前と説明を入力します。
 - c. 追加する役割ごとに、これらの手順を繰り返します。
3. 「権限の保存および編集」をクリックします。「権限」ページが表示されて、それぞれの役割について、機能へのアクセス権限を付与またはブロックできるようになります。
4. 「アクセス先」リストから、「計画」オブジェクト・タイプを選択し、各セキュリティ役割の権限設定をチェック・ボックスを使用して構成します。「アクセス先」でリストされているオブジェクト・タイプごとに、この手順を繰り返します。

注: Shift キーを押しながらクリックすることで、複数のセルを選択できます。

5. プロジェクトに関して、以下のステップを実行します。
 - a. それぞれのオブジェクト役割およびセキュリティ役割について、「プロジェクトの追加」権限および「プロジェクトをリストに表示」権限を構成します。
 - b. テンプレートを選択します。このテンプレートの「プロジェクト役割」タブの「チーム・メンバー」セクションで指定されているプロジェクト役割ごとに 1 つの列がセキュリティ・ポリシーに表示されます。テンプレート内のタブごとにアクセス制御セクションが表示されます。

- c. プロジェクト役割、オブジェクト役割、およびセキュリティー役割のテンプレートで、それぞれのタブ (カスタム・タブを含む) ごとに権限を構成します。
 - d. プロジェクト・テンプレートごとに、ステップ b) および c) を繰り返します。
6. 要求に関して、以下のステップを実行します。
 - a. 「要求の追加」権限と「要求をリストに表示」権限を、オブジェクト役割およびセキュリティー役割ごとに構成します。
 - b. プロジェクト・テンプレートを選択します。このテンプレートの「プロジェクト役割」タブの「プロジェクト要求の受信者」セクションで指定されているプロジェクト役割ごとに 1 つの列がセキュリティー・ポリシーに表示されます。テンプレート内のタブごとにアクセス制御セクションが表示されます。
 - c. プロジェクト役割、オブジェクト役割、およびセキュリティー役割のテンプレートで、それぞれのタブ (カスタム・タブを含む) ごとに権限を構成します。要求を構成する場合は、「要求の受信者」オブジェクト役割に設定する権限が、少なくとも 1 つ以上の受信者プロジェクト役割に設定された権限に一致する必要があることに注意してください。
 - d. 要求のカスタム権限を構成するプロジェクト・テンプレートごとに、ステップ b) および c) を繰り返します。
 7. マーケティング・オブジェクトの場合は、必ず、それぞれのテンプレートに適した権限を構成してください。
 8. 終了したら「変更の保存」をクリックします。

新規セキュリティー・ポリシーの作成

組織のセキュリティー・セットアップを実装するために複数のセキュリティー・ポリシーを使用する必要がある場合には、グローバル・ポリシーをデフォルトの状態のままにして、以下の手順を実行してください。

1. 「管理」>「セキュリティー・ポリシー設定」>「セキュリティー・ポリシーの追加」を選択します。
2. 「ポリシー・プロパティ」ページで、ポリシーの名前と説明を入力します。名前は一意でなければなりません。
3. 「役割」セクションで、このポリシーについてプランニングされた最初の 2 つのセキュリティー役割の名前と説明を入力します。3 つ以上のセキュリティー役割が必要な場合には、「別の役割を追加」をクリックします。
4. 「権限の保存および編集」をクリックします。
5. 計画オブジェクト・タイプを始めとし、「アクセス」フィールドに表示される各オブジェクトに合わせて、それぞれのセキュリティー役割の権限設定を構成します。

注: ヒント: 複数のセルを選択するには、Shift キーを押しながら対象のセルをクリックします。

6. プロジェクトの場合、以下を実行します。

- a. それぞれのオブジェクト役割およびセキュリティー役割について、「プロジェクトの追加」権限および「プロジェクトをリストに表示」権限を構成します。
 - b. テンプレートを選択します。これで、セキュリティー・ポリシーによって、このテンプレートの「プロジェクト役割」タブの「チーム・メンバー」セクションにリストされるプロジェクト役割の列が表示されるようになります。また、テンプレートのそれぞれのタブのアクセス制御セクションも表示されるようになります。
 - c. プロジェクト役割、オブジェクト役割、およびセキュリティー役割のテンプレートで、それぞれのタブ (カスタム・タブを含む) ごとに権限を構成します。
 - d. プロジェクト・テンプレートごとに、ステップ b) および c) を繰り返します。
7. 要求の場合、以下を実行します。
- a. それぞれのオブジェクト役割およびセキュリティー役割について、「要求の追加」権限および「要求をリストに表示」権限を構成します。
 - b. プロジェクト・テンプレートを選択します。これで、セキュリティー・ポリシーによって、このテンプレートの「プロジェクト役割」タブの「プロジェクト要求の受信者」セクションにリストされるプロジェクト役割の列が表示されるようになります。また、テンプレートのそれぞれのタブのアクセス制御セクションも表示されるようになります。
 - c. プロジェクト役割、オブジェクト役割、およびセキュリティー役割のテンプレートで、それぞれのタブ (カスタム・タブを含む) ごとに権限を構成します。
 - d. 要求のカスタム権限を構成するプロジェクト・テンプレートごとに、ステップ b) および c) を繰り返します。
8. マーケティング・オブジェクトの場合は、必ず、それぞれのテンプレートに適した権限を構成してください。
9. すべての権限を設定し終わったら、「変更の保存」をクリックします。

セキュリティー・ポリシーを無効にするには、随時、「無効」をクリックします。セキュリティー・ポリシーを無効にするということは、ユーザーは以降に作成するプロジェクト、要求、または承認についてそのセキュリティー・ポリシーを選択できなくなり、管理者はユーザーをそのセキュリティー・ポリシーに割り当てることができなくなるということです。

セキュリティー役割に対するユーザー可視性オプションの構成

プログラム、計画、プロジェクトなどを作成する場合、参加するユーザーまたはチームを指定します。また、プロジェクトの場合は、プロジェクト役割に割り当てるユーザーまたはチームを指定します。デフォルトでは、どのユーザーまたはチームを参加者として追加できるか、どのユーザーまたはチームをプロジェクト役割に割り当てることができるかについての制限はありません。

セキュリティ役割に対してユーザー可視性機能を構成する場合は、そのセキュリティ役割を持つユーザーの「チーム・メンバーの選択」ダイアログ・ボックスまたは「メンバーのアクセス・レベルの選択」ダイアログ・ボックスに表示するユーザーのリストを制限できます。

1. 「設定」 > 「Marketing Operations 設定」 > 「セキュリティ・ポリシー設定」を選択します。
2. 「セキュリティ・ポリシー設定」ページで、該当するセキュリティ・ポリシーまでスクロールして役割を選択します。「ユーザー可視性」ページが表示されます。
3. ユーザー・グループとチームのリストから、該当するグループまたはチームを選択して矢印ボタンをクリックし、右側のリストに移動します。このセキュリティ役割を持つユーザーが参加者を追加する場合またはプロジェクト役割を割り当てる場合、右側のリストのユーザー・グループに属しているユーザーのみ選択することができます。

注: 右側の選択ボックスが空のとき (これがデフォルトです) は制約事項が存在しないため、この役割のユーザーが参加者を追加する場合またはプロジェクト役割を割り当てる場合は、すべてのグループとチームが表示されます。

4. 「変更の保存」をクリックします。「セキュリティ・ポリシー」ページが表示されます。
5. 構成するセキュリティ役割ごとに、ステップ 2 から 4 までを繰り返します。

セキュリティ役割を割り当てるには

セキュリティ役割をセキュリティ・ポリシーに追加し終わったら、それらの役割を該当のユーザーに割り当てます。ユーザーにセキュリティ役割が割り当てられていない場合、システムは、グローバル・ポリシーを使用してユーザーのアクセス権限を判別します。

セキュリティ役割は、「ユーザー権限」ページから、直接、個々のユーザーに割り当てます。

1. 「設定」 > 「Marketing Operations 設定」を選択します。
「管理設定」ページが開きます。
2. 「ユーザー権限」をクリックします。
「ユーザー権限」ページが開きます。
3. 「ユーザー権限」ページで、ユーザーが属しているユーザー・グループを展開し、ユーザーを選択します。「プロパティ」ページが開きます。
4. 「ユーザー役割の割り当て」セクションの「選択可能な役割」リスト・ボックスで、このユーザーに割り当てるセキュリティ役割が含まれているセキュリティ・ポリシーを展開します。
5. セキュリティ役割を選択し、矢印ボタンを使用して「選択可能な役割」から「選択した役割」に移動します。

役割を必要な数だけ割り当てます。ただし、単一のセキュリティー・ポリシーの 1 つのセキュリティー役割のみをユーザーに割り当てるのがベスト・プラクティスであるということに留意してください。

6. ユーザーごとに、ステップ 3 から 5 を繰り返します。
7. 「変更の保存」をクリックします。

役割が「ユーザー権限」画面の「割り当てられた役割」列に表示されます。

テンプレートのアクセス権限の制御について

セキュリティー・ポリシーに関するセクションで説明したように、セキュリティー・ポリシーに含まれている権限を使用して、以下のようなアクセス権限を制御します。

- セキュリティー役割に基づいて、どのユーザーが新規のプロジェクト、計画、プログラムなどを作成できるか
- セキュリティー役割に基づいて、どのユーザーが (自身ではアイテムを作成できないが) 他のユーザーの作成したアイテムを表示および操作できるか
- プロジェクト役割およびオブジェクト役割に基づいて、ユーザーがプロジェクトを作成するときにどのタブにアクセスできるか

また、セキュリティー・ポリシーを使用して、新規アイテムの作成時にユーザーがどのテンプレートを選択できるかを指定することもできます。

テンプレート開発者がテンプレートを作成するときに、「サマリー」タブに 1 つまたは複数のセキュリティー・ポリシー・フィールドが含まれます。セキュリティー・ポリシー・フィールドで指定される値によって、テンプレートにアクセスできるユーザーが決まります。テンプレートに割り当てられているセキュリティー・ポリシーで該当のタイプのオブジェクトを作成できるセキュリティー役割を付与されていない場合、そのタイプのオブジェクトを作成するときにそのテンプレートはテンプレート・リストに表示されません。

プロジェクトと要求に関する追加のアクセス制御

組織におけるプロジェクトの管理方法によっては、特定のユーザーのみがプロジェクトを作成できるようにセキュリティー・ポリシーを構成する場合があります。その他のユーザーはプロジェクトに対する要求を作成し、所定のユーザーがその要求を承認または拒否することとなります。この場合、あるユーザー・グループがこうした要求を基にプロジェクトを作成し、このグループによって作成されたプロジェクトを、別のユーザー・グループが処理することもできます。

このビジネス・ケースをサポートするため、プロジェクト・テンプレートには以下の 2 つのセキュリティー・ポリシー設定が用意されています。

- 「表示」ポリシーでは、ユーザーがプロジェクトまたはプロジェクトの要求を作成するときに、どのユーザーがテンプレートを選択できるかを指定します。テンプレート開発者は、プロジェクト・テンプレートごとに 1 つ以上の表示ポリシーを指定できます。
- 「使用」ポリシーでは、要求に基づいてプロジェクトが作成された後に、どのユーザーがプロジェクトにアクセスできるかを指定します。

「使用」ポリシーは、以下の 2 つの方法のいずれかで指定できます。

- テンプレート開発者が、テンプレートの「サマリー」タブでポリシーを指定する。
- プロジェクトまたはプロジェクト要求を作成するユーザーが「使用」ポリシーを指定できるように、テンプレート開発者がテンプレートを構成する。

「使用」ポリシーを指定する方法は、「セキュリティー・ポリシーの使用モデル」と呼ばれます。使用モデルが「テンプレート」に設定されている場合、テンプレート開発者は「使用」ポリシーを指定します。使用モデルが「ユーザー」に設定されている場合、テンプレートを使用してプロジェクト要求を作成するユーザーは、自分がアクセス権限を持っているリストからセキュリティー・ポリシーを選択します。

プロジェクト要求のセキュリティー構成例

この例では、マーケティング活動チーム、戦略的マーケティング・チーム、その他のマーケティング担当者が在籍する XYZ 社という組織について説明します。ユーザーは、展示会および戦略的アカウントという 2 種類のプロジェクトと要求を作成します。

- 展示会プロジェクト: 下級マーケティング担当者が、展示会プロジェクトの要求を作成します。この要求は、マーケティング組織内の全員に送信でき、作成されたプロジェクトも全員が処理できます。
- 戦略的アカウント・プロジェクト: 下級マーケティング担当者は戦略的アカウント・プロジェクトの要求も作成できますが、情報を入力できるのは「サマリー」タブだけです。また、要求を送信できるのは、このプロジェクトに参加する唯一のチームである戦略的マーケティング・チームのメンバーに対してだけです。

セキュリティー・ポリシー

XYZ 社のシステム管理者は、以下の 2 つのセキュリティー・ポリシーを構成しました。

- **マーケティング活動担当者。** マーケティング活動チームのメンバーが対象です。各テンプレートのセキュリティーは、このポリシー内で以下のように構成されています。
 - 展示会のテンプレート: すべてのプロジェクト役割が、すべてのタブにアクセスできます。
 - 戦略的アカウントのテンプレート: 「要求所有者」の役割がアクセスできるのは「サマリー」タブだけです。
- **戦略的マーケティング担当者。** マーケティング・スタッフの上級メンバーが対象です。各テンプレートのセキュリティーは、以下のように構成されています。
 - 展示会のテンプレート: すべてのプロジェクト役割が、すべてのタブにアクセスできます。
 - 戦略的アカウントのテンプレート: すべてのプロジェクト役割が、すべてのタブにアクセスできます。

テンプレートのアクセス権

上記のワークフローを設定するため、テンプレート開発者は以下の権限を使用してテンプレートを構成しました。

- 「**展示会**」テンプレートの「サマリー」タブには、以下のセキュリティー・ポリシー設定が表示されます。
 - **セキュリティー・ポリシー使用モデル:** ユーザー。要求を作成するユーザーが、要求に適用されるセキュリティー・ポリシーを指定します。
 - **セキュリティー・ポリシーの表示:** マーケティング活動担当者、戦略的マーケティング担当者 (すべてのユーザーが「展示会」テンプレートを選択できます)。
 - **セキュリティー・ポリシーの使用:** 空白。使用モデルが「ユーザー」に設定されている場合、「セキュリティー・ポリシーの使用」フィールドは使用不可になります。このテンプレートを使用してプロジェクトまたは要求を作成する場合、セキュリティー・ポリシーを指定する必要があります。
- 「**戦略的アカウント**」テンプレートの「サマリー」タブには、以下のセキュリティー・ポリシー設定が表示されます。
 - **セキュリティー・ポリシー使用モデル:** テンプレート。テンプレート開発者は、「セキュリティー・ポリシーの使用」フィールドに値を設定します。
 - **セキュリティー・ポリシーの表示:** マーケティング活動担当者、戦略的マーケティング担当者 (すべてのユーザーが「戦略的アカウント」テンプレートを選択できます)。
 - **セキュリティー・ポリシーの使用:** 戦略的マーケティング担当者。これは、要求を作成するユーザーは、要求のセキュリティー・ポリシーを指定できないことを意味します。代わりに、このテンプレートから作成された要求には、戦略的マーケティング担当者のセキュリティー・ポリシーが割り当てられます。これにより、戦略的マーケティング担当者のセキュリティー・ポリシーによって割り当てられたセキュリティー役割を持つ上級マーケティング担当者のみが、プロジェクト要求と、これらのプロジェクト要求に基づいて作成されたプロジェクトにアクセスできるようになります。

使用例

以下のセキュリティー・ポリシーに割り当てられているユーザーについて考えてみます。

- 戦略的アカウントのセキュリティー・ポリシー: Mary Manager、Strategic Sam
- マーケティング活動担当者: Junior Jim、Sophomore Sally

ユーザーは、要求とプロジェクトを以下のように作成します。

表 50. プロジェクト要求の例

プロジェクトまたは要求	作業手順
展示会プロジェクト	Junior Jim は展示会の要求を作成し、この要求を Strategic Sam に送信します。Strategic Sam はこの要求を承認し、Vendor Vinny をプロジェクトの所有者として設定します。

表 50. プロジェクト要求の例 (続き)

プロジェクトまたは要求	作業手順
戦略的アカウント・プロジェクト:	Junior Jim は、アクセスできる唯一のタブである「サマリー」タブに情報を入力して、戦略的アカウント要求 SA01 を作成します。この要求は、戦略的アカウントのセキュリティー・ポリシーに自動的に割り当てられます。Jim は、これを変更することはできません。

まとめ

- 展示会プロジェクトまたは戦略的アカウント・プロジェクトの要求は、どのユーザーでも作成することができます。
- 展示会要求はどのユーザーでも受信でき、展示会プロジェクトにはどのユーザーでも割り当てることができます。
- 戦略的アカウント・プロジェクトで作業できるのは、戦略的アカウントのセキュリティー・ポリシーに基づく役割を持つユーザーだけです。

第 11 章 アラートのセットアップ

アラートは、プロジェクトや承認に関連する重要なイベントやユーザーが実行すべきアクションの通知です。アラートにより、プログラムやプロジェクトがスケジュールより遅れて実行されていることや、予算オーバーであること、あるいは自分の承認を必要とするプロジェクトがあることに気付くことができます。

ユーザーは、以下の 2 とおりの方法でアラートを受け取ります。

- Marketing Operations の場合: Marketing Operations を介してアラートを受け取った場合は、「アラート」ページに移動してそれを表示します。
- 電子メールの場合: 電子メールでアラートを受け取った場合、そのアラートは、メール・アプリケーションの受信ボックスに直接入れられます。

アラートには、イベントでトリガーされるアラートとアラームの 2 つのタイプがあります。

IBM Unica Marketing Operations は、これらのアラートをさまざまな構成可能な頻度で送信します。

イベントでトリガーされるアラートについて

これらのアラートは、システム・イベントに応答して関係者に送信されるメッセージです。例えば、誰かが承認を作成し、管理者を承認者として指定した場合、システムにより、その管理者にその承認へのリンクを含むアラートが送信されます。

テンプレート開発者は、プロジェクト・テンプレートを作成する際に、プロジェクト・アラートのテキストをカスタマイズできます。また、プロジェクト・テンプレートのタブのカスタム権限を構成する場合、システムにより、アラートが適宜フィルターに掛けられます。例えば、一部のプロジェクト参加者が「添付ファイル」タブへのアクセス権限を持っていない場合、システムでは、それらの参加者に添付ファイルに関するアラートは送信されません。

IBM Unica Marketing Operations は、イベントでトリガーされたアラートをほぼ即時に送信します。イベント (ユーザーが承認要求を送信するなど) が発生すると、Marketing Operations は、それをキューに追加します。指定された間隔で、Marketing Operations はこれらのイベントをキューから取り出し、アラートを送信します。このポーリング間隔は、「設定」>「構成」>「Marketing Operations」>「umoConfiguration」>「通知」で notifyEventMonitorPollPeriod というパラメーターを使用して制御できます。デフォルトでは、このオプションは 33 秒です。つまり、30 秒ごとに、Marketing Operations がその直前の 30 秒間に発生したイベントを選出し、アラートを送信します。

このオプションの設定について詳しくは、「IBM Unica Marketing Operations インストール・ガイド」を参照してください。

アラームについて

アラームとは、特定の 1 つのイベントでは駆動されないすべてのアラートのことです。アラームには、通常、オブジェクト (タスクやプロジェクトなど) と時間との関係、またはあるオブジェクトと別のオブジェクトとの関係が伴います。

例えば、期限が近づいている作業のリマインダーを送信するかどうかを判断する場合、IBM Unica Marketing Operations は、現在日付を調べて作業スケジュール日付と比較し、顧客が何日前にリマインダーを設定したかを確認して、その作業のリマインダーを送信するかどうかを判断する必要があります。

Marketing Operations は、すべてのオブジェクトを確認し、これらの検査を定期的に行う必要があります。システムがこれらのアラーム検査を実行するポーリング期間は、デフォルトで 24 時間ごとに 1 回です。この構成をオブジェクト単位で行うには、「設定」>「構成」>「Marketing Operations」>「umoConfiguration」>「notifications」の下にある以下の構成パラメーターを使用します。

- > **approval:** notifyApprovalAlarmMonitorPollPeriod
- > **project:** notifyProjectAlarmMonitorPollPeriod
- > **asset:** notifyAssetAlarmMonitorPollPeriod

これらのオプションの設定について詳しくは、「IBM Unica Marketing Operations インストール・ガイド」を参照してください。

アラートと日付のタイプ

デフォルトのアラートをセットアップする場合、管理者は、目標の日付、予想日付、またはその両方の通知を設定できます。

目標の日付には、以下の 5 つのアラートがあります。

- ワークフロー・タスクは n 日以内に開始することになっています
- ワークフロー・タスクは n 日以内に終了することになっています
- ワークフロー・マイルストーンは n 日以内に終了することになっています
- 目標の日付と比べてワークフロー・タスクは期限を過ぎています (最大 n 日間アラート)
- 目標の日付と比べてワークフロー・タスクは遅延しています (最大 n 日間アラート)

また、予想日付には、これに対応する別のアラートが 5 つあります。

- ワークフロー・タスクは n 日以内に開始すると予想されます
- ワークフロー・タスクは n 日以内に終了すると予想されます
- ワークフロー・マイルストーンは n 日以内に終了すると予想されます
- 予想日付と比べてワークフロー・タスクは期限を過ぎています (最大 n 日間アラート)
- 予想日付と比べてワークフロー・タスクは遅延しています (最大 n 日間アラート)

これらの設定は、「デフォルトのアラート・サブスクリプション」画面の「プロジェクト | リマインダー」セクションにあります。

IBM Unica Marketing Operations によるアラート送信元の決定方法

IBM Unica Marketing Operations が電子メール・アラートを送信する場合、送信者の電子メール・アドレスになるのは、以下のうち最初の有効なアドレスです。

1. アラートをトリガーしたアクションを開始した個人の電子メール・アドレス
2. オブジェクトの所有者の電子メール・アドレス
3. 「設定」 > 「構成」 > 「Marketing Operations」 > 「umoConfiguration」 > 「電子メール」の notifyDefaultSenderEmailAddress の値として使用される電子メール・アドレス。

これらの電子メール・アドレスがいずれも有効でない場合、Marketing Operations は (ログ・ファイルに) 警告を出し、電子メール・アラートを送信しません。

デフォルトのアラート・サブスクリプションの設定について

管理者は、どのオブジェクト・アクセス役割でどのアラートが受信されるべきか構成することができます。デフォルトのアラート・サブスクリプションをセットアップできる IBM Unica Marketing Operations オブジェクトは、以下のとおりです。

- プロジェクト
- 要求
- プログラム
- 承認
- 資産
- 請求書
- アカウント
- 計画
- マーケティング・オブジェクト。それぞれのマーケティング・オブジェクトには固有のアラート・サブスクリプション・セクションがあります。

デフォルトのサブスクリプションは、オブジェクト・アクセス役割 (「デフォルトのアラート・サブスクリプション」ページで「メンバー・タイプ」として表示されるもの) によって設定されます。例えば、新規メンバーがプロジェクトに追加されるたびにプロジェクトの所有者と参加者に何らかのアラートが送信されるようにし、プロジェクトの要求者にはアラートが送信されないように指定することができます。

ユーザーは、プログラム、プロジェクト、またはプロジェクト要求を開くとデフォルトのサブスクリプションを確認することができます。Marketing Operations ツールバーでコミュニケーション・アイコンをクリックし、ドロップダウン・リスト・メニューで「アラートの購読」を選択してください。

デフォルトのアラート・サブスクリプションの設定に関する注意

「デフォルトのアラート・サブスクリプション」ページを使用して作業を行う場合には、以下のことに注意してください。

- デフォルト設定を指定しているということに留意してください。ユーザーは、セキュリティ・ポリシーによって権限を付与されていれば、それぞれのプログラム、プロジェクト、またはプロジェクト要求について、これらのデフォルト設定を変更することができます。
- デフォルトのアラート・サブスクリプションを変更した場合、既存のアイテムには影響しません。変更後に作成されたオブジェクトにのみ影響します。

ユーザーによるデフォルトのアラート・サブスクリプションのオーバーライド

ユーザーは、以下のオブジェクト内のアラートにサブスクライブすることができます。

- プログラム
- プロジェクト
- 要求
- マーケティング・オブジェクト

そのため、ユーザーは、特定のオブジェクト・タイプに設定されているデフォルトのサブスクリプションに関係なく、自身またはチーム・メンバーが受信するアラートを制御することができます。

デフォルトのアラート・サブスクリプションを設定するには

1. 「設定」 > 「Marketing Operations 設定」 > 「デフォルトのアラート・サブスクリプション」を選択します。

「デフォルトのアラート・サブスクリプション」ページに、すべてのアラートがオブジェクト・タイプ別にリストに表示されます。

2. 該当のチェック・ボックスを選択して、どのオブジェクト・アクセス役割でどのアラートが受信されるべきか構成します。
3. 「変更の保存」をクリックします。

「デフォルトのアラート・サブスクリプション」ページ

このページは、プロジェクト、要求、プログラム、承認、資産、請求書、アカウント、および計画の各セクションに分かれています。さらに、システムで定義された各マーケティング・オブジェクト・タイプのセクションがあります。サブセクション・タイプは 2 つあります。

- **トラッキングの変更:** すべてのオブジェクトに、IBM Unica Marketing Operations のその特定領域内で発生するシステム処置のリストが含まれています。例えば、プロジェクトのトラッキングの変更サブセクションに「新しいプロジェクトを要求から作成します」が表示されます。

- ・ **リマインダー**: 一部のオブジェクトには、オブジェクトの存続期間における特定時点のリマインダーのリストが含まれています。例えば、プロジェクトのリマインダー・サブセクションに「プロジェクトは 3 日遅れています (A project is 3 days late)」が表示されます。

アラートの更新間隔の変更

デフォルトでは、IBM Unica Marketing Operations は、3 分 (180 秒) ごとにアラート数を更新します。このデフォルトは、必要に応じて、「設定」>「構成」>「Marketing Operations」>「umoConfiguration」>「通知」で alertCountRefreshPeriodInSeconds パラメーターを編集することにより、任意の値に変更できます。

更新間隔を短くすると、マルチユーザー環境でパフォーマンスへの影響が出ることがあります。

アラートの属性とタブのカスタマイズ

管理者は、イベントでトリガーされるアラートのロケール、件名、ヘッダー、フッター、およびメッセージ・テキストのカスタマイズを行うことができます。アラートは、システム全体のイベントに基づいてカスタマイズすることも、選択したテンプレートのイベントに基づいてカスタマイズすることもできます。例えば、プログラムが開始されるたびに送信されるアラートをカスタマイズできます。あるいは、ある特定のプログラム・テンプレート（「展示会」サンプル・テンプレートなど）専用にアラートをカスタマイズできます。

属性およびシステム・タブへのリンクが追加されると、それらがシステム定義のタグとして表示されます。アラートが送信されると、システムにより、タグがオブジェクトに適した値に置き換えられます。

属性の追加について

標準的な計画オブジェクト属性またはイベントに関連したシステム属性を挿入できます。件名、本文、ヘッダー、およびフッターの属性を追加できます。

システム・タブへのリンクの追加について

計画オブジェクトの任意のシステム・タブにリンクを指定できます。これにより、電子メール・メッセージに、計画オブジェクトの選択したタブへの直接リンクが含まれます。例えば、プロジェクトが開始された場合、その通知にプロジェクトのワークフロー・タブへのリンクを含めることが可能です。

テンプレートには、件名、本文、ヘッダー、およびフッターに対して、システム・タブへのリンクを追加できます。システム・レベルでは、システム・タブ・リンクを追加できるのは件名と本文の中だけです（ヘッダーとフッターには追加できません）。

アラートをカスタマイズする方法

1. アラートをシステム全体でカスタマイズするか、または特定のテンプレートに限定してカスタマイズするかを決定します。

- アラートをシステム全体でカスタマイズするには、「管理設定」ページの「その他のオプション」セクションから「アラートのカスタマイズ」をクリックします。
- 特定のテンプレートのアラートをカスタマイズするには、「テンプレート構成」ページでテンプレートを選択し、次にテンプレートの「アラートのカスタマイズ」タブを選択します。

システムにより「アラートのカスタマイズ」ページが表示されます。

2. 「ロケール」フィールドでロケールを選択します。

注: ご使用のシステムで、複数の言語またはロケール、あるいはその両方がサポートされている場合は、カスタマイズするアラートごとに、サポートされる各ロケールのカスタム・テキストを設定することをお勧めします。

3. 「計画オブジェクト」フィールドでオブジェクトを選択します。

テンプレートを構成しているときに、このフィールドが使用不可になっていることがあります。例えば、プロジェクト・テンプレートを処理しているときは、このフィールドでは「プロジェクト」が選択されていて、それ以外のものは選択できません。

4. 「アラート・イベント」フィールドでイベントを選択します。
5. アラートの件名とメッセージのテキストを入力します。オプションで、アラートのヘッダーとフッターのテキストを入力します。
6. オプションで、件名、本文、ヘッダー、またはフッターについて、属性とタブへのリンクを指定します。

次のことに注意してください。

- 使用可能な属性とタブは、「アラートのカスタマイズ」ページの右側にあるタブに表示されます。
 - 「アラートの詳細を取得」および「ヘッダーとフッターを取得」をクリックし、アラート、およびヘッダーとフッターの現行またはデフォルトのテキストをそれぞれ取得します。
 - 詳細なタスク・アラートを使用している場合は、ワークフロー・タスク・アラート専用アラートのヘッダーとフッターをカスタマイズできます。
 - アラートをシステム全体でカスタマイズしている場合、ヘッダーとフッターにシステム・タブへのリンクを追加することはできません。
7. アラートのカスタマイズが完了したら、変更を行った各セクションで「変更の保存」をクリックし、アラートを保存します。

「アラートのカスタマイズ」ページ

このページには、アラートをトリガーするシステム・イベント用のカスタム・メッセージを設定するコントロールが含まれます。このページは、「通知のカスタマイズ (Customize notification)」と「ヘッダーおよびフッターのカスタマイズ (Customize header and footer)」の 2 つのセクションに分かれています。

通知のカスタマイズ (Customize notification)

ページの上領域には、通知そのものをカスタマイズするコントロールが含まれています。

表 51. 「アラートのカスタマイズ」 ページ: 「通知のカスタマイズ (Customize notification)」 セクション

フィールド	説明
ロケール	カスタム・テキストのロケールを選択します。サポートされる各ロケールのテキストを追加します。 ご使用のシステムで、複数の言語またはロケールがサポートされている場合は、カスタマイズするアラートごとに、サポートされる各ロケールのカスタム・テキストを設定することを推奨します。
計画オブジェクト	カスタム・テキストを適用するオブジェクトを選択します。
アラート・イベント	カスタム・テキストを適用するイベントを選択します。
アラートの詳細を取得	このアラートの現行またはデフォルトのテキストをフェッチします。
件名	アラートの件名が入っています。テキスト、属性、およびシステム・タブへのリンクを入力するか置き換えて変更します。場合によっては、このページに 2 つの件名ボックス (カスタマイズされたテキストと一般テキスト用に 1 つずつ) が含まれることがあります。
本文メッセージ (Body Message)	アラートのメッセージ・テキストが入っています。テキスト、属性、およびシステム・タブへのリンクを入力するか置き換えて変更します。場合によっては、このページに 2 つのメッセージ・ボックス (カスタマイズされたテキストと一般テキスト用に 1 つずつ) が含まれることがあります。
<< および >> ボタン	選択した属性とシステム・タブをテキスト・ボックスに入れたり、そこから出したりします。
属性およびタブ (Attributes and Tabs)	「属性」または「タブ」を選択して、システム属性またはシステム・タブへのリンクを、件名またはメッセージ・テキストに追加します。

ヘッダーおよびフッターのカスタマイズ (Customize header and footer)

このページの下部領域には、メッセージのヘッダーとフッターをカスタマイズするコントロールが含まれています。

表 52. 「アラートのカスタマイズ」 ページ: 「ヘッダーおよびフッターのカスタマイズ (Customize header and footer)」 セクション

フィールド	説明
ロケール	カスタム・テキストのロケールを選択します。サポートされる各ロケールのテキストを追加します。 ご使用のシステムで、複数の言語またはロケールがサポートされている場合は、カスタマイズするアラートごとに、サポートされる各ロケールのカスタム・テキストを設定することを推奨します。
ヘッダーとフッターを取得	アラートのヘッダーとフッターの現行またはデフォルトのテキストをフェッチします。

表 52. 「アラートのカスタマイズ」 ページ: 「ヘッダーおよびフッターのカスタマイズ (Customize header and footer)」 セクション (続き)

フィールド	説明
ヘッダー	アラートの見出しテキストが入っています。テキストを入力するか置き換えて変更します。
フッター	アラートのフッター・テキストが入っています。テキスト、属性、およびシステム・タブへのリンクを入力するか置き換えて変更します。
<< および >> ボタン	選択した属性とシステム・タブをテキスト・ボックスに入れたり、そこから出したりします。
属性およびタブ (Attributes and Tabs)	「属性」または「タブ」を選択して、システム属性またはシステム・タブへのリンクを、ヘッダーとフッター (アラートの日付など) に追加します。

一般およびカスタマイズされたテキスト・ボックス

テキスト域フィールドの数は、選択されるイベントによって異なります。ユーザーのアクセス権限レベルに応じて異なるメッセージをトリガーするイベントもあれば、そうでないものもあります。

例えば、プロジェクトが開始されると、システムにより、影響を受けるすべてのユーザーに同じアラートが送信されます。しかし、ユーザーにワークフロー・タスクが割り当てられている場合、システムにより、割り当てられたユーザーには特別メッセージ (「個人 (Personal)」メッセージと呼ばれます) が送信され、影響を受けるその他すべてのユーザーには一般メッセージが送信されます。

選択したイベントに、関連付けられた個人メッセージがない場合、「アラートのカスタマイズ」 ページには、メッセージ用に以下の 2 つのテキスト・ボックスが表示されます。「件名」および「本文メッセージ (Body Message)」。選択したイベントに、排他的メッセージと一般メッセージがある場合、「アラートのカスタマイズ」 ページには、以下の 4 つのテキスト・ボックスが表示されます。「件名 (一般) (Subject (General))」、「件名 (カスタマイズ) (Subject (Personalized))」、「本文メッセージ (一般) (Body Message (General))」、および「本文メッセージ (カスタマイズ) (Body Message (Personalized))」。

カスタム・アラートの例

以下の例では、要求から新規プロジェクトが作成されたときに、カスタム・アラートを構成します。

1. 「アラートのカスタマイズ」画面にナビゲートします。

ロケール: 英語 (または使用するロケールを選択してください)

計画オブジェクト: 要求

アラート・イベント: プロジェクト要求が送信されます

2. 「アラートのカスタマイズ」セクションの「アラートの詳細を取得」をクリックします。

3. デフォルトの件名と本文テキストを削除し、属性とタブのリストを使用して、以下の件名とメッセージを構成します。

件名

```
<attribute>ログイン・ユーザー</attribute> would like you to approve the request,  
<attribute>コード付きの要求名</attribute>
```

本文メッセージ

Hello <attribute>受信者</attribute>,

Your approval is needed to start this project. This request was created on
<attribute>作成日</attribute>.

You can approve the project here: <tab link="summary">プロジェクトの「サマリー」タブ</tab>

4. 「アラートのカスタマイズ」セクションの「**変更の保存**」をクリックします。

窓口担当の Connie (Connie Contact) がマネージャーの Mary (Mary Manager) に要求を送信するとします。Mary は、次のようなアラートを受け取ります。

```
Connie Contact would like you to approve the request, "July Magazines (TRS100)"  
Hello Mary Manager,  
Your approval is needed to start this project. This request was created on  
June 15, 2008.  
You can approve the project here: Summary tab for the project.
```


第 12 章 資産のセットアップ

IBM Unica Marketing Operations は、デジタル資産に対する集中管理、セキュア・ストレージ、および Web ベースのアクセスを提供します。Marketing Operations では、以下のような特性を持つライブラリーに資産が保管されます。

- 資産ライブラリーは、デジタル資産リポジトリーにおける最高レベルの組織構造です。
- ライブラリーにアクセスして、資産をライブラリーに追加することができます (Marketing Operations 管理者から、資産に割り当てられたセキュリティー・ポリシーの権限が付与されている場合)。
- 資産は、フォルダーを使用して編成できます。
- 所有するすべての資産を表示できます。
- 資産を所有していない場合は、そのステータスが確定になった場合に資産を表示できます。
- ライブラリーを作成するためには、Marketing Operations への管理アクセスを持っている必要があります。

ライブラリー内の資産は、リスト (資産リスト) またはサムネール (資産サムネール) のいずれかとして表示できます。デフォルトでは、IBM Unica Marketing Operations では、資産ライブラリーを選択すると、リスト・ビューに資産が表示されます。

表 53. 資産ビュー

ビュー	説明
資産リスト	ライブラリー内の資産がアルファベット順 (昇順) でリスト表示されます。「名前」列をクリックすると、ソート順を変更できます。 その列をクリックして昇順と降順のソートを切り替えることにより、他の任意の列でソートすることもできます。
資産サムネール	ライブラリー内の各資産のサムネール・イメージが表示されます。資産のサムネール・イメージは、ライブラリーに資産を追加するときにアップロードできることに注意してください。

ライブラリーの作成方法

管理者は、ユーザーが資産を保管するライブラリーを作成する必要があります。ライブラリーは、作成後に削除したり、移動したりすることはできません。

1. IBM Unica Marketing にログインします。
2. 「設定」 > 「Marketing Operations 設定」を選択します。
3. 「資産ライブラリー定義」をクリックします。
4. 「ライブラリーの追加」をクリックします。

「新しいライブラリー」ページが表示されます。

5. ライブラリーの名前と説明を入力します。例えば、自分のライブラリーに「Brand Materials」という名前を付け、それをブランド管理に関連したすべてのイメージとドキュメントがある場所として記述することができます。
6. 「セキュリティ・ポリシー」フィールドでライブラリーに使用するセキュリティ・ポリシーを選択します。

以下の点に注意してください。

- このライブラリーにアクセスできるのは、選択されたセキュリティ・ポリシー内のユーザーだけです。
 - ライブラリー内のすべてのフォルダーと資産には、このセキュリティ・ポリシー内に同じアクセス制御ルールが指定されています。
 - 特定のドキュメント・セットに異なる権限を適用する場合は、これらのドキュメント用のライブラリーを作成する必要があります。
7. 「変更の保存」をクリックします。

自分のライブラリーがライブラリーのリストに表示されます。

ライブラリーの無効化および有効化

ライブラリーを無効にするには、「管理」>「資産ライブラリー定義」をクリックし、ライブラリーの隣にある「無効にする」リンクをクリックします。もう一度有効にするには、「有効化」リンクをクリックします。

ライブラリーを無効にすると、以下のようになります。

- 無効化されたライブラリーを編集できるのは、管理者だけです (ライブラリーへのリンクをクリックします)。
- ユーザーは、目的に関わらず、無効化されたライブラリーにアクセスできません。そのライブラリーの資産を表示したり、編集したりすることはできません。また、ライブラリーを参照して、プロジェクトの添付ファイルを作成したり、承認項目を追加したりすることもできません。
- アラートまたは電子メール・メッセージに、無効化されたライブラリー内の資産へのリンクがある場合、ユーザーはそのリンクからその資産にアクセスすることはできません。
- 無効化されたライブラリー内の資産がプロジェクトや承認の添付ファイルでもある場合、ユーザーはそのプロジェクトや承認からその資産にアクセスすることができます。
- ユーザーがプロジェクトまたは承認に新規ファイルを添付する場合、無効化されたライブラリーは選択リストに表示されません。

第 13 章 アカウントのセットアップ

トップレベル・アカウントは、特定の事業領域の費用とキャッシュ・フローのトラッキングと管理のために、財務部門が設定した特定の企業総勘定元帳 (GL) アカウントです。

IBM Unica Marketing Operations では、アカウントがトップレベル・アカウントとサブアカウントに分かれています。サブアカウントは、「**アカウント定義 (Accounts Definitions)**」ページの親またはトップレベルのアカウントの下に表示されます。サブアカウントは、その親アカウントに属し、組織専用です。また、サブアカウントの財務情報は、親アカウントまでロールアップされません。機能的には、トップレベル・アカウントとサブアカウントは同一です。

アカウントに関連した主要な機能は、以下のとおりです。

- アカウントおよびサブアカウントの階層の定義。
- 期初 (通常は年ですが、さらに週、月、または四半期に分割可能です) におけるアカウントへの資金調達または金額の割り当て。
- 期間ごとの、これらのアカウントからの予測される引き出しと実際の引き出しのトラッキング。

アカウント管理者について

アカウント管理者は、財務/会計部門のメンバーとなり、マーケティングの予算と費用をトラッキングするための会計フレームワークのセットアップに責任を負うこともあります。あるいは、そのフレームワーク内で、財務/会計部門に対して、マーケティング費用の詳細に関するレポートを作成する場合に、主要な責任を負うマーケティング部門のメンバーであることもあります。

アカウント管理者の責任は、以下のとおりです。

- アカウントおよびサブアカウントの定義。
- トップレベル・アカウントの資金調達、すなわち期間ごとに各アカウントに対して行うトップレベル予算番号の入力。
- アカウントの継続的なモニターと管理のためのアカウント所有者の割り当て。

注: アカウント管理者は、これらのタスクをすべて実行できる IBM Unica Marketing Operations 管理者としてセットアップされている必要があります。

アカウント所有者について

アカウント所有者は、通常、中位から上位のマーケティング管理者で、特定の事業領域の予算の管理に責任を負います。事業領域が借り越しにならないように、特に費用と予算、およびキャッシュ・フローのトラッキングに責任を負います。

アカウント所有者の責任は、以下のとおりです。

- 会計レベルとステータスをモニターし、それらの予測が借り越しにならないように、また、残高がプラスを維持するようにすること (アラート、ビュー、およびレポートを組み合わせて行います)。
- 企業の会計担当者と会計システムにアカウント・アクティビティの詳細を伝達/転送すること。

アカウント所有者は、サブアカウントの作成または資金調達の権限を持っていません。これらの権限は管理者が持っています。このように分割することにより、会計機能とマーケティング機能を分離するオプションが可能になります。

有効化されたアカウントと無効化されたアカウントについて

アカウントには、有効化と無効化の 2 つの状態があります。例えば、アカウントを使用開始する前に、将来のためにセットアップしておくことができます。IBM Unica Marketing Operations 管理者は、任意のアカウントの状態を自分の裁量で切り替えることができます。

- 有効化されたアカウントは、プロジェクトとプログラムの予算の明細項目のアカウント・オプションとして (「ソース・アカウント」フィールドに) 表示されません。
- 請求書と予算の明細項目がリンクされていると有効化されるアカウントは、アカウントが無効化されても、引き続きこれらの明細項目に対してアクティブです。ただし、新しい明細項目は、無効化されたアカウントにはリンクできません。
- 請求書項目またはプロジェクトとプログラムの予算の明細項目に対して、無効化されたアカウントを選択することはできません。
- 無効化されたアカウントは、「**アカウント定義 (Account Definitions)**」ページでばかし表示されます。
- サブアカウントは、無効化されたトップレベル・アカウントに追加できます。しかし、(例えば、新しい会計年度/期間の初めに) このアカウントを使用する用意がある場合は、それを有効にする必要があります。

アカウントを作成する方法

IBM Unica Marketing Operations 管理者は、アカウントを追加できます。トップレベル・アカウントまたはサブアカウントのいずれでも追加できます。サブアカウントを既存のアカウントに追加して、組織階層を作成します。例えば、米国北東部のマーケティング活動の資金を調達するようにトップレベル・アカウントがセットアップされている場合、具体的にはニューヨークでの活動用にサブアカウントをセットアップすることを決定できます。

1. 「設定」 > 「**Marketing Operations 設定**」を選択します。
2. 「ルート・レベルのオブジェクト定義」セクションで、「**アカウント定義 (Account Definitions)**」をクリックします。
3. 以下のいずれかの操作を行います。
 - トップレベル・アカウントを追加するには、「**トップレベル・アカウントの追加**」をクリックします。
 - サブアカウントを追加するには、サブアカウントを追加するアカウントの右にある「**追加**」リンクをクリックします。

- 「アカウント・プロパティ (Account Properties)」ページが表示されます。
4. 「基本情報」セクションのフィールドに値を入力します。
 5. オプションで、各月のアカウント予算情報を「予算」テーブルに入力します。
 6. 「変更の保存」をクリックして、アカウントに加えた変更を保存します。

アカウントは、無効化された状態で「アカウント定義 (Account Definitions)」ページに表示されます。サブアカウントは、所属するトップレベル・アカウントの下に表示されます。

アカウント所有者を追加または削除する方法

最初にアカウントを作成すると、そのアカウントの所有者として自動的に追加されます。このトピックでは、アカウント所有者を追加および削除する方法について説明します。

1. 編集するアカウントにナビゲートします。
2. 「チーム・メンバー」フィールドの下の「メンバーの追加/削除」をクリックします。
3. 新規メンバーを追加するには、以下のようになります。
 - a. 「フォルダー」セクションで、ユーザーを選択します。
 - b. 右矢印をクリックして、ユーザーを「選択したチーム・メンバー」フィールドに追加します。

チーム・メンバーは、「選択したチーム・メンバー」フィールドに追加されると、自動的にアカウントの所有者になります。これにより、それらのメンバーがそのアカウントを表示および編集できるようになります。

4. メンバーを削除するには、以下のようになります。
 - a. 「選択したチーム・メンバー」フィールドで、ユーザーを選択します。
 - b. 左矢印をクリックして、ユーザーを削除します。
5. 「変更の保存」をクリックして変更を保存するか、「キャンセル」をクリックして変更を取り消します。

アカウントを有効または無効にする方法

管理者は、アカウントを有効にしたり、無効にしたりすることができます。管理者以外のアカウント所有者は、これを行うことはできません。

1. 「設定」 > 「Marketing Operations 設定」を選択します。
2. 「ルート・レベルのオブジェクト定義」セクションで、「アカウント定義 (Account Definitions)」をクリックします。
3. 以下のいずれかの操作を行います。
 - アカウントを有効にするには、有効にするアカウントまたはサブアカウントの右にある、ぼかし表示された「有効化」リンクをクリックします。
 - アカウントを無効にするには、「無効にする」リンクをクリックします。

アカウントの解説

トップレベル・アカウントを追加または編集する場合は、「アカウント」画面を使用します。この画面は、基本情報と予算情報の 2 つのセクションに分かれます。

アカウントの基本情報

「基本情報」セクションには、以下のフィールドが含まれます。

フィールドのリンク	説明
アカウント名	アカウントの一意のテキスト ID。これは必須フィールドです。
説明	アカウントの説明 (オプション)。この説明は、「アカウント・リスト (Accounts list)」ページに表示されます。
チーム・メンバー	アカウントの所有者のリスト。デフォルトでは、アカウントの作成者は所有者としてリストされます。これは必須フィールドです。
メンバーの追加/削除	アカウント所有者を追加および削除するための画面が表示されます。
アカウント番号	アカウントの一意の英数字 ID。スペースは使用できません。これは必須フィールドです。
セキュリティ・ポリシー	アカウントのセキュリティ・ポリシー。アカウントにアクセスできるのは、このセキュリティ・ポリシー内のユーザーだけです。これは必須フィールドです。

アカウントの予算情報

「予算」セクションには、3 年間の各月のセルが含まれます。IBM Unica Marketing Operations は、該当する四半期までの金額を集計し、暦年ごとのアカウントの資金を合計します。

3 年間 (現在の年と今後の 2 年間) のアカウント予算を入力するというオプションがあります。これらの年は、アカウントの「サマリー」タブの「アカウント・サマリー (Account Summary For)」ドロップダウン・リストに表示されます。

注: その他の年にアカウントから予算または請求書の明細項目が引き出されると、それらの年もこのドロップダウン・リストに表示されます。

第 14 章 リストの定義

IBM Unica Marketing Operations には、ユーザー選択が可能なリストの値 (オプション) を管理者が挿入または定義できる領域がいくつかあります。

リスト・タイプ

次の表に、IBM Unica Marketing Operations で管理者がオプションを定義できる領域およびユーザーに対して表示される領域を示します。

表 54. リスト・タイプ

リスト・タイプ	説明	場所
事業領域	計画が属する事業領域。	ユーザーは、計画を追加する場合に、「計画の追加」ページまたは「計画サマリーの編集」ページでドロップダウン・リストから事業領域を選択することができます。
プログラム領域	計画において 1 つ以上のプログラムがグループ化されている単位。プログラム領域は、計画にリンクされているプログラムを関連付けてグループ化したものに資金を割り当てる場合に特に役立ちます。	ユーザーは、計画を追加する場合に、「計画の追加」ページまたは「計画サマリーの編集」ページでドロップダウン・リストからプログラム領域を選択することができます。ユーザーは、プログラム領域を少なくとも 1 つ選択する必要があります。
コスト・カテゴリー	予算または請求書の明細項目コストを定義するのに役立つカテゴリー。	ユーザーは、請求書や予算の明細項目を入力または編集する場合に、「請求書の明細項目の編集」ページ、「プログラムの明細項目の編集」ページ、または「プロジェクトの明細項目の編集」ページのドロップダウン・リストでコスト・カテゴリーを選択します。
ベンダー	請求書の明細項目の購入先の企業の名前。	ユーザーは、請求書の明細項目を入力または編集する場合に、「請求書の追加」ページの「ベンダー名」フィールドでベンダーを選択します。
休業日タイプ	組織の非営業日のカテゴリー。例えば、祝日、社内行事日、企業の休業日など。	ユーザーは、プロジェクトまたはタスクを追加する場合、組織の休業日に作業をスケジュールすることを選択できます。

表 54. リスト・タイプ (続き)

リスト・タイプ	説明	場所
役割	役割を使用すると、タスクに担当者を簡単に割り当てられるようになります。 注: これらは機能的役割であり、Marketing Operations インターフェースのさまざまな領域に対するアクセス権限を決定するセキュリティーの役割とは異なります。	ユーザーは、プロジェクトを追加する場合、担当者を機能的役割に割り当てたり、機能的役割をタスクに割り当てたりすることができます。
ワークフロー・マイルストーン	ワークフローに追加できるマイルストーン。	ユーザーは、マイルストーンを指定する場合にはリストから選択することができます。

「リスト・プロパティ」画面

リスト・タイプごとに、リストの項目を定義するための画面があります。それぞれの画面には、以下のフィールドがあります。

フィールド	説明
説明	リスト・タイプの説明を入力します。説明を入力しない場合、Marketing Operations によってデフォルトの説明が表示されます。
表示	ドロップダウン・リストで「コードと名前 (Code-Name)」または「名前とコード (Name-Code)」を選択して、リスト・オプションでコード番号の後に名前を表示するか、名前の後にコード番号を表示するかを指定します。
保存場所	このリストの値が保管されているデータベース・テーブルの名前が表示されます。
新規項目または選択した項目	リスト・オプションの名前とコードを入力します。例えば、「Business Area Travel」について最初に作成したオプションに名前を付け、コード 01 を割り当てるとようになります。コードは一意でなければなりません。 リスト・オプションを追加するには、「承認」をクリックする必要があります。そのようにすると、「リスト項目」フィールドに表示されるようになります。
リスト項目	このフィールドには、既に作成されているリスト・オプションが表示されます。このフィールドで 1 つ以上の項目を選択し、フィールドの右側にある「有効」、「無効」、または「削除」ボタンをクリックします。

また、この画面には、リスト項目を有効化、無効化、および削除するための以下のようなボタンも用意されています。

ボタン	説明
無効	<p>(例えば、将来使用できるように) リスト・オプションを保存するが、リストに表示されないようにしたい場合にクリックします。項目が「リスト項目」フィールドでぼかし表示され、領域のいずれのドロップダウン・リストにも表示されなくなります。</p> <p>リスト定義を作成し、それを使用してから無効にした場合、そのリスト定義は、選択したオブジェクトでは引き続き使用されますが、以降は使用できなくなります。例えば、コスト・カテゴリー 001 を作成し、それを請求書の明細項目に選択した後、コスト・カテゴリー 001 を無効にすると、以降は、請求書の明細項目で使用できるコスト・カテゴリー・オプションとして表示されなくなります。</p>
有効	<p>定義がドロップダウン・リストにオプションとして表示されるようにする場合にクリックします。以前に無効にしたオプションを有効にすることができます。有効なオプションは通常のフォントで表示されます。</p> <p>デフォルトでは、新規作成されたオプションは有効になります。</p>
削除	<p>選択したオプションを「リスト項目」フィールドおよびドロップダウン・リストから削除する場合にクリックします。ワークフローで使用中のオプションは削除できません。</p>

オプションをリストに追加するには

管理者は、ユーザーが「事業領域」、「プログラム領域」、「コスト・カテゴリー」、「ベンダー」、「役割」、「休業日タイプ」、または「ワークフロー・マイルストーン」の値を選択するドロップダウン・フィールドの選択肢を設定することができます。

1. 「設定」 > 「**Marketing Operations** 設定」をクリックします。

「管理設定」ページが表示されます。

2. 「リストの定義」をクリックします。

「リストの定義」ページが表示されます。

3. リスト定義を追加する領域をクリックします。
4. 画面上のフィールドに入力します。
5. 「保存」をクリックして、変更を保存します。

リスト定義を有効化、無効化、または削除するには

リスト定義を作成すると、それがドロップダウン・リストでオプションとして表示され、ユーザーが選択できるようになります。

組織におけるニーズの変化に応じて、不要になったリスト定義を削除することができます。リスト定義は、削除すると、永久に削除されます。そのオプションを再び追加する場合には、再作成しなければなりません。

オプションは無効にすることもできます。そうすると、リスト定義がリストに表示されないようにすると同時に、将来使用する場合に備えて保持することができます。オプションが再び必要になったときに、有効にしてください。

1. 183 ページの『オプションをリストに追加するには』の手順に従ってください。
2. 「リスト項目」フィールドで、有効化、無効化、または削除する値を 1 つ以上選択します。
3. 必要に応じて、「無効」、「有効」、または「削除」をクリックします。
4. 「保存」をクリックして、変更を保存します。

リストのローカライズについて

リストを保存すると、システムは該当するリストのプロパティ・ファイルを生成します。ファイル名は `<list_category>_<default_locale>.properties` です。例えば、事業領域のリストを編集する場合、デフォルト・ロケールが `en_US` であれば、システムは以下のファイルを生成します。

`BUSINESS_AREAS_en_US.properties`

このファイルは、「設定」>「構成」>「Marketing Operations」>「umoConfiguration」>「attachmentFolders」の下の `managedListDir` パラメーターで指定されたディレクトリーに保存されます。基礎となるテーブルからのコードがキーになり、基礎となるテーブルからの名前が値になります。

リストを翻訳し、IBM Unica Marketing Operationsでサポートするロケールごとにプロパティ・ファイルを作成します。

ユーザー役割もローカライズすることができます。プロジェクト・テンプレートのローカライズされた役割は、「役割」リストに対して行われたローカリゼーションに基づいています。

注: 計画管理者は、リスト定義の作成および更新にデフォルト・ロケールを使用していなければなりません。

第 15 章 メタデータのエクスポートおよびインポート

データ構造 (メタデータ) を、エクスポートおよびインポート機能を使用して IBM Unica Marketing Operations システム間で転送することができます。

1 つの Marketing Operations システムから別のシステムにメタデータを効率的に転送するために、1 つのインスタンスからメタデータをエクスポートし、それを別のインスタンスにインポートします。

例えば、テスト・サーバーでテンプレートを作成した後にそのテンプレートをテストし、組織のニーズが確実に満たされるように改善します。そのテンプレートを一般利用できるようにデプロイする準備ができたなら、テスト・サーバーでエクスポート機能を使用して圧縮アーカイブ・ファイルを作成し、その後、運用サーバーでインポート機能を使用してそのファイルをロードし、テンプレートをインストールします。

Marketing Operations には、メタデータをパッケージ化し、一括して移行するためのオプションが用意されています。一括して移行できるメタデータは以下のタイプです。

- セキュリティー・ポリシーおよび関連するユーザーの役割
- チーム
- マーケティング・オブジェクト・タイプ
- テンプレート

メタデータを 1 つの Marketing Operations システムから別のシステムに移行するときは、以下の点に注意してください。

- ソース・システムとターゲット・システムの両方が同じバージョンの Marketing Operations を実行している必要があります。
- ソース・システムとターゲット・システムは、異なるオペレーティング・システムの下で実行できます。
- ソース・システムとターゲット・システムは、異なるタイプのデータベース・サーバーを使用していても構いません。

メタデータのエクスポートについて

メタデータを一括してエクスポートするときに、Marketing Operations は選択されたタイプのすべてのアイテムについて、データベース全体で同じ作業を繰り返します。その結果、エクスポート・プロセスに長時間かかる場合があります。

エクスポート・プロセスを行うと、1 つ以上の xml ファイルを含む圧縮アーカイブ・ファイルが作成されます。一部のタイプのメタデータでは、いくつかの追加ファイル (プロパティ・ファイルや SQL スクリプトなど) もエクスポートされます。エクスポートされたすべてのデータでは、ロケール固有のデータを保存するために UTF-8 エンコード方式が使用されます。

メタデータを一括してエクスポートする方法

1. 「設定」メニューで「**Marketing Operations 設定**」を選択します。
2. 「データの移行」をクリックします。
3. 「テンプレート」、「チーム」、「セキュリティ・ポリシー」、または「マーケティング・オブジェクト・タイプ」の横にある「エクスポート」をクリックします。
4. テンプレートをエクスポートする場合は、「テンプレートのエクスポート」ダイアログが開きます。
 - a. エクスポートに含めるテンプレートのタイプを選択します。デフォルトでは、すべてのテンプレート・タイプが選択されます。
 - b. インポート操作を通じてテンプレートのメタデータを受け取るシステムのデータベース・タイプを指定します。選択されたデータベース・タイプによって、エクスポート中に生成される SQL スクリプト・ファイルの形式が決まります。
 - c. 「エクスポート」をクリックします。
5. 他のタイプのメタデータをエクスポートする場合、または「テンプレートのエクスポート」ダイアログを完了した後、標準の「ファイルのダウンロード (File Download)」ダイアログが開きます。エクスポートを開始するには、「開く」または「保存」をクリックします。

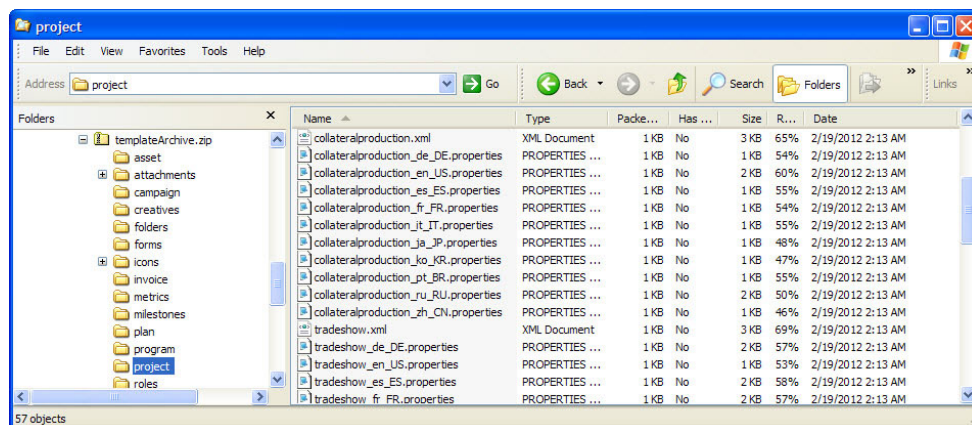
テンプレートのエクスポート結果

テンプレートをエクスポートするときは、計画テンプレート、プロジェクト・テンプレート、クリエイティブ・テンプレートなど、エクスポート対象として 1 つ以上の異なるタイプのテンプレートを選択します。また、テンプレートのメタデータを受け取るターゲット・システムのデータベース・タイプも指定します。

Marketing Operations は選択されたテンプレート・タイプに応じて、以下を含む圧縮アーカイブ・ファイルを生成します。

- そのタイプのすべてのテンプレートのメタデータを含む、`<type>_templates.xml` という名前の xml ファイル。
- `<name>.xml` ファイルを含む、各テンプレート・タイプごとの個別ディレクトリ、およびそのタイプのすべてのテンプレートのローカライズ済みプロパティ・ファイル・セット。

以下に例を示します。



- 選択されたタイプのテンプレートに関連付けられたアイテムのディレクトリー (roles や milestones など)。それらのアイテムのローカライズ済みプロパティ・ファイルを含みます。
- attachments ディレクトリー (含まれるアイテムに添付ファイルがある場合)。添付ファイルが入っている、各アイテムに因む名前のサブディレクトリーを含みます。
- forms ディレクトリー。XML 形式のフォーム定義ファイル、および選択されたデータベース・タイプに応じたそれぞれ別個の SQL スクリプトを含みます。これらのスクリプトにより、インポートした新しいテンプレート进行操作するためにターゲット・データベースをどのように更新するかを制御することができます。つまり、すべてのテーブルをドロップしてから、テンプレート・データ用に新しいタブを作成するか、あるいは create スクリプトまたは insert スクリプトのみを実行して、既存のテーブルおよびデータを削除せずに新しい列およびテーブルを追加することができます。

表 55. 生成されるスクリプト・ファイル

ファイル	説明
create.sql	既存のテーブルに列を追加し、テンプレートに必要な新しいテーブルを作成します。
createlkup.sql	既存のロックアップ・テーブルに列を追加し、テンプレートに必要な新しいロックアップ・テーブルを作成します。
drop.sql	テンプレートによって使用されている既存のテーブルを削除します。データが削除される可能性があっても構わない場合は、create.sql の前にこのスクリプトを実行して、データベースが確実に正しくセットアップされるようにします。
droplkup.sql	テンプレートによって使用されている既存のロックアップ・テーブルを削除します。データが削除される可能性があっても構わない場合は、createlkup.sql の前にこのスクリプトを実行して、データベースが確実に正しくセットアップされるようにします。
insertlkup.sql	データをロックアップ・テーブルに挿入します。このスクリプトを使用すると、テンプレート・アーカイブによって完全なロックアップ・テーブル (スキーマとデータ) を保存することができます。

チームのエクスポート結果

チームのメタデータをエクスポートすると、圧縮アーカイブ・ファイルに、システムで定義されているすべてのチームの個別の xml ファイルが含まれます。各ファイルの名前は team<ID>.xml です。

セキュリティー・ポリシーのエクスポート結果

セキュリティー・ポリシーのメタデータをエクスポートすると、圧縮アーカイブ・ファイルに以下が含まれます。

- システムで定義されているすべてのセキュリティー・ポリシーの個別の xml ファイル (名前は securityPolicy<ID>.xml)。関連するユーザーの役割はすべてこのファイルに含まれます。
- securityPolicyFunctions.xml ファイル。これには、各 securityPolicy<ID>.xml ファイルで参照されている権限のリストが含まれます。

マーケティング・オブジェクト・タイプのエクスポート結果

マーケティング・オブジェクト・タイプ of メタデータをエクスポートすると、圧縮アーカイブ・ファイルに、サポートされるすべてのロケールについて個別のサブディレクトリー (米国英語の場合は en_US) が含まれます。各サブディレクトリーには以下の xml ファイルが含まれます。

- compTypes.xml には、すべてのマーケティング・オブジェクト・タイプのメタデータが含まれます。
- globalstates.xml には、システムで定義されているすべてのステータスのメタデータが含まれます。
- mo_<name>_state.xml は、各マーケティング・オブジェクト・タイプに提供されます。これらのファイルには、ステータス間に定義されている遷移のメタデータが含まれます。

メタデータのインポートについて

メタデータを Marketing Operations システムにインポートするには、事前にエクスポートされたアーカイブ・ファイルを選択します。

インポート・プロセスでは、アーカイブとそのコンポーネント・ファイルが検証されます。ソース・システムとターゲット・システムには同じバージョンの Marketing Operations がインストールされている必要があります、すべてのファイルが正しくフォーマットされていることも必要です。

テンプレート・メタデータをインポートする方法

以下の手順は、テンプレート・メタデータのアーカイブをインポートする場合に適用されます。

1. 「設定」メニューで「Marketing Operations 設定」を選択します。
2. 「データの移行」をクリックします。
3. 「テンプレート」の横の「インポート」をクリックします。「テンプレートのインポート」ダイアログが開きます。

4. 「参照」をクリックして、事前にエクスポートされたアーカイブ・ファイルを選択します。
5. インポートするテンプレート・タイプを選択します。デフォルトでは、すべてのテンプレート・タイプが選択されます。
6. 「データベースの更新」セクションで、インポート・プロセス中に実行するオプションのデータベース・スクリプトを選択します。
 - テーブルの削除
 - テーブルの作成/更新
 - ルックアップ・テーブルの削除
 - ルックアップ・テーブルの作成/更新

どのスクリプトも選択しない場合、インポート・プロセスによりテンプレートのデータ値が上書きされますが、対応するデータベース・テーブルは更新されません。

注: これらのアクションをすべて選択すると、選択されたテンプレートおよび関連のファイルがすべてインポートされます。ただし、ターゲット・システムに存在するテンプレートがアーカイブ・ファイルに含まれる場合にテーブルを削除すると、インポート・プロセスにより、既存のテンプレートを使用して作成されたすべてのオブジェクトのすべてのデータが削除されます。

例えば、インポートによってキャンペーン・プロジェクト・テンプレートのメタデータを更新する場合に、テーブルを削除すると、そのテンプレートを使用して作成されたプロジェクト内の TCS のデータはすべて失われます。

データを上書きすることに不安がある場合は、テンプレート・アーカイブ内の SQL スクリプト・ファイルを調べて、必要なテーブルと列を手動で作成することができます。

7. 「続行」をクリックします。サマリー・ページに、インポートするテンプレートがリストされ、現在のテンプレート・ファイルが上書きされることについての警告が表示されます。
8. 「保存」をクリックします。

注: Marketing Operations をインストールしても、この製品と一緒に提供されるオプションのサンプル・テンプレートはインストールされません。サンプル・テンプレートを使用するには、ここに示す手順に従ってそれをインポートしてください。サンプル・テンプレートのアーカイブ・ファイルは、Marketing Operations のインストール済み環境下の `¥tools¥admin¥sample_templates` フォルダにあります。サポートされるデータベース・タイプごとに異なるアーカイブ・ファイルが提供されます。例えば、DB2 データベースを使用する場合は `sample_templatesDB2` を使用します。サンプル・テンプレートについて詳しくは、53 ページの『サンプル・テンプレートのリスト』を参照してください。

テンプレートのインポート結果

Marketing Operations 8.0.0 にアップグレードする前に作成したキャンペーン・プロジェクト・テンプレートはインポートできますが、それらのテンプレートは使用不可になっています。ユーザーはそれらのテンプレートをプロジェクトの作成に使用できません。

テンプレート・アーカイブに以下のいずれかのアイテムが含まれる場合、テンプレートのインポートは失敗します。

- Marketing Operations 8.0.0 より前に作成されたキャンペーン・プロジェクト・テンプレートで、システム内に既に存在するキャンペーン・プロジェクト・テンプレートと同じ名前のもの。
- システム内に既に存在する非キャンペーン・プロジェクト・テンプレートと同じ名前のキャンペーン・プロジェクト・テンプレート (およびその逆の場合)。
- システム内に既に存在する非 TCS フォームと同じ名前の TCS フォーム (またはその逆の場合)。
- システム内に既に存在する共有属性と名前は同じだが、データ型が異なる共有属性。

テンプレート・アーカイブ内のフォームで使用されている共有属性は、ターゲット・システムで共有属性として作成されます。

メタデータをインポートする方法

以下の手順は、チーム、セキュリティー・ポリシー、またはマーケティング・オブジェクト・タイプのメタデータのアーカイブをインポートする場合に適用されます。

1. 「設定」メニューで「**Marketing Operations 設定**」を選択します。
2. 「データの移行」をクリックします。
3. 「チーム」、「セキュリティー・ポリシー」、または「マーケティング・オブジェクト・タイプ」の横にある「インポート」をクリックします。「インポート」ダイアログが開きます。
4. 「参照」をクリックして、事前にエクスポートされたアーカイブ・ファイルを選択します。
5. 「続行」をクリックします。アーカイブ内のアイテムを示す 2 部構成のサマリーが表示されます。1 つは作成するアイテム、つまり、ターゲット・システムに存在しない固有の識別子を持つアイテム。もう 1 つは上書きするアイテム、つまり、ターゲット・システムに存在する固有の識別子を持つアイテムです。
6. インポートするアイテムを選択します。
7. 「保存」をクリックします。

チームのインポート結果

チームのメタデータをインポートすると、インポート・プロセスでは、選択された各チームの固有の識別子がターゲット・システムに存在するチームと比較されます。ターゲット・システムにチームが存在しない場合、インポート・プロセスでは、アーカイブを使用してチームが作成され、その上で以下が行われます。

- アーカイブ内のセキュリティー・ポリシー・データがターゲット・システムに存在するセキュリティー・ポリシーと比較してチェックされます。存在するセキュリティー・ポリシーのチーム関連データが、アーカイブからコピーされます。アーカイブ内のセキュリティー・ポリシーがいずれもターゲット・システムに存在しない場合、新しいチームにデフォルトのグローバル・セキュリティー・ポリシーが割り当てられます。

- アーカイブ内のメンバー・データを調べて、ターゲット・システムに存在するメンバーがあるかチェックされます。メンバーがターゲット・システムに存在し、順序付けモデルの定義を満たしている場合、それらのメンバーはチームに追加されます。存在が確認されたメンバーまたはマネージャーが順序付けモデルの定義を満たしていない場合、そのチームはインポートされません。

ターゲット・システムに存在するチームの場合、インポート・プロセスでは以下が行われます。

- 説明、ステータス、スキル・セットなど、チームの値が上書きされます。
- 関連するセキュリティー・ポリシー・データを調べて、ターゲット・システムに存在するセキュリティー・ポリシーがあるかチェックされます。存在するセキュリティー・ポリシーのチーム関連データが、アーカイブからコピーされます。アーカイブ内のセキュリティー・ポリシーがいずれもターゲット・システムに存在しない場合、そのチームにデフォルトのグローバル・セキュリティー・ポリシーが割り当てられます。
- アーカイブからのデータを使用して順序付けモデルが更新されます。
- アーカイブ内のメンバー・データを調べて、ターゲット・システムに存在するメンバーがあるかチェックされます。アーカイブ内のチームに関連付けられたメンバーは、それらがターゲット・システムに存在する場合はチームに追加されます。ターゲット・システム上のチームに関連付けられたメンバーは、それらがどのタスク、承認、またはプロジェクト要求にも割り振られておらず、アーカイブ内に存在しない場合は削除されます。存在が確認されたメンバーまたはマネージャーが順序付けモデルの定義を満たしていない場合、そのチームはインポートされません。

また、インポート・プロセスでは、ターゲット・システムで追加または更新されたすべてのチームについて以下が行われます。

- 各チームのアラートおよび通知設定がターゲット・システムにコピーされます。
- 更新を記録するために、チームの「分析」タブにエントリーが追加されます。

セキュリティー・ポリシーのインポート結果

セキュリティー・ポリシーをインポートすると、インポート・プロセスでは、選択された各ポリシーの固有の識別子がターゲット・システムに存在するポリシーと比較されます。ターゲット・システムにセキュリティー・ポリシーが存在しない場合、インポート・プロセスでは、アーカイブ内のオブジェクト・レベルおよびテンプレート・レベルの権限設定をすべて使用してセキュリティー・ポリシーが作成されます。ターゲット・システムに存在するセキュリティー・ポリシーの場合、インポート・プロセスではポリシーのすべての値が上書きされ、すべてのユーザーの役割と関連付けが削除され、そのうえで、アーカイブからターゲット・システムにすべてのユーザーの役割がコピーされます。

また、インポート・プロセスでは、ターゲット・システムで追加または更新されたすべてのセキュリティー・ポリシーについて以下が行われます。

- オブジェクト・レベルの関数設定がターゲット・システムにコピーされます。
- アーカイブ内の関連するテンプレート・レベルのセキュリティー・ポリシー設定がターゲット・システムのテンプレートと比較してチェックされ、存在するすべ

てのプロジェクト・テンプレートまたはコンポーネント・テンプレートのテンプレート・レベルのセキュリティ・ポリシー設定がコピーされます。

- アーカイブ内のユーザー・データを調べてターゲット・システムに存在するユーザーがあるかチェックされ、存在するユーザーのユーザーの役割割り当てがコピーされます。
- アーカイブ内のグループ・データを調べてターゲット・システムに存在するグループがあるかチェックされ、存在するグループの役割のグループ可視性がコピーされます。
- アーカイブ内のチーム・データを調べてターゲット・システムに存在するチームがあるかチェックされ、存在するチームの役割のチーム可視性がコピーされません。

マーケティング・オブジェクト・タイプのインポート結果

マーケティング・オブジェクト・タイプをインポートすると、インポート・プロセスでは、アーカイブにターゲット・システムのデフォルト・ロケールのファイルが含まれているか検証されます。続いて、インポート・プロセスでは、選択された各マーケティング・オブジェクト・タイプごとに以下が検証されます。

- マーケティング・オブジェクト・タイプがターゲット・システムに存在していないこと。
- アーカイブ内のマーケティング・オブジェクト・タイプが、ターゲット・システムに存在するすべての制限にパスしていること。
- アーカイブ内のマーケティング・オブジェクト・タイプのすべての状態と状態遷移が、ターゲット・システムのデフォルト・ロケールに存在していること。

これらの条件を満たすマーケティング・オブジェクト・タイプについて、インポート・プロセスはマーケティング・オブジェクト・タイプを作成し、その関連データをすべてコピーします。それぞれの新しいマーケティング・オブジェクト・タイプのアラートと通知設定も、ターゲット・システムに作成されます。

インポート・プロセスにより、ターゲット・システムに存在するマーケティング・オブジェクトがアップグレードされることはありません。

第 16 章 詳細トピック

このセクションでは、IBM Unica Marketing Operations インターフェースを拡張カスタマイズするための技術的タスクの実行について説明します。以下のトピックがあります。

- 「サマリー」タブのフィールドにプログラマチックに値を入力
- カスタム検証プラグインの作成

Marketing Operations を他のアプリケーションを統合するために使用できるサービスについては、「統合モジュール」ガイドを参照してください。

フィールドにプログラマチックに値を入力

「サマリー」タブで任意のフィールドをセットアップし、他のフィールドの値に基づいてプログラマチックに値を入力できます。フィールドにプログラマチックに値を入力することを指定するには、「外部データ・ソース」というタイプの属性を指定する必要があります。

属性タイプが「外部データ・ソース」であることが指定されると、フィールドの隣に「生成」ボタンが表示されます。ユーザーが「生成」ボタンをクリックすると、IBM Unica Marketing Operations は管理者が指定するプログラムにアクセスします。プログラムは、Web サービス (各所にあります) であることもあれば、Marketing Operations と同じサーバー上で実行されている Java プログラムであることもあります。

例えば、事業部門と製品のフィールドで入力された値に基づいてジョブ番号を生成するプログラムを呼び出すことができます。

プログラムを指定するには、<column> タグ内に <servicedetails> タグを含める必要があります。<servicedetails> タグには、以下のタグを含めることができます。

タグ	説明
タイプ	javaclass または webservice のいずれかをタイプとして入力します。
classname	このタグには、サーバー・サイドのカスタム Java クラスを入力します。このカスタム・クラスは、com.unicacorp.common.template.IdGenerate インターフェースを実装する必要があります。このタブに値を指定する場合、<methodname> タグを指定する必要はありません。
param	このタグには、以下の属性があります。 <ul style="list-style-type: none">• parameter name• タイプ• valuecolumn すべてのパラメーターを同じマップ・ファイル (projectatts.product_id など) に定義する必要があります。パラメーターを指定する順序は、プログラムで予期されるそれらの順序に一致していなければなりません。

タグ	説明
wSDL	このタグには、Plan サーバーまたはファイルの URL にある Web サービス定義ファイルを入力します。
methodname	このタグには、Web サービス・メソッド名を入力します。<classname> タグを指定する場合、このタグを指定する必要はありません。

フィールドにプログラマチックに値を入力する例

以下に、<servicedetails> タグを使用してサーバー・サイドの Java クラス・アプリケーションをセットアップし、com.unicacorp.common.template.IdGenerate インターフェースを実装して製品 ID を渡す方法の例を示します。

```
<servicedetails>
  <classname>com.unicacorp.uap.webservice.FormIdGenImpl
  </classname>
  <param name="param1" type="string"
    valuecolumn="dyn_projectatts.product_id" />
</servicedetails>
```

前述の例と同様に、以下の例は同じ動作を構成する方法を示していますが、com.unicacorp.common.template.IdGenerate インターフェースを実装しない汎用 Java クラスを使用しています。

```
<servicedetails>
  <classname>com.unicacorp.uap.webservice.FormIdGenImpl
  </classname>
  <param name="param1" type="string"
    valuecolumn="dyn_projectatts.product_id" />
  <methodname>getFormId</methodname>
</servicedetails>
```

以下に、<servicedetails> タグを使用して Web サービス・アプリケーションをセットアップし、事業部門 ID を渡す方法の例を示します。

```
<servicedetails>
  <wSDL>
    http://rd600:7004/axis/services/Service?wSDL
  </wSDL><!--wSDL>
    C:¥¥Product¥¥Plan¥¥webapp¥¥conf¥¥Service.wSDL
  </wSDL -->
  <methodname>getFormId</methodname>
  <param name="param1" type="string" valuecolumn="dyn_projectatts.business_unit_id" />
  <param name="param2" type="string" valuecolumn="dyn_projectatts.prog_type_id" />
</servicedetails>
```

サーバー・サイドの ID 生成およびプロジェクト属性の検証

プロジェクト、計画、またはプログラムを保存するときに、テンプレートをセットアップし、カスタム・ルーチンを使用してプロジェクト ID を生成し、生成された ID を含め、「サマリー」タブで値を検証することができます。

カスタム ID ジェネレーターを定義するには、**com.unicacorp.uap.project.helper.PidGenerate** インターフェースを実装する Java クラスを作成する必要があります。その後、テンプレート定義内に、pidGenClass 属性の値として Java クラス名を指定し、pidprefix 属性を使用してその生成された ID に追加する任意の接頭部を指定できます。同様に、プロジェクト、計画、またはプ

プログラムの属性値を検証するカスタム・ルーチンを定義することもできます。カスタム検証ルーチンを定義するには、次のインターフェースを実装する Java クラスを作成する必要があります。 **com.unicacorp.uap.common.template.IdValidate**。

その後、プロジェクトのテンプレート定義内に、`validateClass` 属性の値として Java クラス名を指定できます。

サーバー・サイドの ID 生成の例

例えば、オファー・マーケティング・オブジェクト・テンプレートがあり、このテンプレートから作成されるすべてのオファーに対してカスタム・コードを生成する必要があるとします。このコードには、以下のような特性がなければなりません。

- 最初のコードは 900001 でなければならないこと。
- コードの範囲は 900001 から 999999 の間でなければならないこと。
- コードは順番に作成しなければならないこと。

これを行うには、以下のステップを実行します。

1. `CustomComponentPidGenerateImpl.java` という名前のカスタム Java 実装を作成します。

以下の点に注意してください。

- この実装では、`IDRange.properties` というファイルを使用して、カスタム ID の最小値と最大値が保持されます。
 - これは、`CUST_GENIDS` というデータベース・テーブルを使用し、クラスを使用してカスタム ID を生成するオブジェクト・タイプごとに、カスタム ID の現行値を保持します。
2. クラスをコンパイルします。コンパイルされたクラスの名前は `CustomComponentPidGenerateImpl.class` です。
 3. このクラス・ファイルを、Marketing Operations インストール・ディレクトリーの次のフォルダーにコピーします。

```
¥unwar¥WEB-INF¥classes¥com¥unica¥uap¥component¥helper
```

4. `IDRange.properties` という名前のファイルを作成し、このファイルに次のテキストを追加します。

```
mktOBJId.min=900001
```

```
mktOBJId.max=999999
```

5. このファイルを、Marketing Operations インストール・ディレクトリーの `¥unwar¥WEB-INF` フォルダーにコピーします。
6. データベース管理プログラムを使用して、以下の列を含む `CUST_GENIDS` という名前のテーブルを作成します。
 - `ENTITY_NAME`; string, length 50
 - `ID_VALUE`; integer (all in file format)
7. Web サーバーを再始動します。

8. このカスタム・クラスを使用できるマーケティング・オブジェクト・テンプレートを作成または編集し、そのテンプレート・プロパティ・ページにナビゲートします。
9. 「ID 生成クラス」フィールドに、カスタム・クラスを指定します。以下に示すように、完全修飾クラス名または正規名を使用します。

CustomComponentPidGenerateImpl

最初の「customIDs」マーケティング・オブジェクトを作成する場合は、この ID が 900001 であることに注意してください。

グリッドの検証

IBM Unica Marketing Operations では、カスタム検証プラグインの作成に使用できる検証インターフェースが公開されています。「バリデーター」インターフェースを使用するサンプル・プラグインが提供されています。

次のバリデーターが Marketing Operations とともに提供されています。

com.unicacorp.uap.grid.validation.plugin.GridValidatorPluginImpl

ほとんどの場合、独自のカスタム・バリデーターを作成しなくても、提供されているプラグインを使用して対処できます。

「グリッド」タブでは、バリデーターを使用して入力データを検証します。プロジェクト・テンプレートにグリッド・タブを追加する場合に、指定できるオプションの 1 つがバリデーターです。

注:

- ルール・ファイルは特定の形式を使用します。ルールの XML ファイルをインポートする場合、このファイルは XML スキーマ「gridrules.xsd」に対して検証されます。
- 通常、ルールは形式に固有で、これは基礎テーブルの構造がルールと緊密に結合しているのと同じです。したがって、1 つの (グリッド) 形式のみを扱うルールを使用することが推奨されます。
- Marketing Operations には、いくつかのサンプル・ルール (範囲検査、先頭文字、一意の検査) が含まれていますが、顧客 (またはコンサルタント) がカスタム・ルール・ファイルを作成し、インポートすることが予期されます。

バリデーター・インターフェース

バリデーター・インターフェースでは、以下の関数が公開されています。

関数	説明
init(config:GridConfig)	この関数は、バリデーターを初期化します。

関数	説明
process(rulesToExecute:Validator.RulesEnum)	この関数は、検証ルールを実行します。 rulesToExecute パラメーターにより、検証プラグインが実行するルールのタイプが決まります。これは列挙値で、以下のような値を指定できます。 <ul style="list-style-type: none"> • allRules • gridRules • rowRules
destroy()	これはオブジェクトのデストラクターで、ガーベッジ・コレクションを行います。

すぐに使用可能な IBM Unica Marketing Operations には、サンプル・バリデーター RangeCheckRule.java が用意されています。このオブジェクトは、グリッドを入力として受け取った後、すべてのグリッドのレコードを通して反復し、XML ファイルに定義されているルールに対する検証を行います。

検証ルール

バリデーターは、一連のルールを呼び出し、ルールに対して入力データを比較することにより機能します。各ルールは、**Rule** インターフェースを実装する実行可能な Java ファイルです。

検証プラグインは、2 つのタイプのルールをサポートします。

- **ROW**: 行レベルのルールが最初に実行されます
- **GRID**: グリッド・レベルのルールが行レベルのルールの後に実行されます。

グリッド・データの保存時に、すべてのルールが実行されます。ただし、最初にすべての行レベルのルールが実行され、その次にグリッド・レベルのルールが実行されます。ルールは、ルール・ファイルで宣言された順序で実行されます。

データ検証ルール・ファイルの構造

検証ルール・ファイルは、1 つ以上のルールが含まれている XML ファイルです。各ルールには、以下のタグを含めることができます。

表 56. 検証ルール・ファイルのタグ

タグ	説明
rule	ルールを開始し、ルール・タイプを設定します。これは、「 ROW 」または「 GRID 」のいずれかです。
name	ルールの名前。
desc	ルールのテキストによる記述。
enable	以下のような、ルールを有効化または無効化するためのブール値。 <ul style="list-style-type: none"> • false: ルールは無効化されます • true: ルールは有効化されます

表 56. 検証ルール・ファイルのタグ (続き)

タグ	説明
applies-to-tvc-id	ルールが適用される TVC コンポーネントの内部名。複数のグリッドにルールを適用するには、各グリッド・コンポーネントに <code>applies-to-tvc-id</code> タグを個別に使用します。このタグはオプションです。このタグが省略された場合、ルールは指定されたフォーム上のすべてのグリッドに適用されます。
class	ルールを処理するためのコマンドが含まれている Java クラス。サンプル範囲検査ルールを使用するには、 <code>com.unicacorp.uap.grid.validation.rule.basic.RangeCheckRule</code> と入力します。
set-property	<code>set-property</code> タグにより、ルールにパラメーターが渡されます。各ルールには、0 個以上の <code>set-property</code> タグを含めることができます。

IBM Unica Marketing Operations には、4 つのサンプル・ルール・タイプが含まれています。

表 57. サンプル検証ルール

ルール	説明
BeginsWithRule	<p>検証中のテキスト列が指定した文字で始まることを確認します。以下のプロパティを設定します。「<code>beginCharacter</code>」、および「<code>column</code>」。以下に例を示します。</p> <pre><set-property property="beginCharacter" value="A"/> <set-property property="column" value="dyn_vendors.Name"/></pre> <p>このルールは、(<code>dyn_vendors</code> データベース・テーブルに保管されている)「<code>Name</code>」フィールドを検査して、それが <code>A</code> という文字で始まることを確認します。クラス名: <code>com.unicacorp.uap.grid.validation.rule.basic.BeginsWithRule</code></p>
UniqueCheckRule	<p>検証中の列に重複値が含まれていないことを確認します。「<code>column</code>」プロパティを設定します。クラス名: <code>com.unicacorp.uap.grid.validation.rule.basic.UniqueCheckRule</code> 注: このルールは、行レベル・ルールであることを示す「<code>ROW</code>」が使用されている場合であっても、常にグリッド全体に適用されます。</p>
RangeCheckRule	<p>検証中の整数列が指定の範囲内に収まっていることを確認します。以下のプロパティを設定します。「<code>minValue</code>」、「<code>maxValue</code>」、および「<code>column</code>」。以下に例を示します。</p> <pre><set-property property="minValue" value="1"/> <set-property property="maxValue" value="999999"/> <set-property property="column" value=" dyn_vendors.numEmployees"/></pre> <p>このルールは、(<code>dyn_vendors</code> データベース・テーブルに保管されている)「<code>numEmployees</code>」フィールドを検査して、その値が 1 から 999,999 までの範囲にあることを確認します。クラス名: <code>com.unicacorp.uap.grid.validation.rule.basic.RangeCheckRule</code></p>

表 57. サンプル検証ルール (続き)

ルール	説明
DateCheckRule	<p>検証中の日付列が指定の範囲内に収まっていることを確認します。以下のプロパティを設定します。「greaterThan」、「lessThan」、および「column」。以下に例を示します。</p> <pre><set-property property="greaterThan" value="12/31/1999"/> <set-property property="lessThan" value="Today"/> <set-property property="column" value="dyn_vendors.invoiceDate"/></pre> <p>このルールは、(dyn_vendors データベース・テーブルに保管されている) 「invoiceDate」フィールドを検査して、その値が 2000 年より前でないことを確認します。オプションで、「dateFormat」プロパティを設定できます。このプロパティを追加する場合は、日付を指定の形式で入力する必要があります。以下の形式値を設定できます。 dd/MM/yyyy、MM/dd/yyyy、dd/MM/yy、MM/dd/yy、yyyy-MM-dd、yyyy.MM.dd クラス名: com.unicacorp.uap.grid.validation.rule.basic.DateCheckRule</p>

検証ルールの例

このセクションでは、ルールを作成して Marketing Operations にインポートし、それをテンプレートに追加してグリッドでテストする方法について説明します。

1. XML ファイルを作成し、1 つ以上のルールを含めます。
2. 以下のようにして、ルール・ファイルを Marketing Operations にアップロードします。
 - a. 「管理」 | 「テンプレート構成」 | 「ルール」をクリックします。
 - b. 「ルール定義の追加 (Add Rules Definition)」をクリックします。
 - c. 「更新規則 (Update Rule)」ダイアログ・ボックスに名前を入力して、ファイルを指定します。
 - d. 「続行」をクリックして、ルール・ファイルを Marketing Operations に追加します。
3. テンプレート上のタブにルール・ファイルを割り当てます。
 - a. 「管理」 | 「テンプレート構成」 | 「テンプレート」をクリックします。
 - b. テンプレートを選択し、「タブ」タブにナビゲートします。
 - c. 「バンダー」グリッドが含まれているタブを追加し、このタブにルール・ファイルを追加します。

(ルール・ファイルを選択すると、システムにより「データ検証クラス」フィールドにデータが入力されます。)

4. テンプレートからオブジェクトを作成し、「empNum」フィールドに無効データを入力してみて、次のようにルールをテストします。

「従業員数」フィールドに無効値 (5000) を入力しようとしたましたが、エラー・メッセージを受け取り、このグリッド行を保存できませんでした。これは、ルールが設計どおりに機能していることを示しています。

サンプル Java インターフェース

このセクションでは、以下について説明します。

- インターフェース - IdValidate
- インターフェース - IDGenerate
- カスタム ID ジェネレーター

インターフェース - IdValidate

```
package com.unicacorp.uap.common.template;
import java.util.HashMap;
/**
 * This is an interface to be implemented by the end user of a Marketing Operations
 * system for the purpose of validating system generated id values
 * as per business logic.
 * Implementations of this Interface are called by the Marketing Operations Server.
 */
public interface IdValidate
{
    /**
     * Returns true if the specified attribute values are valid.
     *
     * @param id - current project or program id. This will be the
     *           value if it is new project/program
     * @param values - This is a set of name/value pairs, referring to
     *                a current database connection, the appropriate
     *                template id and another HashMap that contains
     *                name/value pairs, corresponding to the fields and
     *                values on the screen.
     * @return true - if it is valid; otherwise returns false or throws
     *         exception.
     * @throws com.unicacorp.uap.user.IdValidateException
     *         Should contain a message value that is meaningful
     *         about what went wrong.
     */
    public boolean isValid(int id, HashMap values) throws
        IdValidateException;
    /**
     * The name of the hashkey in the HashMap passed to IdValidate.isValid(..)
     * that refers to a current database connection to the Marketing Operations
     * system tables.
     * This connection is available for use to implementations of this
     * interface.
     */
    public final String PLAN_DB_CONNECTION = "dbconnection";
    /**
     * The name of the hashkey in the HashMap passed to
     * idValidate.isValid(..) that refers to the id of the related
     * template.
     */
    public final String OBJECT_TEMPLATE_ID = "templateid";
    /**
     * The name of the hashkey in the HashMap pass to
     * IdValidate.isValid(..) that refers to another Hashmap which
     * contains name/value pairs. The name corresponds to a field on
     * the screen for project/program and the value corresponds to the
     * user entered text or selection.
     */
    public final String OBJECT_ATTRIB_VALUES = "attributeValues";
}
```

インターフェース - IDGenerate

```
package com.unicaorp.uap.common.template;
import java.util.HashMap;
/* This is an interface to be implemented by the end user
 * of a Marketing Operations
 * system for the purpose of generating unique Project Code (PIDs). The intent
 * is to allow users to attach to existing enterprise systems to help make
 * project IDs meaningful in their enterprise.
 *
 * Implementations of this Interface are called by the Marketing Operations Server.
 * It is the responsibility of the Marketing Operations Server
 * to assure that there is
 * only one ID being generated at a time. When implementation of this
 * interface are called, they can assume that there are no other IDs
 * that are being generated concurrently.
 */

public interface IdGenerate {
    /**
     * Returns a string code used to define a Project object with Marketing Operations
     *
     * @param uniqueId - This is an integer value that is generated by
     * the Marketing Operations system. This is guaranteed to be unique across
     * the system; hence, if the project ID returned is the string
     * representation of this integer, it will be a unique
     * Project Code (PID).
     *
     * @param values - This is a set of name/value pairs, referring to the current
     * database connection, appropriate template id, code prefix,
     * request flag, and another HashMap that contains name/value
     * pairs, corresponding to the fields and values on the screen.
     *
     * @param uniqueChecker - An implementation used to verify the uniqueness of
     * of ID's generated by this instance.
     *
     * @return - A string that represents the ID of the project we are
     * creating.
     *
     * @throws com.unicacorp.uap.user.IdGenerateException
     * Should contain a message value that is meaningful about
     * what went wrong
     */
    public String generateID (int uniqueId, HashMap values, IdUniqueChecker
    uniqueChecker)
    throws IdGenerateException;
    /**
     * The name of the hashkey in the HashMap passed to IdValidate.isValid(..)
     * that refers to a current database connection to the Marketing Operations
     * system tables.
     * This connection is available for use to implementations of this interface.
     */
    public final String PLAN_DB_CONNECTION = "dbconnection";
    /**
     * The name of the hashkey in the HashMap passed to IdValidate.isValid(..)
     * that refers to the id of the related template.
     */
    public final String OBJECT_TEMPLATE_ID = "templateid";
    /**
     * The name of the hashkey in the HashMap passed to IdValidate.isValid(..)
     * that refers to the desired string prefix to prepend the generated id.
     */
    public final String OBJECT_CODE_PREFIX = "pidprefix";
    /**
     * The name of the hashkey in the HashMap passed to IdValidate.isValid(..)
     * that refers that indicates whether the calling object is a request.
     */
}
```

```

public final String OBJECT_REQUEST_FLAG = "flagprojectrequest";
/**
 * The name of the hashkey in the HashMap pass to IdValidate.isValid(..)
 * that refers to another Hashmap which contains name/value pairs. The name
 * corresponds to a field on the screen for project/program and the value
 * corresponds to the user entered text or selection.
 */
public final String OBJECT_ATTRIB_VALUES = "attributeValues";
/**
 * Default start plan code start number
 */

public final int PLAN_CODE_SUFFIX_START = 1000;
/**
 * Default start program code start number
 */
public final int PROGRAM_CODE_SUFFIX_START = 1000;
/**
 * Default start project code start number
 */
public final int PROJECT_CODE_SUFFIX_START = 1000;
/**
 * Default start rfq code start number
 */
public final int RFQ_CODE_SUFFIX_START = 1000;}

```

カスタム ID ジェネレーター

```

package com.unica.uap.component.helper;
import com.unicacorp.uap.common.db.*;
import com.unicacorp.uap.common.template.*;
import org.apache.commons.lang.StringUtils;
import java.io.File;
import java.io.FileInputStream;
import java.sql.Connection;
import java.sql.PreparedStatement;
import java.sql.ResultSet;
import java.sql.SQLException;
import java.util.HashMap;
import java.util.Properties;

/**
 * The Class CustomComponentPidGenerateImpl.
 */
public class CustomComponentPidGenerateImpl implements IdGenerate,
    IdUniqueChecker {
    /** The lower limit. */
    public static int LOWER_LIMIT = 0;
    /** The upper limit. */
    public static int UPPER_LIMIT = 0;
    static {
        Properties attrPro = new Properties();
        try {
            String planHome = System.getProperty("plan.home");
            System.out.println("planHome : " + planHome);
            File file = new File(planHome + "/unwar/WEB-INF/IDRange.properties");
            FileInputStream fi = new FileInputStream(file);
            if (fi != null) {
                attrPro.load(fi);
                String min = (String) attrPro.get("mktOBJId.min");
                String max = (String) attrPro.get("mktOBJId.max");
                LOWER_LIMIT = Integer.parseInt(min);
                UPPER_LIMIT = Integer.parseInt(max);
                System.out.println("Lower Limit : " + LOWER_LIMIT);
                System.out.println("Upper Limit : " + UPPER_LIMIT);
            } else {
                System.out.println("IDRange Property file can not be found");
                throw new RuntimeException("IDRange Property file can not be found");
            }
        } catch (Exception e) {
            e.printStackTrace();
        }
    }
}

```



```

    }
  } catch (Exception e) {
    e.printStackTrace();
    throw new RuntimeException("IDRange Property file can not be found");
  }
}

/**
 * The Constructor.
 */
public CustomComponentPidGenerateImpl() {
}

/**
 * Generate ID.
 *
 * @param uniqueChecker the unique checker
 * @param values the values
 * @param instanceId the instance id
 *
 * @return the string
 *
 * @throws IdGenerateException the id generate exception
 */
public synchronized String generateID(int instanceId, HashMap values,
    IdUniqueChecker uniqueChecker) throws IdGenerateException {
  print("inside 'generateID' method");
  print("instanceId : " + instanceId);
  print("#####\n" + values + "#####\n");
  String prefix = (String) values.get("pidprefix");
  print("prefix : " + prefix);
  String templateid = (String) values.get("templateid");
  print("templateid : " + templateid);
  Connection con = (Connection) values.get("dbconnection");
  //int nextValue = -1;
  boolean isEmptyPrefix = false;
  try {
    if (StringUtils.isEmpty(prefix)) {
      isEmptyPrefix = true;
    }

    //GET THE CURRENT VALUE OF THE TEMPLATE ID - from CUST_GENIDS table
    String sqlString = "SELECT ID_VALUE FROM CUST_GENIDS WHERE ENTITY_NAME = ?";
    print("sqlString : " + sqlString);
    PreparedStatement ps = null;
    ResultSet rs = null;
    int cnt = 0;
    try {
      ps = new UAPSQLPreparedStatement(con, sqlString);
      UAPSQLUtils.setupPreparedStatement(ps, 1, templateid, "string");
      rs = ps.executeQuery();
      if (rs.next()) {
        cnt = rs.getInt(1);
      }
      print("current ID vlaue :" + cnt);
      UAPSQLUtils.closeResultSet(rs, ps);
    } catch (SQLException ex) {
      ex.printStackTrace();
      UAPSQLUtils.closeResultSet(rs, ps);
      throw new RuntimeException(ex);
    } catch (Exception exception) {
      exception.printStackTrace();
      UAPSQLUtils.closeResultSet(rs, ps);
      throw new RuntimeException(exception);
    }
  }
  if (cnt == 0) {
    //insert first new record for the template id into table
    cnt = LOWER_LIMIT;
    String sqlInsertStr = "INSERT INTO CUST_GENIDS values (?,?)";
    print("sqlInsertStr : " + sqlInsertStr);
  }
}

```

```

ps = new UAPSQLPreparedStatement(con, sqlInsertStr);
ps.setString(1, templateid);
ps.setInt(2, cnt);
}

else if ((cnt >= LOWER_LIMIT) && (cnt < UPPER_LIMIT)) {
//increase the counter and update the row for the template id
cnt++;
String sqlUpdateStr =
"UPDATE CUST_GENIDS SET ID_VALUE= ? WHERE ENTITY_NAME = ?";
print("Update : " + sqlUpdateStr);
ps = new UAPSQLPreparedStatement(con, sqlUpdateStr);
ps.setInt(1, cnt);
ps.setString(2, templateid);
} else {
print("Current ID is out of range, ID Range [" + LOWER_LIMIT +
"- " + UPPER_LIMIT + "]");
//throw exception that can not generate id, limit is over
throw new IdGenerateException(
"Current ID is out of range, ID Range [" + LOWER_LIMIT +
"- " + UPPER_LIMIT + "]");
}
//UAPSQLUtils.beginTransaction(con);
ps.execute();
//UAPSQLUtils.endTransaction(con, true);
String pid = (isEmptyPrefix ? "" : prefix) + cnt;
print("return from 'generateID' method with pid : " + pid);
return pid;
} catch (Exception ex) {
ex.printStackTrace();
throw new IdGenerateException(ex);
}
}
/**
 * Checks if is unique.
 *
 * @param values the values
 * @param Id the Id
 *
 * @return true, if is unique
 */
public boolean isUnique(String Id, HashMap values) {
print("inside 'isUnique' method");
//provide actual implementation for uniqueness check
return true;
}
/**
 * Print.
 *
 * @param str the str
 */
private void print(String str) {
System.out.println(str);
}

```

特記事項

本書は米国 IBM が提供する製品およびサービスについて作成したものです。

本書に記載の製品、サービス、または機能が日本においては提供されていない場合があります。日本で利用可能な製品、サービス、および機能については、日本 IBM の営業担当員にお尋ねください。本書で IBM 製品、プログラム、またはサービスに言及していても、その IBM 製品、プログラム、またはサービスのみが使用可能であることを意味するものではありません。これらに代えて、IBM の知的所有権を侵害することのない、機能的に同等の製品、プログラム、またはサービスを使用することができます。ただし、IBM 以外の製品とプログラムの操作またはサービスの評価および検証は、お客様の責任で行っていただきます。

IBM は、本書に記載されている内容に関して特許権 (特許出願中のものを含む) を保有している場合があります。本書の提供は、お客様にこれらの特許権について実施権を許諾することを意味するものではありません。実施権についてのお問い合わせは、書面にて下記宛先にお送りください。

〒103-8510
東京都中央区日本橋箱崎町19番21号
日本アイ・ビー・エム株式会社
法務・知的財産
知的財産権ライセンス渉外

以下の保証は、国または地域の法律に沿わない場合は、適用されません。IBM およびその直接または間接の子会社は、本書を特定物として現存するままの状態を提供し、商品性の保証、特定目的適合性の保証および法律上の瑕疵担保責任を含むすべての明示もしくは黙示の保証責任を負わないものとします。国または地域によっては、法律の強行規定により、保証責任の制限が禁じられる場合、強行規定の制限を受けるものとします。

この情報には、技術的に不適切な記述や誤植を含む場合があります。本書は定期的に見直され、必要な変更は本書の次版に組み込まれます。IBM は予告なしに、随時、この文書に記載されている製品またはプログラムに対して、改良または変更を行うことがあります。

本書において IBM 以外の Web サイトに言及している場合がありますが、便宜のため記載しただけであり、決してそれらの Web サイトを推奨するものではありません。それらの Web サイトにある資料は、この IBM 製品の資料の一部ではありません。それらの Web サイトは、お客様の責任でご使用ください。

IBM は、お客様が提供するいかなる情報も、お客様に対してなんら義務も負うことのない、自ら適切と信ずる方法で、使用もしくは配布することができるものとします。

本プログラムのライセンス保持者で、(i) 独自に作成したプログラムとその他のプログラム (本プログラムを含む) との間での情報交換、および (ii) 交換された情報の相互利用を可能にすることを目的として、本プログラムに関する情報を必要とする方は、下記に連絡してください。

IBM Corporation
170 Tracer Lane
Waltham, MA 02451
U.S.A.

本プログラムに関する上記の情報は、適切な使用条件の下で使用することができますが、有償の場合もあります。

本書で説明されているライセンス・プログラムまたはその他のライセンス資料は、IBM 所定のプログラム契約の契約条項、IBM プログラムのご使用条件、またはそれと同等の条項に基づいて、IBM より提供されます。

この文書に含まれるいかなるパフォーマンス・データも、管理環境下で決定されたものです。そのため、他の操作環境で得られた結果は、異なる可能性があります。一部の測定が、開発レベルのシステムで行われた可能性があります。その測定値が、一般に利用可能なシステムのものと同じである保証はありません。さらに、一部の測定値が、推定値である可能性があります。実際の結果は、異なる可能性があります。お客様は、お客様の特定の環境に適したデータを確かめる必要があります。

IBM 以外の製品に関する情報は、その製品の供給者、出版物、もしくはその他の公に利用可能なソースから入手したものです。IBM は、それらの製品のテストは行っておりません。したがって、他社製品に関する実行性、互換性、またはその他の要求については確認できません。IBM 以外の製品の性能に関する質問は、それらの製品の供給者をお願いします。

IBM の将来の方向または意向に関する記述については、予告なしに変更または撤回される場合があります、単に目標を示しているものです。

表示されている IBM の価格は IBM が小売り価格として提示しているもので、現行価格であり、通知なしに変更されるものです。卸価格は、異なる場合があります。

本書には、日常の業務処理で用いられるデータや報告書の例が含まれています。より具体性を与えるために、それらの例には、個人、企業、ブランド、あるいは製品などの名前が含まれている場合があります。これらの名称はすべて架空のものであり、名称や住所が類似する企業が実在しているとしても、それは偶然にすぎません。

著作権使用許諾:

本書には、様々なオペレーティング・プラットフォームでのプログラミング手法を例示するサンプル・アプリケーション・プログラムがソース言語で掲載されています。お客様は、サンプル・プログラムが書かれているオペレーティング・プラットフォームのアプリケーション・プログラミング・インターフェースに準拠したアプリケーション・プログラムの開発、使用、販売、配布を目的として、いかなる形式においても、IBM に対価を支払うことなくこれを複製し、改変し、配布することができます。

できます。このサンプル・プログラムは、あらゆる条件下における完全なテストを経ていません。従って IBM は、これらのサンプル・プログラムについて信頼性、利便性もしくは機能性があることをほのめかしたり、保証することはできません。これらのサンプル・プログラムは特定物として現存するままの状態を提供されるものであり、いかなる保証も提供されません。IBM は、お客様の当該サンプル・プログラムの使用から生ずるいかなる損害に対しても一切の責任を負いません。

この情報をソフトコピーでご覧になっている場合は、写真やカラーの図表は表示されない場合があります。

商標

IBM、IBM ロゴ、および ibm.com は、世界の多くの国で登録された International Business Machines Corporation の商標です。他の製品名およびサービス名等は、それぞれ IBM または各社の商標である場合があります。現時点での IBM の商標リストについては、www.ibm.com/legal/copytrade.shtml をご覧ください。



Printed in Japan